賀川豊彦の社会福祉実践・思想が韓国に及ぼした影響に関する研究

同志社大学大学院社会学研究科
社会福祉学専攻

李　善　惠

博士学位論文

賀川豊彦の社会福祉実践・思想が韓国に及ぼした影響に関する研究

指導教授　木　原　活　信

2014 年 3 月

同志社大学大学院社会学研究科
社会福祉学専攻博士後期課程
2009 年度 3101 番

李　善　惠

目次

序章 1

第 1 節　研究の背景 1

第 2 節　先行研究の検討 6

1.　日本における先行研究 6

2.　海外における先行研究 8

3.　日本における海外と賀川とのかかわりに関する研究 16

4.　韓国における先行研究 22

第 3 節　研究目的と本研究の意義 24

第 4 節　研究方法 26

第 5 節　論文の構成と用語の定義 27

参考・引用文献 31

第 I 部　賀川豊彦のライフイベントからみる社会福祉実践・思想の形成過程 37

第 1 章　ライフイベント（人生上の出来事） 38

第 1 節　発達的出来事 39

1.　出生：妾の子どもというコンプレックス 39

2.　キリスト教との出会い 43

3.　「主流派」の学校から「非主流派」の学校へ 47

第 2 節　歴史的出来事 52

1.　病弱な身体 52

2.　スラム街での生活 56

3.　関東大震災 60

小括 63

第 2 章　重要な他者との出会い 66

第 1 節　思想的出会い 66

1.　イエス 66

2.　レフ・ニコラエヴィチ・トルストイ 68

3.　ジョン・ウエスレー 71

第 2 節　実際的出会い 72

1.　ローガンとマイヤース 73

2.　鈴木文治 76

3.　杉山元治郎 82
小括 85
参考・引用文献 86
第Ⅱ部　賀川豊彦の社会福祉実践・思想 92
第 3 章　活動からみる賀川の社会福祉実践 94
第 1 節　救霊団 94
第 2 節　本所キリスト教産業青年会 101
第 3 節　農民福音学校 107
小括 114
第 4 章　文献からみる賀川の社会福祉思想 115
第 1 節　小説『死線を越えて』（1920，改造社） 115
第 2 節　雑誌『救済研究』・『社会事業』・『社会事業研究』 119
第 3 節　『農村社会事業』（1933，日本評論社） 127
小括 133
参考・引用文献 135
第Ⅲ部　賀川豊彦と韓国 140
第 5 章　韓国の訪韓の経歴 141
第 1 節　初めての訪韓 142
第 2 節　1929 年頃の訪韓 144
第 3 節　1938 年の訪韓 145
第 4 節　1939 年の訪韓 148
第 5 節　その他 160
小括 169
第 6 章　韓国での賀川の活動 171
第 1 節　韓国の訪問に関する賀川の感想 171
第 2 節　賀川の講演内容 176
1.　十字架宗教の絶対性 177
2.　神と永遠の思慕 178
3.　神と贖罪愛の勝利 178
4.　機械文明と宗教生活 179
5.　山上寶訓瞑想 180

6.　新宇宙観と新人生観 180
第３節　韓国における賀川関連の翻訳書及び作品 181
1.　賀川の著書の翻訳物 182
2.　賀川に関する書籍及び翻訳物 185
3.　新聞記事 187
4.　賀川の名前が登場している作品 189
小括 190
第７章　韓国に及ぼした賀川の社会福祉実践と思想 192
第１節　賀川から影響を受けた韓国人たち 192
第２節　韓国の社会福祉教育の先駆者、金徳俊 202
1.　金徳俊と賀川 204
2.　金徳俊と中央神学校（現：江南大学）の「社会事業学科」 210
3.　金徳俊とキリスト教社会福祉 212
4.　賀川が金徳俊に及ぼした社会福祉思想 214
第３節　韓国の農村運動の先駆者、劉載奇 216
1.　劉載奇と賀川 218
2.　劉載奇と組合 222
3.　劉載奇とイエス村 228
4.　賀川が劉載奇に及ぼした社会福祉思想 230
小括 232
参考・引用文献 233
終章 243
第１節　結論 243
1.　全体の総括 243
2.　韓国における賀川への肯定的な評価 247
3.　韓国における賀川への否定的な評価 251
4.　キリスト教社会福祉への示唆 253
第２節　本研究の限界と今後の課題 255
参考・引用文献 258

表の目次

【表 1】　韓国における在韓日本人数 2
【表 2】　関連分野の分布 6
【表 3】　翻訳書 8
【表 4】　賀川に関する書籍と論文 11
【表 5】　日本において海外と賀川とのかかわりに関する研究 16
【表 6】　日本国内での賀川と韓国とのかかわりに関する研究 20
【表 7】　韓国における賀川に関する研究 22
【表 1 - 1】　プロテスタント大学 48
【表 1 - 2】　神戸における人口分布 57
【表 1 - 3】　在日韓国人の各府県の人口 58
【表 1 - 4】　賀川のライフイベント 64
【表 2 - 1】　ローガンとマイヤースの略歴 73
【表 3 - 1】　救霊団の事業報告 95
【表 3 - 2】　イエス団友愛救済所の事業報告 99
【表 3 - 3】　イエス団の施設 100
【表 4 - 1】　雑誌『救済研究』での賀川の論稿 120
【表 4 - 2】　雑誌『社会事業』での賀川の論稿 121
【表 4 - 3】　雑誌『社会事業研究』での賀川の論稿 121
【表 5 - 1】　1938 年の賀川の訪韓記録 146
【表 5 - 2】　1939 年の賀川の訪韓記録Ⅰ 149
【表 5 - 3】　1939 年の賀川の訪韓記録Ⅱ 149
【表 5 - 4】　1939 年の賀川の訪韓記録Ⅲ 151
【表 5 - 5】　東駒形教会内の韓国人のキリスト教徒 163
【表 6 - 1】　礼拝順 173
【表 6 - 2】　賀川の著書の翻訳物 182

【表 6 - 3】　賀川に関する著書の翻訳物 185
【表 6 - 4】　賀川の文章が紹介された記事 187
【表 6 - 5】　賀川に関する記事 188
【表 7 - 1】　韓国において賀川から影響を受けた人々 192
【表 7 - 2】　金徳俊の略歴 202
【表 7 - 3】　1930 年代の同志社大学「社会事業学」専攻のカリキュラム 207
【表 7 - 4】　同志社大学学則 208
【表 7 - 5】　劉載奇の略歴 216
【表 7 - 6】　賀川に関する劉載奇の論稿 221
【表 7 - 7】　組合に関する劉載奇の論稿Ⅰ（『基督申報』） 222
【表 7 - 8】　組合に関する劉載奇の論稿Ⅱ（『朝鮮日報』） 224
【表 7 - 9】　「農村研究会」と「イエス村の建設」 227

図の目次

【図１－1】　賀川の家系図……39
【図４－1】　賀川の社会事業に関する考え方……123
【図４－2】　賀川の考え方と日本ソーシャルワーカの倫理綱領……126
【図４－3】　救貧的社会事業……127
【図４－4】　防貧的社会事業……128
【図４－5】　福利的社会事業……130
【図４－6】　賀川の農村社会事業に関する考え方……133
【図７－1】　キリスト教社会福祉に関する概念……215
【図７－2】　農村改造に関する考え方……231
【図８－1】　賀川のキリスト教徒としての生き方……248

序章

1 節　研究の背景

日韓における近代的社会福祉は，プロテスタントの導入による社会改良や慈善思想から大きな影響を受けたと言われており（住谷 1958：1；室田 1994：367；吉田・岡田 2000：243；金徳俊 1983：169），社会福祉の礎石を築いた先駆者はキリスト教徒（Christian）が多かった（隅谷 1954：69；李善惠 2009）．「あなたの神である主を愛せよ．またあなたの隣人をあなた自身のように愛せよ（ルカによる福音書 10 章 27 節）」という教えに従いながら，隣人に対して愛の行動として行った様々な事業が両国のソーシャルワークの歴史の源となっており，当時の社会問題を誰よりも考え，また社会全般の変革を進め，解決しようとした彼らの情熱は今日でも継承すべきものであろう．社会福祉の概念がまだ定着していなかった明治期から戦後の昭和期まで，様々な分野で活躍した賀川豊彦がその先駆者の一人である．

2009 年は，賀川が神戸新川というスラム街[1]に初めて入り，伝道だけでなく貧民救済事業を開始した 1909 年から 100 年を迎えたことを記念し，様々な「賀川豊彦献身 100 年記念事業」が行われた年である．そして 2009 年 10 月 27 日，「社会宣教献身 100 周年記念」と題して賀川に関するシンポジウム[2]が韓国のソウルで行われた．その趣旨は福音を普及させることへの熱情と社会的な実践を結んだ彼の生涯を通して，21 世紀を迎えた日韓両国のキリスト教において新しい道を開くためであったと言われている．これは大変珍しいことである．なぜなら，韓国の民族教育や民権運動の先駆者であった金教臣（キムキョシン）（1901．4．18‐1945．4．25）[3]と咸錫憲（ハムソクホン）（1901．3．13‐1989．2．

---

[1] 当時は「スラム街」という言葉より「貧民窟」という言葉を用いることが一般的であった．これは差別用語であるが，原文を引用する際は，「貧民窟」という表現をそのまま使用する．

[2] 「『キリスト教入門』の書評」，「なぜいま賀川豊彦なのか」，「牧師賀川豊彦，孫の回想」，「非キリスト教作家の目から見た賀川豊彦」などのタイトルで行われた（http://bluezine.tistory.com/48, 20091027閲覧）．

[3] 東京に留学（東京正則英語学校を経て，1922 年に東京高等師範学校に入学，1927 年に卒業）した際，日本の軍国主義に反対し日本キリスト教の自主性とともに無教会運動を展開した内村から大きな影響を受けたと言われている．特に 1925 年から内村の門下の韓国留学生の 6 人とともに「朝鮮聖書研究会」を作り，ギリシア語を学びながら原文で聖書を研究し始めた（金丁煥 1994：18）．

4）[4]の師範である内村鑑三（1861．3．23‐1930．3．28）に関してはよく知られているのに対して，賀川がどのような人生を歩んできたのかについてはあまり知られていなったからである[5]．このように，韓国のキリスト教界においてあまり知られていない賀川が，社会運動家として活動を始めてから 100 周年になったことを記念し，また宗教改革[6]記念週間を迎えてこのシンポジウムが行われたのは，筆者にとって大きな意味があった．なぜなら，韓国で牧師として奉仕しながら，ソーシャルワーカーとして活動した筆者自身の経験を思い返し，賀川がどのような道を歩んできたのかについて興味を持つようになったからである．

また，賀川が社会福祉分野において精力的に活動した時期は，1905 年の日韓協商条約（乙巳條約：韓国統監府設置）から日韓併合（1910‐1945：朝鮮総督府に改組）の間である．その頃，賀川の小説『死線を越えて』（1920，改造社）がベストセラーとなっていたため，韓国に駐在していた日本人によってその名が知られていたものと考えられる．次の【表 1】は，1876 年の韓国の釜山開港後，1922 年までの日本人の韓国への移住の状況を示している．

【表 1】韓国における在韓日本人数

年	号数	人口		
		男	女	合計
1876 年末	-	52	2	54
1905 年末	-	26,486	15,974	42,460
1909 年末	-	79,947	66,200	146,147
1910 年末	50,992	92,751	78,792	171,543
1920 年末	94,514	185,196	162,654	347,850
1922 年末	106,991	204,883	181,610	386,493

出所：朝鮮総督府（1923：2‐5）

[4] 「朝鮮聖書研究会」のメンバーで，金教臣とともに東京高等師範学校に通い，1928 年に卒業した．

[5] 内村（キーワード：내촌감삼，우치무라간조，우찌무라간조，内村鑑三など）と賀川（キーワード：하천풍언，가가와도요히코，가가와토요히코，賀川豊彦など）に関するもので，タイトルに記載されていないものも含まれているが，コラムは除いている．

キーワード	学位論文		図書	学術誌
	修士	博士		
内村鑑三	17（1）	3（1）	37	52（12）
賀川豊彦	1	・	15	7

韓国の国会図書館のデータベース（http://www.nanet.go.kr，20131020 閲覧）より筆者作成
（）内の数字は日本人著者の数

[6] 16 世紀のヨーロッパで，ローマカトリック教会の弊害に対して改革を宣言し，ここから分離してプロテスタント教会を立てた宗教運動である．1517 年 10 月 31 日，ルターが 95 か条の論題を提出した日が由来である．

このように韓国へ移住した日本人が増えたうえ，韓国における賀川に関する記事が1921 年 8 月 12 日の『東亜日報』（第 6 章を参照）に掲載されており，また賀川が韓国に訪問した記録も残っていたため，韓国に駐在した日本人を含めて韓国人にも賀川の存在は知られていたものと考えられる．それにもかかわらず，賀川に関する研究はなぜ進められてこなかったのだろうか.

筆者が賀川について興味を持ち始めたのは，韓国の社会福祉分野の先駆者である金徳俊（キムドクジュン）の論稿「欧米社会事業哲学の背景に対する試考」（1979：93‐94）に出会ったときからである.

> 人間의 目的을 생각하면서 筆者는 Kagawa（賀川豊彦）가 50 년 前에 社會事業과 關聯지으면서 남긴 그 自身의 人生의 目的을 잊을 수가 없다. 즉, 그의 宗教는 兩面을 가지고 있다. 그것은 生命의 本質과 生命의 表現의 兩側面이다. 本質만을 파고 들려는 者는 表現의 世界를 잊어버리고 神秘와 瞑想과 神學과 儀禮（形式）에 盡力한다.
>
> “그러나 生命의 表現을 생각하는 者는 사랑의 行動에 의해서만이 生命의 本質을 探知할 수 있음을 배운다.（중략）社會境遇의 온갖 不合理를 討正하고 生命 勞動 人格에 대한 온갖 缺陷을 修正하며 救濟하는 것에 의해서 宇宙本質이 무엇인가 하는 것을 認識하는 可能性이 容易하게 된다. 그러므로, 社會事業을 가지는 宗教運動은 社會事業과 宗教運動의 사이에는 二元的 差異를 認定하지 않는다. 生의 온갖 行動이 宗教運動이며 瞑想과 祈禱만이 宗教運動이라고 생각지 않는다. 여기에 本質로부터 表現에의 化身（The Incarnation）의 運動이 있다.（중략）”라고 말하면서 그리스도人의 삶의 方向을 明示하고 있는 것이다.

（＝人生の目的を考える筆者（ここでは，金徳俊を指す）にとって，Kagawa（賀川豊彦）が 50 年前に社会事業と関連して残した彼自身の人生の目的が忘れられない．彼（ここでは，賀川を指す）の宗教は両面的である．それは生命の本質と生命の表現の両側面である．本質のみに拘泥する者は表現の世界を忘れて神秘と瞑想と神学と儀礼（形式）に没頭する.

“しかし生命の表現を考える者は愛の行動によってのみ生命の本質を知り得ることを学ぶ.（中略）社会境遇のあらゆる不合理を修正し，生命・労働・人格に

関するすべての欠陥を救済することに宇宙本質が何を指すのかを認識する可能性を容認していく．それゆえに社会事業的側面をもつ宗教運動と社会事業の間には，二元的差異を見出さない．生のすべての行動が宗教運動であり，瞑想と祈祷のみを宗教運動とは考えない．これは本質から表現への化身（The Incarnation）の運動である．（中略）”と述べ，キリスト教徒の生き方を示しているのである．翻訳・下線・（）－筆者）

金徳俊は賀川（1928）の「社会事業や宗教運動」を引用しながら，宗教の真の意味をキリスト教徒の生き方として捉えようとした．つまり賀川が述べた宗教の両側面である「生命の本質」と「生命の表現」は，「信仰もこれと同じです．行いが伴わないなら，信仰はそれだけでは死んだものです（ヤコブの手紙 2 章 17 節）」という言葉のように信仰と行いのバランスを訴えていたのであろう．

このように「生命の本質」と「生命の表現」という言葉で，宗教と社会運動の関係を述べた賀川の論稿に心を引かれ，賀川の実践や思想について興味を持ち始めたことが，本研究を始めた背景である．また，この賀川の考え方は 85 年を経た今日のキリスト教界でも社会福祉分野でも，大きく示唆を与えるものであると考えられる．たとえば，キリスト教において，「人の子が，仕えられるためではなく仕えるために，また，多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように（マタイによる福音書 20 章 28 節，傍点－筆者）」という言葉のように，多くの人のためにイエス自身が命をかけたことを信じたキリスト教徒が，イエスを模範として仕えられるより仕えることを求め，「お互いに仕え合う」ことを示しているのである．また，社会の状況の中で助けを必要とする人々を世話する，これをキリスト教では，ディアコニア（διακονια，奉仕）と呼ぶ．そして助けられた人がまた助ける人になっていくことで，社会的に責任のある働きに繋がっていく．この点について，社会福祉分野では，互いに仕え合う関係を社会の相互援助の枠組みとして措定し，「公」だけではない新たな「公共」の大切さを強調している．

もっとも，賀川に関する研究における日本内の位置づけにはいくつか疑問がある．まず，賀川に関する評価である．賀川は，牧師をしながら，社会運動の先導者として農民運動，労働運動，協同組合運動，平和運動，さらには詩や小説の文芸活動など，非常に幅広い分野で活躍した人物として肯定的に評価されている（生江 1931；木村

1969；嶋田 1971；斎藤 1983；山田 1988，1990；黒川 1994；吉田・岡田 2000；加藤 2000，2008；鳥飼 2002；濱田 2009；稲垣 2009；小南 2010；倉橋 2011）．生江の場合，賀川を大正，昭和の両時代を通じてキリスト教界並びに社会運動界，また社会事業界における重要人物であると評価している．一方で，貧民救済や社会運動のために働き始めた頃，「赤だ，危険人物だ」という非難の声を浴びており，キリスト教においても賀川は「共産主義」とか，「神学がない」とか，「悪魔」とか，否定的に評価されることもあった（横山 1951：173；黒田 1983：364‐365）．特に賀川の作品に表れている差別用語や部落差別のことで，彼を「偽善者」であると捉える評価もある（小柳の講演会[7]2011．11．26，神戸賀川豊彦記念館）．さらに，賀川に対して一面的及び肯定的な評価を行うことにより，賀川が批判されている理由に関する客観的評価ができていないことから，賀川を正しく継承することができず，もはや時代遅れの見解となったと指摘した評価もある（杉山 2003：35）．このように賀川に関する評価は賛否両論であり，二極化している．

このような状況の中で，賀川について再検討を迫られる出来事が起こった．それはノーベル賞の候補者の公開である．2009 年 9 月 13 日付けの「賀川豊彦：ノーベル文学賞候補だった　日本人初 1947，48 年連続」という『毎日新聞』の社会面の記事があるが，これは賀川豊彦が 1947，48 年とノーベル文学賞候補であったことが明らかになったと報じた記事である．同時に 1954‐56 年の 3 回，平和賞の候補だったことも公式資料で確認された．これにより内部からの「賀川豊彦献身 100 年記念事業」だけではなく，外部から賀川を再評価する動きが見られ始めた．その一つが「賀川豊彦，その現代的可能性を求めて」（2009，季刊『at』15 号）という特集であろう．

このように，2009 年を機に日本でも韓国でも賀川に関する研究が改めて議論され始めたことは，両国のキリスト教界にとっても社会福祉分野にとっても示唆的であり，特に賀川の日本と韓国とのかかわりへの研究の糸口になるものと考えられる．なぜなら，「子たちよ，言葉と口先だけではなく，行いをもって誠実に愛し合おう（ヨハネの手紙一 3 章 18 節）」という言葉のように，賀川の生涯が信仰と実践との調和の模範になったと考えられるからである．特に，キリスト教徒として社会問題を傍観せず，積極的に関わり，それを根本的に解決しようとした賀川の様々な活動を通して彼の思

[7] タイトルは「賀川豊彦から何を学ぶか‐賀川豊彦と部落差別‐」であった．講師の小柳伸顕は日本基督教団部落解放センター活動委員，釜ヶ崎キリスト教協友会のメンバーである．

想や実践を研究することは，宗教と社会を繋ぐキリスト教を基盤とした社会福祉にとって重要な意味を持つ．また，信仰と実践の調和というキリスト教の教えが改めて重要視されるとも考えられる．賀川が神戸新川のスラム街での献身を開始してから 100 年を迎え，韓国でシンポジウムが開催されたことは，両国にとって大きな意味を持ち，また韓国と賀川とのかかわりの研究を一歩進める重要な出来事であろう．

第 2 節　先行研究の検討

日本において賀川に関する研究がどのような分野で行われていたのか，また海外において先行研究はどのように行われていたのかを整理する．そのうえで，賀川と海外とのかかわりの先行研究について検討する．

1. 日本における先行研究

まず，学術コンテンツ・ポータルである Genii を用い，「賀川豊彦」「Toyohiko Kagawa」というキーワードによって検索された論文は，二重記載や賀川自身が書いた論文を除いて 228 件であった．タイトルとキーワードを中心として分類したものが【表 2】である．

【表 2】関連分野の分布

社会福祉（事業）	12	（協同）組合	46	キリスト教	33
救貧事業	1	公共哲学（福祉）	8	戦争関連	4
改善事業	4	社会思想	19	中国	5
セツルメント	2	労働運動	9	オセアニア	2
貧困	2	社会運動	3	賀川豊彦学会	1
子ども（保育）	12	平和	6	ノーベル賞	2
障害者	1	社会教育	1	機関訪問	5
大震災	2	建築	2	文学	6
部落	3	人物・記念事業	22	文献紹介・書評	15

出所：CiNii（20121203 閲覧）より筆者作成

上記をみると，組合に比べて社会福祉（事業）の数は少ないが，これは今日の社会福祉分野の境界線をどのように定めるかによって分類の方法が異なる．たとえば，木

村（1969）や黒川（1994）は，賀川が社会問題に対して組織的な解決を目指すための方法としての組合運動を，「社会事業」の新たな視点として取り入れようとしたと肯定的に評価している．このことは，組合運動も今日の社会福祉の一領域であることを示していると言えるだろう．また救貧事業，改善事業，セツルメントなど，様々な側面から行った事業もまさに今日の社会福祉の領域である．

最近「滅私奉公」から「活私奉公」（金泰昌 2002）へという公共哲学が改めて論議されている．そして「国家的な慈恵主義」から包含されない，市民の自覚的な「活動」と「社会参加」に関する公共福祉も，市民主権の福祉社会創設であるということで，社会福祉の領域に「公共福祉」という名で取り込もうとしている（山脇 2004；2005）．この公共福祉の視点から賀川を再評価している稲垣（2010：120‐122；2012：71‐83）は，賀川が若くしてスラムに飛び込んだのは，人々のニーズに対応するためであったと述べ，貧困をなくしていくために，単に慈善活動に頼るだけでなく，自らの力で自分たちの生活を築き上げ，リスクに対して予防していこうとした点を評価している．特に各役割を決めて互いに連帯して行くこと，つまり今日の公共福祉の重要な概念である「友愛」と「連帯」がすでに賀川によって述べられていると論じている．

その他に，賀川について主に研究している団体や関連する雑誌には，財団法人本所賀川記念館の『賀川豊彦研究』(1982)，賀川豊彦記念松沢資料館の『雲の柱』(1983)，賀川豊彦学会の『賀川豊彦学会論叢』（1985）がある．ただし，賀川について詳しく論じている反面，賀川に対する批判や社会福祉と関連するものが極めて少ない．社会福祉に関連する論文は，『賀川豊彦研究』の中では，服部（1991a；1991b）の「賀川豊彦における社会事業思想の形成」，雨宮（1991）の「木崎農民福音学校と賀川豊彦」，大里（1992；1993）の「賀川豊彦のセツルメント運動」，戒能（2012）の「賀川豊彦と関東大震災‐日本のボランティア活動の原点について‐」がある．『雲の柱』の中では，横山（1986）の「賀川豊彦と農民福音学校」，山田（1988）「賀川豊彦における社会事業論の展開」，井上（1988）「賀川豊彦とセツルメント運動‐大阪における働きを中心にして‐」がある．『賀川豊彦学会論叢』の中では，小澤（2005）「社会福祉基礎構造改革と賀川豊彦」がある．

日本における先行研究の検討した上で，今日の社会福祉分野の境界線をどのように措定するかに応じて，その範囲が異なってくるということが分かる．貧民救済事業か

ら始まった賀川の様々な事業が，すでに公共性を考えた社会福祉であったという評価がある．しかし，これは結果として述べられることで，社会福祉に関する賀川の思想を厳密に整理したわけではない．どのような思想に基づいて実践していたのかについても研究が少ない．したがって，賀川が何をしようとしたのか，そして実践をどのように考えたのかについて，詳細に検討する必要がある．

2. 海外における先行研究

賀川の著書やその他賀川に関する先行研究について，海外で出版されたものも少なくない．ここでは，英語版のみ検討する．主にアメリカまたはイギリスで出版されたもので，賀川著書の翻訳書を【表 3】で示し，賀川に関する書籍と論文は【表 4】で示す．韓国で出版されたものは第Ⅲ部で扱い，韓国における先行研究で別に分類する．

【表 3】翻訳書

年	タイトル	翻訳者	出版社
1922	Across the Death - Line[8]	Ichiji Fukumoto & Thomas Satchell	Kobe : Japan Chronicle Office
1924	Before the Dawn	Ichiji Hukumoto & Thomas Sachell	New York : George H. Doran company
1925	Before the Dawn	Ichiji Hukumoto & Thomas Sachell	London : Chatto & Windus
1925	A shooter at the sun	Thomas Satchell	Kobe : Japan Chronicle Press
1929	Love : the law of life	J. Fullerton Gressitt	Chicago : John C. Winston Company
1930	Love : the law of life	J. Fullerton Gressitt	London : Student Christian Movement Press
1931	The religion of Jesus	Helen F. Topping	Chicago : John C. Winston Company
1931	The religion of Jesus	Helen F. Topping	London : Student Christian Movement Press

[8] 『死線を越えて』の英語訳は，初めは『Across the Death - line』（Kobe: Japan Chronicle Office, 1922）として出版されたが，表現がよくないということで，後にタイトルを『Before the Dawn』（New York : George H. Doran, 1924）に変更された（http://www3.amherst.edu/~aardoc/Grimke_Kagawa_1936.html, 20130629 閲覧）．

1931	The religion of Jesus and Love the law of life	Helen F. Topping & J. Fullerton Gressitt	Chicago : John C. Winston
1931	New Life through God	Elizabeth Kilburn	Fleming H. Revell Company
1932	New Life through God	Elizabeth Kilburn	London : Student Christian Movement Press
1933	A Grain of Wheat	Marion R. Draper	London : Hodder & Stoughton Limited
1934	Christ and Japan	William Axling	New York : Friendship Press
1934	Jesus through Japanese eyes : a study of the daily life of Jesus	Helen F. Topping & Marion R. Draper	Ann Arbor, Mich. : UMI Books on Demand
1934	Jesus through Japanese eyes : a study of the daily life of Jesus	Helen F. Topping & Marion R. Draper	London : Lutterworth Press
1934	Jesus through Japanese eyes : a study of the daily life of Jesus	Helen F. Topping & Marion R. Draper	Ann Arbor, Mich. : UMI Books on Demand
1935	Meditations on the Cross	Helen F. Topping & Marion R. Draper	Chicago : Willett Clark & company
1935	Songs from the Slums	Lois J. Erickson	Nashville, Tenn. : Cokesbury Press
1935	Songs from the Slums	Lois J. Erickson	London : Student Christian Movement
1936	A grain of wheat	Marion R. Draper	New York : Harper & Brothers Publishers
1936	The philosophy of the cooperative movement	Emerson O. Bradshaw	Chicago Church Federation
1936	Meditations on the Cross	Helen F. Topping & Marion R. Draper	London : Student Christian Movement Press
1936	The Thorn in the Flesh －God's Message to those in Trouble－	(Toyohiko Kagawa)	London : Student Christian Movement Press
1936	Brotherhood Economics	(Toyohiko Kagawa)	New York : Harper & Brothers
1937	Brotherhood Economics	(Toyohiko Kagawa)	London : Student Christian Movement Press
1937	The Land of Milk and Honey	Marion R. Draper	London : Hodder & Stoughton Limited

1939	Meditations on the Holy Spirit	Charles A. Logan	Nashville, Tenn. : Cokesbury Press
1940	The challenge of redemptive love	Marion R. Draper	New York : Abingdon Press
1941	Behold the Man	Editors : Maxine Shore & M.M. Oblinger	New York : Harper & Brothers
1947	The willow and the bridge : poems and meditations	(Toyohiko Kagawa and Franklin Cole)	New York : Association Press
1949	Songs from the land of dawn	(Toyohiko Kagawa & other Japanese poets) Lois J. Erickson	New York : Friendship Press, Inc.
1950	Meditations	Jiro Takenaka	New York : Harper & Brothers
1979	Meditations	Jiro Takenaka	Westport, Conn. : Greenwood Press

出所：松沢資料館，神戸賀川記念館，同志社大学図書館より筆者作成[9]

賀川の著書は，まずアメリカで翻訳本が出版され，同年または次年にイギリスで出版されることが多い．そして翻訳者の中で最も多く登場する人物がヘレン・タッピング（Helen F. Topping, 1889 - 1968）である．彼女は日本バプテスト教会の宣教師であった両親[10]に連れられ 1895 年に来日したが，高等教育はアメリカ（Denison University, Columbia University）で受け，1925 年から賀川の英語の通訳を担う秘書となった．1927 年からバークレー（Berkeley）で賀川の賀川をサポートするグループを設立し，引退した両親とともに賀川のサポーターを募集するため，英語バージョンの雑誌『Friends of Jesus』を発行した（米沢 2006b：60）．このようにヘレンはアメリカの Kagawa Fellowship House を管轄し，賀川の事業を世界に広める広告塔となった人物である．

[9] 出版年度が異なるが，翻訳者または出版社が同じ場合，初版のみ掲載した．また出版年度は同じであるが，翻訳者または出版社が違う場合は掲載した．

[10] 父親は Henry Topping（1857. 7. 26 - 1942. 7）で，1895 年 11 月にアメリカ・バプテスト派教会の宣教師として来日し，東京学院（後に，関東学院大学）で英語と聖書を教えた．1904 年から 2 年間はいったん帰国し，1908 年から 1920 年まで再び来日し岩手県盛岡市の盛岡バプテスト教会に赴任，そのかたわら盛岡高等農林学校の英語講師を務めた．1927 年に帰国した．母親は Genevieve Faville Topping（1863. 10. 21 - 1953. 7. 18）で，1888 年に夫ヘンリーと結婚した．1895 年に来日し，翌年東京築地居留地の自宅を開放して築地幼稚園を開設した．1897 年に保母の養成を開始した（当時は，Tokyo Kindergarten Teachers Training School と呼ばれた．この養成所は，後に東京保姆伝習所（彰栄保育福祉専門学校）として発展した）．岩手県最初の幼稚園である盛岡幼稚園を設立し，個性を尊重した進歩的な保育を実践した人物である．晩年は一家をあげて賀川の宣教と福祉事業を支援し，アメリカに向け広く紹介したのである（出所：日本キリスト教歴史大事典 1988：842）．

その他にも，J. Fullerton Gressitt（Kagawa Cooperation）や Elizabeth Kilburn（メソジスト教会所属），Jessie M. Trout（Canadian, Disciples of Christ：秘書 1935－1940）などが賀川の英語の通訳を担う秘書として（米沢 2006b：12；61），賀川の著書の翻訳や賀川に関する論文を書くことに尽力した．

賀川の知名度が世界で高まったのは，賀川の著書を英語に翻訳し，後援会を組織してくれた人々がいたからであろう．特に，英語で初めて伝記『Kagawa』を書いたウィリアム・アキスリング（William Axling）[11]は，賀川の熱烈な支持者で，翻訳者ヘレンの父親ヘンリーが一時期在籍した盛岡バプテスト教会の前任者でもあった[12]．

【表 4】賀川に関する書籍と論文

年	タイトル	著者	出版社	ページ
1931	Toyohiko Kagawa ： The St.Francis of Japan	Kenneth Saunders	Pacific Affairs, Vol.4,No.4	308－317
1932	Kagawa	William Axling	London：Student Christian Movement Press	
1932	Kagawa	William Axling	New York：Harper & Brothers Publishers	
1932	The Kingdom of God Movement in Japan	William Axling	Expository Times, vol.44,No.1	8－12
1933	Whither Asia? ： a study of three leaders	Kenneth Saunders	New York ：The Macmillan Company	105－204
1935	Introducing KAGAWA	Hellen Toppimg	Chicago：Willett, Clark & Company	1－33
1936	Kagawa ： An apostle of Japan	Margret Baumann	New York：The Macmillan Company	
1937	The Cooperative Movement and Church	M. A. Dawber	Annals of the American Academy of Political and Social Science, Vol.191	70－75

[11] William Axling（1873－1963）は，1901 年から 1943 年までアメリカのバプテスト教会宣教師として滞日した人物である．1922 年日本キリスト教聯盟の代表者であり，後に幹事となる．1925 年スウェーデン世界基督教宣教会議や 1928 年エルサレム世界宣教会議に日本のキリスト教の代表者の一人として参加している（シェル著・後藤訳 2009：71）．

[12] 参考：Think Kagawa（賀川豊彦献身 100 年記念事業実行委員会）ホームページ（http://d.hatena.ne.jp/kagawa100, 20100327；20101027；20101208；20101210 の記事，20130411 閲覧）．

1938	The Cooperative Movement in Japan	Galen M. Fisher	Pacific Affairs, Vol.11,No.4	478 - 491
1939	Three trumpets sound : Kagawa - Gandhi - Schweitzer	Allan A. Hunter	New York : Association Press	
1941	The two kingdoms	(Toyohiko Kagawa)	London : Lutterworth Press	
1945	Toyohiko Kagawa : Japan's Daring Reformer	W. LL. Williams	Treorchy : The Caxton Press	
1945	Cooperatives in Japan	Arthur C. churchill	Far Eastern Survey,Vol.14,No.15	204 - 207
1946	Kagawa : Christian socialist	Thoburn Taylor Brumbaugh	Christian Century,63.No.51	1531 - 1532
1952	Unconquerable Kagawa	Emerson O. Bradshaw	St.Paul Minnesota: Macalester Park	
1958	A seed shall serve : the story of Toyohiko Kagawa, spiritual leader of modern Japan	Charlie May Hogue Simon	New York : E.P. Dutton	
1959	Kagawa, Japanese prophet : his witness in life and word	Jessie M. Trout	London : United Society for Christian Literature	
1960	Kagawa of Japan	Cyril James Davey	New York : Abingdon Press	
1960	Kagawa of Japan	Cyril James Davey	London :The Epworth Press	
1960	An Essay on Kagawa Toyohiko : The Place of Man in his Social Theory	Kiyo Takeda Cho	Tokyo : International Christian Univ.	
1960	Kagawa : Christian evangelist	Richard Henry Drummond	Christian Century 77.No.28.	823 - 825
1960	A Grain of Wheat : Toyohiko Kagawa, 1888 - 1960	N. Joseph Kikuchi	International Review of Mission, 49.No.196	438 - 442
1962	Kagawa : a Time for Remembering	Marianna Nugent Prichard	Christian Century 79.No.16.	494 - 496
1966	Two tipes:Kagawa and Uchimura	Howes, John F.	Theology Today 23. No1.Ap.	88 - 97
1966	The idea of redemption in the writings of Toyohiko Kagawa	Ken Nishimura	Tokyo : Friends of Jesus	
1970	The Religious Aspects of Cosmic Consciousness: A Comparison of Pierre Teilhard de Chardin and Toyohiko Kagawa	Hideshi Kishi	Christian Century	1533 - 1536

1970	Utopianism and Social Planning in the Thought of Kagawa Toyohiko	George Bikle	Monumenta Nipponica,Vol.25, No.3/4	447 - 453
1971	A History of Christianity in Japan	Richard H. Drummond	William. B. Eerdmans Pub.	220 - 241
1973	God's fool: Toyohiko Kagawa (Biography for today)	Carolyn Scott	Guildford : Lutterworth Press	
1975	Songs from the land of dawn	Lois J. Erickson	Miami : Royale House	
1976	The New Jerusalem : Aspects of Utopianism in the thought of Kagawa Toyohiko	George B. Bikle. JR	Tucson : The University of Arizona Press	
1986	A land flowing with milk and honey : perspectives on feminist theology	Elisabeth Moltmann-Wendel	New York : Crossroad	
1988	The legacy of Toyohiko Kagawa	Robert Mikio Fukuda	International Bulletin of Missionary Research 12.No.1 Ja.	18 - 22
1988	Toyohiko Kagawa:Apostle of Love and Social Justice	Robert Schildgen	Berkeley, Calif., USA : Centenary Books	
1990	The glow in the eastern sky : The impact of Mahatma Gandhi and Toyohiko Kagawa on the Canadian Protestant Churches in the Interwar Years	Robert A. Wright	Journal of the Canadian Church Historical Society	3 - 23
1996	Kagawa Toyohiko and the United States	Robert Schildgen	The Journal of American - East Asian Relations, Vol.5,No.3 - 4	227 - 253
2002	Who was Toyohiko Kagawa?	Yasuo Furuya	Princeton Seminary Bulletin,23.No.3	301 - 312
2005	"Go and do likewise!" : Toyohiko Kagawa's Theology in Periphery	Kosuke Koyama	Princeton Seminary Bulletin,26.No.1	89 - 110
2007	The Forgotten Prophet : Rediscovering Toyohiko Kagawa	Anri Morimoto	Princeton Seminary Bulletin,28.No.3	298 - 308
2011	The west looks east:the influence of Toyohiko Kagawa on America mainline Protestantism	David P. King	Church History 80. No.2. Jun	302 - 320

出所：同志社図書館，海外のデータベース検索ポータルの ATLA Religion Database with ATLA Serials (www.ebscohost.com) と JSTOR (www.jstor.org) より筆者作成

上記データを検討すると，賀川に関する書籍や論文では，賀川の紹介とともに，主に彼の活動に焦点が置かれており，キリスト教と関連するものが多いことが分かる．それは宣教師として日本で活動した人々が賀川の活動を支持し，日本内外を行き交いながら賀川をサポートしたからであろう．賀川の伝記が 1932 年から英語で出版されたことをみると，日本国内よりも遥かにイギリスとアメリカで評価されていたと言っても過言ではないだろう．

そして，賀川と特定の人物とを比較する文献もある．Hunter（1939）は，モハンダス・カラムチャンド・ガンディー（Mohandas Karamchand Gandhi，1869．10．2－1948．1．30），アルベルト・シュバイツァー（Albert Schweitzer，1875．1．14－1965．9．4）と賀川を，世を動かした人物として取り上げている．著者によると，賀川の活動には，紛争や戦争の最中であった当時に平和を求めた意図がみられる．Howes（1966）と Wright（1990）は特定の人物を取り上げ，賀川と比較している．まず Howes は，日本の学者らはカトリックよりプロテスタントが中心で，主に宣教師の役割と近代史におけるキリスト教の特徴を研究してきたことを述べ，日本キリスト教史の中で，賀川と内村の共通点と相違点を分析している．Howes による共通点は，両者とも福音的カルヴァン主義の宣教師を通してキリスト教に出会ったこと，日常生活の中で信仰に伴う倫理を考えたこと，そして作家であり，演説家であり，日本の宣教のため働いた人物であるという点である．相違点は，賀川は人間の善と能力を信じながら，神の助けとともにこの世を改良するため，彼自身の身を投じた人物である反面，内村は神からの偉大な助けなしに，基本的に人間は変化することができないという観点のもと，献身した若者のグループを中心として教育に力を入れた点である．一言で言うと，賀川は下流層中心に，内村は若者や知識層中心に活動を展開してきたということである．また，Wright は，賀川とガンディーを比較している．同じ時代（実際は 20 歳の年齢差がある）に生まれ，英語及び西洋の教育を受けたことと，両者とも非抵抗主義であったことを共通点として取り上げ，それにもかかわらず，当時は，その社会環境からラディカルという否定的な評価を受けることが多かったことも似ていると述べている．

また，賀川とアメリカとのかかわりに関するものもある．まず Schildgen（1996）は，Schildgen 自身が外国人としてまた宗教歴史家として，日本のキリスト教徒である賀川とアメリカとの関係について調査することには意味があるとし，1930 年代の

北アメリカでの賀川の活動を中心に述べている．特に賀川が 1935 年から 36 年までの 6 ヶ月間北アメリカを訪問していた際，150 ヵ都市にて講演し，750,000 名の聴衆を集めたこと，1936 年 6 月のアメリカの訪問最終日は NBC ラジオに出演したため，賀川の名声が更に広がったことを記している．ただし，当時政治的な葛藤があったため，日本とアメリカとのかかわりに関連する部分はあまり扱わず，賀川の著書や賀川に関する書籍，講演会の中で流れている賀川の考え方のみを扱っている．King（2011）は，アメリカでの賀川の活動がクリスチャンセンチュリー（The Christian Century）というプロテスタントのジャーナルだけではなく，New York Times，Newsweek，Time 誌などマスメディアにおいても評価され，1930 年代のアメリカ教会に影響を及ぼしたと述べている．特に「日本のガンディー」，「日本のトルストイ」，「現代の St. フランチェスコ」というニックネームを賀川に付けるほど「賀川の神話」にアメリカ人が惚れていたのは，それまでアメリカのキリスト教徒を中心とした宣教観が，東洋人である賀川によって世界キリスト教徒（World Christian）に変化させられたからであると述べ，高い評価をしている．また，アメリカ国内でも保守主義者によって 1936 年の伝道訪問を反対され，批判されたことも紹介している．このように Schildgen（1996），King（2011）は，数回に渡る賀川のアメリカの訪問についてアメリカの教会を中心としてその動向を分析し，そこでの活動を通してどのような影響を及ぼしたのかを記している．

2000 年代に入ってから，プリンストン大学の日本の研究者を中心に賀川に関する再評価が行われている．たとえば Morimoto（2007）は，日本であれ，アメリカであれ，常に挑戦していく賀川の生き方を私たちが学ぶべきものであると強調している．

その他に，Karl‐Heinz Schell（1994）の文献がある．英語の文献ではないが，2009 年に日本語で翻訳されたため，先行研究の一つとして扱う．Schell は日本で留学した経験（1988‐1990，筑波大学）もあり，ドイツ語圏の知識人として日本のキリスト教における賀川の様々な活動[13]について述べている．特に賀川の社会的，政治的働きを理解するため，その背景について，神学，敬虔さ，教会のアイデンティティーに分けて[14]論じている．ただし，賀川の活動の背景になった 3 つの特質とどのように関連して

[13] 教育活動，救済・共済事業，労働運動，社会運動，農民運動，協同組合運動，平和運動を中心に述べている．

[14] Schell は，神学的特質を「愛」「意識」「神の国」に，敬虔さの特質を「祈りと詩」「客観性と社会主義」「希望とユートピア」に，教会のアイデンティティーを「日本の教会との関係」「外国の教会との

いるのか，さらにドイツとのかかわりに関しては欠けている．

また，『Friends of Jesus』（editor：Helen F. Topping）という不定期発行（1928－1937[15]）の刊行物がある．この刊行物によって，賀川とその事業が海外に知られ，賀川に関する多くの伝記や研究が行われた．

このように海外における賀川の先行研究の検討から判明したのは，主にキリスト教を中心とした研究であって，社会福祉分野においての研究は少ないことである．もちろん先行研究の内容には，賀川の様々な活動が含まれているが，それが必ずしも社会福祉の観点から書いたものとは言い難い．それゆえ，賀川の活動そのものがキリスト教会だけではなく社会福祉分野にどのような影響を及ぼしたのかを研究することには意義があると考えられる．

3. 日本における海外と賀川とのかかわりに関する研究

日本における海外と賀川とのかかわりに関する研究は【表 5】のように中国と関連するものが多い．オセアニアの場合は，賀川の訪問地を追跡した紀行文のような形で書かれている．また韓国とのかかわりは中国とのかかわりの中で書かれたものであり，【表 6】に別に分類した．

【表 5】日本における海外と賀川のかかわりに関する研究

国	年	タイトル	著者	出所	ページ
中国	1981	知られざる教団史の断面 －満州開拓基督教村－	戒能信生	『福音と世界』12 月号	39－46
	1996	賀川豊彦と中国－協同組合について－	森静朗	『賀川豊彦研究』第 33 号	2－13
	2001	賀川豊彦と孫文	浜田直也	『孫文研究』30（孫文研究会）	1－24
	2002	賀川豊彦の「孫文」観と日中戦争	浜田直也	『雲の柱』16（賀川豊彦記念松沢資料館）	17－40
	2006	Realistic Pacifist 賀川豊彦と中国	米沢和一郎	明治学院大学キリスト教研究所『紀要』第 38 号	73－101

関係」「河島幸夫によるヨハン・ヒンリッヒ・ヴィヘルンとの比較」に分類している．既存の資料に基づいて書いているものの，外国の教会との関係に賀川の訪韓経歴が抜けている．

[15] Mullins（2007：80）

	2006	改訂版　満州基督教開拓村と賀川豊彦	賀川資料館ブックレット	賀川豊彦記念松沢資料館	
	2007	満州キリスト教開拓団	倉橋正直	『東アジア研究』第48 号（大阪経済法科大学アジア研究所）	19 - 32
	2007	近代中国と神戸の人々：賀川豊彦	浜田直也	『孫文研究』42（孫文研究会会報）	55 - 68
	2008	中国語版『愛の科学』著書新序，訳者序について	浜田直也	『賀川豊彦研究』第53 号	29 - 45
	2010	賀川豊彦と中国	劉家峰	東アジア文化交渉研究別冊 6（関西大学文化交渉学教育研究拠点）	45 - 60
	2011	Christian Socialism in Pre-World War II East Asia：a Comparison of Zhang Shizhang in China and Tokohiko Kagawa in Japan	Jiafeng Liu	『Christian presence and progress in North-East Asia：historical and comparative studies』	73 - 86
	2012	賀川豊彦と孫文	浜田直也	神戸新聞総合出版センター	
オセアニア	1997	賀川豊彦とオセアニア（上）	柳田勘次	『共済と保険』7 月	16 - 26
	1997	賀川豊彦とオセアニア（下）	柳田勘次	『共済と保険』8 月	30 - 42

筆者作成

賀川と中国とのかかわりは，まずキリスト教との関係から始まる．戒能（1981）によると，賀川は 1938 年北満の開拓地を視察し，また満州鉄道のキリスト教徒グループと接触した結果，満州基督教開拓村の建設の計画をするに至る．そして満州開拓基督教村の先遣隊として 6 名が派遣されたことに端を発し，12 回にわたって計 200 余名が満州開拓基督教村の建設のために送り出された．しかし敗戦と共にこの 200 余名が満州の地でどのような状況にあったのかは言うまでもない，帰国が確認された者が 116 名，死亡 53 名，残りの人々の消息は現在も確認されていない．それゆえ戒能は，この 200 余名のキリスト教徒こそ，当時のキリスト教団が国策協力の証として国家に差し出した人質であったと強く批判している．

浜田（2001；2002；2007；2012）は，陳独秀（1879－1942）[16]，胡適（1891－1962）[17]，薛仙舟（1878－1927）[18]，孫文（1866－1925）など，中国の近代史において重要な役割を果たした人々と賀川とのかかわりを論じている．特に 1920 年における上海のスラム街の賀川の調査が中国の知識人に感動を与えたことと，日本の軍隊が中国に侵略したことを謝罪したことで，中国との関わりが深まり，賀川は十数回に渡ってキリスト教伝道や講演を行ったと述べている．

米沢（2006a）は満州事変という日本の侵略行為に対する賀川の心情を中心に取り上げている．特に賀川が米国滞在中，1931 年 9 月 18 日の満州事変勃発の際にノートに書きつけた「悩みの子　トヨヒコ」[19]，「何故か？」[20]と，また 1937 年 7 月 7 日の日支事変勃発の際に書いた「涙に語る」[21]と題した謝罪詩を紹介し，1939 年復路上海で「中国の同胞に」と題した講演でも日本の罪への赦しを切に願っていたことを強調している．しかし，謝罪すべき良心を持っていながらも，国益の主張を展開した言動は矛盾があるのではないかと指摘している．

倉橋（2007）は日本人の被害の観点（団員の名前及び安否）から論じた戒能の論文に比べて日本人の加害の観点（開拓ではなく既耕地横取り団で，中国農民を搾取したという立場）から満州キリスト教開拓団の弊害を論じた．実は賀川が 1938 年の満州特別伝道の際，北満の開拓地を視察していた．その後，賀川をはじめとするプロテスタントの指導者たちは，満蒙開拓地の派遣という国策に協力していった．そして 1939 年 11 月の日本基督教聯盟第 17 回総会で，満州国移民村に関する決議案が採択され，翌年 3 月には賀川を委員長として，満州基督村企画委員会が組織された．それ

---

[16] 北京大学の文化学長であったが，後に北京大学の同僚であった李大釗とともに中国共産党を結成し初代委員長に就いた．

[17] 「五・四」時期に新文化運動を起した学者，政治家である．

[18] 中国の合作社（協同組合）の父と呼ばれた（国民党）．

[19] 「また悩みの子に　私はなった　日本の罪を負ひ　支那に託び　世界にわび　小さき霊を　ちぢに　砕く　悩みの子と　私はなった．」

[20] 「何故か　こぼるよ　私の涙　民は　食なくて　飢えつつあるに　戦をかまへて　民を苦しめる　心なき軍閥の態度　ああ　うしろの山に　柴かりつつ　世界の平和を　祈りつつある　やさしき魂のあるを　彼等軍閥は知るか　否か」

[21] 「涙よ　涙よ　幼き日よりの　親しき友　涙よ暫く別れてゐた　涙よ　またおまへと同居する時が来たね．真夜中に，夜明けに　真昼に　午後に　おまへは　しばしば　私を訪ねて来るね．おまえは　私の兄弟「支那」の　滅び行く　ニュースを伝へてくれては　私を罵って帰ってゆくね．私はおまへの罵をいくらでも受ける私は卑怯者ではない．ただ　私は日本を愛し　支那を愛してゐる　この二人の　愛するものに喧嘩をさせたくない．そのために　私は毎日気を揉んでゐるのだ．私は　喪服者のようになって　幽霊のような存在を続けてゐる　国の罪を負ふて　十字架にかかった　イエスの弟子は　国の罪をも負はねばならず　背負ひ切れ無い　国の罪に　首は沈み　頭は垂る　おお涙よ，涙よ　暫く別れてゐた涙よ　また同居する日が来たね．」

ゆえ，プロテスタントによる開拓団の送り出し事業は，賀川の圧倒的な影響下に計画され，実行されたものであると述べている．信仰に燃えた一群の人々が一致団結して満州の未開の荒野を切り開いていけば，必ずキリスト教の精神に則った理想郷を築くことができると考えた賀川の意図とは全く異なり，キリスト教開拓団は逆の方向に向かっていったと指摘している．

また劉家峰（2010）は，賀川が指導した労働運動は，日本に留学していた多くの中国人に影響を及ぼしたと述べ，各分野で活躍している人物を取り上げている．そして布教家及び牧師であった賀川が中国に影響を与えたのはやはり主としてキリスト教的側面が大きいと述べ，キリスト教社会主義者として，あるいはキリスト教平和主義者として賀川を評価した．特に，宣教師が中国にも賀川のような指導者にふさわしい人物が現れるのを望むのは不思議ではないと述べている．この点を考えると賀川が主張した満州キリスト教開拓団が，その本来の役割を果たせなかったのは残念なことであろう．

Liu（2011）は，「Jesuism」の Zhang Shizhang とキリスト教社会主義（Christian Socialism）の賀川を紹介している．Liu は，当時中国内ではカトリックとプロテスタントとの区別やユダヤ教のメサイヤとキリストとの区別ができなかったため，救い主であるキリストを「Jesu」という言葉を使うことによって中国の特性が表れたと Zhang Shizhang を高く評価している．賀川に関しては中国で様々な活動をしていたものの，中国にとって社会主義や共産主義と和解し協力するためには，賀川より Zhang Shizhang の「Jesu」が最も必要であると述べている．

柳田（1997）は，賀川とオーストラリア及びニュージーランドとの出会いに関して 2 度に渡って連載した．これは全豪州基督教連盟が世界から 3 人の宗教家を招いたものであり，その一人が賀川であった．1935 年 2 月 18 日に長崎港を出発し，3 月 12 日の朝，ブリスベン川の河口に到着してから 7 月までの賀川の訪問日程を紹介している．

このように，日本以外の国と賀川とのかかわりについての先行研究の検討から判明したことは，ほとんどキリスト教に関連するもので，牧師としての賀川のアイデンティティーが明確になっていることである．ただし，賀川の活動が主に伝道の一環として扱われていたため，キリスト教ではなく社会福祉にどのように影響を及ぼしたのかについては把握しにくい．また満州キリスト教開拓団の活動を中心に記述しているため，中国に及ぼした影響について述べることには限界がある．これらを踏まえ，日本

国内での賀川と韓国とのかかわりに関する先行研究を概観する（【表 6】）.

【表 6】日本国内での賀川と韓国とのかかわりに関する研究

年	タイトル	著者	出所	ページ
1985	賀川豊彦と朝鮮問題	金子啓一	『賀川豊彦研究』第 8 号	2 - 8
2009	賀川豊彦の協同組合思想と日韓現代社会	濱田陽・李珣淑	『雲の柱』23（賀川豊彦記念松沢資料館）	62 - 76
1973	朝鮮独立運動支持	武内勝口述・村山盛嗣編	『賀川豊彦とそのボランティア』	176 - 177
2002	朝鮮独立と賀川豊彦	浜田直也	『雲の柱』16（賀川豊彦記念松沢資料館）	28 - 32
2012	賀川豊彦と朝鮮	浜田直也	『賀川豊彦と孫文』	97 - 106

筆者作成

研究論文として賀川と韓国とのかかわりについて取りあげたのは，金子（1985）と濱田・李（2009）である．金子は，賀川の韓国とのかかわりについての発言は少ないが，彼の韓国観は「日韓併合から三・一独立運動」，「関東大震災の際の朝鮮人の虐殺」，「朝鮮伝道」など，3 つから構成されている．これは賀川の著書に基づいて日韓キリスト教史の資料を調べ，記述しようとしたものである．金子は韓国における賀川の影響について別の機会に述べたいと記述しているにもかかわらず，賀川と韓国とのかかわりの研究をこれで終えている．

濱田・李（2009）は，2009 年に『Brotherhood Economics』が韓国版（『우애의 경제학』，ユ물ヨ）で出版されたことについて，韓国における賀川への関心について論考している．しかし，翻訳者洪淳明（ホンスンミョン）[22]やイエス教長老派の生活協同組合の代表者である金在一（キムジェイル）の文章を引用しながらの分析が主であるため，韓国社会における賀川への関心を論じることには限界がある．濱田・李は，内村の弟子である金教臣と咸錫憲から深い影響を受けた洪淳明が翻訳したことに意味を見出している．それは無教会主義の立場で活動してきた洪淳明が，賀川の著書に関心を持っていたからであると述べている．濱田・李は，洪淳明が日本生協の土台を作った賀川のことを，日本に限らず，世界三大協同組合の思想家であると記した点を評価している．しかし，洪淳明は

[22] 洪淳明（1937 - 現）は，1958 年に設立されたプルム農業高等技術学校に，1960 年から 2002 年に退職するまで，長い間，農業と関連する仕事をしていた．

2006 年に小谷純一の『愛農救国の書』，2007 年に吉田俊道の『生ごみ先生の元氣野菜革命』を翻訳した経験もあるため，賀川のみを翻訳しているわけではない．また，当時より，韓国社会では協同組合への関心が集まっていたため，それだけを理由に，濱田・李の中で賀川への関心が高まっていったとは言い難い．

上記以外の 3 つの研究では，賀川との思い出の一部分として韓国とのかかわりが記述されたり，中国とのかかわりの中で韓国のことが記述されるなどしている．武内・村山編（1973）の場合は，長い間賀川に付き添っていた武内の口述であるため，当時の賀川の考え方に関する重要な参考資料となるものと考えられるものの，2 ページに過ぎない分量なので，韓国とのかかわりについて論じるには不十分である．

浜田（2002；2012）は孫文との会談の中で，日韓併合に関する賀川の考えと孫文の考えを具体的に記し，当時の政治的な状況を示している．特に賀川が孫文との会談の中で，日本が韓国の独立を認めることが日中友好の前提であるという孫文の意見を受けて，賀川が韓国を視察したのではないかと分析している．それゆえ，後に関東大震災での韓国人の虐殺を詫びて追悼会が開かれることになったと論じている．このように賀川の行動は，孫文から影響を受けたものと推測できるが，賀川にどのような影響を及ぼしたのかは具体的に書かれていない．また，中国とのかかわりの中で韓国への考えが取り上げられているに過ぎないため，この記述から韓国に対する賀川の考えそのものをまとめることは難しい．

その他にも，1987 年に大邱大学賀川豊彦記念館会館式典で「賀川豊彦の原点」と「初期の働きとその後の展開 - 賀川豊彦の諸事業 - 」というタイトルで，長男賀川純基の講演が 2 回（5 月 27 日，28 日）も行われていたものの，主に賀川の活動を中心として紹介しており，韓国との関連性について一切言及されていない（賀川純基 1991a：23 - 36）．

このように日本国内では賀川と韓国とのかかわりについての研究がほとんど蓄積されていない．近代史を顧みると，日韓が密接に繋がりを持っていた時代があったにもかかわらず，韓国とのかかわりに関する研究は少ない．それゆえ，日韓関係研究の一部分としての賀川と韓国のかかわりに関する研究には意義があるものと考えられる．しかし，日本国内における賀川と韓国との関連資料を探すには限界があるため，韓国での資料を加えて補完していく．

4. 韓国における先行研究

韓国における賀川に関する研究はどうであろう．まず，学術・学会誌電子ジャーナルのデータベースとして DBpia（http://www.dbpia.co.kr）と KISS（http://kiss.kstudy.com），学術研究情報サービスのサイト（http://www.riss.kr），国会電子図書館（http://dl.nanet.go.kr）を用いて，「賀川豊彦」，「Kagawa Toyohiko」，「하천풍언」，「가가와도요히코」，「가가와토요히코」のキーワードで調べると，学位論文を含め，賀川と関連されたものが【表 7】で示した通り 10 編あった．

【表 7】韓国における賀川に関する研究

年	タイトル	著書	出版社	ページ
1973	賀川豊彦의 生涯와 思想	李淵瑚	大韓基督教書會，『基督教思想』17 巻 8 号	108 - 117
	賀川豊彦の生涯と思想			
2004	賀川豊彦とイエス：明治期のキリスト教社会主義とのかかわりについて	尹一	『日本學報』第 61 集 2 巻	579 - 590
2006	The Task of Christian Education in Japan	Robert Mikio Fukada	한국기독교교육정보학회，9	27 - 50
			Journal of Christian Education & Information Technology 9	
2008	劉載奇의 예수촌思想과 農村運動	김병희	계명대학교대학원	박사논문
	劉載奇のイエス村思想と農村運動	金炳熙	啓明大學校大學院	博士論文
2009	1920 - 1930 년대 유재기의 농촌 운동과 기독교사회사상	김권정	『한국민족운동사연구』，Vol. 60	165 - 207
	1920 - 1930 年代の劉載奇の農村運動とキリスト教社会思想	KwonJung Kim	『韓国民族運動史研究』，Vol. 60	
2009	1920 년대 개조론의 확산과 기독교사회주의의 수용・정착	장규식	역사문제연구소，『역사문제연구』（21）	111 - 136
	1920 年代改造論の拡散とキリスト教社会主義の受容・定着	KyuSik Chang	歴史問題研究所，『歴史問題研究』（21）	
2010	가가와도요히코와 한국의 관련성에 관한 고찰 : 한국 사회복지교육의 선구자, 김덕준에의 영향을 중심으로	이선혜・정지웅	『교회사회사업』，Vol.13	155 - 178
	賀川豊彦と韓国とのかかわりに関する一考察：韓国の社会福祉教育の先駆者，金徳俊への影響を中心として	李善惠・鄭智雄	『教会社会事業』，Vol.13	

2011	가가와도요히코 (賀川豊彦)의 빈민운동 연구	김남식	신학지남사, 『신학지남』78 (1)	146 - 174
	賀川豊彦の貧民運動研究	NamShik Kim	神学指南社, 『神学指南』78 (1)	
2011	가가와도요히코 (賀川豊彦)가 한국교회에 끼친 영향	김종규	감리교신학대학교대학원	석사논문
	賀川豊彦が韓国教会に及ぼした影響	金鐘圭	メソジスト神学大学大学院	修士論文
2012	1920 년대 전국수평사와 일본기독교계의 상호인식	崔京洵	동양사학회, 『동양사학연구』120	351 - 381
	1920 年代全国水平社と日本キリスト教の相互認識		東洋史学会, 『東洋史学研究』120	

筆者作成，点線の下は日本語翻訳

上記のように 2000 年に入ってから賀川に関する研究が少しずつ進んでいる．ほとんどの論文が賀川の生涯や活動に焦点が置かれている．まず，李淵瑚（1973）は，賀川の生涯を始め，事業や思想，著書などを総合的に紹介している．個人的にも賀川に会ったことがあると記しているが，いつなぜどのように会ったのかについては具体的に書いていない．そして，韓国と賀川とのかかわりについては一切言及されていない．

尹一や KwonJung Kim，KyuSik Chang はキリスト教社会主義を中心に述べている．尹一は，賀川の『死線を越えて』を用いて，近代日本のキリスト教と社会主義運動の関係とキリスト教社会主義について言及している．そして，賀川をキリスト教社会主義者というよりも，「イエス主義者」であると指摘し，「福音」思想における「奉仕」として，社会問題を解決しようとしたと述べている．しかし，日本の明治期及び大正期におけるキリスト教社会主義の紹介が主になっており，韓国でのかかわりについては一切言及していない．それに対して，KyuSik Chang は，韓国のキリスト教界で，社会主義的な実践の論理が受け入れられることになったのは賀川の影響であると述べている．特に賀川の生命価値，労働価値，人格価値の「唯物的道徳史観」と「神の国運動」を軸とする「愛の社会主義」が大きな影響を及ぼしたと主張している．しかし，これはキリスト教社会主義に限られ，韓国とのかかわりについては述べられていない．KwonJung Kim は 1920，30 年代の韓国における農村の実態とともに当時活動していた劉載奇について記している．特に賀川と杉山の著書を通じてキリスト教社会主義を受容した劉載奇が，農村運動の重要なリーダーとなり，協同組合運動に力を入れたと述べている．ただし，賀川からどのように影響を受けたのかについては，具

体的に言及されていない.

Robert Mikio Fukada は，日本の代表的な教育者として，羽仁もと子（1873．9．8－1957．4．7：自由学園の創立者），賀川豊彦，新島襄（1843．2．12－1890．1．23：同志社大学の創立者）を取り上げ，彼らの教育思想について英文で紹介している．つまり，神学者である Fukada が教育を中心に論じたもので，社会福祉や韓国との関係については一切述べられていない.

NamShik Kim と崔京洵は，貧民に関する賀川の運動について述べている．NamShik Kim は「人間の尊厳」に基づいた賀川の実践的な愛について，崔京洵は賀川と水平社との関係について記している．これは，主に日本における賀川と貧民，賀川と水平社に関するもので，韓国との関係ではない.

そして，賀川と韓国との関連性を論じた論文は李善惠・鄭智雄（2010）と金鐘圭（2011）のみである．李善惠・鄭智雄（2010）はキリスト教思想に基づく社会福祉教育の先駆者である金徳俊を中心として賀川からどのような影響を受けたのかを論じている．この部分については第Ⅲ部で具体的に論じることとする．金鐘圭（2011）は韓国の教会という枠の中で，賀川が及ぼした影響を「愛の実践家」として，「福音の伝道者」として，「日韓関係の架け橋の役割を担った人物」として評価している．特に賀川の著書，すなわち翻訳書を中心に，彼の神学思想を「神・イエス・神の国・宇宙悪と社会悪・キリスト教社会主義」に分けて述べている．しかし，これらの事柄については，賀川の全体像から分析した神学思想ではなく，翻訳書を一冊ずつまとめるだけに留まっている．そのうえ，残念ながら，誤った部分を引用しているところもある．たとえば，賀川の講演の中で，取り上げられた例え話が賀川自身の話であると誤解して書かれている，講演の内容が韓国の訪問での講演とは違う賀川の全般的な考えを紹介しているなどである．また，賀川の韓国の訪問に関して，主に張時華編（1940）の『賀川豊彦先生講演集』を引用している．つまり，賀川が韓国の教会に及ぼした影響について初めて論じたことは評価できるが，社会福祉分野においては欠けている.

第 3 節　研究目的と本研究の意義

以上の先行研究の検討から分かったことは，大きく 3 つにまとめられる．一点目は，日本より海外の方が賀川の業績を高く評価しているにもかかわらず，海外と賀川との

かかわりに関する研究があまりなされていないことである．二点目は，中でも本研究において調査対象としている韓国とのかかわりが，とりわけ日韓両国の研究において見当たらないことである．三点目に，先行研究では賀川の様々な活動を紹介しており，キリスト教との関係については言及しているものの，社会福祉やキリスト教社会福祉との関連を示唆する研究は少なく，そこからは社会福祉における賀川の実践や思想の実態が見えてこないことである．

そこで本研究の目的は，賀川と韓国とのかかわりを中心として，社会福祉実践・思想において賀川が韓国にどのような影響を及ぼしたのかについて明らかにすることとする．そのため，三つの研究課題を立てたい．

一つ目の研究課題は，なぜ賀川が社会福祉に身を投じたのかについて，賀川の生涯を検討することである．その目的は，社会福祉分野での賀川についての先行研究の不十分さを指摘し，賀川の社会福祉実践・思想について詳細に検討することである．ここでは，賀川のライフイベントからみる社会福祉実践・思想の形成過程を論じていく．特に人生上の出来事の中で，賀川の主観的な経験，さらに賀川がどのように人々に関与したのかを検討していく．

二つ目の研究課題は，伝道活動から始まった賀川の活動が，スラム街のニーズに応じて様々な事業に拡大していくことにより生じた，社会福祉分野における賀川の実践と思想を分析することである．特に，賀川がどのような活動に力を入れたのかを時系列に沿って検討しつつ，社会福祉実践における賀川の活動をまとめていく．これは賀川の活動が一種の活動に留まらず，今日の社会福祉実践に影響を及ぼしたと考えているからである．また当時の中央・地方社会事業協会が発行した雑誌を用いて，賀川の社会福祉実践のベースになった社会福祉思想について分析していく．これは賀川が定義している「社会事業」の概念が今日の社会福祉にも示唆するものがあると考えるからである．

三つ目の研究課題は，先行研究ではあまりみられない賀川と韓国とのかかわりについて追究することである．そのため，まず賀川の訪韓経歴を辿っていく．特に，賀川の韓国の訪問及び活動を概観した上で，韓国にどのような影響を及ぼしたのかについて言及していく．そして，社会福祉実践と思想において賀川から影響を受けた二人に絞って論じていく．

最後にまとめとして，韓国における賀川への肯定的な評価や否定的な評価をまとめておきたい．そして，賀川の社会福祉実践・思想から示唆を得て，日韓キリスト教社会福祉の今後について提言していく．

本研究は，日本より海外の方が賀川の業績を高く評価[23]しているにもかかわらず，海外と賀川とのかかわりに関する研究があまりなされていないことから生じた疑問を起点とし，賀川と韓国との関係を研究するものである．賀川が行なった社会福祉実践や思想が韓国に及ぼした影響は何か，賀川の韓国での活動を探ることは意義があると考えられる．両国ともキリスト教社会福祉のあり方に示唆するものが何かを提示する重要なキーワードになるものと考えられる．そして，賀川と韓国との関係を研究することによって，今日における日韓関係について改めて考える一つの入口となれることを期待する．

第 4 節　研究方法

研究の方法は，文献に基づく歴史研究の実証的及び客観的な史料調査である．これは当時の資料を収集し，それを歴史的背景を考えて把握し，分析していくものである．

文献資料については，1 次資料と 2 次資料を用いていく．ここで扱う 1 次資料とは，『賀川豊彦初期史料集：1905‐1914』（1991，緑蔭書房）と 1962 年 9 月から 1964 年 10 月までに発行された『賀川豊彦全集』全 24 巻（キリスト新聞社）を含めて賀川が直接に書いた日記，書簡，論文のことを指す．その他に，賀川が主導して発行した『雲の柱』（1922．1‐1940．10），『神の国新聞』（1930．1．10‐1942．9．23），『火の柱』（1926．1‐1944．5；1945．6），『世界国家』（1947．1‐1955．4）などの雑誌や新聞を含める．また，賀川が投稿した論文も 1 次資料として扱うこととする．ただし，賀川が書いた著書や論文が膨大な量であるため，その中から特に本研究に必要であると判断した資料のみを検討していく．また，自叙伝である小説も含む．その理由は，たとえば『死線を越えて』の場合，事実に基づいた日記のような形式で

[23] 賀川は 5 回もノーベル賞の候補者であった（吉武 2013：7‐8）し，世界の図書館の蔵書で「賀川について書かれた書籍」でのランキングが付けられるほど，世間に知られていた人物である．ちなみに，ランキングは①『Songs from the land of dawn』②『Songs from the slums』③『Medi‐tations on the cross』④『A grain of wheat』⑤『Love, the law of life』⑥『Christ and Japan』⑦『The religion of Jesus』⑧『Brotherhood economics』⑨『Behold the Man』⑩『Meditations』であった（http://d.hatena.ne.jp/kagawa100，20130629 閲覧）．

書かれており，彼自身の魂の叫びや恥を書いているところが著者の思考を十分に反映していると考えているからである．2 次資料とは，賀川以外の者によって記述された，賀川に関する資料を指す．もちろん，その中には賀川へのインタビューの内容も含まれているが，これは，インタビュアーや編集者によって内容が異なって伝わることもあるため，2 次資料として扱うこととする．なお，当時の状況を語る新聞記事やメディア，そして 1983 年秋から賀川豊彦記念松沢資料館が発行している『雲の柱』についても，2 次資料として扱う．それゆえ，賀川から影響を受けた韓国人に関する資料も，彼らが書いた日記，書簡，論文は 1 次資料として，その他には 2 次資料として扱うこととする．

賀川の生涯は，1 次資料である賀川の著書と 2 次資料である人物伝に基づいて整理する．賀川自身の社会福祉思想については，当時の公の中央・地方社会事業協会が発行した『救済研究』，『社会事業』，『社会事業研究』という雑誌に投稿した賀川の論文を 1 次資料として扱って分析していく．先述したように，日本国内で，賀川と韓国との関連資料を探すには限界があるため，韓国での資料を加えて足りない部分を補完し，賀川が韓国を訪問した記録も追跡する．実際に賀川がいつからどのような目的で，韓国を訪ねて活動したのかを探ることは容易ではない．なぜなら，韓国における賀川の活動の資料が 1939 年のものしか残されていないからである．それゆえ，賀川の著書に基づいて，賀川の訪韓経歴を整理することにし，韓国の新聞に載せられた賀川に関する記事を調べて，当時の状況を把握していく．本研究は，主として文献によって歴史的・実証的に研究するため，両国における様々な資料を用いていく．

第 5 節　論文の構成と用語の定義

本論文は，序章，第Ⅰ部，第Ⅱ部，第Ⅲ部，終章という五つの部分から構成されている．以下，各部・章の概要を示す．

まず，序章では，本研究の目的，意義，方法を明示する．そのため，その前提となる研究の背景を含め，日本及び海外における先行研究や日本における海外と賀川とのかかわりに関する研究，韓国における賀川に関する先行研究を検討する．

第Ⅰ部「賀川豊彦のライフイベントからみる社会福祉実践・思想の形成過程」では，なぜ賀川が社会福祉に身を投じたのかについて，賀川の生涯を検討する．まず第 1 章

では，ライフイベント（人生上の出来事）を「発達的出来事」と「歴史的出来事」に分け，賀川のライフイベントが彼の社会福祉実践・思想の形成にどのように作用しているのかについて分析する．第 2 章では，重要な他者との出会いを「思想的出会い」と「実際的出会い」に分け，賀川と関わった人々が社会福祉実践・思想の形成にどのように影響を及ぼしたのかを中心に分析していく．

第Ⅱ部「賀川豊彦の社会福祉実践・思想」では，伝道活動から始まった賀川の活動がスラム街のニーズに応じた様々な事業に広がっていくことにより生じた，社会福祉分野における賀川の実践と思想を分析する．第 3 章では，賀川の様々な活動から，その社会福祉実践を検討する．ここでは，賀川の代表的な社会福祉実践である「救霊団」，「本所キリスト教産業青年会」，「農民福音学校」を中心に分析する．第 4 章では，文献から賀川の社会福祉思想を検討する．賀川が書いた自叙伝小説『死線を越えて』の他，当時の中央・地方社会事業協会が発行した『救済研究』『社会事業研究』『社会事業』，そして『農村社会事業』などの文献を通して，賀川がどのような思想をもっていたのかを検討していく．

第Ⅲ部「賀川豊彦と韓国」では，先行研究ではあまり研究されていない賀川と韓国とのかかわりについて追究する．賀川の訪韓経歴を実証的に辿ったうえで，韓国にどのような影響を及ぼしたのかについて論じる．第 5 章では，賀川の著書や韓国において当時のメディア（新聞，ラジオ，雑誌など）の資料を用いて賀川の訪韓の経歴を遡る．第 6 章では，賀川が韓国でどのように活動したのかをまとめる．そして，韓国における賀川関連の翻訳物及び作品を紹介する．第 7 章では，賀川から影響を受けた韓国人を取り上げ，その中で金徳俊と劉載奇を中心に賀川が韓国に及ぼした社会福祉実践と思想を分析する．

終章では，全体の総括を行い，韓国における賀川への肯定的な評価や否定的な評価を分析する．最後に，賀川の社会福祉実践・思想を踏まえて，キリスト教社会福祉への示唆を提示する．

本研究において使う用語について次のように定義する．まず，韓国の文献を引用した場合，著者の名前をフルネームにした．名字だけでは区別が難しいためである．

そして原文によって「韓国」と「朝鮮」という国名が混在しているため，「韓国」に国名を統一していく．朝鮮[24]という国名が 1393 年から使われてきたが，1897 年か

[24] 建国は 1392 年である．

ら国名が正式に「大韓帝国」に変更されたからである．そして 1910 年の日韓併合の際も，「日本帝国」と「大韓帝国」の名称が使用されていたうえ，1919 年 3 月の独立運動を期して中国の上海で結成された臨時政府の名も「大韓民国臨時政府」であった．ただし，乙巳条約（1905 年 11 月 17 日）を締結した際，日本が京城（現：ソウル）に設置した「韓国統監府」が 1910 年の日韓併合によって「朝鮮総督府」に名前を変更したため，「朝鮮」という国名が多く使われたのが事実であろう．そして，韓国の言論界を植民地統合に有利に働くようにするため，「新聞統一政策」を強行した．そして，「大韓」や「皇城」，「帝国」など，独立を象徴する言葉が使用できなくなり，そのような言葉を題号に使っていた新聞[25]が受難を逃れることができなかったこともその理由の一つであろう（鄭晋錫 2008：12）．また 1948 年から「朝鮮民主主義人民共和国」と「大韓民国」に分断されたため，さらに国名が混在している．ただし，賀川の活動時期は主に明治期から昭和初期であったため，当時の国名は「大韓帝国」または「大韓民国」が相応しい．したがって，この論文で扱う国名は「韓国」と設定したい．ただし文章を引用する場合には，参考資料の言葉をそのまま使用するようにする．

また，本研究では「慈善事業」「貧民救済事業」「感化救済事業」「社会事業」「厚生事業」「社会福祉」など，歴史的な変遷全般を総称して「社会福祉」という名に統一していく．もちろん明治期から昭和期にわたって活動した賀川にとって，すべてが関連した用語であろう．また，当時の雑誌名の変遷からも社会の状況が窺える．例えば，大阪社会事業協会から発行された雑誌名は，『救済研究』（1913．8‐1922．7）→『社会事業研究』（1922．8‐1942．12）→『厚生事業研究』（1943．1‐1944．1）に改名されている．また，中央社会事業協会によって発行された雑誌名も『慈善』（1909．7‐1917．4）→『社会と救済』（1917．10‐1921．3）→『社会事業』（1921．4‐1941．12）→『厚生問題』（1942．1‐1944．10/12）→『社会事業』（1946．6‐1960．12）になっている．厳密にいうと，「社会事業」という用語が公的に使われたのは，1920 年 6 月の第 5 回の全国社会事業大会頃である（永岡 2003：82‐83）．しかし，1920 年 1 月から大阪府の「救済課」が「社会課」に改称され，当年 4 月に大阪市「社会部」に昇格したことから，社会全般に「社会事業への動き」

[25] たとえば，『大韓毎日新報』は題号「大韓」という言葉を取り除き『毎日新報』に，『皇城新聞』は『漢城新聞』に，『大韓民報』は『民報』（後に朝鮮日報）に題号を変えた．

があったといえよう．ちなみに，政府も積極的な社会問題対策の調査機関として，社会情勢の変化に対応するために内務大臣が「救済事業調査会（1918．6.25）」を設置し，3 年後の 1921 年 1 月に改組されて「社会事業調査会」と改称され，各種社会事業への対応が見られている（坂本編 2010：44）．また，「社会福祉」という用語は，第 2 次世界大戦後から使われており（河合 1981：80），日本では憲法 25 条[26]に提起されて以来，国民一般の言葉になった（木原 1998：24）と言われている．つまり，用語は時代とともに変遷していくものである．賀川の場合，「貧民救済事業」「セツルメント事業」「社会事業」という用語を混用している．1920 年代には主に「社会事業」をという用語を使っており，「社会福祉」という用語は見当たらない．しかし，本研究では総体的に包括する意味で，「社会福祉」という用語に統一していく．ただし原文を引用する際は，用語をそのまま使用する．

賀川の韓国への具体的な訪問日程や活動の内容については，主に雑誌『雲の柱』に掲載された賀川の文章を集めた『身辺雑記』を中心に引用する．これは賀川自身の日記に当たるものである．ただ，引用するとき，年度及びタイトルを項目毎に明記すると煩雑になってしまうため，ここでは『賀川豊彦全集』第 24 巻を『全集 24』に統一して表記する．

なお，本論文には差別用語に属する言葉が出てくるが，引用文を含めて学術的見地からそのまま使用する．

---

[26] 「1 項　すべて国民は，健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する．
2 項　国は，すべての生活部面について，社会福祉，社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない．」

【参考・引用文献】

[日本語]

雨宮栄一（1991）「木崎農民福音学校と賀川豊彦」本所賀川記念館『賀川豊彦研究』第 21 号，1.

稲垣久和（2009）「公共哲学から見た賀川豊彦」『明治学院大学キリスト教研究所紀要』第　42 号，247 - 279.

稲垣久和（2010）『公共福祉という試み - 福祉国家から福祉社会へ』中央法規.

井上和子（1988）「賀川豊彦とセツルメント運動 - 大阪における働きを中心にして - 」賀川豊彦記念松沢資料館『雲の柱』7，128 - 146.

大里和子（1992）『賀川豊彦のセツルメント運動（Ⅰ）- 本所基督教産業青年会を中心として - 』本所賀川記念館『賀川豊彦研究』第 23 号，2 - 15.

大里和子（1993）『賀川豊彦のセツルメント運動（Ⅱ）- 本所基督教産業青年会を中心として - 』本所賀川記念館『賀川豊彦研究』第 24 号，2 - 22.

小澤　温（2005）「社会福祉基礎構造改革と賀川豊彦」賀川豊彦学会『賀川豊彦学会論叢』第 13 号，29 - 40.

戒能信生（2012）「賀川豊彦と関東大震災 - 日本のボランティア活動の原点について - 」本所賀川記念館『賀川豊彦研究』第 58 号，49 - 65.

賀川純基（1991a）「講演『賀川豊彦の原点』- 大邱大学賀川豊彦記念館会館式典 - 」賀川豊彦記念松沢資料館『雲の柱』10，23 - 26.

賀川純基（1991b）「初期の働きとその後の展開 - 賀川豊彦の諸事業 - 」賀川豊彦記念松沢資料館『雲の柱』10，27 - 36.

賀川豊彦（1920）『死線を越えて』『賀川豊彦全集』第 14 巻，キリスト新聞社，3 - 224.

賀川豊彦（1928）「社会事業と宗教運動」『社会事業研究』第 16 巻 5 月号，21 - 27.

賀川豊彦著 / 米沢和一郎・布川弘編（1991）『賀川豊彦初期史料集：1905 - 1914』緑蔭書房.

加藤博史（2000）「ソーシャルワークにおける“人格性”の意義 - 賀川豊彦の思想を中心に - 」龍谷学会『龍谷大学論集』第 455 号，39 - 55.

加藤博史（2008）『福祉哲学 - 人権・生活世界・非暴力の統合思想 - 』晃洋書房.

河合幸尾（1981）「第 2 章　日本における社会福祉の展開」一番ヶ瀬康子・高島進編『講座　社会福祉 2　社会福祉の歴史』有斐閣，79 - 134.

木村武応（1969）「社会事業家としての賀川豊彦」『龍谷大学論集』第 389・390 合併号，440‐463.

木原活信（1998）『ソーシャルワークの源流　J．アダムズの社会福祉実践思想の研究』川島書店.

金泰昌（2002）「はじめに‐今何故，日本における「公」と「私」なのか」佐々木毅・金泰昌編『公共哲学 3　日本における公と私』東京大学出版会，ⅰ‐ⅲ.

黒川徳男（1994）「昭和初期社会事業と賀川豊彦‐医療組合運動を中心に‐」『国学院雑誌』12 号，32‐45.

黒田四郎（1983）『私の賀川豊彦研究』キリスト新聞社.

倉橋克人（2011）「日本キリスト教史における賀川豊彦‐先行研究との対話を通して‐」賀川豊彦記念松沢資料館編『日本キリスト教史における賀川豊彦‐その思想と実践‐』新教出版社.

小南浩一（2010）『賀川豊彦研究序説』緑蔭書房.

武内勝口述・村山盛嗣編（1973）『賀川豊彦とそのボランティア‐新生田川地区に於ける賀川豊彦とその事業‐』武内勝口述刊行委員会.

坂本忠次編（2010）『津田白印と孤児救済事業』吉備人出版.

斎藤　宏（1983）「賀川精神を継承するもの」『賀川豊彦研究』第 2 号，1.

嶋田啓一郎（1971）「われらの先覚者と思想‐賀川豊彦の思想と社会事業‐」『福音と社会』日本基督教団出版局，237‐259.

杉山博昭（2003）『キリスト教福祉実践の史的展開』大学教育出版.

住谷悦治（1958）「キリスト教徒の社会改良思想と実践‐明治社会問題史の一側面‐」『同志社大學經濟學論叢』第 8 巻第 6 号，1‐33.

隅谷三喜男（1954）『日本社會とキリスト教』東京大学出版会.

鳥飼慶陽（2002）『賀川豊彦再発見‐宗教と部落問題‐』創信社.

朝鮮総督府（1923）『調査資料第 2 輯　朝鮮に於ける内地人』（＝2010，広瀬順晧編・解説『日本植民地下の朝鮮研究‐朝鮮に於ける内地人，近代朝鮮史研究』第 4 巻，クレス出版）

永岡正己（2003）「第 4 章　第一次世界大戦後の社会と社会事業の成立」菊池政治・清水教恵・田中和男・永岡正己・室田保夫編『日本社会福祉の歴史‐付・史料‐』ミネルヴァ書房，77‐98.

生江孝之（1931）「第 7 節隣保事業と基督教徒 - 賀川豊彦氏 - 」『日本基督教社会福祉史』教文館出版局，270 - 273.

服部　栄（1991a）「賀川豊彦における社会事業思想の形成（一）」本所賀川記念館『賀川豊彦研究』第 20 号，16 - 22.

服部　栄（1991b）「賀川豊彦における社会事業思想の形成（二）」本所賀川記念館『賀川豊彦研究』第 21 号，11 - 20.

濱田 陽（2009）「賀川豊彦の遺産と現代」『宗教研究』82（4），960 - 961.

濱田 陽・李珣淑（2009）「賀川豊彦の協同組合思想と日韓現代社会 - Brotherhood Economics の可能性 - 」賀川豊彦記念松沢資料館『雲の柱』23，62 - 76.

室田保夫（1994）『キリスト教社会福祉思想史の研究：「一国の良心」に生きた人々』不二出版.

明治学院大学基督教学生会編（1960）『Kagawa - 二十世紀の開拓者 - 』教文館.

山田　明（1988）「賀川豊彦における社会事業論の展開」賀川豊彦記念松沢資料館『雲の柱』7，3 - 24.

山田　明（1990）「『雲の柱』における賀川豊彦社会事業論の特質と意義」『賀川豊彦関係史料双書 1『雲の柱』解題・総目次・索引』緑蔭書房.

山脇直司（2004）『公共哲学とは何か』ちくま新書.

山脇直司（2005）『社会福祉思想の革新 - 福祉国家・セン・公共哲学 - 』かわさき市民アカデミー講座ブックレット No. 21.

吉田久一・岡田英己子（2000）「第 3 章　大正デモクラシーと社会事業思想」『社会福祉思想史入門』頸草書房，253 - 270.

横山春一（1951）『賀川豊彦伝』キリスト新聞社.

横山春一（1957）『賀川豊彦と社会運動に関する文献』出版社不明.

横山春一（1986）「賀川豊彦と農民福音学校」賀川豊彦記念松沢資料館『雲の柱』5，5 - 16.

吉田久一・岡田英己子（2000）『社会福祉思想史入門』勁草書房.

米沢和一郎（2006a）「Realistic Pacifist 賀川豊彦と中国」明治学院大学キリスト教研究所『紀要』第 38 号，73 - 101.

米沢和一郎（2006b）『賀川豊彦の海外資料 - 光と影の交錯を読み取るために - 』明治学院大学キリスト教研究所編集.

米沢和一郎（2007）『賀川豊彦の海外資料Ⅱ－その意図したものを読み解くために－』 明治学院大学キリスト教研究所.

李善惠（2009）「プロテスタントが社会福祉に及ぼした影響に関する研究－近代初期における日韓社会事業を通じて－」同志社大学大学院社会学研究科 2009 年度修士論文.

Karl－Heinz Schell（1994）Kagawa Toyohiko（1888－1960）－Sein Sozials und politisches Wirken（＝2009, K－H・シェル著・後藤哲夫訳『賀川豊彦－その社会的・政治的活動』教文館）.

Robert Schildgen（1988）Apostle of Love and Social Justice Centenary Books（＝2007, ロバート・シルジェン著・賀川豊彦記念松沢資料館監訳『賀川豊彦－愛と社会正義を追い求めた生涯－』新教出版社).

『聖書：新共同訳』（1995）日本聖書協会.

『毎日新聞』（2009. 9. 13）

『日本キリスト教歴史大事典』（1988）教文館.

（講演会）

小柳伸顕「賀川豊彦から何を学ぶか－賀川豊彦と部落差別－」（2011. 11. 26, 神戸賀川記念館）

（刊行物）

太田出版（2009）季刊『at』15 号.

財団法人本所賀川記念館『賀川豊彦研究』

賀川豊彦記念松沢資料館『雲の柱』

賀川豊彦学会『賀川豊彦論叢』

（ホームページ）

Think Kagawa（賀川豊彦献身 100 年記念事業実行委員会）http://d.hatena.ne.jp/kagawa100

[英語]

Mark R. Mullins (2007) Christianity as a Transnational Social Movement: Kagawa Toyohiko and the Friends of Jesus, Japanese Religions, Vol. 32 (1&2), 69 - 87.

(ホームページ)

African-American Religion:A Documentary History Project http://www3.amherst.edu

JSTOR 提供のコアな学術雑誌の全文データベース http://www.jstor.org

The American Theological Library Association http://web.ebscohost.com

[韓国語[27]]

金徳俊 (1979)「歐美社會事業哲學의 背景에 對한 試考 - 基督敎의 本質을 中心하여 - 」한국사회복지학회『한국사회복지학』제 1 권, 87 - 95 (＝金徳俊「欧米社会事業哲学の背景に対する試考 - 基督教の本質を中心に - 」韓国社会福祉学会『韓国社会福祉学』第 1 巻, 87 - 95).

金徳俊 (1983)「基督敎와社會事業의 接線 - 그 歷史的 背景과 韓國的 狀況에 關한 硏究 - 」강남사회복지학교출판부『논문집』제 10 집, 169 - 189 (＝金徳俊「基督教と社会事業の接線 - その歴史の背景と韓国の状況に関する研究 - 」江南社会福祉学校出版部『論文集』第 10 輯 , 169 - 189).

金徳俊編 (1985)『基督敎社會福祉 - 思想, 歷史, 運動 - 』韓國基督敎社會福祉學會 (＝金徳俊編『基督教社会福祉』韓国基督教社会福祉学会).

金丁煥 (1994)『金教臣 : 그 삶과 믿음과 소망』한국신학연구소 (＝金丁煥『金教臣 : その生き方と信仰と望み』韓国神学研究所).

[27] 韓国語の文献は日本語に翻訳されていなかったため, 題目を筆者なりに訳をしてつけた. 順番は韓国語式のアイウエオ順番である.

張時華編（1940）『賀川豊彦先生講演集』敬天愛人社.

정진석（2008）「일본인 발행신문의 효시 조선신보 - 조선신문」『제 1 권 朝鮮新報/朝鮮新聞』韓國敎會史文獻研究會（＝鄭晋錫「日本人発行新聞 の 嚆矢，朝鮮新報 - 朝鮮新聞」『第 1 巻 朝鮮新報/朝鮮新聞』韓国教会史文献研究会，9 - 13）.

『東亜日報』（1921. 8. 12）

（ホームページ）

賀川豊彦社会宣教シンポジウム中継（韓国）http://bluezine.tistory.com

韓国の国会図書館のデータベース　http://www.nanet.go.kr

韓国の学術・学会誌電子ジャーナルのデータベース　http://www.dbpia.co.kr

韓国の学術・学会誌電子ジャーナルのデータベース　http://kiss.kstudy.com

韓国の学術研究情報サービスのサイト　http://www.riss.kr

第Ⅰ部　賀川豊彦のライフイベントからみる社会福祉実践・思想の形成過程

賀川の活動の特性は大きく二つに分けられる．一つ目は，スラム街に入って貧民とともに生活し，貧民のために行った「貧民救済事業」や，アメリカから帰国した後，防貧対策に関心を向けた労働者，消費者と農民のための「組合運動」，そして関東大震災をきっかけに行った「セツルメント事業」などの，いわゆる社会運動である．二つ目は，1925年からの「百万人救霊運動」を始め，「神の国運動」，「新日本建設キリスト運動」などの宗教運動である．賀川は社会運動と宗教運動について次のように記している．

> 社会運動の究境は，宗教運動であつて，宗教が凡ての根本基調である．それに対比すれば，経済生活も，社会運動も一種の表象運動である．また同時に，宗教も，経済生活や，社会運動を宗教化し，それに宗教的価値を与へるのでなければ，真の宗教になつて居ないのである．そして，此事を，宗教運動即ち社会運動であることを，聖書は我々に教へるのである（賀川1922：83）．

つまり賀川は宗教に基づいた社会運動を実践することを求めたのである．第Ⅰ部は賀川がなぜ社会福祉にかかわる社会運動に身を投じたのかについて，彼のライフイベントを通して分析していく．ライフイベントとは「人生上の出来事」であり，その積み重ねが個人史を構成し，人間形成に大きな影響を及ぼすことである（片瀬 2003：i）．実は賀川に限らず，誰が対象であっても出生から死亡まであらゆるライフイベントを取り上げることは難しい．しかし，人生において主要な転機[28]（turning points）になったライフイベントを検討することで，賀川の社会福祉実践・思想の形成過程を探ることができると考えられる．そこで，第Ⅰ部では賀川のライフイベントが彼の社会福祉実践・思想の形成にどのように作用しているのか，そして関わった人々がどのように賀川の思想に影響を及ぼしたのかを中心に分析していく．なお，本

[28] 転機とは，「個人のライフコースを方向づけたり，その方向を転換させたりする，いわば分岐点となる出来事」を意味するものである（藤崎 1987：73）．

稿におけるライフイベントの概念はライフコース[29]研究，特に特定の個人が社会変動による影響をどれほど受けたか，実質的に寄与したかを問うことに基づいている（エルダー・ジール編 2003：38）．それゆえ，個人にとって重要なその他の経歴上の出来事，たとえば，学校卒業，就職など，また人生の特定の時点について予想出来ない苦難や病気など不時の思いがけない出来事も取り上げ，目配りすることが重要である（森岡 1987：3）．ここでは生涯に渡って社会福祉の道を歩んできた一人の人生の中でのライフイベントを中心として分析しているため，集団のライフイベントや変化率を用いて，ライフコースと社会変動の双方向性に照準をあわせる分析とは異なる点があることに留意してほしい．

第1章　ライフイベント（人生上の出来事）

青井（1987：385‐386）によるとライフイベントは，標準的出来事としての「発達的出来事（developmental events）」と非標準的出来事としての「歴史的出来事（historical events）」に分けられる．発達的出来事は，出生，入学，就職，結婚，子の出生，子の養育，本人の引退，配偶者の死，本人の死など，ノーマルな人生の出来事を指す．そして歴史的出来事は天災，戦争，不況，事故，大病などであり，発達的出来事の時期をずらしたり，順序を入れ替えたりして人生に影響を及ぼす出来事を指す（森岡・青井1987）．

それゆえ本章では，ライフイベント（人生上の出来事）を「発達的出来事」と「歴史的出来事」に分け，賀川のライフイベントが彼の社会福祉実践・思想の形成にどのように作用しているのかについて分析する．ここで筆者は，発達的出来事の中で，個人の主観的経験世界を含めたい．これは，賀川が徳島中学校に入学したことで，キリスト教に出会う機会を持つようになったと考え，発達的出来事に入れることにした．また，歴史的出来事については社会の全般的な状況を加味した上で，言及していきたい．

---

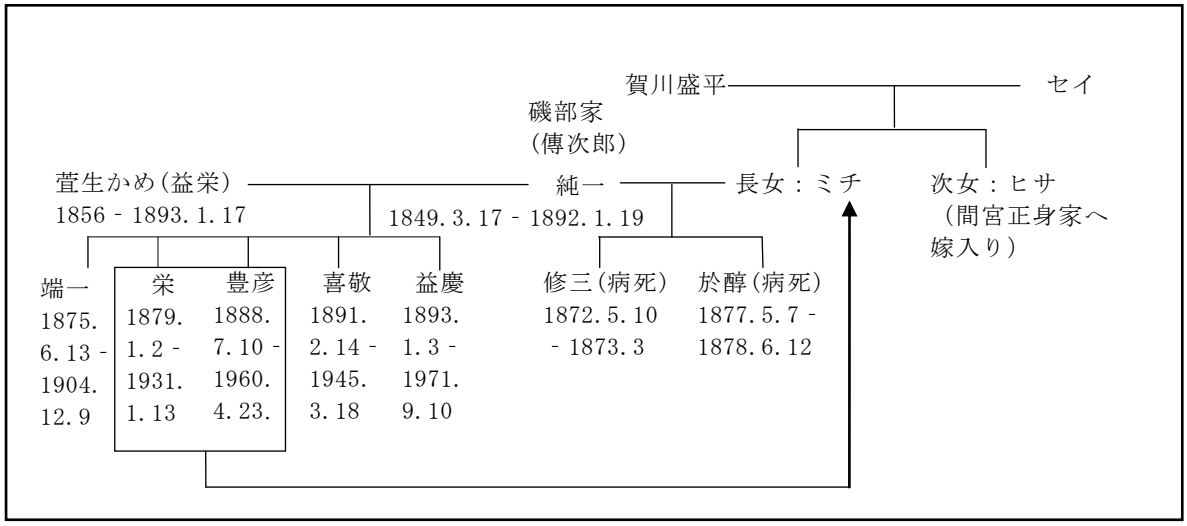
[29] ライフコースとは「歴史的・社会的状況に置かれた個人が地位・役割移行を伴いながらたどる人生の軌跡であり，ライフイベントが時機（タイミング）や移行時間，間隔，順序などについてどのようなパターンをもつかを示したもの」である（今津 2005：176）．これはアメリカのエルダー（Glen H. Elder Jr，1977：282）がライフコースの研究を「個人が年齢別の役割や出来事（events）を経つつ辿る人生経路（pathways）である」と定義したことによる（森岡 1996：1）．

第1節　発達的出来事

賀川の発達的出来事を出生，キリスト教との出会い，「主流派」の学校から「非主流派」の神学校に分けて論じていく．人によってはキリスト教との出会いはノーマルな出来事ではないが，賀川にとってキリスト教との出会いは，徳島中学校の入学とともに彼の主観的経験世界の中で，最も重要な出来事なので，ここに含めることにした．

1. 出生：妾の子どもというコンプレックス

賀川（1955a）は彼自身が複雑な家庭で生まれ，孤独で感受性が強い青少年時代を過ごしたと回顧している．1888年7月10日（戸籍では7月12日），父純一と母かめの次男として兵庫県神戸市で生まれた賀川[30]は，実は妾の家庭で生まれたのである．父純一が15歳のときに賀川家の婿養子になってミチと結婚したが，ミチが生来病弱で，性格的にも純一と相容れなかったことに加えて，二人の間の子どもがいずれも夭折したため，結婚生活がうまくいかなかった．そのような中，父純一は若き日に徳島内町の芸妓であったかめ（芸名は益栄）と共に生活し，その間に5人の子どもが生まれた．その一人が賀川である（図1－1）．



【図1－1】賀川の家系図　　出所：横山（1951）；林（2000）；雨宮（2003）より筆者作成

[30] 名前の由来は父純一の故郷，徳島の大麻比古神社の祭神豊受大神と猿田彦大神に因んでいる（賀川 1950：39，下線－筆者）．

しかし，生まれたときから賀川自身は妾の子どもであるという自覚はしていなかったはずである．4 歳の時に父を，5 歳で実母も失い，姉の栄とともに徳島県の賀川家に引き取られてから，賀川は逃れようのない事実を自覚するしかない環境に追い込まれたことだろう．特に人間の心は人間関係の中で育てられるが，賀川の場合，幼い頃，急に親を亡くし，一緒に住んでいた兄弟と別れ，賀川の本家という新しい環境に身を置かざるを得なかったことによって，彼の心の状態がどのような状況であったのかが推測できる．次の文章は，当時の賀川の心理的な状態が感じられるものである．

> お祖父さんが十九ヶ村の大庄屋であつたものだから，お祖母さんはたゞ私を亂暴な言葉で叱りつける癖があつた．それで私は，家庭では，愛といふものを殆ど知らずに成長した．私の義理の母は，表にさへ碌々でてこない人で，一日の中で，私に言葉をかけてくれることは殆ど稀であつた．私が満十歳頃になつてから，やうやく，養母は私に言葉らしい言葉をかけてくれた．養母からは私の生母に對して，呪ひと侮蔑の聲をよくきいた．その度毎に，私は蔭に入つて泣いた．そんなことのために，私は他所の家にいつて心持ちよく遊ぶ勇気がなくなってしまつたのだ（賀川1927a：85）．

エリクソン（Erik Homburger Erikson，1902．6．15‐1994．5．12）の心理社会的発達理論（メイヤ著・大西監訳 1976：70‐71）によると，幼児後期の子どもは元気があるため，失敗はすぐに忘れ，前向きで一生懸命に事を始めることができるものであると述べている．反面，幼児後期の子どもに失敗してもすぐ忘れたり，前向きで一生懸命にことを始めたりする経験がなかったり，活動に拘束されたりすると，罪悪感と不安の念を生じさせる．賀川の場合は，継母から生母に関する呪いや侮蔑の声を聞かされたり，祖母から乱暴な言葉を聞いたり，いわゆる幼児後期に不安を感じる日々の中で，愛を感じるどころか，自分のせいでもないのに叱られるたびに罪悪感さえも感じていたと考えられる．それに対する賀川の反応は次の通りである．

> 子供に罪はない．私生児に生れたからと云つて，何も悲観すべき必要はない．斯くいふ私は，父が戸籍謄本を偽造してゐなければ私生児の列に加へらるべき運命にあつたのである．私は戸籍面に於ては義母の正統なる子供になつてゐるけれ

ども，私は妾腹の子に生まれた．それで私は私生児に対して非常に同情を持つて居る．否持たざるを得ない（賀川1937a：371）．

意識的にせよ無意識的にせよ，賀川の心の中では，「私生児」や「妾腹の子」という傷が残り，世の私生児に対して同情するほど，コンプレックスをもっていたのである．また小学校でも妾の子とからかわれた（賀川 1950：31；横山 1951：11）ため，賀川は家にいても学校にいても好意を寄せることができる場所，居場所がどこにもなかったものと考えられる．思いがけない親の死によって賀川の人生が一気に変化したわけである．新しく継祖母と継母とも暮らし始めた賀川は，突然妾の子として扱われ，どこにいても愛されない存在として大変孤独感を感じていただろう．しかも唯一の肉親であった姉栄の存在も彼の支えとはならなかったようである．

私の姉も，殆ど私と同時に，神戸から田舎に歸つてきたが，ヒステリツクな私の姉は，少しも私を愛してくれないで，奥に入つて泣いてばかりゐて，とうとう數ヶ月の間に，病床についてしまつた．私は姉と一度も遊んだことはなく，一度も姉弟らしい言葉を交わしたことはなかつた（賀川1927a：85）．

継母も，継祖母も姉も仲が悪く，わたしはおさないながらに姉に同情していた．この姉はわたしの兄弟のなかで，もっとも不幸な一生を送った女であった（賀川1955a：93）．

9 歳の差もあった姉栄は，賀川に反して継祖母から田舎での過酷な労働を要求された（シルジェン 2007：27）ため，栄自身が弟の賀川を世話する心の余裕さえなかっただろう．息詰まるような雰囲気から逃れるために，賀川が選んだ方法は兄端一に頼んで，徳島中学校に行かせてもらうことであった．

また妾の息子ということ以外に，家族へのコンプレックスもあった．父純一や兄端一に関する賀川の感情は次の通りである．

お父様．私はお父様を愛して居るのです．然しお父様が株式や投機に手を出して，女遊びに身を窶すのが嫌ひです（賀川1920：81）．

繁太郎のお父さんは，大酒飲で，少しも，繁太郎をかまつてくれません．お母

さんは義理のなかで，繁太郎のほんとうのお母さんは，繁太郎が六つの時に死なれました．今のお母さんは，二人の連子があるので，繁太郎を少しも可愛がってくれませんでした．繁太郎は，二月の寒いときでも，印袢纏一枚で，長い着物はありませんでした．お父さんは，船から荷物を陸にあげる仲仕でした．けれど，儲けてきたお金はみんなお酒をのむのにつかつてしまいました（賀川1951：377）．

My Brother lived a licentious life. He kept many girls. He went from one to another, and died in Korea. Though my father had been secretary to the Privy Council of the Emperor of Japan, he also had lived licentious life. He looked pretty good outside but was not happy at home because he kept many wives. Therefore I found out that it is necessary to live a pure life Christ the example for life (Kagawa1931：1)．

上記のように賀川の家族への感情は肯定的ではなかった．つまり，「妾の子」というコンプレックスは，父親の生活様式と兄端一の放蕩な生活，そして姉が弟に対して無関心であることによって家族へのコンプレックスまで拡大していったものと考えられる．それゆえ，賀川自身が自ら純潔な生活を強く求めるに至ったのかもしれない．もちろん神への信仰によってすべてが克服され，一生節制された人生を歩んできたと言えるが，彼の文章から見られる家族への感情は，消えないコンプレックスとして残されていたことであろう．岸（1968：109）は賀川が述べた徳島に対する思いを次のように記している．

「私にとって徳島にはあまり楽しい思い出はない．それなのに名誉市民に推してくださったと聞き，これまで徳島へ行くものかと考えていたこと自体が恥ずかしく，今はただうれしさでいっぱいです．」

昭和三十三年二月六日，賀川は徳島県下をキリスト教伝道中，徳島市が彼を名誉市民に選ぶことになった報道を聞き，こう新聞記者に語っている．

上記から徳島での賀川の思いがそのまま伝わってくる．1893年から徳島に住み始め，1905年に明治学院に入学するまで，約12年間も徳島に住んでいたが，賀川は楽しい思

い出を持っていないことが窺える．おそらく幼いときの経験が，見えない心の傷として残っていたと考えられる．しかし，その経験によって傷ついた人を理解し，助けたいという思いが芽生えたと考えられる．そして次に述べるキリスト教との出会いによって賀川の生そのものが，信仰への献身としての社会福祉実践へと導かれたと考えられる．

2. キリスト教との出会い

賀川自身が妾の息子であることと，13 歳のとき，肺結核の診断を受けたことは，賀川に人生または存在の真の意味を十分考えさせたことであろう．そしてその人生または存在の意味の答えを見つけることになったきっかけはキリスト教との出会いであった．

賀川家の祖母と継母，そして姉栄との関係が全く良好ではなかった賀川は，兄端一に頼んで実齢より一年早く徳島中学校に入学し，寄宿舎に入るようになった．しかし寄宿舎の生活もあまり順調ではなかったため，2 年の際，寄宿舎から英語教師の片山正吉が主宰した片山塾に移った．当時の寄宿舎の状況と片山への思い出を次のように記している．

> 一人ゐることになれてるたから，寄宿舎にも，一人で入つたが寄宿舎の空氣が厭だつた．堕落したその空気，私はほんとに驚いてしまつた．それで，一年だけそこで辛抱して，二年目からそこをでた．下宿をした家は，中學校の英語の先生の家だつた．そこへ，從兄の新居格[31]や，その弟の新居厚などゝ一緒に預けられた．そこは，私には初めての，家庭らしい家庭の印象を與へてくれた．私は片山先生がすきであつた．片山先生につれられて散歩にゆくのが，此上なくすきだつた（賀川1927a：90）．

賀川の本家であったとしても，新しく「構成」された家族であったため，一人で暮しているかのような感覚であり，一人でいることに慣れていたという表現からも賀川の孤独さが感じられる．しかし徳島中学校に入った賀川は，思ったより寄宿舎の環境

[31] 後に社会評論家，元東京杉並区長となっている（賀川 1955ｂ：80）．

がよくなかったと感じたようである．「空気が厭だった」「堕落したその空気」と表現された部分について具体的な内容は見当たらないが，寄宿舎の生活が原因で賀川が新しい環境に移ったのは確かであろう．

そして片山塾での新しい生活は，従兄弟もいたし，初めて家庭らしい雰囲気を味わっていたため，おそらく今まで愛のない家庭で育てられた賀川には，まさに別の世界であっただろう．賀川は初めて教会に行った経験を次のように述べている．

> その時まだ十六歳でしたが，片山先生がクリスチャンであった関係上，教会に一度つれて行かれ何のことかさっぱりわからず，つまらない所だと思いました（賀川1955b：80）．

このように賀川は，片山によって初めて教会に行ってみたものの，何をするところかは全く知らなかったのである．横山（1951：15）によると，片山はキリスト教徒であったが，熱心でなかったので，賀川は何の感化も受けなかったと指摘している．この点について， 深田（1984：131）は，「賀川はキリスト者であった片山には特筆すべき感化を受けなかったようだが，少なくとも片山塾にいたことにより，英語への興味もあって教会と接触するようになった」と記している．つまり，賀川にとって片山の位置づけは，初めて出会ったキリスト教徒であり，賀川を教会に導いた人物である．賀川は片山によって，家庭的な雰囲気を味わうことだけでなく，英語の教育を受ける機会も持つことになった．その中で賀川は英語の魅力を感じ，後にその英語を活かすため教会と接するに至った．これは片山の功績として認められるべきであろう．

近代日本において西洋文化受容の一環として入ってきたプロテスタントは，来日した宣教師達によって広められていった．しかし，宣教活動が制限されていたため，宣教師達が選んだ方法は私塾や教会を中心として主に英語や洋学の教育者として生きる道であった（李善惠 2009：35）．その頃，ローガンも日本基督教会の徳島通町教会[32]で，週一回キリスト伝を英語で講義していた．友人からすすめられた賀川は，英語の勉強のため，教会の門をくぐることになった．しかし賀川（1950：33）は，ローガンから『イエス伝』までもらったにもかかわらず，キリスト教に反発していたため，教

[32] 1899 年 10 月 2 日，日本基督教会所属の「徳島伝道教会」として，八百屋町にて発足した教会で，1900 年 4 月 12 日に徳島市通町 2 丁目 24 に土地，建物を購入して移った（徳島教会 1989：6）．

会への出席は僅か 2，3 回のみですぐに辞めたと記している．その後，ローガンが毎週火曜日の夜，「創世記」の講義を始めた際には，再び参加するようになり，今回はローガンの人柄に惹かれて初めてキリスト教に興味をもつことになったのである．マイヤースも同じく自宅で，聖書の講義を始め，賀川はこちらの方にも参加していた．1902 年のことである．今まで感じたことのなかった家庭の雰囲気を，片山をはじめ，ローガンとマイヤースから十分味わったのである．

その中，1903年，賀川に再び不幸が訪れた．実家から破産を知らされた賀川は泣きながらマイヤースの自宅を訪ねた．その際，賀川の心に響いたマイヤースの言葉は次の通りである．

> さあ，泣くのをやめて，涙を乾かしてごらん．泣いてゐる目には，太陽も泣いてみえ，ほほゑむ目には太陽も笑つてみえる（横山1951：18）．

このように賀川はマイヤースから愛を受け，さらにその愛の源が改めてキリスト教であると認識し，宗教への興味をもつようになったのである．賀川家が破産したため，賀川は学費が工面できなくなり，授業料や下宿料も支払うことができなくなったため，やむを得ず片山の塾から離れ，叔父森六兵衛[33]の家に移ることとなった．1903年4月11日のことである．しかし森は英語を勉強することは良いが，キリスト教徒となることは反対していた[34]．そのため，洗礼を受けることができなかった賀川にマイヤースは「トヨヒコ，祈っていながら洗礼を受けるぬのは卑怯だぞ」（黒田1983：135）と忠告した．つまり，家柄を選ぶべきか，それとも信仰を選ぶべきかという岐路に立たされたのである．そして賀川が選んだのは信仰であり，1904年2月21日に徳島通町教会で，マイヤースから洗礼を受けたのである．当時の心境を次のように記している．

> 私の胸は躍つた．私は宣教師とその夫人の生活を通じてイエスを見た．そして

---

[33] 森家の七代の森六兵衛十竹（？‐1928．3）を指す（森六商事社史編集室 1967：155）．おそらく森六兵衛へ養子となった磯部柳五郎の四男愿五郎（ゲンゴロウ）であると考えられる．すなわち，賀川の父である純一（三男傳次郎：本名）の弟である（林 2000：13）．

[34] 「英語を習うためにバイブルクラスに行くのは良いが,ヤソ教になったら家から追い出すぞ（黒田 1983：134‐135）．」森六商事社史編集室（1967：155）によると，賀川が洗礼を受けた事実は六兵衛十竹の容認はできなかったが，寛大な愛で孤児の身分を包み，よく面倒を見ていたと記している．

イエスが歩んだ道の正しさがよくわかつて來た（賀川1950：2）．

このときから賀川自身（1950：39）は「もう寂しくもなく，不安でもなかった」と述べ，「自分は神の子になった」と告白している．自らの人生が早くから悲しみの子で暗かったと述べた賀川（1921a：135；1950：31）が，「私は，不思議な運命の子として，神聖な世界へ目醒めることを許された」（賀川1920：3）と，考えが変わっていたのである．このように賀川にとってキリスト教は，孤独と絶望から解放された原点であった．賀川は，マイヤースから英語の聖書を読むことを勧められ，それを実行する際，目に見えない力を感じることになった．その状況について次のように記している．

「お前は純潔を求めるか？それとも，不良少年になる気か？もしお前が，汚れた心を拭ひ潔めて純潔な生涯に入りたいと思ふなら，野に咲く百合の花の気持ちになつて，人生を見直せ」という聲であつた．この時から，私は眼に見えない不思議な力に捉へられてしまつた．「宇宙にもし神がないなら，ああいふ美しい百合の花は咲かないだろう．私は神によつて，心の中にあの花を咲かせてもらはう．」と思つた．そして，ダーウィン流の進化論を棄てて，宇宙にただ一つしかない實存の神をかたく信じようと決心した（賀川1950：34‐35）．

いわゆる聖書の言葉から神の声が聞こえるような，神から直接呼びかけられているような体験を通して，賀川の信仰はより強固なものとなっていったのであろう．神に関する賀川の考えがよく表されたのが，次の文章である．

私のやうなみなし兒が葺芽（しふばう）のほとりで育つたのも，
まつたく神の乳房のおかげた．
娼婦の子として生れ，
塵芥箱（ごみばこ）の側で育つた私が
辛うじてひとり歩きの出来るやうになつたのも，
まつたく神の乳房のおかげた（賀川 1950：52，ルビママ）．

つまり，賀川にとって神は，母のような存在であり，妾の子というコンプレックスを「神の子」という信仰へと転化させた存在である．彼が一生牧師としてその役割を果たしたことは，このような体験があったからであろう．

3.「主流派」の学校から「非主流派」の学校へ

賀川が明治学院高等部神学部予科に入ったのは1905年のことである．これは法科大学校に入って家門の誉れになることを望んでいた叔父の期待に反したことであった（賀川1950：40）．なぜなら，父純一の回漕業を引き継いだ兄端一が事業に失敗し，徳島の賀川家の財産まで失った1903年に叔父が賀川を彼の家に引き取り，援助しながら賀川が家を再建することを望んでいたからである．

しかし，叔父の反対を押し切って洗礼を受け，期待に反して神学部に入学したため，叔父は賀川に学費を出すことを拒否することになる（賀川1920：27‐28）．1905年3月20日，賀川は森家から出て，マイヤースの家に移ることになり，4月に明治学院の寄宿舎，ヘボン館に身を寄せた．

このような状況にもかかわらず賀川が神学を学ぼうとした理由は何であろう．賀川の人生に最も影響を及ぼした人物はC. A. ローガン（Charles A. Logan, 1874. 11. 14‐？）宣教師とH. W. マイヤース（Harry W. Myers, 1874. 5.10‐1945. 8. 5[35]）宣教師が挙げられる．賀川にとって聖書の勉強会は，英語への興味から「ローガン先生のやうになりたい（横山1951：16）」と思われるほど，大きな影響を及ぼした集まりであった．後に賀川は，ローガンとともに同じ道を歩もうとして神学を学ぶ決心に至ったのである．この点については第2章で具体的に述べていく．賀川はこの二人の宣教師を通してキリスト教に出会い，伝道者としての使命を感じたのである（賀川1950：40；横山1951：23；黒田1983：135）．それでは，なぜ賀川は明治学院を選んだのか．賀川が入学する1900年代，神学部が設置された代表的なプロテスタントの大学は次の【表1‐1】の通りである．ちなみに，この表はあくまで教育事業の一環として開設された私塾や学校の設立順で，正式な学校設立の認可順ではない．

---

[35] 「日米が戦うに至った昭和十六年十二月，堺刑務所に投ぜられ，あらゆる苦難に耐えねばならなかった．しかし，翌年六月出所し，四十五年間奉仕した日本を脱出して，米国に帰った．その後，ニューヨークを中心に伝道を試みたが，刑務所で受けた傷手から遂に昭和二十年八月五日ニューヨークで召天された．」（黒田 1971：90）

【表1 - 1】プロテスタント大学（神学部を中心に）

年度	大学名	所在	備考
1863	明治学院大学	東京都	米国長老派教会のJ．C．ヘボン夫妻により開設 ヘボン塾（1863）⇒ 東京一致神学校，東京一致英和学校及び英和予備校を合併して，「明治学院」と改称（1886）．神学部，普通学部，専門学部設置⇒明治学院大学（1949） ※1930年，神学部は日本神学校の設立にともなって本学院から分離
1873	東京神学大学	東京都 三鷹市	ブラウン塾（1873） 1930年に明治学院神学部，東京神学社と東北学院神学部が合併して日本神学校が設立したが，戦後，東京神学大学へ改編
1874	青山学院大学	東京都	米国メソジスト監督教会のドーラ．Ｅ．スクーンメーカーにより「女子小学校」が開設 ジュリアス・ソーパー博士によって開校された「耕教学舎」（1878），ロバート・S・マクレイ博士によって開校された「美會神学校」（1879）を合併して，「青山学院」と改称（神学部，普通部(高等普通学部・英語師範科・予備学部)を置く，1894） ※1977年，大学文学部神学科廃止
1874	立教大学	東京都	聖公会のウィリアムズにより開設 ウィリアムズ塾（1874）⇒立教学校（1890）⇒立教大学として発足（1907）⇒文学部（英文学科，哲学科，宗教学科：1922）
1875	同志社大学	京都府 京都市	アメリカン・ボード（会衆派）のジェローム・ディーン・デイヴィスと新島襄，そして京都府庁の山本覚馬により開設 同志社英学校（1875）⇒同志社学院（予備学部，普通学部，神学部設置：1888）
1878	東京一致神学校	東京都	米国長老教会，オランダ改革教会，スコットランド一致長老教会により開設⇒明治学院と合併（1886）
1881	東京基督神学校	千葉県 印西市	全国婦人一致伝道協会のL．H．ピアソンにより開設 偕成伝道女学校（1881，横浜）⇒共立女子神学校（1907，横浜）⇒ 日本基督教女子神学専門学校に合併（1940）⇒ 東京基督神学校（1949）⇒日本基督神学校（1951）⇒東京基督神学校（1981）
1881	鎮西学院大学	長崎県 長崎市	メソジスト宣教師のC.S.ロングにより設立. カブリー英和学校（加伯利英和学校，1881）⇒私立鎮西学院と改称（1906）⇒長崎ウエスレヤン短期大学と改称（1980） ※神学部の閉止（1908年頃？）
1884	桃山学院大学	大阪府の 和泉市	英国聖公会宣教協会（CMS）のワレン師により「三一小学校」と「三一神学校」を開設，後に「桃山学院」と改称（1895）
1886	東北学院大学	宮城県 仙台市	アメリカ人ドイツ改革派教会のウィリアム・エドウィン・ホーイと 日本最初のプロテスタント教会である日本基督公会の設立に関わった押川方義により開設 私塾「仙台神学校」⇒「東北学院」と改称（1891） ※1930年，神学部は日本神学校の設立にともなって本学院から分離

1889	関西学院大学	兵庫県神戸市	アメリカ・南メソジスト監督教会のW. R. ランバスにより開設 神学部と普通学部設置
1898	三育学院大学	千葉県	セブンスデー・アドベンチスト教会のウィリアム・C・グレンジャーにより開設 「芝和英聖書学校」⇒「三育学院」（1926）⇒三育学院神学校（1948）⇒三育学院カレッジ（1951）
1904	東京神学社	東京都	植村正久により開設 ※1930年，神学部は日本神学校（1930 - 1949）の設立にともなって本学院から分離
1905	大阪キリスト教短期大学	大阪府大阪市	河邊貞吉により「大阪伝道学館」が開設 自由メソジスト神学校（1922）⇒「大阪基督教学院」と改称（1950）⇒宗教法人「大阪基督教学院」設立，「大阪基督教短期大学」（1952） ※2010年に神学科廃止
1906	西南学院大学	福岡県福岡市	C. K. ドージャーらにより福岡バプテスト神学校を開設⇒私立西南学院（1916）⇒中学西南学院（1918）
1907	神戸神学校	兵庫県神戸市	南長老ミッションにより開設 大阪神学院と合併して「中央神学校」と改称（1927）⇒神戸改革派神学校（1947）
1909	ルーテル神学校	東京都	熊本市に路帖神学校開校⇒ルーテル神学専門学校（東京，1925）⇒日本基督教団・東部神学校（1943）⇒ルーテル神学校（1950）

出所：各学校のホームページを元に私塾や学校の設立順で筆者作成（下線 - 筆者）

賀川が明治学院に入学した理由は，ローガンとマイヤースがアメリカ南長老派教会から派遣されたため，おそらく長老派の学校を勧められたからであろう．賀川が神学校への進学を考えていた当時，長老派の学校は明治学院のみであった．当時の明治学院は日本プロテスタントの主流をなしてきた日本基督教会に属した堅実な神学校であった（黒田1983：135）．しかし，明治学院での初期の生活は「白金の第一年は，私には寂しい寂しい一年であつた（賀川1927b：333）」と告白するほど，人間関係があまり構築されなかったそうである．この点について横山（1951）は，賀川の寄宿したヘボン館では中学部と高等学部の学生たちと一緒に生活しており，その中では鶏の窃盗が得意な者，短刀を隠し持っていた者などがいて，賀川が度々脅えていたと書いている．その代わりに，賀川が最も気にいった場所は図書館であった．この点について賀川は次のように述べている．

私は餘り學校の授業にも出ないで，ライブラリーから哲学の書物を借りて來一生懸命に讀み續けた．その當時，今神戸大丸の支店長をして居られる富尾氏がラ

イブラリアンであつたものだから自由に書棚の間に入れて貰つて，カントやヘーゲルの英譯を一生懸命に讀んだ．その中でも今猶忘れられないのは，十八の春讀んだバウンの「メタフィヂツクス」であった．私はあの書物ほど私に感化を與へて呉れた物を知らない（賀川1927b：335）．

当時の明治学院の図書館は，豊富な資料が揃っていたため，賀川にとって居場所のような役割を果たしていたと考えられる．

1907年3月，マイヤース宣教師が神戸神学校に就任したことで，賀川も学校を移ることとなった．しかし，神戸神学校での生活には馴染むことができなかった．その理由として，結核の再発により生きるか死ぬかの大変な時期を過ごしたことと，神戸神学校は明治学院より図書館の資料が少なかったことが挙げられる．また，賀川自身が神戸神学校の出身であることを公にしなかったことは不思議である．これに関しては後輩たちが，賀川が神戸神学校の出身であったことを知らなかったという回顧[36]から，賀川自身が神戸神学校との関わりを公にしなかったこともものと推測される．後に黒田（1983：139）は「神戸神学校における失望」と表現しているように，何度も繰り返した入院生活とともに新しく入学した神戸神学校の雰囲気がどうしても合わなかったのであろう．賀川は第1期に入学したが，病気による休学で卒業が遅れ，1911年に第3期の卒業生となった（中央神学校史編集委員会1971：201）．

神戸神学校卒というのは，何を意味しているのか．この点について倉橋は，大内三郎の講演[37]の内容を借りて当時の日本基督教会（以下，「日基」と略す）における位置を次のようにまとめている．

日本キリスト教会の主流は，井深梶之助（1854．6．10‐1940．6．24）[38]の明治学院神学部や植村正久（1858．1．15‐1925．1．8）[39]が主宰する東京神学社出

[36] 「三回生には前述の富田諒吉先生，賀川豊彦先生がある．後者については余りにも有名であるが，彼が本校の出身者であることは余り知られていない．」（黒田 1971：96）

[37] 1968 年 4 月に行った講演で，タイトルは「賀川豊彦‐日本キリスト教史における特徴と意義‐」である．

[38] 1873 年 1 月 5 日，19 歳の時ブラウン宣教師から受洗し，ブラウン塾にて神学を学んだ．東京一致神学校の第一期生になり，植村正久，三浦徹，瀬川浅らと共に学び，後に明治学院の第 2 代目総理に就任した人物である．

[39] 立身出世を目指して英学を学び，サミュエル・ロビンス・ブラウン宣教師，ジェームス・バラ宣教師に師事した．16 歳のときにバラ宣教師により洗礼を受け，日本基督公会の教会員となった．

身の人たちで形成されており，これに対して，賀川は，傍流の神戸神学校の出身であった（倉橋2011：284，（）－筆者）．

大内は賀川を「傍流の神戸神学校の出身であった」と位置づけている．この点について倉橋は，実際賀川がどのような出来事に遭遇したのかについて正確に示されていなかったため，あまり説得力がないと指摘している．しかし，当時の日本キリスト教会の雰囲気が十分感じられる．植村の伝道活動の主たる対象が中流層[40]であったのに比べて，賀川はスラム街の貧民，労働者，農民などの下層民衆であったため，「非主流派」そのものであった．残念ながら，賀川は下層民衆とともに長く生活したにもかかわらず，部落差別問題を巡って大きな批判を受けることとなる．もちろんこの点については時代の制約を考えて理解するべきであるが，当時の日本キリスト教会からの賀川への評価は確かに批判的で，「非主流派」として位置づけられたのは違いない．

歴史を考察するにあたり，「もしも」という言葉を使うことは不適切であると認識した上で述べるが，もし賀川が明治学院の卒業生になっていたとしたら，賀川の人生はどのように変わっていただろうか．もちろん明治学院の寄宿舎での賀川の思い出は，肯定的側面のみではなかった．先輩に刀で何回も刺されたり，鶏の窃盗事件が何回も起こったり，キリスト教精神に建てられた学校とは全く感じられない生活であったため，よいものではなかった．とはいえ，確かに賀川にとって明治学院ではなく神戸神学校で学んだことによって，確かに賀川は「主流派」から「非主流派」になった．しかし，たとえ賀川が「非主流派」であったとしても，東京から神戸に学校を変更した事実がなければ，今日の賀川は誕生しなかったかもしれない．なぜなら，残りの人生を神に献げるため，神戸新川のスラム街に住み込んだことが，貧民生活の現実に目を向け，彼らのニーズに応じて実際に社会福祉実践を行う一歩を踏み出したきっかけになったからである．

東京一致神学校卒業後に明治学院で神学を教えたりしながら牧会伝道に務めた．明治学院内の神学論争で，明治学院から離れ，1904 年に東京神学社を設立した．

[40] 中流層とは，中等社会の会社員，学生，知識人，役人や，地方社会でも身分の良い人々といった階層を指している（倉橋 2011：284）．

第2節　歴史的出来事

賀川は13歳の際に肺結核が発病してから，2回も死の宣告を受けるほど，大病で苦しんでいた．その理由で，残りの人生をどのように過ごすのかについて誰よりも関心が高かっただろう．大正期に入ってからの日本社会は，最も社会変動が大きな時期であった．たとえば，政治的には第1次世界大戦に参戦して，戦勝国の一員となり，ドイツを始め，オーストリア，ハンガリー，オスマントルコの帝政が崩壊したことで，大きなデモクラシーの波が強く入ってきた．経済的には第1次世界大戦勃発直後，空前の好景気となり，大きく経済を発展させたが，1918年に戦争が終結すると過剰な設備投資や在庫の滞留が原因となって反動不況が発生し，景気が悪化した．問題はその影響がスラム街や農村に及ぼされたことにある．好景気の際には，農村から都市部へ人口が移動し，工業労働者の増加をもたらしたが，不景気に転じると，仕事がなくなった人々が集まり，スラム街の形成まで至った．特に農村では大戦の影響によって米の輸入量が減少し，米価暴騰の原因となった．これがいわゆる米騒動の原因となる．こうして1918年7月下旬から9月にかけて，富山県魚津町の暴動を発端として参加者100万人を超える全国規模の民衆暴動が起きてしまったのである．それに1923年の関東大震災が重なり景気回復に転じることはおろか，さらに1927年の昭和初期の金融恐慌，1929年の世界恐慌を迎えることになった．このように産業の振興を優先した結果，国民の生活は不安定となり生活困窮者が増加し，多くの都市労働者は劣悪な労働環境の下，厳しい生活を強いられるようになったのである．

本節では，この社会的状況を踏まえて，「病弱な身体」，「スラム街での生活」，「関東大震災」を中心に論じていく．

1. 病弱な身体

賀川の本家から離れ，明治学院の寄宿舎に入り，心理的に不安定な状況から解放され安定期に入った頃，賀川は身体の痛みに襲われた．賀川は自らの病歴を次のように紹介している．

肺は悪いし，心臓も悪い．腎臓炎ではもう二十五年苦しんでゐる．眼は左右と

も四十四日の間失明してゐたことがあつて，今でも周期的にパンヌスが烈しくなる．さういふ場合には，両手を眼の前にかざしても，指が何本あるか見分けがつかない．

鼻は十九歳の時に手術したが，一度だけですまず，二十一歳の時，今度は蓄膿症で死ぬ目に逢ふやうな大手術をした．結核性痔瘻の手術をしたのもこの年である．歯は歯槽膿漏で三分の二は駄目になつた．耳は，丹後の大震災のとき，救援に行つて中耳炎になり，その時は治つたが，たびたび再発してよく寝込む．

左の腕は，中学校二年生の時に折れ，そのため今も四貫目以上のものは持てない．

忘れもしないが，一九二五年九月九日，私が乗りこんでゐた，サイドカーづきのオートバイが，いま私の住んでゐる家から少し離れた宮の坂の踏切で電車と衝突して，私はレールの上にはねとばされ，腰骨から二枚目上の脊椎を破損した．しかし不思議に神経を巻いたまま治つてしまつた．ただ，そのために少し脊柱が曲り，冬になると，懐爐を入れなければならないほど寒さがしみる．

肺が悪くなつたのは，左の腕を折つた，中学校二年生の時からである．その時，醫者は私にかう言つた．

「肺尖が悪いから，學校なんかやめなさい．學問が一番毒です．」

私は悲しくなつた．そして，當時はまだキリスト教に入つてゐなかつたために，ずゐぶん思ひ悩んだが，勝ち気な私はたうとうそれを押し切つた（賀川 1950：69 - 70）．

このように賀川は，13 歳の際に肺結核の宣告を受けてから，何回も死に至る直前まで病気で苦労していた．神戸神学校に転校する前，1908 年には愛知県の岡崎教会の伝道を手伝い，同年の 7 月中旬から豊橋教会[41]を応援することになった．毎晩のように路傍伝道を続けたため，肺の血管が破れ，血が出るようになり，高熱が十数日も続いた．その結果，医師から死の宣告を受け，死の淵まで陥ったが，結局，熱は下がり，回復した．4 ヶ月以上の病院生活で，金銭的にも困窮していたため，賀川は 1909 年 1 月 24 日に再び三河の蒲郡に行くことになった（横山 1951：39 - 42）．

[41] 当時の牧師は長尾巻（1852．8．5 - 1934．3．23）で，豊橋教会で 1907 年から 1912 年まで主任牧師として務めていた．

その賀川が 1909 年 9 月，神戸に戻ってきた．しかし今度は蓄膿症が悪化し，結核性であったため，10 月に兵庫県立病院に入院し手術を受けることになった．問題は手術後に 1800 グラムほどの出血があり，賀川は葬式を用意されなければならないほど深刻な状態に陥った．しかし，不思議なことに病状は回復し，一ヶ月後には退院できたが，病気との戦いはこれで終わらなかった．肺が回復すると蓄膿症に，蓄膿症が治ると結核性の痔瘻で手術を受けることになったからである．当時の賀川の心情が，次の日記（賀川 1950：76‐77）に表現されている．1909 年のことである．

一月十八日（月）

ドイツ語の稽古から歸ると疲れて寢た．起きてまたドイツ語だ．夕の祈禱會で泣いた，泣いた．

一月二十二日（金）

ドイツ語の稽古に行つて，歸つて，プルタークを讀んだ．面白い．自殺の夢！

一月二十三日（土）

西洋醫者ダニスコムはやはり全快でないと言つた．自殺したい．自殺！

一月二十五日（月）

忍耐して教場に出た．

一月二十九日（金）

小説（『死線を越えて』）の第七章を半日かかつて訂正した．

四月十一日（日）

哀史だ，哀史だ．發狂か，自殺か？

あゝ，あくまで壓迫された此の子．泣く，泣く，此の弱き身體を保たんがために．

四月十三日（火）

丁度一箇月寢た，病氣で．一箇月経濟で苦しんだ．今日泣いて，終日寢た．病院へも行かない．

四月十四日（水）

今日も泣いた．飯島君（級友）が二圓貸してくれた．神の攝理だ，愛だ．あゝ，ヨブの忍耐！逆境の恩寵（おんちょう）！

五月三十日（日）

僕は全く絶望だ，絶望だ．人生の價値を全く疑つてしまつた．（傍点 - 筆者，ルビママ）

このように賀川は，身体の病気に関する悩みによって自殺まで考えるほど，深刻な精神的な疲労を感じていたのであろう．病気で死ぬか生きるかの人生の別れ道の中で，実存の価値について誰よりも悩んでいたはずである．その気持ちが「無の哲学」[42]（賀川 1909：368 - 369）でも次のように表現されている．

アゝ現在は果して価値あるか？空中飛行機を作るのが，果して現在の価値であらうか？此価値の無い世界を，果して神が造つたのであらうか？我等の生存は，神の行為だらうか？人間の肉的行為の結果であらうか？

私は私にさへ価値の精神があれば，世界は墓の様でも，生きてゐると云ふたが，生きてゐる価値は実際あるであらうか？こんな価値の無い生活は，果して神の恩寵による生活であらうか？こんな生活なら，私は亡ぼして頂く方が善い．

（中略）

人間は何故生存するであらうか？アゝ唯，解決は之だ……死だ……死，死，死……．

霊魂が断滅するかせぬかは，問題ではない．兎に角，人間の一大事業は，「死」だ．人間は凡て価値ない者だ．最も価値ある者は死だ．死に比較するなら，生存は比較的価値はない．

（中略）

こんな無価値な人生は神様でなければ造りはせぬ．神様は此処が豪いのだ．神様はこんな無価値な人生の中にも住んでゐらつしやる．神様は全智全能でゐらつしやるのに，よくまあこんな無価値の世界に住めることだ．神様は無価値でも生きてゐらつしやる．

神様は自殺なさる事がないのであらうか？神様も奮闘してゐらつしやる．

アゝ私も神様の様に奮闘しよう．

アゝ神様も苦しんでゐらつしやる．神様，神様……．（傍点 - 筆者）

このように賀川は，虚無主義のように無価値で，生きることより死の方がより価値

[42] 明治 42（1909）年 7 月 - 神戸神学校時代の一文．「センパン」（第一書房刊）に掲載．

があるかもしれないと考えたが，無価値である存在でも神によって創造されたため，改めて頑張って生きて行きたいとあがいているのである．つまり「死を決しても貧民窟へ行く」（賀川 1920：146）と覚悟して行動に移すまでは，身体の痛みに伴った苦しみと信仰の間で，自殺の気持ちが生じるほど葛藤する賀川の姿が見られる．とはいえ，賀川は病弱な身体にもかかわらず，残りの人生を結婚も考えず[43]にスラム街で一生懸命に貧民救済事業を行ったことが，彼をして生涯に渡って社会福祉実践の道を歩ませたきっかけとなったのであろう．

2. スラム街での生活

当時の葺合新川スラム街は，日露戦争後の不況により急増した失業者がなだれ込んでいた所であった．このスラム街の形成については，賀川の著書『貧民心理の研究』に詳しく書かれている．賀川がおよそ 5 年間，実際に神戸のスラム街に移り住んだ体験をもとにして書いたものであるが，差別表現や差別用語[44]があるため論議が多い[45]．しかし，当時のスラム街の実態を理解するため，この著書を参考として引用する．賀川（1915：41）によると，貧民窟[46]と呼ばれた葺合新川の場合，2 千人もが暮らしているスラム街であり，当時の日本の中では，かなり大規模であった[47]．当時の神戸に

43　しかし私が貧乏なのと肺病にかかつたのとで，先方が煮え切らないものですから，七年以上も文通したりしなかつたりして交際を続けてゐたものが，友人の直接の談判で駄目だといふことがわかつたのです．それで私は別に女のことも考へず，一生懸命に貧民窟の不良児童の感化事業や病人の保護に没頭してゐました（賀川 1937b：250）．

44　穢多，非人，特種民，特殊部落，特殊部落民， 穢多村，細民，細民部落，平民，新平民，山窩，下等人種，下層民，特種人種，悪性の人種，退化人種，退化種，犯罪種族，ビッコ，野蛮人，子供一疋，不具・不具者，白雉，盲（めくら），盲目的，低能・低能児，低能者，土人，不良少年，不良少女，先天的乞食など（資料集 1991：69‐70）．

45　復刊本を製作する際，差別表現や用語について激しく論議された結果，1991 年には『賀川豊彦全集』第 8 巻の補遺版まで発行された．嶋田(1985：9)によると，『貧民心理の研究』出版の可否の問題を触れる際，婦人である賀川ハルが「学問の世界で論ぜられることならば，ありのまま出版して，正確に批判を受けることが当然のことではありませんか．賀川氏のこの 27 歳の時の書物は，賀川氏のその後，72 歳の逝去の日までの永い活動そのものを通して，訂正し償ってきたことが明らかになることが，大切ではないでしょうか」と答えたと述べている．これについて，嶋田は批判精神を根本とする良心的学徒の真理への忠実さにも似た優れた判断であったと評価している．

46　注 1 を参照．

47　賀川（1915：41）によると，当時神戸のスラム街は七ヶ所あって，規模の大きい所は葺合新川，糸木，荒田，宇治川で，規模の小さい所は琴緒町，川崎，尻池である．労働者が 7 万 7 千人，貧民が 2 万 5 千人がいた．井上（1980：723；741）によると，大都市のスラム街について以下のように述べている．
東京：芝・渋谷方面，四谷・新宿方面，小石川巣鴨方面，下谷浅草方面，本所・深川方面
横浜：八幡谷戸，相沢，南太田町，浅間町
名古屋：蘇鉄町，下奥田町，平野町，団夫山

おける人口分布は次の通りである．

【表 1 - 2】神戸における人口分布

		全体人口			韓国人
		1900	1904	1915	1930（6,051）
神戸部	人口	58,877	65,541	83,835	138
	号数	13,562	14,976	19,823	
湊東部	人口	63,547	68,143	84,486	112
	号数	14,742	16,002	20,254	
湊西部	人口	77,074	92,213	146,931	222
	号数	19,203	22,605	33,682	
葺合部	人口	30,612	40,679	76,950	1,722
	号数	9,130	11,138	10,760	
新編入部	人口	19,875	26,139		
	号数	6,559	7,948		
湊部	人口			22,145	31
	号数			5,368	
林田部	人口			43,769	2,796
	号数			9,457	
六甲	人口				196
西郷	人口				27
西灘	人口				283
須磨	人口				512

出所： 商業興信所神戸出張所（1901：1 - 2）と商業興信所編（1904：113 - 114；1915：91），
朴慶植編（1975：1051）より筆者作成（ - 筆者）

残念ながら，賀川が葺合新川に入った 1909 年度の人口データが手に入れることができなかったため，1904 年と 1915 年のデータによって推測するしかない．1915 年の葺合部の人口は 1904 年より 2 倍弱も増えている．朴慶植編（1975：1050）は，葺合と林田という地域が工業地帯であったと記している．つまり仕事の関係で，他の地域より入りやすい地域であったと考えられる．

吉田（1984：309）は，1920 年の恐慌前後から，多くの韓国貧窮農民が離農離郷に追い込まれていた時期に，1922 年 12 月 15 日の朝鮮総督府令第 153 号（以前は，朝鮮総督府総監部令第 3 号旅行証明書制度）で自由渡航の制が布かれたことで，韓国か

大阪：今宮方面，豊崎方面
兵庫：旧長田村，宇治野，葺合新川（下線は賀川と関係のある地域を表示 - 筆者）
そして，井上は神戸のスラム街の中で，宇治野や旧長田町はスラム街としてはちょうど良い，賀川のいる新川に至っては実に酷いと記している．

ら日本に移住した人々が増えたと述べている．しかし，移住した人々は不熟練労働者が多く，それがまた日本の底辺労働市場を圧迫し，日本人労働者の低賃金化を招く理由になったと分析している．さらに，韓国人労働者に対する蔑視から，住居を貸す者も少なく，「スラムの最後の主人公」と言われた，日本植民地支配下の韓国人労働者，特在留者は様々な要因のもの，生活不安に陥り，社会問題を形成したと指摘している．1928 年の日本における在留韓国人は大阪が 55,209 人で第一位を占め，東京府，福岡県，京都府に次ぎ，兵庫県は第 5 位の 14,322 人であった（【表 1 - 3】）．

【表 1 - 3】在日韓国人の各府県の人口

	東京	京都	大阪	兵庫	福岡	全国総数
1924	8,385	5,576	37,046	7,392	12,543	118,152
1925	10,818	6,978	31,860	7,800	13,357	129,870
1926	13,231	8,614	35,229	8,519	13,810	143,796
1927	16,083	11,111	40,960	11,042	16,073	171,275
1928	28,320	16,701	55,209	14,322	21,042	238,102

出所：朴慶植編（1975：1050）

上記の表をみると，1924 年に兵庫県に住んでいた韓国人は 7,392 人である．残念ながら，賀川が葺合新川に入った 1909 年頃や 1924 年度の韓国人の数は把握できない．ただ，1909 年頃は，全国に居住している韓国人の総数が 790 人だった[48]ため，葺合新川に住んでいた韓国人は少なかったものと考えられる．しかし，1930 年には葺合部に 1,722 人，林田部に 2,796 人の韓国人が住んでいたのである（【表 1 - 2】）．そして，いつ撮影されたものか不明であるが，『賀川豊彦写真集』（賀川豊彦写真集刊

[48] 韓国人の日本への移住及び居住状況

年度	居住人口	備考	年度	居住人口	備考
1985	1		1923	80,617	関東大震災
1895	12	日清戦争終結	1927	175,911	日本経済恐慌発生
1905	303	日露戦争終結	1929	276,031	世界経済恐慌発生
1909	790		1931	318,212	満州事変勃発
1910	—	日韓併合	1937	735,689	中日戦争勃発
1915	3,989	世界第 1 次対戦中	1939	961,591	国民動員計画
1918	22,262	土地調査完了	1941	1,469,230	第 2 次世界大戦
1919	28,272	韓国 3・1 独立運動	1944	1,936,843	朝鮮徴兵令実施
1922	59,865	度航調節制度廃止	1945	不明	

出所：内務省警保局調査から引用した在日韓国青年同盟中央本部編（1970：4）より再引用
（ - 筆者）
※—はデータなし，【表 1 - 3】の 1927 年の総計と異なっている．

行会編 1988：20，41 番）で，韓服（チマ・チョゴリ）を着た子どもの姿が写っていたことから，当時の葺合新川でも韓国人がいて賀川と接触した可能性があったと考えられる．

社会局第一部（1924）の調査によると，兵庫県の労働者の職業は染色職工，機業職工，紡織職工，化学工，業職工，窯業職工，機械器具，製造，電気工，印刷工，護謨工，燐寸工，製紙工，皮革職工，製材器官工，把柳職工，土工，工場雑役，日稼人夫，荷馬車輓運搬夫，仲仕，船夫，農耕夫，市役所人夫などに分類されている．その中で，韓国人がどのような職業に就いていたのかは，残念ながら不明である．ただし，朴慶植編（1975：1050）に記されているように，兵庫県の場合，とりわけ工業地帯であった葺合部と林田部を韓国人の過半数が占めていたという分析から，工場で働いた人が多かったことが推測できる．

さて，賀川と神戸スラム街とのかかわりは路傍伝道から始まる．その時期について研究者によって見解が異なっている．たとえば，黒田（1983：142）は退院した賀川が 1908 年 9 月頃より神戸神学校から 1 キロほど離れているスラム街で伝道活動を始めたと記している．金井（1982：334）は，賀川の日記（1909 年）を横山（1951：52－54）の文章から引用しながら，賀川が 3 月から葺合新川のスラム街頭に立って説教を始めたと述べている．横山（1951：57）は，年度をはっきり書いていなかったが，9 月頃から葺合新川の街頭伝道を始めたと記しており，それは 1909 年 9 月であると推測できる．賀川がスラム街での伝道活動を始め，それがきっかけで，実際にスラム街に住み込むこととなり，スラム街の現実について思い知らされることになった．賀川はスラム街での生活を次のように述べている．

> 貧民窟へ来てから，凡てのことが彼の予想外のこと許りである．そして，あまり問題が大きい為めに，貧民窟を改良すると云ふよりか，貧民窟に吸ひ込まれさうに考へられるのであつた（賀川 1920：170，下線－筆者）．

賀川にとってスラム街は意外なことばかりが起こる場所であったものと思われる．このようにスラム街で伝道活動をしていた賀川がなぜスラム街に入って住もうとしたのか．その背景について，極めて重い肺結核を患い，死を目前にし，残された僅かな日々を神と人に奉仕する決意があったと言われている（横山 1951；河島 1976；武藤

1981；黒田 1983）．また，鈴木（2005）は新川入りの動機を，①作家を目指す中で経験した挫折，②長尾巻牧師との出会い，③人生問題，生存価値説など，大きく三つに分けて要約し，その中で鈴木は②の意見を支持している．雨宮（2005）もその長尾牧師の影響であると述べている．ただ賀川（1920：1461）は，ジョン・ウエスレーの日記を読み，自分のように肺病を患っているにもかかわらず驚くべき事業を成し遂げたことに感銘を受け，「死を決しても貧民窟へ行く」と決心したと記しているため，筆者はジョン・ウエスレーの影響と病気の経験の影響でスラム街に入ったと考えている．この点については第 2 章で具体的に述べていく．

3. 関東大震災

関東大震災は1923年9月1日，神奈川県相模湾北西沖80kmを震源として発生したマグニチュード7.9の地震で，190万人が被災，10万5千人余が死亡あるいは行方不明になった大震災である．賀川が関東大震災を知ったのは翌二日の日曜日である（横山1951；武藤1981；雨宮2005）．横山（1951：199)によると，礼拝が終わった賀川は『大阪毎日新聞』を読んでいた教会メンバーから「えらいことになりましたなあ」という発言を聞き，新聞の第一ページの関東大震災の記事を詳しく読み，直ちに神戸市内の各教会に救援の檄を飛ばしたと述べている．『大阪毎日新聞』の1923年9月2日の第1面の記事は次の通りである．

電信電話殆ど全部不通

－大阪館内から東京に通ずる電信卅九回線其他－

一日午前十一時五十八分大阪館内から東京に通ずる電信回線卅九線は地震のため全部不通となつた．（中略)大阪から中仙道東海道を通じて東京に至る線は全部不通原因は一部斷線したゝめに外がこんがらがつたゝめである復舊は不明地震の為めかくの如き被害は例を見ない右の外名古屋から東京を通ずる回線全部不通．尚鐵道電話も東海道方面は不通となる．

このように，関東は大地震によって交通手段を含め，一切の通信手段が使用できなくなっていた．それゆえ，関東大震災が発生したその日に，震災があったことが関西

まで伝わるのは難しいことであったに違いない．翌日，1923年9月2日『大阪毎日新聞』は，第2面以降は関東大震災の記事で埋められた．関東大震災で被害が大きかった場所は，本所深川という地域であった．1923年9月2日『大阪毎日新聞』第6面に次のように記されている．

本所深川全滅

－宮城に延焼せんとす－

東京市内廿餘箇所火災起り本所深川全滅，横濱も殆ど全滅，又火災は宮城に延焼せんとす（無線午後十一時十五分着）

3日後の『大阪毎日新聞』第7面には「本所深川は未だ救助されぬ」という大きな見出しが付けられ，避難者数は約百万人に及んでいるが被災者の救護にまで手が届かないと記されている．このような本所の状況について，シルジェン（2007：166－168）は Joseph Dahlmanの文章を引用し，次のように述べている．

本所は，大体，工場と労働者が住む，込み合った木造家屋や掘っ建て小屋でできていた．火災は瞬く間にここに広がり，大きな人だかりが，隅田川近くの陸軍被服廠として知られる広場に押し寄せていた．炎は橋を横切り，隅田川に隣接する建物に燃え移り，それを完全に覆った．逃げ場を失った三万二千人の人々は焼死し，炭化した肉体と骨との巨大な堆積物と化したのである．わずかな生存者が逃げられた唯一の道は，焼かれた遺体を踏み越えて行くことだった．

このように地震による被害だけでなく，地震の余波で火災が発生し，東京では一層悲惨なものとなった．問題は，大震災の火災の原因が「朝鮮人の暴動」であるという流説に端を発した「朝鮮人虐殺事件」が始まったことである（琴秉洞 1996：（4））．当時虐殺された者の人数は次の通りである（呉允台 1968：229－230）．

(a) 人民による調査

三八三〇人余 ― 東亜日報調査団によるもの．

五四九六人 ― 独立新聞社特派員調査報告．

六六六一人　―　愛国同志援護会調査.

二万三〇五九人

内訳　死体発見数　　七八六一人

死体未発見数　三二四九人

警察官の殺害数　五七七人

騎兵の殺害数　三一〇〇人

この数字は吉野作調の確認したもの

(b) 政府による調査

大正八年在日朝鮮人数　　四六四八九人

翌志野兵営に監禁した者　　五〇〇〇人

実際生き残った数（中国人まで含め）五〇〇〇人足らず

(c) 警視庁調査

六九四〇人　―　警視庁編大正大震災誌

日本社会が，大震災の火災による社会の不安を「朝鮮人の暴動」という流言で収めようとしたのである．大変悲惨な出来事である．朝鮮人虐殺関連新聞関連報道史料（山田編 2004）によると，当時の各々の宗教はすでに「朝鮮同胞の追悼」を行っていた．たとえば，仏教朝鮮協会，民衆佛団の主催で「震災の犠牲となった朝鮮同胞の追悼」が 1923 年 10 月 28 日午前 10 日から増上寺で行われた（1923 年 10 月 24 日読売新聞，朝日新聞）．また学友会及び 15 団体[49]を中心として 1923 年 12 月 28 日午後 1 時から小石川雑司ヶ谷日暮青年会館で行われた（1923 年 12 月 22 日読売新聞）．賀川も小崎と共に祈祷会を行った．以下は『東京朝日新聞』（1924 年 9 月 5 日夕刊，9 月 6 日朝刊）に掲載された記事である．

對鮮支人懺悔祈禱曾

小崎弘道賀川豊彦氏等は昨年九月震火災當時日本人が朝鮮支那人或は日本同胞に對し犯せる重大な罪悪に就て基督教徒の立場から五日午後七時日本國民に代り懺悔祈祷会の集まりを神田青年開館に開き且つ今後に就て懇談會を開く．（下線 - 筆者）

[49] 学友会ほか 15 団体は東京朝鮮労働同盟会，女性学学会，蛍雪会，北０会，在日本朝鮮無産青年会，朝鮮労働者状況調査会，基督教青年会，天道教青年会，仏教青年会，女子青年会，文化新聞社，前進社，労友社，平文社，大阪朝鮮労働同盟会である．

この祈祷会は，大震災が起きた一年後，日本人が犯した重大な罪悪について，小崎と賀川を中心とし，キリスト教徒の立場からの懺悔という意味を含めて開かれた会であった．つまり，虐殺事件が起きたその年から韓国人のための追悼会が次々行われていた一方で，賀川がこうした追悼を開催したのは一年後である．その理由を推測すれば，それはおそらく本所基督教産業青年会を中心としたセツルメント事業及び震災復帰事業で忙しかったからであろう．少々遅い開催であると考えられるが，上記の新聞記事に書かれたように祈祷会を開催した賀川の行動からは，「懺悔」から韓国人及び中国人に対して贖罪したいという賀川の気持ちが伝わってくる．おそらく賀川は，帝国主義による日韓併合や間違った情報による朝鮮人虐殺など，日本の行動について当時の知識人とは別の考えを持っていたのであろう．琴秉洞（1996：(9)）は，当時の知識人の反応の型を①積極的肯定型，②消極的肯定型，③大勢順応型，④全く触れず，⑤積極的否定型，⑥消極的否定型に分けている[50]．つまり，全く触れなかった知識人も消極的肯定型であると見做すならば，賀川の場合，積極的否定型ではなく，友人宅での行動や一年後に追悼会を主催した行動から消極的否定型であったものと考えられる．関東大震災で，賀川の活動が神戸から東京に移ることとなり，神戸での様々な経験が東京で生かされることになる．そして，神戸での貧民救済事業がセツルメント事業へと変化していくこととなった．この点については，第Ⅱ部で扱うことにする．

小括

賀川のライフイベントを表すと，次の【表1‐4】の通りである．賀川における発達的出来事を出生，キリスト教との出会い，明治学院大学から神戸神学校への編入まで

[50] ①積極的肯定型は，暴動流言を真実と信じた人々である．考え方は，内務治安当局と全く同じで，朝鮮人に敵意すら示し，自警団等の行為を積極的に支持している．一例として，内村は「朝鮮虐殺」について，只の一言も触れずに通したが，鎮圧のための戒厳令と軍隊出勤に感謝しているだけではなく，自身も自警団に入り夜警に務めている．いわゆる積極的肯定型であろう．この点については韓国ではあまり知られていない．その内村が，後に聖書研究会に韓国人留学生を招いたのは，珍しいことであろう．②消極的肯定型は，暴動流言に疑問を持たない人々で，敵意は示さないまでも，流言をすんなり受け入れている．自警団の行き過ぎに言及しつつも，「一部朝鮮人の不法行為」の存在を指摘した．③大勢順応型は，暴動流言の真偽に迷いつつも，否定しない．消極的肯定に通ずる．④全く触れずは，暴動流言の有無について全く触れないということは，あれほどの大量虐殺が行われていた最中でもあるので，これも消極的肯定型に通ずる．植村正久に該当する．⑤積極的否定型は，内務治安当局の対応と自警団の行為に批判的に対している．その暴動流言の虚なるを断じ，自警団の行為に痛憤し，国民に一大覚醒を促している．吉野作造に値する．⑥消極的否定型は，暴動流言を疑問視し，冷やかに対している．賀川の文の中で「明治学院構内の友人宅で，ローソクをつけず真暗にして戸を閉めている理由が日本語の十分出来ない××の留学生を預かっている為」というのが消極的否定型であると考えられる（琴秉洞 1996：(9)‐(22)）．

検討した．まず，親の死を契機に賀川家に入ってからの7年間は，家庭でも学校でも「妾の子ども」というコンプレックスから逃れることは出来なかったものと考えられる．しかし，徳島中学校への入学が，キリスト教との出会いに結びつき，一生牧師として歩んで行くという大きな変化をもたらしたのである．それが，明治学院大学の神学部に入学するきっかけとなり，その後，神戸神学校に移ったことは，貧民と出会う契機となった．

【表1－4】賀川のライフイベント

年	発達的出来事	歴史的出来事
1888	出生（7.10）	
1893	父と母の死・姉栄とともに本家へ	
1900	徳島中学校入学	
1901	キリスト教との出会い	肺結核発病
1903		賀川家の破産
1904	洗礼	
1905	明治学院大学入学	
1907	神戸神学校編入	
1909		スラム街に入る
1911	神戸神学校卒業	
1912		友愛会結成
1913	結婚（ハル：1888.3.16－1982.5.5）	
1914	アメリカに留学（プリンストン神学校）	
1917	アメリカから帰国	第1次世界大戦・労働運動
1918		終戦・米騒動
1921		川崎・三菱造船所の労働争議,農民組合運動
1922	長男純基誕生（12.26－2004.3.28）	
1923		関東大震災
1925	長女佳代子誕生（4.23－現[51]）	
1927		金融恐慌
1929	次女梅子誕生（6.20－現[52]）	世界恐慌・神の国運動
1939		第2次世界大戦
1945		終戦
1946		新日本建設運動
1960	逝去（4.23）	

筆者作成

[51] [52] 賀川の孫である賀川督明から確認した(2013．7．2)．

歴史的出来事は，賀川が社会福祉に関与していく背景になった．まず，病弱な身体で，死を目前にし，残された僅かな日々を神に奉仕する決意でスラム街に入った．そして，スラム街での生活体験を通して，貧しい人々の悲惨な生活を目の当たりにし，彼らの現実を痛感し，彼らに手を差し延べることで賀川は社会福祉に強く関与していくことになった．また，その後の関東大震災がきっかけで，賀川は神戸から東京に活動の拠点を移すことになった．

つまり，賀川を巡る様々なライフイベントは，キリスト教への信仰や病気による短命の人生を神に捧げたいという動機でスラム街に入ったこと，関東大震災による混乱した社会的状況によって，賀川の生涯が社会福祉の実践に向いたと言える．

第2章　重要な他者との出会い

個人の生涯は様々な人々との出会いによって成り立っていく．重要な他者との出会いによって，今までの生き方を一変させられ，人生観または価値観が塗り替えられることが多い．本章では，重要な他者との出会いを「思想的出会い」と「実際的出会い」に分け，賀川と関わった人々が社会福祉実践・思想の形成にどのように影響を及ぼしたかを中心に分析していく．

第1節　思想的出会い

賀川はマイヤースの書斎で多くの書籍を読んだ．横山（1951：22）によると，カント（Immanuel Kant，1724．4．22‐1804．2．12）の『純粋理性批判』，バウン（Borden Parker Bowne，1847．1．14‐1910．4．1）の『純粋哲学概論』，ラスキン（John Ruskin，1819．2．8‐1900．1．20）の『胡麻と百合』，ドラモンド（Henry Drummond，1851．8．17‐1897．3．11）の『コリント前書』，そしてその他にはハルトマン（Karl Robert Eduard von Hartmann，1842．2．23‐1906．6．5），ショーペンハウアー（Arthur Schopenhauer，1788．2．22‐1860．9．21），ヘーゲル（Georg Wilhelm Friedrich Hegel，1770．8．27‐1831．11．14），トルストイ（Lev Nikolayevich Tolstoy，1828．9．9‐1910．11．20）などから，大きな影響を受けたと記している[53]．本節では，彼が自身の著書（賀川 1955：101‐102）の中で大きな影響を受けたと述べている人物，イエス，トルストイ，ウェスレーを中心に述べていく．

1. イエス

イエスの正確な生年を確定することはむずかしい．なぜなら，「マタイによる福音書」2章1節によると，イエスはヘロデ大王の統治下（紀元前37‐紀元前4）にユダヤのベツレヘムで生まれたが，「ルカによる福音書」2章1節によると，イエスの誕生は皇帝アウグストゥスによる人口調査の勅令発布の年と結び付けられ，時間のずれが生

[53]　ちなみに，賀川自身が読みふけった書籍を翻訳したものは，ウェスレーの『信仰日誌』（1929，教文館），ラスキンの『ヴェニスの石』（1931，春秋社），バウンの『純粋哲学概論』（1933，春秋社）などがある．

じているからである．実際にイエスに関する『新約聖書』以外の資料は少ない．帝政期ローマの政治家及び歴史家であるタキトゥス（55年頃 - 120年頃）が，総督ポンテオ・ピラトのもとでのキリストの処刑を短く言及[54]しているため，イエスは歴史的な人物に他ならない．それでは，賀川にとってイエスはどのような存在であったのか，賀川は次のように述べている．

> 私にとつてはイエス程親しくなつかしい姿は無い．阿波の徳島の暗い生活に初めてイエスの山上の垂訓の意味が徹底して来た時に私は躍り上つて彼を私の胸に迎え入れたのであつた．（中略）
>
> 私はいつもイエスがユダヤ人であることを忘れて居る．彼は今日生きてゐる私の友人ではないか．彼は最も人間らしい人間，レオ・トルストイよりも私に近いものでは無いか！（賀川1921a：135 - 136）．

このように賀川自身がイエスを友人として認識していたため，教会と社会とを繋ぐ架け橋の役割を担う組織を結成するときに，「イエスの友会」[55]という名をつけたと考えられる．イエスの存在を近くに感じていた賀川は，何とかしてイエス・キリストのような生活がしたいと述べつつ，イエスの模倣をして，イエスの足跡に従っていくことがキリスト教であると定義している（賀川1921a：221）．そして賀川は，キリスト教の核心である贖罪愛について次のように説明している．

> 即ち，十字架愛は，再創造を意味する贖罪的回復であると共に，単なる創造の世界に対しては，第二の創造を意味する新しき発展である．誠に十字架愛に於てのみ，総ての失業者を抱擁し，総ての恐慌に依れる損害を弁償する大きな愛となつて現れて来るのである（賀川1936：188）．
>
> イエスの十字架は，神の愛と人間の愛の完全な融合を示したものである．人々

---

[54] 「それは，日頃から忌わしい行為で世人から恨み憎まれ，「クルストゥス信奉者」と呼ばれていた者たちである．この一派の呼び名の起因となったクリストゥスなる者は，ディベリウスの治世下に，元首属吏ポティウス・ピーラートゥスによって処刑されていた．」（国原訳 1965：286）

[55] 「イエスの友会」は 1921 年 10 月 5 日，奈良・菊水桜において日本キリスト教会の牧師だった賀川と 14 名の同志によって誕生した．当時は第一次世界大戦終結後の世界的な経済大恐慌の時代で，キリスト教会も各教会がバラバラで社会的勢力にならないため，団結して強くなろうと結束を固めたのである．綱領は，敬虔，純潔，労働，奉仕，平和など，5 つである（黒田 1983：38）．

はこれを贖罪愛という言葉で表現するが，彼の貴い死を十分に表現できる言葉はない．彼は人間を新たな見方で，つまり，神の視点から捉え，人類を救済する神の責任の重荷を共にしたのである（Kagawa＝2009：42）．

賀川は，十字架愛を贖罪愛で，社会全体を救うための個々の人の魂の救いであると述べている．そして，その愛を認識することは，愛の行為においてしか認識され得ないと主張している（Kagawa＝2009：47）．この点について稲垣（2012：51）は，賀川にとってキリスト教の贖罪愛は，個人の救いであると同時に，個人の集まりである社会への救いの入り口とも受け取ることができると記している．すなわち，救われた個人が，その恵みへの応答として「善きわざ」へ励み，それを通して神の国の建設に参加することになると述べている．

つまり賀川は，イエスの贖罪愛によって，「私生児」や「妾腹の子」という周りの冷たい視線から解放され，「イエスの友」として生まれ変わったのである．贖罪愛によって救われた賀川が，その愛をもって他の人々を救う立場になったわけである．そのため，賀川は，一生イエスの生涯に倣って生活を続けようとし，贖罪愛を実践することの大切さを強調したのである．この点について黒田（1983：252）は，イエスがガリラヤの全地を巡り歩いて，会堂で教え，福音を伝え，病気や患いを癒した様々な活動を行ったように，賀川も教育と宣教と福祉を通してイエスの伝道の領域を倣おうとしたと評価している．

2. レフ・ニコラエヴィチ・トルストイ

トルストイは南ロシアのトゥーラ郊外の豊かな自然に恵まれたヤースナヤ・ポリャーナで生まれた．貴族の家柄だったため，富裕な家庭であったが，2 歳のとき母親を，9 歳のとき父親を亡くし，親戚の女性たちに育てられた．1844 年にカザン大学に入学するが，中退した．その理由は，彼が大学の学問を愚弄し，歴史研究の真面目さを否定し，そして思想が不適だという理由で停学処分を受けたからであると言われている（ロラン 1947：18）．

1852年，トルストイは自分の生活体験を書いた『幼年時代』によって，新進作家として注目を集めた．彼の代表的な作品として『戦争と平和』（1865‐1869），『アン

ナ・カレーニナ』（1873 - 1877），『復活』（1889 - 1899）などがある．トルストイの作品の特徴は，「生と死」，そして「不滅」に関する概念が根底にある．そして近代文明を批判した多くの宗教的思想的著作を通じてキリスト教的アナキズムと資本主義文明を否定する深遠な思想を確立した．特に芸術的創造と深遠な思想は単純に思索の遊戯から生じたものに過ぎなかった虚構的なものではなく，あくまでも神への険しい道に向かって自ら全人類の苦しみを苦しんでいた自分の実生活と求道者特有の苦行を基にして得られたものであった．それでは，賀川はいつトルストイに出会ったのか．賀川は次のように回顧している[56]．

> 満16年の頃，私は従兄[57]から加藤直士訳のトルストイ著『我懺悔』や『我宗教』を借りて読み，キリスト教の倫理性について，特に深く教えられてうれしかった．トルストイが，聖書の『山上の垂訓』の影響によって，戦争絶対否認の立場をとっていることを知り，深い感銘を受けたのも，その頃のことである（賀川1956[58]）．

賀川が戦争に反対し，無抵抗主義や平和を求めた背景として，トルストイの著書『我懺悔』と『我宗教』[59]の影響が強かったのである．しかし，当時日露戦争が始まってしまい，賀川はトルストイの非戦論を信じ，日本の勝利にも興奮を感じなかったと記し，トルストイが一生の生活内容を支配するようになったと告白している（賀川1955a：102）．

このように平和に対する賀川の考え方が初めて示されたのは，『徳島毎日新聞』に連載された「世界平和論－帝国主義は人文史の一段階－」である（賀川1906）．その中で，トルストイの考えを取り上げたのは1906年8月24日の記事で，内容は次の通りである．

---

[56] 黒田（1983：286）はトルストイとの出会いを「三年生の時には従兄の新居格などとトルストイの小説を熟読して，社会主義者の主張に胸をときめかしていた」と記している．

[57] 林（2000：13）によると，森完成は賀川の従兄ではなく，従弟である．

[58] 原文である賀川（1956）の「求道者としての読書」が手に入らなかったため，左近（1996）から再引用した．

[59] 加藤直士訳の『我懺悔』は 1901 年 10 月に警醒社から，『我宗教』は文明堂から出版されたものである（左近 1996：5）．

然り斯くての如くして人格の統一初めて成らん．旧約の預言者イザヤが夢みし非戦国は発現すべし，トルストイ主義は地球上を蔽はん．（中略）『快楽を求めば苦悩多く快楽を他人に与へんと欲せば快楽多し』とのトルストイの究意的哲理は吾人の讃する所なり（賀川1906：270）．

賀川が「世界平和論」を書くことになったきっかけは，1906 年から 2 年間，徳島中学校の校長であった鈴木券太郎（1863．12 － 1939．3．14）が書いた「帝国主義に就いて」に対して，非戦論の賀川が「鈴木中学校長に與ふ」という彼の考えを公にしたことによる（横山 1951：30－31）．賀川は，トルストイ主義が世界に広がれば平和への道が示されると考えており，求めるより与えるというトルストイの考え方が重要であると記している．賀川の「世界平和論」について，黒田（1983：17－18）は，内容が全体的に「賀川の一流の楽観的な表現で，信仰による意識の教育によって世界平和が実現するのみを論じている」と批判している．嶋田（1985：11）は「人道の基礎」の部分を取り上げ，「人類の平等主義をもって，凡ての人の胸中にある論理道徳の本質に属するものとして，精神的人間革命無くしては，平等の真の解放はあり得ない，と論じている」ことに注目するべきだと述べている．また左近（1996：28）は，トルストイとの連帯を公にし，平和への連帯感情により，ノーベル平和賞候補になったと述べている．

実際にこれを書いたのは，賀川が明治学院の学生のとき，トルストイの書籍を読んだ直後に彼自身の平和への考えを示したと考えられる．この点について武藤（1964：468）は，賀川がすでに多くの書を読破し偉大なる諸思想を消化していたと評価している．確かに，18歳の若者が様々な識見を述べつつ，大胆な発想，歴史や全世界の流れを先読みしたことは評価されるべきであろう．ただし，学生の身分にある者が『徳島毎日新聞』に6回も記事を掲載されたのは，当時，徳島商業会議所の会頭，徳島鉄道会社長及び汽船会社の社長であった[60]叔父森六兵衛の無視できないほどの影響力に基づくものであろう．しかし，賀川はトルストイを全面的に支持したわけではない．

ア，残酷だ．資本家は残酷だ．トルストイが自分の失敗した経験から慈善を罵つても僕は持つて居るものを皆遣る．遣ればもう遣るものが無くなる．無くなれ

[60] 賀川（1955a：101；1955b：80）

ば慈善もしなくつても善い．罪は社会にあるのだ．欺の乞食でも僕はかまはぬ．金をやる（賀川1920：65）．

慈善においては賀川とトルストイの考え方は異なっている．つまり，平和思想はトルストイから影響を受けたが，愛の実践に関してはイエスの教えの影響が強かったことが分かる．

3. ジョン・ウエスレー

ウエスレー（John Wesley，1703．6．17－1791．3．2）はイングランドのリンカンシャーで，イギリス聖公会の主教S．ウエスレーの15番目の息子として生まれた．1714年にロンドン・チャーターハウス学校に入学して学び，1720年にオックスフォード大学クライストチャーチ・カレッジに入った．在学中に弟のチャールズ・ウェスレー（Charles Wesley， 1707．12．18－1788．3．29）とともにホーリークラブ（Holy Club）を結成して厳格な規律を作って守ろうとしたため，周辺からメソジスト（Methodist，規律家）と呼ばれた．1735年に父親が死去して，二人の兄弟はアメリカのジョージア州に渡って宣教師として過ごしたが失敗して1737年に帰国した．1738年5月24日，アルダスゲイト街で開かれた集会でマルチン・ルターのローマ書の註釈の序文に関する朗読を聞いた瞬間，一句が雷のごとく彼の心と体を打ったのである．救いの確信は戒律や善行の末に訪れるものではなく，自らの不完全さと罪深さを悟ったときに，すでにキリストの自己犠牲によって救われているのだと回心する．この福音とそれに基づく社会奉仕を広めるため，彼は信仰覚醒運動を開始する．それがメソジスト運動の出発点である．

賀川がウエスレーと初めて出会ったのは20歳の頃であった．当時の状況について賀川は次のように記している．

私が最も深い感化を受けた書物の一つは，ウェスレーの信仰日誌である．私は，まだ二十歳過ぎて間もなく，ウェスレーの信仰日誌を手にした．そして幾つかかゝつて，省略せられたる彼の信仰日誌を讀み了へた．そして私は，新しい自分を發見したやうな氣がした（賀川1929：1）．

いかなる点において，賀川が新しい自分を発見したといっているのであろうか．その答えは次の文章から推測できる．

> 新見はこの頃，福音伝道館のT牧師から，ジョン・ウエスレーの日記を借りて来て読んだ．そしてウエスレーが肺病であるのに，驚く可き大きな事業をなし得たことを感じた．その中に書いてある，大西洋を帆船で横切る敬虔派の人々が，自らは船暈の為に血を吐いて居るにかゝはらず，他人の為に看護をすると云ふことを読んで非常に感じた（賀川1920：146）．

つまり，ウエスレーが自分より他人のために看護している姿をみて，賀川は同じ肺病なのにと強く感じたわけであろう．結局，賀川はウエスレーから感動を受けたことにより黒田とともに『ジョン・ウェスレー信仰日誌』を翻訳して1929年に出版するまでに至った．

黒田（1983：129）によると，賀川は多くの聖人を敬愛していたが，特に心から愛し，激しい苦悩に満ちた生涯において心の支えとした人物はウエスレーであったと回顧している．横山（1951：58）も，賀川が京都の穂波牧師の宅で，療養しているときにウエスレーの伝記を読んで，ウエスレーがロンドンのスラム街にまで入って伝道したことについて詳しく書いている．後に賀川（1950：83）は，病気を克服した人々の中で，必ずウエスレーの名を取り上げている．ウエスレーの書籍を通して大変勇気づけられたことは，賀川がスラム街に入る上で，まさに，同じように実践するきっかけとなったのであろう．

第2節　実際的出会い

人々は，書籍を読むことを通して自らの思想を大きく変化させるが，実際の出会いも人々の生き方を変化させることが多い．特に思わぬ出会いが人生を変え，その人生によって歴史を変えることもある．賀川の場合，初めて教会に連れて行ってくれた片山，神戸神学校に転校する前，伝道のため活動した豊橋教会での長尾，留学時代に訪問したハルハウスのアダムスを含めて，人生の中で数多くの出会いがあったはずである．ここでは，賀川が生き方を変えたと言えるほど大きな影響を与えたローガンとマ

イヤース，そして労働運動から農民運動へ繋がる活動に影響を与えた鈴木文治，杉山元治郎を中心に述べていく．

1. ローガンとマイヤース

二人の宣教師に関する資料は，宣教師の報告書や個人的書簡に基づいて記述すべきであるが，手に入れることが難しいため，深田（1984；1985）の論文に基づいて記述する（表1‐2）．その他には，賀川の著書と横山の『賀川豊彦傳』（1951）と黒田の『私の賀川豊彦研究』（1983），「神戸神学校二十年の足跡」（1971）を用いる．

【表2‐1】ローガンとマイヤースの略歴

	ローガン	マイヤース
生没年	1874年11月14日‐1955年6月30日	1874年5月20日‐？
出生地	アメリカケンタッキー州シェルビービル	バージニア州レキシントン
家族	父はジョージ，母はジョセフィン（製粉工場）	父はヘンリー，母はメリー（金物商）
大学	センター大学卒業（1893）	レキシントンのワシントン・ワンド・リー大学卒業（1892，後にマスターまで）
神学校	ケンタッキーのルイビル神学大学とプリンストン神学校（1899年卒業）	ルイビル大学神学校
牧会	ジャクソン（3年間伝道）⇒ウィルモア⇒1902年12月25日に南部長老派教会宣教師として日本に派遣（徳島）⇒1941年3月6日に帰国⇒バージニア，ケンタッキー，テネシー州	1897年12月に南部長老派教会宣教師として日本に派遣（徳島）⇒後に岡崎，豊橋，神戸[61] （神戸神学校の先生）⇒1942年6月に帰国

出所：深田（1984；1985）より筆者作成

深田（1984：138）は，ローガンが信仰の種をまき，マイヤースが水をまいたと聖書の言葉[62]を借りて比喩している．そのくらい賀川と密接な関係をもっていた人物であったことが分かる．実はローガンとマイヤースとの関係は義理の兄弟関係[63]であるため，徳島での二人の活動はお互いに支え合いながら活発であっただろう．

ローガンは1902年12月22日，南長老派教会の宣教師として日本に派遣され，日本に

[61] 賀川が明治学院の予科二年に進んだ時，マヤス博士は徳島を去って，南長老派宣教師団の勤務地である豊橋，岡崎地区の責任者として転任した（黒田 1983：137）．
[62] わたしは植え，アポロは水を注いだ．しかし，成長させてくださったのは神です（コリントの信徒への手紙一 3 章 6 節）．
[63] H. W. マイヤースの姉，パティ・ブレーン・マイヤースと結婚した人がローガンである．

在住した39年間の中で，35年間を徳島で過ごした人物である．そしてマイヤースは，ローガンより5年早く，1897年12月25日に南長老派教会の宣教師として日本に派遣され，1942年6月に強制送還されるまで，45年間日本で生活した人物である（深田1984：134；139）．

マイヤースに比べて，ローガンに関する記述は少ないが，賀川はローガンについて次のように記している．

> 私は十五の時までイエスの大きな愛を知ることが出来なかつた．然しローガン先生の英語の聖書研究会に出るやうになつて，ルカ伝の山上の垂訓を暗誦して私の心の眼はもう一度世界を見直した．（中略）然し私に米国宣教師の導きと愛が加はるとともに私の胸は踊つた．今でもローガン先生もマヤス先生は私の親のやうに私はまた彼等の心のやうにいつ如時なる時でも愛しいつくしんでくれるが私は彼等を通じてイエスをみた．そしてイエスの道がよくわかつて来た（賀川1921a：135‐136）．

このように，賀川はローガンを通してキリスト教に出会い，ローガンの人柄によってイエスの愛を感じ，彼の世界観は変わっていったのである．特に親の代わりになってくれた二人の宣教師の生き方によってキリスト教徒の生き方について常に考えるようになったものと考えられる．横山は賀川がローガンについて感じたことを次のように記している．

> 「神の人をみた者は幸ひである．私はローガン先生において，極めて美しい，そして静かな神のつかひをみた．私に，もしもどんな生活が幸福かと，問ふ人があるなら，ローガン先生のやうな生活が，一番幸福だと答へるであらう．ローガン先生は，全霊，全生，全身を日本のために捧げてくれた人である．私はローガン先生のやうになりたい」という程に，ローガン博士は聖者風な人であつた（横山1951：16）．

つまり，賀川はローガンを神の人だと讃辞するほど，ローガンの信仰や献身を尊敬し，彼の生き様を模範としたのである．賀川は，小説『死線を越えて』の中で，マイ

ヤースをウリアムスという人物に置き換えて登場させている[64]．ウリアムスに関する紹介は次の通りである．

> 彼の教会は，神戸の中でも，最も小さい兵庫の水木通三丁目にある，日本基督講義所で米国宣教師ウリアムス博士がやつて居るものであつた．ウリアムス博士は，ずつと前に徳島市に長く居つたことがあるので，中学時代には，栄一も英語のバイブルで会話など習ひに行つたことが有つた人であるが，福音伝道館があまりに噪がしいので，自分の性格に会ふようなものを，探して居る中に，ウリアムス博士の講義所が，見付かつたので，そこへ行くことにしたのである．彼は，その小さい講義所を見付けて二度目の日曜に洗礼を受けた（賀川1920：132）．

『死線を越えて』という小説は自伝小説であり，登場している人物たちは実在した人物の性格や活動に基づいている．そこでマイヤースという人物について分かるのは，まず，マイヤースが賀川のスラム街での初期の活動，いわゆる路傍説教の活動を支持したり（賀川 1920：135‐136），賀川の体調が極めて良くないとき，何回も見舞ったり（賀川 1920：143），賀川の私生活だけではなく諸活動を財政的に後援したり（賀川 1920：149，165，209；1921b：380；1950：94‐95；武藤 1981：114），賀川の活動に協力的な人を紹介したり（賀川 1920：209）など，賀川にとってマイヤースはなくてはならない存在であったのである．黒田は賀川とマイヤースの関係について次のように述べている．

> その明治学院に入学して予科一年が終わった夏休み，徳島のマヤス博士の家で長く過ごすことになった．ちょうど夫人と家族が病気のために米国に帰国していたので，博士と二人だけで生活することになった．その二ヵ月の生活はいろいろな点で青年賀川に忘れられない思い出を残した．ことにミセスが残して置いた婦人用の自転車に乗り，博士と一緒に県下の家庭を一軒一軒訪問して，文書伝道を続けたことは，一生を通じて忘れることのできない極めて大きな感化を与えたのであった（黒田1983：135‐136）．

---

[64] ローガンはセース博士と置き換えて登場させている（賀川 1921b：380）．

幼年期に孤独を感じながら過ごしていた賀川は，かけがえの無い二人との出会いを通して幸福を味わえるまで至ったのであろう．おそらく賀川はローガンとマイヤースを目に見えるイエスの使徒として取り上げ，人生のメンター（mentor）にしたと考えられる．

2. 鈴木文治

友愛会の創始者である鈴木（1885．9．4‐1946．3．12）は，10歳頃，父親とともにキリスト教に入信，生家に近くあったギリシャ正教会において洗礼を受けた（雨宮 2005：136）．東大法学部在学中に，同郷の先輩であった吉野作造（1878．1．29‐1933．3．18）の導きにより海老名弾正（1856．9．18‐1937．5．22）の本郷教会に属し，これがきっかけで，社会問題に関心を持つようになった．1911年ユニテリアン[65]の伝道団体である統一基督教弘道会の伝道部長になり，翌年1912年8月1日，東京芝のユニテリアン教会惟一館で同志15人とともに労働者の地位改善を目的とする「友愛会」を創立した．

まず，「友愛会」とのかかわりを述べる前に，なぜ賀川が労働組合に関心を持つようになったのかについて言及する．そのきっかけは二回あると，筆者は考えている．一回目は 1916 年の夏，ニューヨークで洋服裁縫職工組合の 6 万人の労働者のデモ行進に遭遇したことである（武藤 1981：168；林 2000：140；シルジェン 2007：106）．多国籍の 6 万人からなる労働者集団の光景は，賀川にとって労働者の連帯感を意識させた出来事であっただろう．武藤（1981：157）によると，賀川が構想していた貧民に対する解決策は，労働者が労働の報酬を正当に受けられる社会を作ることであったと述べている．スラム街に住んでいたことから誰よりも労働者の現状を把握していた賀川が，根本的な解決法を考えたのは当たり前のことであろう．二回目は，賀川が 1916 年 10 月，アメリカ留学の帰途などに掛かる旅費を稼ぐため，ユタ州オグデンの日本人会書記となり，日本人農夫とモルモン教徒とを結びつけて小作人組合を作ったことである．そのとき，小作料の減額を地主に迫る争議に勝ち，小作人の収入を年額

[65] 神の単一性を主張し，三位一体を否認し，イエスの神性を認めない教派で，日本には 1887 年にアメリカの同派教会から派遣された宣教師ナップにより広がった．最初は自由キリスト教運動を展開したが後には社会主義的政治活動に傾き，安部磯雄（1865．3．1‐1949．2．10），村井知至（1861．9．19‐1944．2．16）ら社会主義運動家を生んだ（武藤 1981：204‐205）．

5 万ドルも増額できた経験から，後に日本における農民組合運動を創始したのである．

この経験によって賀川は，貧民の断片的な救済よりも根本的な解決をするために貧困層のセーフティネットについて考え，防貧及び社会改革の一つとして労働者の団結を主張していたのである．賀川の考え方が表された文章は次の通りである．

> 私は更に日本の成年男工の保健，教養，能率等の諸問題を思ふて，労働組合の健全なる発達を必要と感ずるのみならず，防貧策の根本問題として，この労働問題を解決せねばならぬと考へるのである（賀川1919a：484）．
>
> 栄一はこれでは貧民窟をいくら救済しても，そんな乱暴な処を根本的にやつ付けなければ駄目だと，その方向に接近して行く為めに，色々と苦心してみた．それで新見は青年に労働組合の必要を力説した(賀川1920：194)．
>
> 貧しい人々が，之だけあるのだ！之だけ！そして，之だけの人々が四百五十人の人々を敵として戦つて居るのだ！とても，救済など云うて居ても駄目なのだ！労働組合だ！労働組合だ！それは労働者自らの力で救ふより外に道は無いのだ！俺は日本に帰つて『労働組合から始める！』彼はこんなに考え乍ら行列を見送つた（賀川1921b：384）．

労働者が自らの力で根本的な問題を解決すべき，と考えた賀川が，労働運動の第一線に引き出されたきっかけは，アメリカから帰国した 4 ヵ月後，1917 年 9 月 9 日にキリスト教青年会館で開かれた友愛会神戸連合会の特別講演会に招かれたことであった．直ちに友愛会神戸連合会の評議員となり，翌年 5 月には友愛会葺合の支部長になった．第一次世界大戦によって物価が高騰し，労働者の生活が脅かされる間に，友愛会は急速に成長し，神戸，大阪に連合が生まれ，翌年には会員が 3 万人，支部の数が 20 箇所に達するほど，全国的な労働組合の組織になった．賀川は『労働者新聞』（1919．7．15）に労働運動について次のように書いている．

> 社會のことは，凡ての人が持つもたれつでやつて行かねばならぬ．私は資本家と云ふ階級を全く認めぬし，そんなものゝ必要をも認めぬが，勞動者が，階級爭鬪の外に，社會問題の解決は無いと考へることには絶對に反對である．社會は凡てものが連帶責任で行かねばならぬ．全人類の解放は愛と犠牲と協同の精神と外

にしてやつて行かれるものではない．

賀川は，労働運動は必要であるが，その目的が階級の解放ではなく，愛と犠牲と協同であるとはっきり示している．それゆえ，友愛会に関する賀川の評価は次の通りである．

> 友愛会は全国に約三万人の会員を持つて居るが，未だ徹底的の労働組合と云ひ兼ねる（賀川1919a：488）．

会員数より労働組合のあり方について考えていた賀川は，労働者の手により新聞『新神戸』[66]を創刊し，強力な労働組合を作り上げようとした．その結果が関西労働同盟会の結成である．この点について武藤（1981：213）は，「鈴木によりユニテリアンの思想にもとづいて組織された友愛会を，賀川はその一翼たる神戸連合会を動かすことにより，資本家と戦う労働運動団体に変質させた」と指摘している．もちろん友愛会が，労働者のより良い生活を保証するために団結するようになったことは，「互に親睦し，一致協力して，相愛扶助の目的とする」という本来の目的から外れていったと言えるかもしれない．また，新聞『新神戸』を通して，当時の関西の労働者が最も団結し，その威力を発揮したのは間違いないことである．実際に当時賀川の名声を用いて資本家との闘争に利用しようとした労働運動の様子も見られる．しかし，それが友愛会を変質させたという武藤の意見に，筆者は疑問が残る．なぜなら，賀川は無力闘争を目指して，友愛会の運動に参加したり，新聞『新神戸』を発行したりしたからである．

1919 年 4 月，賀川は友愛会関西労働同盟会の理事長に就任した．この時から賀川は「鈴木文治は日本労働運動の父，賀川は母」と言われるようになった（平野 1961）．ちなみに友愛会の労働組合としての近代化の仕上げは，1919 年 8 月 30 日から 9 月 1 日までの三日間開催の友愛会七周年大会に始まり，大会は会名を「大日本労働総同盟友愛会」[67]と改称した（天池 1990：77）．ここで，「創立宣言」[68]の内容は

---

[66] 1918 年 8 月 22 日に創刊されたが，翌年 1919 年 3 月 2 日に『労働者新聞』と改題される．1925 年 12 月 17 日に第 142 号が発行されたが，この時点で『新神戸・労働者新聞』の発行は休止したのである（大前 1964：1）．

[67] 1921 年には「日本労働総同盟」と改称される．

次の通りである．

人間はその本然に於て自由である．故に我等勞働者は如斯宣言す，勞働者は人格である．彼はたゞ賃銀相場によつて賣買せらる可きものでは無いと．彼はまた組合の自由を獲得せねばならぬ．資本が集中せられて勞働力を掠奪し，凡ての人間性を物質化せんとする時に勞働者はその團結力を以て，社會秩序の支持はたゞ黄金にあるのでは無くそは全く生産者の人間性に待つものであることを資本家に教へねばならぬ．殊に機械文化が謬れる方向に我等を導き去つて以來，資本主義の害毒は世界を浸潤し生産過剰と恐慌は交々至り，生産者はその工場より追はれ然らざるも彼は一個の機械の附屬品としてその生理的補給を繋ぎ得る程度の賃銀に甘んぜねばならぬこととなつた．故に我等生産者は如斯宣言す我等は決して機械で無いと．我等は個性の發達と社會の人格化の為めに，生産者が完全に教養を受け得る社會組織と生活の安定と自己の境遇に對する支配權を要求す．顧みてわが日本の産業界を見るに，女工は紡績會社にうめき幼年工は勤勞の長きに疲れ，地の底より女坑夫の叫び立ち上る嗚呼今は解放の時である．又勞働者の死亡率は増加し，その生活の不安の為めに嬰児の死亡，死産，流産は著しく増加し，勞働者の顔に死の蔭のさゝぬ時が無い．物價は騰貴し，罷工は相繼ぎ，組合の自由は認められず勞働者は全く自由民としての權利を否定せられて居る．今は日本の生産者の嘆きの時である．世界は産れ變わる．そして日本をのみ殘して前へ前へと進む．故に我等我等日本の生産者は世界に向つて如斯宣言す．日本の勞働者も国際聯盟とその勞働規約の精神に生き，地球が凡て平和と自由と平等の支配する所で有る為には我等も殉教的奮闘を辭するものでは無いと（『労働者新聞』1919．9．15）．

上記の「創立宣言」は「友愛会綱領[69]」とは異なって「人格」がキーワードになっ

---

[68] 賀川が草案を作成し，鈴木が修正を加え，再び賀川が書き直したものと言われている（芳賀 2005：38）．

[69] 1912 年 8 月 1 日に友愛会が創立された．友愛会綱領は次の通りである（友愛会・総同盟 1962：1；『友愛新報』1912．11．3）

一，我等は互に親睦し，一致協力して，相愛扶助の目的を貫徹せんとを期す．

一，我等は公共の理想に從ひ，識見の開發，徳性（道徳品性）の涵養，技術の進歩を圖らんことを期す．

一，我等は協同の力に依り，着実なる方法を以て，我等の地位の改善を圖らんことを期す．

ている．それでは，鈴木と賀川の人格に関する考え方はどうだったのか．鈴木は次のように記している．

> 先ず職工の人格を尊重せよ．然らば勞働爭議は跡を絶つに至らむ．勞働爭議一度跡を絶つに至らば，我が國の産業の發達は，旭日の昇天するが如くであらう（『友愛新報』1914．8．15）．

雨宮（2005：159）によると，鈴木が考えた「労働者の人格」とは，労働者自身が向上に努力すべき対象であり，労働者の人格を向上[70]させるため，勤勉，忠実，誠意，信用，報恩，同情，節険，衛生，反省，快活が必要であった．それに反して賀川は，労働力がただ商品にみられ，結果として軽視され無視されているのが当時の労働者の人格だったため，何があっても人間の権利として守るべきであると訴えている．

> 労働者を崇拝せよ．彼は蒔き，彼は苅る．彼は創造主の如く一日として休むこと無く，人間の為めにパンを作る．彼は織り，彼は建てる，凡て人間が生きて居れるのは，労働者のお蔭である（賀川1919b:4）．

つまり鈴木は労働者の人格が認められるように自ら努力しないといけないと述べる

ちなみに，第 21 回全国大会（1932．11．3‐5）で採択した日本労働総同盟綱領は，次の通りである（友愛会・総同盟 1962：238）．

一，我等は同朋相愛の理想に遵ひ，識見の開発技術の進歩，徳性の涵養を圖り，以て自己の向上と完成を期す．

一，我等は労働者の自主的組織と訓練により労働条件の維持改善並に共同福利の増進を期す．

一，我等は国情に立脚し，資本主義の根本的改革を図り，以て健全なる新社会の建設を期す．

[70] 『友愛新報』（1914．2．1）に掲載された「日々の心得十ヶ条」の内容は次の通りである．

一，（勤勉）熱心に精出して眞面目に仕事を為すこと

二，（忠實）何事を為すにも明日を頼むべらず，今日為すべき事は必ず今日之を為す事

三，（誠意）日々のつきあひは眞心を表すを第一とし義理を缺かず禮儀を失はず又人の迷惑にならぬ様氣を付けること

四，（信用）能く規則に從ひ時間と約束とは堅く之を守り，金銭物品の支拂返却等は期限を違へぬこと

五，（報恩）常に報恩の念を忘れ，恩ある人には訪問交通，墓參等を怠らぬこと

六，（同情）人には親切を盡し，人の不幸を思ひやり，病人其他難儀の人などを憐れむこと

七，（節儉）不如意不自由を常と思ひ，質素儉約を主とし，己に克ち慾を制し貯蓄に心懸くること

八，（衛生）命あつての物種子なれば常に衛生に注意し，身體の强健を圖ること

九，（反省）獨りを愼み，朝晩我が身を省みること

十，（快活）時々無邪氣なる樂を為し，常に氣持よく暮すこと

これは，棟居喜九馬が 1914 年 1 月から 3 月まで 4 回（1．15；2．1；2．15；3．1；3.15）に連載された内容である．

が，賀川の場合は，努力しなくても労働者そのものを認めるべきであると訴えているのである．このような考え方の差が，1920年の10月に第8周年大会において関東派と関西派とが対立するようになる背景になったのである（雨宮2005：154）．そのような中で，1921年6月に川崎・三菱造船大争議が起こり，賀川は実行委員となった．後に賀川は友愛創立10周年，7名の中央委員の一人となった．しかし，1922年6月から賀川は，労働運動から退いた．

鈴木と賀川がどのように連携したのかは先行研究からは立証できない．そして鈴木について賀川が記述しているところも探すことは難しい．それにもかかわらず，鈴木の「友愛会」を通して賀川の労働組合への考えが実践できるように舞台を提供したのは確かであろう．また二人ともキリスト教徒であったため，労働組合主義をキリスト教に基づいて成し遂げようとした類似点をもつ．なぜなら，総同盟主流派と左派（後に共産主義）の対立が表面化し，中央委員会は 1925 年 5 月 16 日，刷新運動参加の中部交通労働組合等 23 組合を除名したからである（総同盟五十年史刊行委員会1964a：1302‐1303）．総同盟主流派は，「労働組合は革命のための学校」とする共産主義者の支配・介入を排除し，労働組合の自主性を守って共産党による御用組合化を防ぐという強い決意を固めた．後に除名された労働組合は，直ちに日本労働組合評議会（評議会）を結成した．

このように鈴木は関東を中心として活動する一方で，賀川は関西を中心として活動していた労働組合運動を先導したのである．特に関西労働運動のリーダーとなった賀川は，「漸進主義，合法主義，非暴力主義」を掲げ，労働組合主義の中心人物となった．「無抵抗の抵抗」，「暴力否定」の思想とされる賀川の主張は，関西労働同盟会を中心に大きな影響力も持ったのである（総同盟五十年史刊行委員会1964a;1964b）．しかし，労働運動の開拓者であった二人が大正末期以後，労働運動から離れたことにより，著しく左傾し，闘争的となった．村島[71]（1941：99‐100）は鈴木の言葉を借り

[71] 村島歸之（1891．10．20‐1965．1．13）は，『毎日新聞』社会部担当記者であった．村島と賀川とが初めて面識をもったのは，賀川が帰朝して間もないころであった．賀川との出会いについて，次のように述べている．「大正六年夏，大阪府知事官邸の社会事業の集会で私は始めて賀川先生と相知った．（中略）私は四十四年前の初対面の日の事を忘れない．先生はアメリカ留学から帰朝されたばかりで，洋行帰りらしいパリッとした服装をしていた．（中略）先生は二十八才，私は二十五才の若き新聞記者であった．私は招かれて神戸の貧民くつに先生を訪ねて行った．（中略）その頃から約五年間は労働組合のリーダーとして行動を共にした．またインテリィの指導者の少ない時代とて，どこの組合の演説会でも二人は顔を並べて出演した．（中略）先生は人道主義の立場をとった．したがって今日の労働運動のような闘争的，革命的な運動には反対で，大正十年頃から，サンディかリズムやボルシエビズム（共産主義）の影響で日本の労働運動の左傾に伴い先生は次第に

て，労働運動から農民運動へ移った賀川の心境を記している．

> 此頃の賀川君は勞働運動に疲れて居た．或意味に於ては愛想を盡かして居た，少くとも持て餘し氣味であつた．事實大正七八年頃以後に於ける，サンヂカリズムの暴風に吹き捲くられて居た日本の勞働者は，基督者として賀川君の理想と信念との運動を甘く見て居た議會主義的方向に誘導せんとする普選運動に對する反抗，各種の運動，争議に對する方針の背反，最後に神戸大爭議の犠牲としての短期間ながらも，牢獄生活の痛手等，和やかにもセンシブルな賀川君の心境を痛めるに十分なる素材であつた．（中略）會々農民運動は當時少くとも全國的組織運動としては解放運動の處女地であつた．待望の叫びは全地に滿ち，好個の協力者として杉山君あり，運動資金としては豊富なる印税稿料の淨財がある．基督教的一新生面を農民運動の方向に於て開拓せんと，志を立てられたることは蓋し當然のことである（鈴木1931：294‐295，下線‐筆者）．

賀川は，自分が描いていた労働運動とは全く違う方向に向かっていく労働運動に心を痛め，結局退いていく．この点について鈴木は，当時の社会的状況がどのような雰囲気であったのかを詳しく書いている．

3. 杉山元治郎

杉山（1885．11．18‐1964．10．11）は大阪府泉佐野市で貧しい農家に生まれ，資力不足のために中学に行けず，学資を大阪府から補助してもらえる大阪府立の天王寺農学校に入学した．在学中に日本基督教会大阪南教会で受礼してキリスト教徒となった．卒業後，和歌山県農業会の技手となった．ところが，沖野岩三郎[72]（1876．1．5‐1956．1．31），加藤一雄（1896‐1992）などと交わり，非戦論が掲載された雑誌に関係したことが問題となり，職を辞して東北学院神学部に入学し，牧師を志した．卒業後，仙台東六番丁教会の牧師となったが，肺病を病み，紀州で療養して回復し，福島県の小高教会の牧師となった．小高教会が農村地帯にあったため，農村伝道に力

労働運動から遠ざかって行った（村島 1960：35‐36）．」後に村島は，新聞『新神戸』の編集顧問になった（大前 1964：7）．

[72] 明治学院で，賀川と同級生であった．

を入れるようになった．そして牧師館に小高学校を開設し，全国から農村子弟を入学させて学問と農業技術を授けた．福音を伝えつつ，農村の生活に親しんでいった杉山は沖野の文章[73]を読み，賀川に引きつけられることとなった．そして1920年10月，杉山は十年間の伝道と農村奉仕した小高を去り，新川に賀川を訪ね，自分の信念を語り，農村改良の助言を求めた．そのときの二人の出会いについて武藤は，次のように記している．

> 判った．労働組合運動は僕がやる．君には新しい運動，農民組合運動をやってもらいたい．しかし農民運動は時期尚早だから暫く待ってもらいたい（武藤 1981：293）．

労働組合運動の失敗[74]を経験した賀川は，1922年4月9日，神戸キリスト教青年会の大講堂において，キリスト教に基づいた日本農民組合の発足式を開いた．賀川の作品では杉山がどのように描かれているのか．

> 『農民組合を作るつて，君はどこから手をつけるつもりだね』
> さう，福岡が新見に尋ねたので彼はすぐ答へた．
> 『そうね，中心人物として，善い人があるのです…杉元米治郎[75]君と云ひまして，福島県の小高に高等農民学校を建てた男で，今，大阪の孤児院に居て子供に農業を教へるゐるものがあるのです．実に痛快な男で，大阪に出て来た理由は，歯科医の免状を取らうと思つて，奉仕的に孤児院の農芸主任の位置を選んで現在そこに居るのです．その男のことは，私の友人の音無が，去年の春でしたか，雑誌「雄弁」に紹介したことがありましたよ．あの人物でしたら，しつかりしてゐるから，是非その男に勧めて，組合運動をやつて貰はうと思つてゐるのです．それに農民は一般に遅れてゐますから，頭から主義主張で行かないで，啓蒙的に出て，徐々に改造運動に着手せねばならぬと思ひます』（賀川1924：592‐593）．

---

[73] 沖野 （1918．11）「日本基督教界の新人と其事業」『雄弁』
[74] 「キリスト愛に目指す賀川イズム，すなわち労働組合志向方式は，総同盟組織に侵入してきた暴力革命主義に撹乱され，賀川をしてサンジカリストの嫉視と反目の的たらしめた（武藤 1981：300）．」
[75] 誤字で，杉元米次郎と混載している．

杉山元治郎をモデルとする杉本米次郎が登場し，彼に関する記述は事実に基づいている．賀川は杉山に関して，次のように紹介している．

> 私の友人の杉山元治郎は，和歌山縣で農業技手をしてゐた時，肺結核になつて，二年のあひだ病院に寝込み，おしまひには，院長も「もう十日の壽命だと覺悟してください．」と附き添ひの人に囁いて，サジを投げてしまつた．（中略）かうして完全に健康を取りかへした杉山は，一九二二年四月に，日本で初めて全國的な規模を持つた農民組合が結成されたときには，その中央委員長になり，一九二六年三月には，最初の近代的社會黨といへる勞動農民黨の中央実行委員長になつた．私は彼に逢ふたびに奇跡の人を見るような感じに打たれる（賀川1950：82，下線‐筆者）．

賀川は杉山も同じ病気で患ったことに共感しており，またその病気が完治し，活動していることに高い評価をしている．賀川自身のみならず，「死線を越えた」人がもう一人がいることに感心したわけである．この二人の関係を片山は次のように記している．

> 死線を越えて挺身しておった賀川豊彦が，自分は牧師として，キリスト教の伝道に一身を献げたいことを宣言していたので，その代わりとして，信仰の友，杉山君を動かし，キリスト教の伝道や農村歯科医などをやめさせ，二人が相談し，敢然として日本農民組合を結成し，杉山君を日本における初代の農民解放運動の先頭に立って貰うことにしたのである．かくして杉山君は我国における小作農解放のノロシをあげる第一人者，第一線に立ったのである．その弱者の味方にふさわしいキリスト教の深き信仰は，多数の貧農の多大の信頼を集め，この農民組合団結の叫びは，全国的に伸びるに至った（片山1969：46，下線‐筆者）．

片山は賀川が杉山を動かして農民運動に身を投じさせたと述べているが，実に杉山は賀川に会う以前から農村と繋がっていたため，賀川によって動いたとは断言できないと考える．ただし，賀川によってより活動が具体的になったのも確かであろう．このように賀川と杉山は，二人三脚のような形で働き始め，農民の社会的自覚を促す目

的及び農村ミッションの一部として農民福音学校を創立した．これはデンマークのフォルケ・ホイスコーレに倣ったもので，農閑期に農村青年を集めて教育するものであった．この点について3章で具体的に述べていく．

小括

人間は，自然環境，人間環境，社会環境の中で生きている．そしてその環境から様々な影響を受けながら生きていく．特に数多くの出会いの中で，自らの考え方や生き方を決めていく．賀川の社会福祉実践や思想も同様であろう．本章では，賀川を巡る重要な他者との出会いについては思想的出会いと実際的出会いに分けて分析した．読書を好んだ賀川は，マイヤースの書斎で多くの思想家に出会い，賀川自身がこの世で何をしながら生きていくのかについて気づいたのである．特にイエス，トルストイ，ウェスレーを通して，「福音」「平和」「奉仕」というキリスト教徒としての生き方を学んだ．そしてローガンとマイヤース，鈴木，杉山との実際的出会いによって，社会福祉実践や組合運動という具体的な活動へ繋がっていったのである．

【参考・引用文献】

[日本語]

青井和夫（1987）「終章　現代日本人のライフコース」森岡清美・青井和夫編『現代日本人のライフコース』日本学術振興会，385 - 403.

天池清次（1990）『友愛会・総同盟運動史 - 源流をたずねて - 』民社党教宣局.

雨宮栄一（2003）『青春の賀川豊彦』新教出版社.

雨宮栄一（2005）『貧しい人々と賀川豊彦』新教出版社.

稲垣久和（2012）『社会福祉とキリスト教』教文館.

井上貞蔵（1980）「貧民窟と少数同胞」谷川健一編『日本庶民生活史集成』第25巻部落（二），三一書房，723 - 752.

今津孝次郎（2005）「社会化とライフコース - 変動社会の人間形成 - 」宮島喬編『現代社会学　改訂版』有斐閣，164 - 181.

岩間伸之（1992）「社会福祉研究とライフコース」『社会福祉研究』第54号，81 - 86.

大前朔郎（1964）「解説」総同盟五十年史発行委員会編『友愛新報集成-大正昭和労働運動・社会民主主義研究資料（1）-』柏書房，1 - 21.

呉允台（1968）『日韓キリスト教交流史』新教出版社.

呉允台（1980）『在日大韓基督教東京教會七十二年史』恵宣文化社.

賀川豊彦（1906）「世界平和論－帝国主義は人文史の一段階－」『賀川豊彦全集』第10巻，キリスト新聞社，265 - 270.

賀川豊彦（1909）「無の哲学」『賀川豊彦全集』第24巻，キリスト新聞社，368 - 369.

賀川豊彦（1915）『貧民心理の研究』『賀川豊彦全集』第8巻，キリスト新聞社，3 - 269.

賀川豊彦（1919a）『精神運動と社会運動』『賀川豊彦全集』第8巻，キリスト新聞社，271 - 560.

賀川豊彦（1919b）『労働者崇拝論』『賀川豊彦全集』第10巻，キリスト新聞社，3 - 39.

賀川豊彦（1920）『死線を越えて』『賀川豊彦全集』第14巻，キリスト新聞社，3 - 224.

賀川豊彦（1921a）『イエスの宗教とその真理』『賀川豊彦全集』第1巻，キリスト新聞社，135 - 222.

賀川豊彦（1921b）『太陽を射るもの』『賀川豊彦全集』第14巻，キリスト新聞社，225‐403.

賀川豊彦（1922）『聖書社会学の研究』『賀川豊彦全集』第7巻，キリスト新聞社，3‐83.

賀川豊彦（1924）『死線を越えて（下巻）‐壁の声きく時‐』『賀川豊彦全集』第14巻，キリスト新聞社，405‐606.

賀川豊彦（1927a）「少年小説　私の少年時代」『少年世界』8月号，84‐91.

賀川豊彦（1927b）「腹這ひして見た蜃気楼」鷲山弟三郎『明治學院五十年史』明治學院.

賀川豐彦（1929）「序」ジョン・ウェスレー著・賀川豐彦，黒田四郎共著『ジョン・ウェスレー信仰日誌』教文館出版部，1－5.

賀川豊彦（1936）『キリスト教兄弟愛と経済改造』『賀川豊彦全集』第11巻，キリスト新聞社，171‐224.

賀川豊彦（1937a）『女性讃美と母性崇拝』『賀川豊彦全集』第7巻，キリスト新聞社，305‐471.

賀川豊彦（1937b）「夫婦の苦闘の跡」『賀川豊彦全集』第22巻，キリスト新聞社，250‐252.

賀川豊彦（1950）『キリスト教入門』大泉書店.

賀川豊彦（1951）『爪先の落書』『賀川豊彦全集』第20巻，キリスト新聞社，376‐430.

賀川豊彦（1955a）「わが村を去る」『若き日の肖像：わたしの青少年時代』毎日新聞社.

賀川豊彦（1955b）「若き日の思い出」旺文社編『若き日の思い出』旺文社，77‐85.

賀川豊彦（1956）「求道者としての読書」『読書入門』，高校コース 5月号，学習研究社.

賀川豊彦（1959）『病床の道場として‐私の体験した精神療法‐』福書房刊.

賀川豊彦写真集刊行会編（1988）『賀川豊彦写真集‐生誕100年記念‐』東京堂出版.

賀川豊彦著・米沢和一郎，布川弘編（1991）『賀川豊彦初期史料集：1905‐1914』緑蔭書房.

片瀬一男（2003）『ライフ・イベントの社会学』世界思想社.
片山　哲（1969）「キリスト教社会運動家の生涯」杉山元治郎先生追悼録刊行会編『聖愛の種まく人』キリスト新聞社.
金井新二（1982）「付論　賀川豊彦における実践的キリスト教のエートス」『「神の国」思想の現代的展開 - 社会主義的・実践的キリスト教の根本構造 - 』教文館，315 - 341.
川島幸夫（1976）「ヨハン・ヒンリッヒ・ヴィヘルンと賀川豊彦 - 二人のキリスト教社会主義者 - 」『西南学院大学法学論集』第8巻第2・3・4号，133 - 154.
岸　積（1968）「賀川豊彦」徳島の百人編集発行会編『徳島市民双書1　徳島の百人』徳島市中央公民館，109 - 112.
国原吉之助訳（1965）『タキトゥス』世界古典文学全集12巻，筑摩書房.
琴秉洞（クムビョンドン）（1996）「解説 - 戦前篇Ⅰ」『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅲ　朝鮮人虐殺に関する知識人に反応Ⅰ』緑蔭書房，（1）-（22）.
倉橋克人（2011）「日本キリスト教史における賀川豊彦 - 先行研究との対話を通して - 」賀川豊彦記念松沢資料館編『日本キリスト教史における賀川豊彦：その思想と実践』，新教出版社，264 - 334.
栗原直子（2001）「賀川豊彦の『死線を越えて』の保育学的分析-スラムの子どもを中心に-」『乳幼児教育学研究』10，65 - 72.
黒田四郎（1971）「神戸神学校二十年の足跡」 中央神学校史編集委員会『中央神学校の回想 - 日本プロテスタント史の一資料として - 』聖燈社，85 - 98.
黒田四郎（1983）『私の賀川豊彦研究』キリスト新聞社.
左近　毅（1996）「賀川豊彦における平和思想の形成過程 - トルストイの影響をめぐって」大阪市立大学部紀要『人文研究』第48巻第2分冊，27 - 41.
社会局第一部（1924）「朝鮮人労働者に關する状況」.
中央神学校史編集委員会（1971）『中央神学校の回想 - 日本プロテスタント史の一資料として - 』聖燈社.
徳島教会（1989）『徳島90年史（年表・写真・資料集）』日本基督教会徳島教会.
徳島の百人編集発行会編（1968）『徳島市民双書1　徳島の百人』徳島市中央公民館.
在日韓国青年同盟中央本部編（1970）『在日韓国人の歴史と現実』洋々社.
左近　毅（1996）「賀川豊彦における平和思想の形成過程 - トルストイの影響をめぐ

って‐」『大阪市立大学文学部紀要』第48巻，第2分冊，1‐15.
嶋﨑尚子（2008）『ライフコースの社会学』学文社.
嶋田啓一郎（1985）「賀川豊彦は私達にとって何を意味するのか」『賀川豊彦学会論叢』創刊号，2‐17.
資料集（1991）『「賀川豊彦全集」と部落差別‐「賀川豊彦全集」第8巻の補遺として‐』キリスト新聞社.
ジョン・ウェスレー著・賀川豐彦，黒田四郎共著（1929）『ジョン・ウェスレー信仰日誌』教文館.
鈴木武仁（2005）「書評　雨宮栄一著『青春の賀川豊彦』‐実証的手法により賀川の思想像を解明‐」『賀川豊彦学会論叢』第13号，146‐153.
鈴木文治（1931）『労働運動二十年』一元社.
総同盟五十年史刊行委員会（1964a）『総同盟五十年史』第1巻，大洋印刷.
総同盟五十年史発行委員会編（1964b）『友愛新報集成-大正昭和労働運動・社会民主主義研究資料（1）-』柏書房
芳賀清明（2005）「日本労働運動の先駆者　鈴木文治　心の風景‐上野公園で開催された始めてのメーデー」労働問題研究会議編『労働レーダー』29(8)，37‐39.
林　啓介（2000）『阿波の偉人伝　賀川豊彦』株式会社阿波銀行.
朴慶植（バクキョンシク）編（1975）「9　神戸市在住朝鮮人の現状（一九三〇年）：神戸市社会課」『在日朝鮮人関係資料集成』第一巻，1045‐1078.
平野零児（1961）「こんなもんや物語　みなと太平記　敗者の歌（四）」『神戸新聞』（1961．3．1）.
深田未来生（1984）「C．A．ローガンとH．W．マイヤース‐賀川豊彦を巡る宣教師達‐」『キリスト教社会問題研究』第32号，129‐145.
深田未来生（1985）「福音の種蒔き人‐チャールズ・アレキサンダー・ローガン」『賀川豊彦研究』第6号，2‐9.
藤崎宏子（1987）「ライフコースにおける転機とその意味づけ」森岡清美・青井和夫編『現代日本人のライフコース』日本学術振興会，73‐99.
藤永　保編（1973）『児童心理学‐現代の発達理論と児童研究‐』有斐閣.
武藤富男（1964）「解説」『賀川豊彦全集』第10巻，キリスト新聞社，453‐473.
武藤富男（1981）『評伝　賀川豊彦』キリスト新聞社.

村島歸之（1941）「社会事業の先覺（6）賀川豊彦」大阪府社会事業協会『社会事業研究』第29巻第3号，94 - 102.

森岡清美（1987）「序章　ライフコース接近の意義」森岡清美・青井和夫編『現代日本人のライフコース』日本学術振興会，1 - 14.

森岡清美（1996）「ライフコースの視点」井上俊・上野千鶴子・大澤真幸・ほか編『ライフコースの社会学』岩波書店.

森岡清美・青井和夫編（1987）『現代日本人のライフコース』日本学術振興会.

森六商事社史編集室（1967）『森六商事三百年史』凸版印刷株式会社.

山田昭次編（2004）『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅴ　朝鮮人虐殺関連新聞報道史料Ⅰ』緑蔭書房.

友愛会・総同盟（1962）『50年史年表（上巻）：1912年 - 1940年』日本労働組合総同盟50周年記念事業資料蒐集委員会.

吉田久一（1984）『日本貧困史』川島書店.

横山春一（1951）『賀川豊彦傳』キリスト新聞社.

米沢和一郎（2006a）「Realistic Pacifist 賀川豊彦と中国」明治学院大学キリスト教研究所『紀要』第38号，73 - 101.

米沢和一郎（2006b）『賀川豊彦の海外資料 - 光と影の交錯を読み取るために - 』 明治学院大学キリスト教研究所.

米沢和一郎（2007）『賀川豊彦の海外資料Ⅱ - その意図したものを読み解くために - 』 明治学院大学キリスト教研究所.

李善惠（2009）「プロテスタントが社会福祉に及ぼした影響に関する研究 - 近代初期における日韓社会事業を通じて - 」同志社大学大学院社会学研究科 2009 年度修士論文.

H. W. メイヤ著・大西誠一監訳（1976）『児童心理学三つの理論 - エリクソン・ピアジェ・シアーズ - 』黎明書房.

Janet Z. Giele・Glen H. Elder, Jr. Methods of Life Course Research : Qualitative and Quantitative Approaches, Sage Publications.

（＝2003，グレン．H．エルダー・ジャネット．Z．ジール編・正岡寛司・藤見純子訳『ライフコース研究の方法 - 質的ならびに量的アプローチ - 』明石書店）.

Robert Schildgen（1988）Apostle of Love and Social Justice Centenary Books（＝2007，ロバート．シルジェン著・賀川豊彦記念松沢資料館監訳『賀川豊彦 - 愛

と社会正義を追い求めた生涯 - 』新教出版社）.
Romain Rolland（1921）Vie de Tolstoi Librairie Hachette（＝1947，ロマン　ロラン著・宮本正清訳『ロマン・ロラン全集第四十巻　トルストイの生涯』みすず書房）.
Toyohiko Kagawa（1937）Brotherhood Economics London Press（=2009，賀川豊彦著・加山久夫，石部公男訳『友愛の政治経済学』日本生活協同組合連合会）.
『朝日新聞』（1923．10．24）
『大阪毎日新聞』（1923．9．23）
『神戸新聞』（1961．3.1）
『東京朝日新聞』（1924．9．5夕刊；9．6朝刊）
『読売新聞』（1923．10．24；12．22）
『友愛新報』（1912．11．3；1914．9．15）
『労働者新聞』（1918．7．15；1919．9．15）

（ホームページ）
国立国会図書館デジタル資料　http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/802964，20130704閲覧（商業興信所神戸出張所（1901）『神戸市経済便覧』商業興信所神戸出張所，1 - 2．）
国立国会図書館デジタル資料　http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/900802，20130704閲覧（商業興信所編（1904）『大阪市京都市神戸市名古屋市長崎市経済便覧』商業興信所，113 - 114．）
国立国会図書館デジタル資料　http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/907100，20130704閲覧（商業興信所（1915）『大阪市京都市神戸市名古屋市経済便覧』商業興信所，91．）
友愛会歴史研究　http://www15.ocn.ne.jp/~uirekisi/12.html

［英語］
Glen H. Elder Jr（1977）Family History and the Life Course，Journal of Family History，2（4），279 - 304.
Toyohiko Kagawa（1931）FRIENDS OF JESUS Vol. Ⅳ. No. 1.

第Ⅱ部　賀川豊彦の社会福祉実践･思想

死を覚悟してスラム街に行くことを決心した賀川は，神学生というアイデンティティーをもっていたため，スラム街で最初に伝道活動を行った．まず，賀川の日常生活は次の通りである．

> 此頃の新見の日課は朝五時から青年を教へ，七時からは病人達の世話を一通りみて廻り，それから，著述に従事し，午後になると貧民窟を見て廻つて困つた人を病人に送つたり，お葬式をしたり，戸籍をつけたり，子供を遊んだり，そして晩になると六時から夜学校を始めて，八時に辻説教に出て，九時半頃に帰つて十時頃に寝るのが普通であった（賀川1921b：265）．

一日5時間しか睡眠が取れていないことからも，様々な事業を行っている賀川の忙しさが感じられる．その中で賀川は著述活動も続けていたのである．当時，賀川が伝道活動を通して出会った人々は，次の文章から明らかになる．

> 朝四時すぎには沖仲仕のため路傍説教，五時すぎからは労働者少年の勉強，夜は毎晩路傍説教と屋内の集会．それにひどい梅毒患者や腸肺結核患者の世話，精神病者や身体障害者，ごろつきや売春婦などに取り囲まれての伝道生活（黒田[76]1960：27）．

朝から晩までの路傍説教の時に出会った人々は，当時の社会から排除され，いわゆる下層民と呼ばれた人々であった．伝道活動以外に病者や障害者の世話を黙々と続けた賀川の姿が想像できる．このような生活が毎日続いていた賀川に対して，黒田は全く頭が上がらないと告白している．死を覚悟したからこそ，惜しみなく心や力を尽くして周りの人々を世話できたのであろう．

---

[76] 黒田（1983：143‐144;411‐412）は，1914 年 3 月に初めて新川を訪れ，それ以来常に出入りし，1918 年に神戸神学校を卒業してから 10 年間は日本基督二宮教会と新川の伝道師を兼任し，1928 年から「神の国運動」にて賀川と一緒に活動した人物である．

その中で，賀川は新川に入ってまもなく，「貰い子殺し」という痛ましい場面に遭遇する．貰い子とは，事情があってどうしても育てられない赤ん坊がいる場合，仲介者を通し，いくらかの金銭と赤ん坊の着物などをつけてスラム街の貧しい人に委託する制度である（栗原2001：67）．問題は，生活が貧しく子どもの養育ができない状況に置かれているにもかかわらず，目の前のいくらかの金銭と着物がほしくて赤ん坊をもらい，結局乳を飲ませずに死なせてしまうことであった．しかし，それだけではなかった．スラム街では家族の生活のための「女の子の身売り」問題もあった．新川は，劣悪な生活環境で，暴力，犯罪，人身売買という問題が頻繁に起こった地域でもあった．賀川が新川で経験した様々な出来事は，彼の人生に大きな影響を与えた．悲惨な生活を目の当たりにした賀川は，キリスト教において「魂の救い」のための伝道だけでは貧困の問題を根本的に解決できないことを痛感した．それゆえ，賀川は「魂の救い」のための伝道に加えて，この世で生きている間の健康な生活が保障される「肉の救い」のためのより具体的な社会福祉を実践することとなったと言える．

同時代の神学者のカール・バルト（Karl Barth，1886．5．10‐1968．12．9）は「片手に聖書を，もう一方の手には新聞」という有名な言葉を残した．これはtextとcontextとの相関性を訴え，キリスト教徒ならば，聖書だけではなく，新聞をよく読み，今生きている社会の現実もよく見るべきであるというものであり，キリスト教徒としての生き方を提示していると考えられる．そのバルトと同じように賀川も，伝道だけではなく，スラム街で貧民とともに住み，現実に置かれている貧民のニーズに応じる事業を提供することによって，真のキリスト教徒になることができると考えた人物である．

第Ⅱ部では，賀川が実際にどのような活動をしたのか，それが社会福祉分野においてどのような意味があるのかについて検討する．伝道活動から始まった賀川の活動がスラム街の現実的な状況に出会い，彼らのニーズに応じて行われた「救霊団」，「本所基督教産業青年会」，「農民福音学校」などの様々な事業を中心に検討する．そして，その活動の原動力となった賀川の社会福祉思想について『死線を越えて』，社会福祉と関連する雑誌や『農村社会事業』という著書や論考を中心に社会福祉実践の根底にある思想を分析していく．用語の定義については，序章のところで言及しているように，賀川は「貧民救済事業」「セツルメント事業」「社会事業」などの用語を主に使っていたが，本研究では，総体的に包括する意味として「社会福祉」という用語

で統一して述べていく．ただし，引用する際は，そのまま使用する．

第3章　活動からみる賀川の社会福祉実践

賀川の人生の転機（turning point）は，1909年12月24日に神戸市葺合新川に住み始めたときであろう．そしてスラム街で出会った人々の生活は，賀川にとってキリスト教に基づいた社会福祉への具体的な活動に大きな影響を及ぼしたのである．第3章では，賀川がスラム街で具体的にどのような活動をしたのか，特に「救霊団」，「本所基督教産業青年会」，「農民福音学校」での賀川の活動を中心に言及していく．

第1節　救霊団

賀川が死を覚悟して入った神戸スラム街の生活は悲惨なものであった．彼は，スラム街での10年間の経験を次のように記している．

> 私は貧民窟へ這入って，初めて，金の大切なことに気がつきました．そして金五円の為めに…それが欲しい計りに，段々いためられてしまつた貰ひ子を，お粥で殺して，栄養不良として届出すものですが，私はその種類の中に，最も悲惨なものを見ましたのは，明治四十四年一月二日にその貰ひ子が死んで，私が葬式をして，その後四五日してその家を訪問して見ると，また同じ形の赤ン坊を抱へて居るのです（賀川1920b：157）．

賀川にとって最も悲惨だと感じた出来事は「貰い子殺し」で，罪の意識なしに「貰い子殺し」が繰り返されている光景に大変ショックを受けていた．この点について賀川（1915：260）は，神戸葺合新川でどのくらい「貰い子殺し」が起きているのかについて調べたことはなかったが，数百人の「貰い子殺し」があると断言している．こうして貰い子を殺す人は背徳者であると批判し，貧民特有の犯罪であると痛嘆している．生活難により，スラム街の人々の生活は惨憺たるものであった．そして賀川は，次のように述べている．

私は朝から晩まで貧民窟に住んで居るので，貧乏のいかに辛いものであるかと云ふことをつくづく思ふのである．が，そのまた貧乏といふのが，精神生活に及ぼす影響の如何を考へまた目撃すると，実に口にも筆にも及ばぬ惨担たるもので，折々窮りない厭世感に魘われることがある（賀川1915：5）．

つまり金銭的な困窮が，貧民の精神にも影響を及ぼしたということであろう．しかし，金銭的な困窮のために行われている犯罪について，賀川の考え方は肯定的ではなかった．賀川は貧しい人々が社会環境によって疲弊していくことを痛感し，その解決方法を見つけようとしたのである．次の【表3－1】は，1911年12月の『救霊団年報』に載せられている事業である．事業の内容を把握するため全文を載せる．

【表3－1】救霊団の事業報告

事業	内容
伝道	□一週間　集會総計十二回以上，傳道個處四ヶ所葺合，糸木，辨天，橘通，毎月一回位い巡回するは住吉，林田，等其他東出町，川崎町は造船所の職工を主として傳道なし六月まで試み六七名の改悔はありましたが，軍艦の建造に急しく思ふ様に集會に出來ず，夜になれば皆湊川へ聴衆を奪れるので，湊川の天幕傳道をお助けするに決心し四月より九月末まで，大抵週二回出張しました，其外大祭祝日は朝より湊川で日暮れるまで説教します，天長節にも八回集會し千人以上の聴衆がありました，一月二日より四日間毎夜，紀元節，春季皇靈祭，秋季皇靈祭，神嘗祭に湊川で説教しました，湊川の遊民にも良心が入ります． □日曜日，葺合北本町六丁目救靈団 ▲午前五時より三十分間勞働者禮拜平均十四名出席▲六時より一時間半朝讃美傳道▲午前八時吾妻通六丁目貧民窟日曜學校平均十五名出席▲午後二時日曜學校平均出席十七名▲午後六時半より一時間辻説教▲七時半より傳道説教多い時で五十名少なくて二十名，平均三十名． □月曜日，福音印刷會社にて七時半より聖書研究，八時より讃美歌練習． □火曜日，最も愉快な傳道，朝五時より辨天濱にで沖仲仕，石炭夫，掃除夫数名にトラクト配布，讃美傳道，結果が非常に面白ろいのです． □水曜日，午後六時半路傍説教，七時半祈祷會 □木曜日　家庭集會．金，病者訪問或は湊川方面，橘通，土曜日朝糸木，尻池，夕青年及少年の組々の聖書研究と親交會 □婦人會　第一月曜夜パーク先生ベチット先生の説教，婦人三十五六名出席．
無料宿泊所	之と云ふて取りたてゝ云ふことはありませぬが，大阪朝日で『浮浪人の家』だと批評があつた通り，全く無料宿泊などと云ふ看板もかけているわけで無いので，一年半も無料宿泊どころじゃなく，只で食つて學校へ行く子供もあれば，近所で蒲團が無いので，泊りに來る人もある，全く家内同様で唯今合計八人の家庭で，喧嘩などは男計りでもあつたことはありませぬ．それで六ヶ月も居れば獨立するもあり，相

	當に神の愛が解つて出て行きます．それでだれでも泊めませぬ．また蒲團が足らないのも一つの理由ですし．浮浪人は東京と違つて必ず仕事はありませず，多くは低能か病人ですから食物がいります．宿泊して食物與へますと惰ける．それで出來るだけ人選して救済して居ります．之で三十人以上のものが一ヶ月以上居たでしょう．其外無料給飯は二十名以上に渡り，大抵二週間以上食ひに來ます．
病者保護	去年十月金が無くなつて止めようと思つていると有名なアメリカの牧師，エ，チ，ピアソン氏より寄附があつて，去年十二月には五人，一月十人，二月六人，三四五月四人，六月二人，七月より九月迄二人，九月より一人，今は金が無いから一人きり病室に寢ていられます，本年は葬式代のかわりにと思つて金を多く出して病人の世話を致しました甲斐あつて，藤田，安川，高瀬，本多，松本，坂根，佐竹，山本等，十人以上の生命を救ひました，之は神の力です．
醫療施療	前田醫師と江澤醫師へ毎月十五名以上送ります，八月は藥代四拾圓拂ひ十月は拾六圓拂ひました，それで一年二百名以上のものが病苦より救はれて居ます，救靈團では，貳百藥代を拂ひました，前田氏が藥價三分の一にて江澤氏が二分の一で施藥して下さるは感謝の外ありませぬ．
無料 葬式執行	本年は貧民窟に死人が少なかつた為め苦痛が少なう御座りました，それでも十二人計りの葬式料を拂ひました，たゞ死亡診断書を取つて上げたのは五六人あります．
生活費支持	十七名計りに資本金百拾數圓を與へました，拾圓三名，六圓六名，其他一年間リュウマチスの一家族に米を日に五拾平均に與へましたもの，壹圓以上與へたものも大分あります，此中半分以上成功して居ります，或者は二百圓も儲けて居ります．
児童受護	昨年クリスマスに貧民家庭招待を願ひましたが，日本基督教會の有志の家庭で十二人家族川井様，青木様，野口様，出口様，鎌田様，富田様，西川様，大村様，上岡様，團野様で三十五名計りの貧しい子女を御招待下さいました，之が非常に結果がよく彼等は生まれて初めての印象を受けた様です．此處で皆様にお禮を申します．
家庭 感化避暑	大阪朝日通信部花田大五郎氏の御盡力で八月十五日より二週日の間で，家庭に一日なり一週間なり，中流以上の家庭を見せて頂き一方避暑のため，一方感化のため御同情を仰ぎたいと大阪朝日の神戸附録で御發表を願いました，其結果御賛成を仰ぎましたのは十一家庭香櫨園の牧野耕三氏，御影加藤直士氏，神戸にては折坂，渡邊，内川，野口，竹田，村上，上岡，西川，吾孫子諸氏でありました．然し其の中三家庭は賀川主幹の関東貧民研究旅行の都合或は御家庭の都合で冬に延び，七家庭，八人だけ八月中に御世話願いました，其中一家庭は下女にと云はての御望みでしたが之は不幸にして中折し成功しませんでしたが，外は大成功でした，深く大阪朝日新聞と花田氏始め皆様に感謝いたします．其結果としてお辭儀を覺えたことなどは著しい事實です，又云へぬ所に賢くなつた様です．其外，新聞紙により，下女を送れの御申込は數家庭より，又十月になつて但馬より熊々貧児を世話したいと貧民窟へ出て來られた特志家もありましたが，下女になる迄には貧民窟で既に墜落していること，十二三の女子でも外に出て女中になると家計が持てぬことを説明して御辭退しました，また職工に送れと云ふことでしたが，職工に送れるものは救靈團の手を借らずに出て言つて居りますから，御辭退しました．
避暑 慰安旅行	□八月十八日午前八時十八分三宮發，一行六十五人の貧児を一日須磨で遊ばせました，子供は天に飛び上る様に喜びました，其中二十四名だけは昨年明石へ行つたものでした．

職業紹介	□日雇人夫五十名，下女二人，然し之れは進んで致して居りませぬ，之をするには余り繁劇であります．
裁縫夜學校	玉置婦人が毎週三回火木土六時半より九時迄御教授下さいます，生徒は十三名，之は發展させたいものです，御同情を願います．
一膳飯天国屋の閉鎖	食物改良を勞働者の福音として決行いたしましたが，毎月十圓以上缺損するのと一寸と悪魔が這入つたので，閉鎖しました．然し之は金が出來たらまた開きたいと思つています．成功計りじゃあまり嘘の様ですから失敗も書いて置きます，然し此天国屋で無料で一飯の食を與へたこと數十人，正月の如きお雑煮を無代價で祝へない人々百人に御馳走しました．
クリスマス饗宴と慰安會	三百人の男女にお餅七個と手拭一筋，三百人の子供にはお菓子一袋を御馳走しました，またウイルクス氏は二百名の廃疾者を二日に晝食を與へられました，正月には小供や大人に賭博さゝないために運動會を廣場で初めました，又折々話や蓄音機を雇ふて來て近隣の淋しい人々を慰めて居ります，日曜學校の生徒のため四十四年には三回運動會を催しました．

出所：『救靈團年報』（1911．12），傍点ママ

上記の内容は当時のスラム街の雰囲気が感じられる記述である．ここから，賀川が，救霊に対する情熱をもって，伝道活動に力を入れたことが分かる．これが「救霊団」の誕生に関わる．「救霊団」とは，賀川が1910年1月2日に初めて礼拝をささげた自宅兼伝道所の名称である．国家制度が整備されていなかった時代に賀川は，自ら自宅を開放し，「貧民救済事業」の根拠地として役割を果たした．つまり賀川は1909年12月24日にスラム街に入ってからまもなく，自宅に伝道所を開け，そして1911年12月の『救靈團年報』に様々な事業を載せるほど，約2年間に救済事業を行っていたのである．もちろんこの中には一膳飯天国屋の閉鎖のように失敗した事業もある[77]．しかし，失敗にもめげずに事業を次々と展開していったのである．

以上に挙げた様々な事業を行うことが出来た賀川の行動力はどこから生まれたのであろうか．その原動力について賀川は次のように述べている．

『私が，今度，もしも，善くなつたら，屹度，葺合新川の貧民窟へ這入つて，一生を神に捧げますよ，今度，よくなつたら，それは全く，皆様の御親切のお蔭です』と感謝した．（中略）然し栄一は，神が彼に委託した或事業‐それは，貧民問題を通じて，イエスの精神を発揮して見たいと思つて居ること‐その為めに貧民窟で一生送ると云ふ聖き野心を遂げ得るまでは，死なぬと云ふ確信を持つて

[77] 「天国屋の商売は思つたやうに面白く行かなかつた（賀川 1921b：257）」

居た．彼は死を飛び越えて，神秘の世界に突き込んで居ると云ふ一つの信念を持つて居た（賀川1920a：143）．

これは賀川が病気で入院した際，病気が治癒したら一生を神に捧げようと決心している場面であるが，容態が悪化し，無意識の中で，貧民問題を通してイエスの精神を発揮してみたいと切に願っている内容である．死の峠を越えた賀川は，貧民問題の解決こそ神から任された使命であると強く認識していたのであろう．それゆえ賀川は，伝道以外に貧民に食事を提供したり，病人に薬を与えたりして，12項目にも及ぶ事業を展開していったのである．地域が必要とする様々な事業を始め，その活動は質・量ともに成長していったのである．この救霊団は1914年にイエス団と名称を変更した．次は1929年2月25日に発行された『神戸イエス団年報』のイエス団事業案内である（米沢・布川編1991：1116‐1117）．

診療所　眼科無料診療，児童健康相談，
　　神戸市兵庫五番町出張所　午後一時‐五時，小児科　無料相談
宗教部　日曜日
　　午前六時半　禮拜説教
　　午後七時半　傳導説教
　　午前九時　　日曜學校（二箇所）
　　水曜日　午後七時半，讃美歌練習，聖書研究，祈禱會
調査部　社会問題に關する實地調査
少年部　水曜日　午後課外集會
　　木曜日　夜　児童集會
　　月一回　　お話大會
出版部　雲の柱　毎月一回一日発行
人事相談部　調整中　託児所，裁縫講習，児童圓書部

上記のイエス団の事業案内から，賀川が力を入れた分野は，伝道活動（宗教部）以外に診療所と調査部の運営であったことが窺える．『神戸イエス団年報』によると，賀川はキリスト教伝道の傍ら，どん底生活に悩む貧困者の救助のため，特に医薬が不

足した病人のため，自ら医師や薬師を送り，その費用も払った．そして，1918 年 6 月から看護師が巡回を開始し，9 月神戸市葺合吾妻通五の三の場所において無料診療が始まったのである．1919 年 7 月から医師馬島倜（1893．1．3‐1969．10．5）[78]を中心に診療事業が行われ，神戸市長田番町部落にも出張所を設けて診療を開始した[79]．当時，伝染病であるトラコーマが流行していたため，1928 年 5 月から眼科無料診療が設置された．また，当時行われた調査の内容は，スラム街の 20 年の死亡調査で，結果は乳児，満一歳未満で死亡した乳児死亡率が約 40%と高かった．その理由として湿気や埃が多く不衛生な家で，乳児が発育不良になり，栄養失調や脳膜炎になったことが原因として取り上げられている．賀川はこの調査を通して，乳児の人格が形成される前から，すでに生存競争の世界に置かれていると痛感している．こうして診療所の中で児童健康相談が設けられたものと考えられる．その他にも，賀川は児童教育のため，夏季林間学校も運営していた．イエス団友愛救済所の事業報告は次の通りである．

【表3‐2】イエス団友愛救済所の事業報告

年	救済人員数※	一箇年延人員※	経費総額
1918	291	4,218	999.75
1919	1,031	9,130	3,625.73
1920	1,653	36,901	5,912.60
1921	1,409	27,105	5,797.23
1922	1,947	35,165	5,841.98
1923	1,820	35,100	5,920.55
1924	1,031	19,750	4,209.93
1925	631	18,545	4,151.80
1926	462	21,390	4,865.16
1927	655	28,078	5,019.20
1928	1,024	11,213	5,200.28
計	12,054	24,382	51,544.21

出所：『神戸イエス団年報』（1929．2．25）

※救済人員数と一箇年延人員の総計の差があるが，原文をそのまま引用した．

[78] 横山（1951：129）によると，馬島の人柄について次のように述べられている．「彼は線の太い，豪放磊落な，それでゐてデリカシーを解する文化人であった．そのうえ，貧しい人々に奉仕しようといふ積極的な熱意があるものだから，貧民窟の人々は，信頼と愛着をよせて，診療所は，いつも混雑した．」関東大震災のとき，賀川の協力者として東京に移り，無料診療を始めた人物である．

[79] 1921 年 7 月，馬島がアメリカへ留学に行ったため，於保泰造が代わりに従事した．1925 年 3 月から賀川の義妹八重が専任として従事した．

このように賀川は，調査によってスラム街に必要とされるものが何かを正確に把握しようとしたのである．イエス団は，今でも社会福祉法人・学校法人イエス団として存続している．次は，現在，イエス団が定めている憲章[80]である．

一，私たちは，賀川豊彦が実践したsettler（地域に生きる人々と共に歩む者）の精神を引き継ぐ．
一，私たちは，自立と相互扶助を目指した開拓的・実験的事業の精神を引き継ぐ．
一，私たちは，地域を越え，国境を越えて共に生きる平和な世界の実現に努めた精神を引き継ぐ．

つまり，賀川が神戸新川のスラム街に移り住み，貧困と差別に苦しむ人々の悲しみを自分の悲しみとして行った救霊団の活動は，今日でもイエス団の活動に継承されている．【表3－3】が現在のイエス団の施設である．

【表3－3】イエス団の施設

	施設名		施設名
京都	愛隣館研修センター	兵庫	（学校法人）甲子園二葉幼稚園
	愛隣デイサービスセンター		みどり野保育園
	遊隣，シサム，愛隣，ゆうりん		一麦保育園
	空の鳥幼児園		友愛幼児園
	野の百合保育園		二宮児童館
	桃陵乳児保育園		杉の子保育園
	桃陵保育園		真愛ホーム　特養・短期入所・東部支援
	ぶどうの木保育園		通所・ＨＨ
	くずは光の子保育園		包括支援
	宇山光の子保育園		東川崎高齢者ケアセンター真愛　通所
大阪	ガーデン　エル（乳児院）		包括・小規模多機能
	ロイ（児童養護施設）		楠葉新生園
	ガーデン天使		神視保育園
	四貫島友隣館		天隣乳児保育園
	天使保育園		のぞみ保育園
	天使虹の園	四国	光の子保育園
	天使ベビーセンター		坂出育愛館
	聖浄保育園		豊島神愛館
	馬見労祷保育園		瞳保育所
	愛之園保育園		豊島ナオミ荘

出所：イエス団の組織図（http://www.jesusband.jp/sosikizu.html，20130627閲覧）

[80] イエス団ホームページ（http://www.jesusband.jp/kensho.html，20130425閲覧）．

このように，当時の救霊団事業の伝道以外の12事業が，現代の児童・高齢者に関する施設など，40ヶ所に発展したことが分かる．学校法人の甲子園二葉幼稚園以外は社会福祉法人である．

なお，賀川の社会貢献の始まりを1909年12月24日，すなわち賀川が神戸新川に引越ししたその日と見なすことが一般的である．1929年の『神戸イエス団年報』も「明治四十二年より現理事長賀川豊彦は日本一と称せられるゝ神戸市葺合新川細民街に居をトし，基督教傳導の傍らドン底生活に悩む貧困者の救助の為し，醫藥に窮したる病人には自ら醫藥師を送り醫代金を支拂居りし（下線‐筆者）」と述べられている．ただし，筆者は賀川が1909年にスラム街に入ったその日も大きな意味があるとは思うものの，「救霊団」の誕生（1910年1月2日）こそが社会福祉の道を初めて歩み始めたことを記念するのに最も相応しい日ではないかと考える．

第2節　本所キリスト教産業青年会

関東大震災が発生した翌日，日曜日の礼拝が終わった後，賀川は『大阪毎日新聞』を通して大震災のことを知り，救済活動を決意し直ちに実行に移した．その日，賀川は文書を書いて，各教会が金品を集めて寄付し，キリスト教にある兄弟愛を全うするよう呼びかけた．そしてイエス団の幹部と，各教会の有志を集め，被害の実情を調査し，対策を講ずることとなり，賀川自身が東京へ向かうことになった（武藤1981：342‐343）．1923年9月2日午後4時，神戸から出発した賀川は，3日午後8時半に横浜に到着し，関東大震災の被害の惨状を確認した後，7日に神戸に戻ってきた．

被災者救済や震災地復興のため，救済資金を集めることが最も重要なことであると実感した賀川は，募金運動を開始した（横山1951：202）．特に関西地方だけでなく，中国，九州まで救済基金を集めるため，講演会や伝道集会を開催した．武藤（1981：345）によると，大衆伝道者木村清松の協力で，40回の集会で7,500円（今日の6千万円に相当する金額）の集会の入場料と寄付金が集まったと述べている．14日に神戸に戻った賀川は，大阪朝日新聞社後援の全関西連合婦人会に訴えて，布団の寄付を依頼した．さらに篤志家に訴えるなどして，布団，雑誌，衣類など40梱を整えてこれを携え，16日にイエス団の同士3名，木立義道，深田種嗣，薄葉信吾を連れて，東京に向かった．

賀川とイエス団の同士たちは 10 月 18 日午後，本所深川の被災地を視察し，救済復興運動の本拠を置くべき場所を探した．その結果，以前，キリスト教婦人矯風会が経営していた興望館の跡地を選んだ（武藤 1981：346）．賀川（1923a:300）は，日曜学校協会がアメリカの赤十字から貰った五つのテントを本所松倉町に張った．これが後の「本所基督教産業青年会」の設立に該当する．1923 年 10 月 19 日金曜日のことであった．その場所は当時の東京市本所区松倉町 2 丁目 62 番地（現：東京都墨田区東駒形西丁目 12 番町)であった（四十年史編集委員会編 1965：5)．設立の目的は，次の通りである．

> 基督教主義ニヨル青年ノ体育，徳育，智育ノ発達向上特ニ産業ニ従事セル青年労働者ニ自助的精神の普及ヲ図ラントスルモノデアル（四十年史編集委員会編 1965：7）．

このように関東大震災から2ヶ月も至らない間，募金活動を始めてから，「本所基督教産業青年会」の設立に至るまでの賀川の行動力は驚嘆に値する．そして上記の目的から，賀川がいかに「体・徳・智」のバランスを大切にしていたのかが理解できる．東京YMCAのウェブページ資料によると，本所基督教産業青年会について次のように掲載されている．

> 「一九二三年十月十九日，震災救護事業を賀川に託して誕生し，一九二五年二月十八日，賀川に無償譲渡した」ことになっている．　関東大震災からの復興のはじめ，救護と緊急対処が一段落した東京YMCAは，「東京青年会ノ再興ヲ促進スルタメ其ノ計画及経営ノ一切ヲ日本基督教青年会同盟復興部ニ一任」した．一九二三年十一月五日開催の理事会の決定である．年が明けて一九二四年，一月十五日の理事会が決めた臨時理事会が二十二日に開かれて，次のように決議した．「本所基督教産業青年会建物及設備ノ全部ヲ賀川豊彦氏ニ無償貸与シ東京青年会ヨリ独立セシムルコトヲ決議シ復興部ノ諒解ヲ得ルコト」．翌二月，理事会は「復興部役員会ノ決議」を報告している．「一，松倉町事業ニ関スル件　東京青年会ヨリ申出ラレタルニ対シ現在ノ本所基督教産業青年会ナル名称ヲ紛ラハシカラサルモノニ変更スル条件ノ下ニ建物設備一切ヲ賀川豊彦氏ニ譲渡スルコトトシ

且該事業ハ創始以来同氏ノ功労ニ対シ深甚ノ謝意ヲ表スル事トス　右ヲ賀川氏ニ通牒スルコト」（東京青年：2001年11月号より，http://tokyo.ymca.or.jp/ymca/mado/028.html，20130426閲覧，下線‐筆者）．

こうして賀川の指導の下で，救護復興の大運動，本所基督教産業青年会[81]の事業が開始されたのである（武藤1981：347）．本所基督教産業青年会の事業概況は次の通りである（四十年史編集委員会編1965：11）．

【本所基督教産業青年会事業系統表】

（宗教活動）

宗教部　宗教講演・日曜学校‐本所イエス団[82]（昭4．3．15[83]）‐東駒形教会（昭17．2．15）

（児童活動）

1．幼児保育　光の園保育所（大13．1）‐光の園保育組合（昭3．8）‐光の園保育学校（昭3．9．5）

2．クラブ　少年少女の会

3．夏期転住　林間学校（大13．7．25）‐臨海学校

（教育活動）

---

[81] 1924年1月22日に東京YMCAから独立した．

[82] 本所イエス団条令（抜粋，四十年史編集委員会編1965：14）

第一条　本教団は之を本所イエス団と称す．

第二条　本教団はイエス・キリストに在りて天父に忠実なる人々の団体にして聖書を講説し，キリストの立て給へる聖なる聖典を執行し，互助共助相愛を以って神国生活を体顕せんことを努め其福音を伝えて神国化運動に尽すを以って目的とす．

第三条　本教団員たる者はイエスの示顕し給へる天父と其独子キリストを大工イエスに於て信じ基督の福音によりて救はれ基督を其の生活の模範とする者にして特に左の綱領に忠実なるものたるべし．

一．イエス・キリストに在りて敬虔なること．

二．純潔なる生活を尊ぶこと．

三．労働を愛し社会奉仕を旨とすること．

四．人格的解放運動に努力すること．

五．基督教派合同促進のため努力すること．

第五条　本教団は本所基督教産業青年会宗教部として存立し，同会理事之を管理するものとす．

第六条　本教団は適当なる機会に於て他の教派に合同するものとす．（以下略す）

[83] 四十年史編集委員会編（1965：11）では，本所イエス団教会の誕生が1929年3月15日になっているが，『イエスの友會報』（1924．11．20）では，「産業青年會にて洗禮を受けられた友及決心された方々によつて，日本基督教會本所イエス團が設置されることになりました」と掲載されている．つまり，本所イエス団教会の誕生は1929年より少なくとも5年前に設置されたといえよう．

1．裁縫，編物，刺繍講習会‐裁縫女学校（昭3．9）‐東京家政専修学校（昭6．4‐20．4）

2．英学院‐労働中学（大15．4）‐産業学院（昭3．4‐8．12）

3．市民講座

（組合活動）

1．信用組合　神視社‐中ノ郷質庫信用組合（昭3．6．14）‐中ノ郷信用組合（低利事業資金貸付）

2．消費組合，江東消費組合（昭2．4．18）東京学生消費組合（大15．5）

3．医療組合，東京医療利用購買組合（昭7．5．27）

4．労働者組合，大工生産協同組合，家具生産協同組合，人力車夫組合（力興会）

5．協同組合学校

（調査活動）

本所深川地区住宅個別調査

（保健活動）

1．無料診療所‐労働者診療所

2．児童健康相談所

3．巡回看護婦，産婆

4．牛乳配給所，児童栄養食給与

（厚生活動）

1．職業紹介所（昭和5．4）

2．人事相談所

3．法律相談所

4．罹災者受容事業（バラック経営）

5．救済事業（衣料，寝具類配給）

6．簡易宿泊所，（独身寮）黎明寮（大13．12．1‐昭7．3．21）向日寮（大13．12．20‐昭6．8．10）

五つのテントから始まった事業は，上記のように拡大し，被災地の復興に向けて広げられていったのである．特に賀川は，すべての救護活動を一時的なものではなく，

一つのセツルメントの建設によって，組織的かつ教育的に進めようとした（横山1951：203）．

日本において，セツルメントについての関心が抱かれ始め，実際に施設が運営されはじめたのは1890年代からである（李善惠2009）．日本におけるセツルメントがどこで始まったのかについては議論[84]があるが，1923年にアメリカのジェーン・アダムスが来日（1923．6．14‐8．28）したことと同年9月に関東大震災が起きたことを契機として，1920年代の日本社会において急速にセツルメントに対する関心が高まったものと考えられる．永岡（2003：92）によると，セツルメント事業とは「十九世紀後半イギリスに生まれ，知識を享受することのできた大学生や牧師，中産階級の人々を担い手とし，下層労働者の多く住む貧困の地域に入って住み込み，民主主義とヒューマニズムの立場から，『人格的接触』，『友人関係』にもとづいて援助を行う運動である」と記されている．つまり，宗教家や学生などのインテリが，労働者が大勢いる街やスラムに定住（residence）し，その地域の調査（reserch）や住民との交流を図りながら，医療・教育・保育・授産などの活動を行う（reform）ことである．これらは，隣保事業とも言える．日本においてセツルメントを初めて論理的・体系的に著述した大林は，次のように定義している．

> セッツルメント（Settlement）は社會の階級分裂と云ふ事實に其の源を發してゐる．したがってそれは十九世紀に於けるイギリスの社會運動から發生して，後に社會事業の性質を帯び来り，現今に至つて再びそれは元の社會運動への復歸の傾向を示しつゝある一つの社會教育的運動となつた（大林1926：3）．

また生江（1931：264）は，「隣保事業とは，學識あり人格ある篤志家のグループが細民地區に自ら入り込んで定住（セツトル）し，其の近隣の人達のよき友人となり協同者となり，又親切なる指導者となつて，彼等を開發し自覺せしめ，以つて其の不當なる地位より脱却せしめんとする教育的社会事業である」と定義した．つまりセツルメントであれ，隣保事業であれ，大林や生江が述べた定義において，「教育的」運動という共通点を見出すことができる．それに対して賀川は，セツルメント事業につ

[84] 大林（1926：194）は有隣園を，生江（1931：267）は岡山博愛会を，西内（1971：35）は石井十次の活動を最初のセツルメントであると主張している．

いて次のように定義している．

> セツトルメント事業は元来人格交流運動をなすべく始められたものである．高い智識人格の持主が，その然らざる者の間に立ち交つて，彼等にその持てるものを交流せしめるのが目的である（賀川1926a：70）．
>
> 抑もセツルメント・ワオークの根本理論は人格の交流運動であると考へて差支へない．即ち，之れは智慧ある者が智慧なき者に向つて働きかける運動，情操高き者が情操の比較的低い人達に働きかける作用，意志の堅固なる者が比較的意志の堅固ならざる者に對して働きかける大衆運動である．換言すれば人民への運動である（賀川1926b：4）．

賀川はアメリカに留学していた1916年にハルハウスを訪れたり，また1923年にはアダムス来日の際に再会している（木原1993：36）ため，セツルメントについて詳しく知っていたと考えられる．つまり大林や生江のように「教育的」運動という見方をせず，賀川はセツルメント事業そのものが「人格交流」運動であると定義している．これが賀川のセツルメントの見方に関する特徴である．「教育的」運動は知識を持つ人が持たない人に対して教育する，いわば「上」から「下」への垂直的な立場となる運動であるが，「人格交流」運動は，互いに影響を与えること，すなわち「分ち合う，助け合う，励まし合う」などの水平的な立場となる運動であるといえよう．続いて賀川（1926a:21）は，スラム街のセツルメント運動について，「三重の運動」であると認識していた．これは「生理的な窮乏者」に対しては「救済事業」，「心理的な窮乏者」に対しては「教育運動」，そして「道徳的な窮乏者」には「宗教運動」で対応することを意味している．つまり，賀川はスラム街では救済・教育・宗教の三方面の事業が必要であると強調しているのである．その点で，大林や生江が述べた教育的運動とは異なる面があると言える．この点については第4章で言及する．

このように「人格交流」運動という考え方を持っていた賀川は，神戸での経験を生かして本所では次のように実践しようとしたのである．

> 私が本所でしたい仕事は，要するに神戸の仕事をその儘ここへ持つてくることであつた．焼け爛れて了つた武蔵野の曠野に甦る可き多くの霊があるにしても一

度に幾十万の貧民を作つた今日隣人としての私達は防貧に救貧にお助けしなければならないのである．

殊に金でお助けすることが出来るものと金でお助けの出来ないものとがあるから私達のやうに金の無いものは善き隣人としてお近づきになるより仕方がない．

私の第一にしたい仕事はセツルメントである．此の冬を通して罹災者の困苦を自ら体験しバラックの苦悩を自らも一緒に味ひそれを科学的に調査して世間に訴へることである．つまり私は『眼』になりたいと云ふことであつた（賀川1923a：301，下線‐筆者）．

このように，賀川が最も実践に繋げることを切望していた事業は，セツルメントであり，隣人として被災者を救済したいという思いに基づくものであった．金銭の有無にかかわらず，賀川なりに講演や説教を通して周りの人々の心を動かし，救済活動に参与していたのである．特に賀川（1923a；1926a）は，本所での活動を自らセツルメント事業として扱っているため，スラム街での貧民救済事業が1923年には意図的にセツルメント事業へ変化させていくということが窺える．それゆえ関東大震災後，緊急対策として行っていた罹災者受容事業や救済事業，簡易宿泊所の運営が，ひいては組合の形態にまで広がっていったのが分かる．これは後に大阪の四貫島セツルメント開設や東大セツルメントにも大きな影響を及ぼすようになる．

このように学者によっては賀川のセツルメント事業の始まりを，神戸のスラム街での活動であるとする主張（生江1931：270；服部1991：14）と，関東大震災の本所での活動であるとする主張（武藤1981：347；吉田1994：150，152；雨宮2005：322；2010：1）に分かれているが，いずれにしても，賀川の活動がセツルメント事業であると定義する点においては一致しているものと考えられる．

第3節　農民福音学校

1920年代の日本は，1923年の関東大震災，1927年の昭和金融恐慌，1929年の世界恐慌等の影響により慢性的な経済不況が続いていた．さらに1930年から1934年にかけて東北地方で大飢饉が発生し，農産物の価格が暴落したことで農村では社会不安が増大し，小作争議が本格化した．それゆえ昭和初期は，農業の危機と農民の窮乏から「農

村社会事業」の必要性が高まっていた時代であったと言える．

ここで，賀川と農村とのかかわりについて考えてみよう．雨宮（2003：84）は，賀川の「私の少年時代」[85]を取り上げ，賀川は幼少期を徳島の吉野川流域の豊かな自然のもとで生活し，祖母と共に農民の子として田植，稲刈，養蚕の手伝いをした経験から，農村に対して愛着をもっていたと述べている．武藤（1981：294）は，賀川が1916年10月，アメリカ留学の帰途，旅費を稼ぐため，ユタ州オグデンの日本人会書記となり，日本人農夫とモルモン教徒とを結びつけて小作人組合を作り，小作料の減額を地主に迫る争議に勝ち，小作人の収入を年額5万ドルも増額した経験から，日本における農民組合運動を創始したと記している．横山（1986：10）も「秋の末になると，年貢と称して，小作料をおさめにくる百姓が，庭に米俵を重ねてゆくのが，私には不思議でたまらなかった．わたしが長じて，日本農民組合を作ったのは，わたしの小さい時の経験から生まれたのであった」という賀川の少年時代の回想を引用しながら日本農民組合の誕生を説明している．また神戸の新川スラム街での経験は，賀川にとって農村に対する愛着を想起させただけでなく，次に述べるような，より根本的な解決策を探るきっかけとなったと言える．賀川（1919a：449‐450）は，農村が疲弊した原因として，自作業者の減少，小作農民と自作小作の増加を挙げ，日本における約一千万人の農民が貧民であり，農場労働者であることを訴えていた．このように農村の社会問題及び解決方法を具体的に把握していたため，農村改良の大切さを痛感したものと考えられる．

1921年10月秋，ILO（国際労働機構）の第3回大会において，農業運動の問題が取り上げられ，「農業に従事する者」に「結社の自由と権利の確保」を認める決議がなされた(武藤1981；林1984)．このとき賀川は，すでに農民を労働者とみなしていた．農業に従事する者の結社の自由と権利が確保されたことは，小作人が労働組合を作って地主に対抗しうる権利を国際的に確保したという意味であった．

賀川にとって本格的に農村問題に目を向け，農民運動に力を入れる原因となる事件が起こる．それは1921年6月，神戸の三菱・川崎大労働争議の失敗である．武藤（1963）と雨宮（2005）は，賀川は都市の労働者問題は根本的に貧困な農村の人々が

---

[85] 「私に最も大きな感化を與へてくれたのは，やはり吉野川平原の大自然であつた．夏の朝，祖母のいひつけで，私は飼馬にたべさせる草を苅りに行つた．(中略)重い大きな草籠を引摺つて，毎朝のやうに，草苅にいつた．露がたつぷり結んでゐる青草の根元から，しゃきりしゃきり，苅つてゆく時には，なんともいへぬ喜ばしい気持がした」（賀川 1927：88）

都市に流れ込んで働かざるを得ない状況から生まれたと考えていたと述べている．賀川は，すでに神戸スラム街の貧民の多くが農村の貧民であることに気付いていたため，農村改良の必要性を切実に感じていたのであろう．賀川の農村に対する様々な経験を踏まえて，労働運動の失敗から根本的に農村生活の改造や更生を実現させようとしたのである．ベストセラーの『死線を越えて』の印税の使用内訳から賀川の農村への関心が窺える（村島1939：77）．

三五,〇〇〇圓　神戸勞動爭議後始末費用
二〇,〇〇〇圓　日本農民組合費用
　五,〇〇〇圓　鑛山勞動運動費用
一五,〇〇〇圓　友愛救濟所基本金
一〇,〇〇〇圓　消費組合設立費用
　五,〇〇〇圓　勞動學校基金
一〇,〇〇〇圓　その他社會事業費

上記の合計は十万円で，濱田の資料（2008）によると，現在の価値に換算すると，約五億に及ぶ金額である．金額の使用内訳から，賀川がどの分野へ関心を持っていたのかが伝わってくる．まず，賀川は 1921 年の川崎造船所や三菱造船所を中心にして行なった労働争議に失敗したため，労働運動から農民運動へ移行した．このとき，賀川は莫大な印税収入を，逮捕された労働運動指導者やその家族たちの支援のために，また解雇された労働者を支援するために使用している（河島 1985：40‐41）．その他に鉱産労働運動や労働学校を支援していることから，たとえ労働運動から離れていたとしても，労働運動の支持者としての活動は続いていたものと推測される．

次は，農民組合のための費用である．日本農民組合の創立大会がもたれたのは，1922年4月9日，会場は神戸市下山手通りのキリスト教青年会館においてであった．村島（1941：100）は，農民組合の発案者は賀川であり，中心人物であったが，労働運動における経験から自らが指導者であることを避けて杉山を起用したと述べている．しかし，このような農民運動も労働運動と同じように急速に左傾していったため，賀川は労働農民党の中央実行委員長を，杉山は日本農民組合の中央委員長を辞職した．その後，二人が協力して設立したのが，1927年1月19日に結成された農村伝道団であ

った（飯沼1990：29）．賀川は，その農村伝道団の必要性を（『火の柱』（1927．3．25）で次のように言及している．

日本には一萬三千の村々があつてそこには日本の總人口の五割以上が住んでゐる．然るに是等の人々は，殆どキリスト教の福音に接してゐない．キリスト教が如何に都會を救濟し得ても今日の如く農村を見過しにしては眞に日本の教化を期することは出来ない．殊に農村にはイエスが心を用ひられた貧しい人々がゐる，多くの悩める人々がゐる，故に農村傳導を爲さすしてはイエスの御精神に應はないと信ずるのである（下線‐筆者）．

これは賀川が農村の状況を取り上げ，キリスト教こそが農村の改革を起こすには重要であると考え，伝道の必要を訴えている内容である．続けて趣意書を次のように記している．

我等は日本農村の宗教的改造と建設をなさんがために左の事業を行ひます．

一　農民福音学校の開設（農閑期に開校）

一　文書傳導（傳導用パンフレット雑誌發行）

一　講師派遣（神学校，都市教會その他への要求に應じて）

一　農村傳導（直接傳導後援）

一　農村セツルメント事業の普及

右の目的を實現せんがため，日本農村傳導團の趣旨に共鳴する人々の協力を求めます．

本團の目的に賛成する人々は，

一　維持會員（年額五圓以上納付するもの）

一　普通會員（年額一圓を納付するもの）

となることが出来ます．會員に對しては，時々會報を配布し連絡を計ります．

入會希望の方は左記宛御申込み下さい．

兵庫縣武庫郡瓦木村高木東二三八杉山元治郎氏方日本農村傳導團（下線‐筆者）

この趣意書は1927年3月1日附で発表したもので，杉山元治郎，賀川豊彦，吉田悦蔵，村島帰之，小川渙三，矢部喜好，吉田源治郎が理事として名を連ねている．趣意書から，日本農村伝道団が第一に達成した仕事は農民福音学校の創設であったことが分かる．そして，上記の趣意書が発表されるより前に，すでに農民福音学校の募集広告が『雲の柱』第6巻第2号（1927．2）の72ページに載せられた．内容は次の通りである．

農民福音學校の創設

一月十九日，日本農村ミッションが杉山元治郎，賀川豊彦，矢部喜好，吉田源治郎氏等によつて創立され，その第一着手として農民福音學校を二月十一日より開校する運びとなつた．

同校は日本農村の宗教的改造及び建設を目的とし，毎年農閑期に一ヶ月間に回つて開校する．

校長　杉山元治郎

教務主任　吉田源治郎

講師　賀川豊彦，牧野虎次，村島歸之，杉山元治郎，吉田源治郎ほか科外講師十數人

教授科目　聖書，農村社會學，經濟學一般，キリスト教史，社會事業，兄弟愛史，農學通論，農村經濟學，農村實習

募集人員　十人限　但し農村青年に限る．食事半額補助あり

申込受付　二月五日限り

申込所　兵庫縣瓦木村高木東口　賀川豊彦氏方　農民福音學校假校舎（下線 - 筆者）

つまり，1927年1月19日に日本農村ミッションが結成，「農民福音学校」への参加募集の広告が2月の『雲の柱』に載せられ，2月11日に「農民福音学校」が開設され，「日本農村伝道団」が3月1日に誕生したわけである．このように，わずか2ヶ月間で組織化を成し遂げたことから，賀川の行動力が感じられる．ここで気づく点はまず，農民福音学校と日本農村伝道団の目的が同じく「日本農村の宗教的改造と建設」であることである．また，「農民福音学校」の参加申請の申込所である賀川宅と「日本農村伝道団」の会員申請の申込所である杉山宅が近くにあったことである．二人とも農

村改良のため，積極的に協力し合ったことが伝わってくる．こうして最初の農民福音学校は，賀川の自宅を教えの場とし，日本農村伝道団の趣旨に共鳴した人々が講師として働き，協力していた．たとえば，後に同志社大学の総長となる牧野虎次や大阪毎日新聞社記者である村島帰之，四貫島セツルメントにある大阪イエス団教会の牧師である吉田源次郎など，実力ある講師たちが賀川とともに働いたのである．また授業の科目ではキリスト教から社会学まで幅広く，その中に社会事業があることも目立つ．当時の雰囲気を杉山（1965：65）は次のように述べている．

> だから，農民福音学校は，教師と生徒との人格と人格の接触を重要視し，隣村から入学しても全部寄宿することを本旨をし，単なる教室ばかりでない，食堂でも，寝室でも，四六中座臥一切が教育と考えた．また教師達はすべて奉仕であって，これによって補酬を求めているものはほとんど一人もない．求めているものがあるとすれば生徒達が立派な人間となること，良い人格者となることだけである．だから教えている言葉の中に真実がこもり，自然と熱があふれ，聞く者をして感化し焼き尽くさずばおかないものが出てくるのである．

つまり，農民福音学校から金を儲けるための教育を提供することではなく，農村の人材を育成することに力を入れたということで，教師達と生徒達が一心同体になっていたのが感じられる．農民福音学校の略則は次の通りである．

> 農民福音学校は名は学校であるが寺子屋である．デンマークのグルンドヴィツヒの精神に従うてやるもので，人格と人格と接触する教育の道場である．故に，すべては自治的で本人の修養に待つことも多いのである．教室もない．器具もない．普通の住宅で座りながら教えられるのである．所謂学校の名に捉えられる人は，この学校に入る資格はない．修養の志に燃えて農村の改造に突進せんとする戦士の学ぶところである（横山1965：293）．

以後，農民福音学校は，1934年（25校），1935年（37校），1936年（17校），1937年（16校），1938年（26校），1939年（11校）など，急速に全国に広がっていったが，太平洋戦争が始まってから暫くその活動は休止された（飯沼1990：30）．そして太平

洋戦争が終わった後に，1946年（15校），1947年（75校），1948年（112校）まで，再び増加していった（横山1986：15）．その農民福音学校について横山は次のように評価している．

> キリスト教信仰による農村建設，飢饉にも耐える立体農業を織りこんだ農業設計，隣保共助の精神を基礎にした農民協同組合の運営―この「神を愛し，人を愛し，土を愛する精神」は，冷害と不況になやむ農民の共感を得，またキリスト教会の指導者たちも賛同するものであった（横山1986：15）．

賀川（1931a：255）は農村小説である『一粒の麦』[86]の序で，農民福音学校について次のように書いている．

> 私は農民福音学校を開いてから，もう四年になる．一緒に同じ鍋から飯を食つた四十余人の同志達は，全国各地に散つて，みんな一粒の麦の努力をしつゝある．彼等の陰にかくれた女性達も，みな勇敢にやってゐる．
>
> 土に対する愛，隣に対する愛，神に対する愛さへあれば，日本内地だけでも，八割五分の山が食糧資源の泉となり，人間相愛の巣となることを私は信ずる．たゞ我々に欠けることは，苦難を突破し得る冒険性と，困苦を忍ぶ忍耐力である．

農民福音学校に通学した人々が，一粒の麦のように各地で活躍していることが分かってくる．その反面，賀川が冒険性と忍耐心が必要であると訴えていることから，改めて農村の大変さも感じられる．このように農民福音学校は，人格教育を通して，農村改造に力を入れることやキリスト教に基づいた社会福祉を実行しようとした賀川の訴えが全国各地に伝わった「事業」であったものと考えられる．

---

[86] 雑誌『雄弁』の 1929 年 11 月号から 1930 年 12 月号まで，14 回に渡って連載したものを，『雄弁』の発行元である講談社が 1931 年に出版したものである．版を重ねて売上部数が 86,000 部に達し，当時の青年男女に深い感激をもたらしたことを証明している（武藤 1962：478‐479）．1932 年 2 月に「一麦寮」と呼ばれる二階の建物ができた（横山 1986：15）が，この資金は『一粒の麦』の印税からであったと考えられる．

小括

本章では賀川の様々な活動の中から，「救霊団」，「本所基督教産業青年会」，「農民福音学校」を取り上げて検討した．伝道活動から始まった賀川の活動に，出会った人々のニーズに答えようとする貧民救済事業が加わっていった．スラム街に住んでみたからこそ，可能な範囲内の具体的な事業を立てて実践に移すことが出来たのであろう．後に，救貧より防貧を目指して事業を拡大していく．代表的な例として，農村事業に力を入れたことが挙げられる．特に目の前の利益を得ることより未来の農村の豊かさを作るために人材を育成した．農民福音学校を通して農村のリーダーを育てていくことだけではなく，農業の良さを伝え，農村から都市に流れ込んで貧民層にならないようにしたのである．その他にも賀川は，関東大震災のとき，直ちに現場に向かうため，必要な物品や資金を集めていく行動力を有していた．

このような賀川の活動から，我々が学べることは，何なのか．まず，社会問題や地域の調査をした上で計画的かつ組織的に動くことである．例えば，神戸イエス団の調査部の運営や本所キリスト教産業青年会の調査活動である．今日において各分野の制度や政策を立てるため，社会調査を行なうことは当然な話である．しかし，80年前，スラム街や被災地においてかかわった問題を具体的に把握するため，調査し，迅速に解決しようとしたのは評価に値する．そして，賀川のすべての活動には，協力者が存在している．最初の神戸イエス団の医療活動には医師馬島が，本所キリスト教産業青年会には木立が，農民福音学校には杉山が中心メンバーとしてその役割を果たしていた．いわゆるチームワークである．つまり，調査活動やチームワークが賀川の活動の原動力になったといえよう．

第4章　文献からみる賀川の社会福祉思想

賀川が行った様々な活動の原動力となったのは何であろうか．第4章では，賀川の社会福祉実践の根底にある思想について言及していく．賀川の著書に流れている賀川の考え方を取り上げる．ただし，賀川の著書は極めて多いため，賀川の知名度を上げたベストセラーの『死線を越えて』や当時の公的な雑誌（機関誌）に載せられた論稿，そして農民組合の組織に力を入れたことを踏まえて『農村社会事業』などを中心に分析していく．

第1節　小説『死線を越えて』(1920, 改造社)

自伝小説である『死線を越えて』は，若手の神学生であった賀川が肺結核で苦しんでいたにもかかわらず，死を覚悟してスラム街に入り，貧民との生活に基づいて書いたものである．20歳の時に書いた「鳩の真似」が基となっており，1920年1月から5月前半に『改造』に連載され，さらに10月に改造社から出版されたものである．当時200版を重ね，ほぼ100万部を売り上げる大正期最大のベストセラーとなっている．後に後続する『太陽を射るもの』（1921b），『壁の声きく時』（1924a）が出版され，あわせて400万部以上売り上げたと言われている．この小説は1922年に初めて英訳され，海外でも高い評価を受けた．ここで，賀川の社会福祉思想を探るために，小説『死線を越えて』を取り上げた理由は，韓国において賀川から影響を受けたと述べた人々[87]のほとんどが，この著書を取り上げているからである．それゆえ，賀川がどのような思想を持っていたのかを理解するためには，この著書を分析する必要がある．

まず，『死線を越えて』の中に示されている賀川の社会福祉思想は，「共に生きる」ことである．実際，賀川は，当初から様々な事業を行うために，スラム街に入ったわけではない．スラム街に入った当時の心境を次のように記している．

> どうせ，近い中に死ぬのだから――一年か，二年か，長く生きて，三年位ゐの中には肺で死ぬのだから，死ぬまでありつたけの勇気をもつて，最も善い生活を送るのだと決心した（賀川1920a：145，下線‐筆者）．

[87] 李相哲，朱善愛，金徳俊，劉載奇など，詳しくは第 7 章に述べる．

病弱であった賀川は，どうせ死ぬなら，良いことをしたいと決めたのであるが，それが神戸のスラム街に住み込むことであった．いわゆるセツルメントである．これについては先の第3章で詳しく述べている．賀川は，神戸スラム街に入った当時の状況について次のように記している．

> そして，クリスマスの前夜，十二月の二十四日，各教会には賑やかに『クリスマス』『クリスマス』と騒いで居る中を，午後二時頃から栄一は植木に助けられて，引越をした．栄一はその時木綿縞の筒袖を着て，自分手に荷車を曳いて，兵庫の鍛冶屋町から，葺合の新川までやつて来た．車には蒲団と衣類一行李と書物一行李と竹の本棚一つを積んで来た（賀川1920a：146，下線‐筆者）．

ここでは，賀川が『クリスマス』『クリスマス』と『』を付けて同じ言葉を2回繰り返すほどに，キリスト教会に対するその批判的な感情が表れている．この点について高崎（1984：12）は，賀川が教会の行事や建築に力を入れている当時のキリスト教会を批判するとともに，自ら社会の下層に住むことで，民衆の伝道者としてこの世の「社会悪」と対決して生きる決意を表明したと述べている．もっとも，賀川がキリスト教会に対して批判的な視点をもっていたとしても，3章の救霊団の伝道活動や本所基督教産業青年会の宗教活動からも分かるように賀川はキリスト教の伝道のことを最優先に考えたことは事実であろう．このように賀川は，1909年12月24日からのアメリカ留学期間（1914年‐1917年）を除いて1923年10月18日に東京に移るまで，神戸の新川のスラム街で貧民とともに生活したわけである．そして賀川は，スラム街に入った理由について次のように述べている．

> 貧民窟へ来たのは貧民の救済と感化に来たものである．然し心配してくれるな，労働者をも尊敬し，貧民をも救済せんとする私が，人を殺すなどと云ふ事は決して企てはしないから安心をしてくれ．私は凡ての人を尊敬する．労働者をも凡ての人を尊敬する（賀川1920a：208，下線‐筆者）．

このように，賀川が初めてスラム街に入った理由と10年後に『死線を越えて』の中で述べているスラム街に入った理由が異なっていることに気づく．当初は，すでに述

べられているように，どうせ死ぬなら良いことをしたいという理由からであった．賀川にとって良いことは何を指すのだろうか．それは，最初は「救霊」のための伝道活動であった．しかし，貧民との接触が多くなったことで，彼らの痛みや住んでいる地域のニーズを把握しながら，それに応じる事業を行うようになった．その具体的な事業が貧民の救済と感化事業であったのである．10年という時間が，伝道活動だけでは足らず，貧民と接触する中で彼らのニーズに応じなければならないというように賀川の考えを変えたのである．すべて「共に生きる」ことから始まったのであろう．貧民との交流で彼らと痛みを分かち合い，貧民の生活を支援しながら，社会環境を改善しようとしたことが，いわゆるセツルメントと繋がっていく．

当時の教会が，社会への無関心で教会内への行事や建築の方に関心をもっていたことを賀川が批判し，知識層を中心とした敷居の高い教会ではなく，誰でも入りやすい教会を作ろうとしたのであろう．もちろん最初はどうせ死ぬなら，残った人生を神に良いことをしたいということで，スラム街に入ったのが事実であるが，スラム街に入って貧しい人々と交流することによって，「共に生きる」という真の意味について気づいていき，そして必要に応じて様々な事業を行うことになったのである．つまり，賀川は単なる救済または感化ではなく，貧民である対象者を尊敬し，共に生きていたのである．

次は，「弱者の権利」についてである．ここでは，「子どもの権利」を中心に述べていく．賀川の普段の姿は次のようなものであった．

> 然し此処に新しく，新見を『先生』として仰ぐ一団が出来た．それは，貧民窟の子供等であつた．貧民窟の子供は非常に栄一が好きになつた．そして栄一も彼等が好きであつた（賀川1920a：152，下線‐筆者）．
>
> 貧民窟の子供は一体に美しい．それで，美しい赤ん坊を抱き締めて，自分一人で『神は愛だ』と悦び興じて淋しい冬の夕暮を賑やかに送ると，何時の間にか熱は醒めて居るのである．それで，栄一は発熱してくると，下熱剤の代りにと云つて，二畳敷の子供の処へ遊びに行つた．縄飛び，鬼ごつこ，隠れん坊，けんけん，子供の要求する遊びはなんでもした（賀川1920a：164，下線‐筆者）．

スラム街は劣悪な環境で，貧困や犯罪など様々な問題が起きやすい地域であった．

問題は，このような環境で過ごさざるを得ない子どもが多くいることである．それゆえ，賀川は子どもが自由に遊べる環境をつくるために教会を開放し，また日曜学校を通した児童の教育にも関心を持っていたのである．教会が子どもの居場所として役割を果たすことを賀川は望んでいたのであろう．この志向性がおそらく今日のイエス団の中で児童施設が多い背景となったものと考えられる．

賀川は，子どもや赤ん坊は，大切に育てられる存在であるにもかかわらず生命をも脅かされていること（たとえば，「貰い子殺し」や「女の子の身売り」など）に，大きな責任を感じていた．その結果が，「子どもの権利」の提唱であったものと考えられる．賀川による「子どもの権利」は，1924年6月9日，東京深川猿江裏児童保護講話会で，食う権利，遊ぶ権利，寝る権利，叱られる権利，親に夫婦喧嘩をやめてもらう権利，親に禁酒を要求する権利という六つの内容を訴えたものである（賀川1926c：150－153）．印象的なのは親に対して喧嘩の禁止や禁酒を要求する子どもの権利である．今日の家庭内の暴力（DV）において夫婦喧嘩や過度の飲酒が原因となっていることが多いが，賀川はすでに80年前に予防として子どもの権利を訴えていたのである．実際に1920年代には，夫婦喧嘩で夫が妻に暴力を振るうのは当たり前の話であったかもしれない．しかし，過度な飲酒の問題が暴力まで拡大していることを問題として指摘し，その中で生きている児童を保護しようとする賀川の考えは先駆的であった．特にこの点について，賀川は夫婦がお互いに愛し合い，尊敬し合っているとき，これを見た子どもは両親を必ず尊敬するようになると述べつつ，夫婦が仲良くして温かい円満な家庭を作ることを親の子どもに対する義務であると指摘している．賀川の子どもの権利の主張は，1924年9月26日に行なわれた国際連盟総会の第5会期の「児童の権利宣言」，いわゆる「ジュネーブ宣言」[88]より3ヶ月前の話であった．

---

[88] 児童の権利の内容は次の通りである．
①児童は，身体的ならびに精神的の両面における正常な発達に必要な諸手段を与えられなければならない．
②飢えた児童は食物を与えられなければならない．
病気の児童は看病されなければならない．
発達の遅れている児童は援助されなければならない．
非行を犯した児童は更生させられなければならない．
孤児および浮浪児は住居を与えられ，かつ，援助されなければならない．
③児童は，危難の際には，最初に救済を受ける者でなければならない．
④児童は，生計を立て得る地位におかれ，かつ，あらゆる形態の搾取から保護されなければならない．
⑤児童は，その才能が人類同胞への奉仕のために捧げられるべきである，という自覚のもとで育成されなければならない（参考：札幌市ホームページ　http://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/shiryojoyaku_L05_1de.html，2013．8．12閲覧）．

スラム街での子どもの生活を赤裸々に体験した賀川は，「貧民窟改良事業は先づ子供から！（賀川1921b：277）」という強い意志で，子どもの権利を訴えた．賀川が子どもの権利を優先した理由は，子どもは将来的に成長して社会を変革することができる存在であるからであろう．

第2節　雑誌『救済研究』･『社会事業』･『社会事業研究』

日本における「社会事業」の成立は，1920年頃であると言われている．これは1920年6月の第5回の全国社会事業大会の頃から社会事業の名称が一般に用いられ，「社会事業」という用語が公的に使われたという主張による（永岡2003：82－83）．もっとも，「社会事業」が，それ以前も「救済」や「慈善」という形で存在していたが，公的な形になったのは1920年頃になったわけである．当時の中央・地方社会事業協会が発行したものには，大阪社会事業協会発行の『救済研究』[89]，『社会事業研究』，そして中央社会事業協会発行の『社会事業』[90]がある．この雑誌に掲載された賀川の論稿には，どのような内容のものがあるのだろうか．

アメリカから2年9ヶ月ぶりに日本に帰ってきた賀川は，1915年に出版された『貧民心理の研究』を紹介する形で，『救済研究』【表4－1】に1917年の7月号から約2年半の間，論稿を連載している．内容はスラム街での経験に基づいた当時の状況及び問題点に関するもので，様々な国外の事例をまとめて具体的な数量データを用いて統計化しているところに特徴がある．しかし，日本に適用できそうな具体的な方法はあまり提示されていない．

社会環境によって生まれた社会的弱者を，組合という組織を通して貧困から解放させるという賀川の考えが著された論稿は，1918年6月号の「日本における防貧策としての労働組合問題」である．賀川は防貧の基礎となる労働にまつわる問題を解決しなければならないと述べ，貧困に苦しむ労働者救済のための労働組合を組織することを

---

[89] 救済事業研究会の指導者的人物であった小河滋次郎を中心とし，大阪社会事業協会から発行された雑誌である．書名が『救済研究』（1913．8－1922．7）→『社会事業研究』（1922．8－1942．12）→『厚生事業研究』（1943．1－1944．1）に 3 回改題された．救済事業研究会は，後に大阪方面委員制度の母体となる．

[90] 中央社会事業協会によって発行された雑誌である．書名が『慈善』（1909．7－1917．4）→『社会と救済』（1917．10－1921．3）→『社会事業』（1921．4－1941．12）→『厚生問題』（1942．1－1944．10/12）→『社会事業』（1946．6－1960．12）など，5 回改題された．

提案している．この論稿から，救貧策ではなく防貧策を担うものとしての労働組合組織の必要性を取り上げたことが分かる．

【表4 - 1】雑誌『救済研究』での賀川の論稿

年	号（ページ）	タイトル	年	号（ページ）	タイトル
1917	第 5 巻第 7 号（708 - 711）	貧民心理に就て	1918	第 6 巻 10 号（1078 - 1088）	暴動の心理
	第 5 巻第 8 号（818 - 824）	貧民心理に就て		第 6 巻 11 号（1035 - 1067）	英国労働党と社会改造
	第 5 巻第 9 号（957 - 1964）	貧民心理に就て		第 6 巻 11 号（1194 - 1200）	暴動の心理
	第 5 巻第 10 号（1055 - 1062）	貧民心理に就て		第 6 巻 12 号（1267 - 1272）	貧民恒数論
	第 5 巻第 12 号（1375 - 1388）	宗教の社会経済的価値	1919	第 7 巻第 1 号（41 - 52）	日本農村の社会問題
1918	第 6 巻 1 号（54 - 61）	女子高等教育の人口増加率減退に及ぼす影響		第 7 巻第 2 号（137 - 145）	日本における賃銀労働者の不安
	第 6 巻 1 号（73）	人種改良と慈善事業		第 7 巻第 3 号（241 - 252）	都市の心理的基礎
	第 6 巻 2 号（164 - 175）	兵庫県内特種部落の起源に就て		第 7 巻第 4 号（379 - 399）	労働者の負傷の研究
	第 6 巻 3 号（203 - 319）	乳児死亡率の研究		第 7 巻第 5 号（471 - 481）	工場立憲法主義運動に就て
	第 6 巻 4 号（420 - 440）	不良少年の科学的研究		第 7 巻第 6 号（594 - 602）	ホイツトレー式産業議会の価値
	第 6 巻 5 号（560 - 574）	日本貧民階級の住宅問題		第 7 巻第 7 号（711 - 717）	貧児感化避暑論
	第 6 巻 6 号（676 - 685）	日本における防貧策としての労働組合問題		第 7 巻第 9 号（932 - 937）	児童虐待防止論
	第 6 巻 7 号（790 - 802）	貧民窟殖民館事業に就て		第 7 巻第 10 号（1020 - 1026）	児童虐待防止論
	第 6 巻 8 号（915 - 941）	階級争闘の史的観察		第 7 巻第 11 号（1250 - 1256）	貧民窟十年の経験
	第 6 巻 9 号（906 - 915）	筑豊炭田の労働問題		第 7 巻第 12 号（1326 - 1333）	貧民窟十年の経験
	第 6 巻 9 号（947 - 960）	暴動の心理	1920	第 8 巻第 7 号（626 - 640）	貧児の体格と学校成績の関係
	第 6 巻 10 号（1035 - 1043）	筑豊炭田の労働問題	出所：李善惠（2013：56）		

つまり貧困の問題とその対策に取り組む中で，貧困に陥る以前の労働に関する問題，そしてその対策としての労働組合の組織化の必要性へと賀川の関心が転換していった

と言える．根本的な貧民救済事業を目指す賀川の視点がミクロからマクロへ変化したのである．しかし，その中でも賀川は，自らの経験を通して，表面的かつ事務的な救済事業よりも，本質的かつ人格的な救済こそが真の救済事業であると主張している．なぜなら，人々の環境や制度が変わったとしても，貧民自身の変化なしには根本的に貧困を解決できないと考えていたからである．特に賀川は，マクロの観点から労働組合の組織化が必要であると訴えているが，それと同時に貧民自身の意識変化も必要であるということを意味している．『救済研究』での賀川の論稿から，1910年代の賀川は，彼自身の活動を「貧民救済事業」として定義していることが分かる．

次は雑誌『社会事業』（【表4‐2】）と『社会事業研究』（【表4‐3】）に載せられた賀川の投稿を取り上げる．

【表4‐2】雑誌『社会事業』での賀川の論稿

年	号（ページ）	タイトル	年	号（ページ）	タイトル
1924	第8巻第4号（270‐279）	貧民長屋	1934	第18巻第2号（45‐51）	農村社会事業斷片語
1926 a	第10巻第1号（69‐72）	欧米のセツルメントに就て	1940	第24巻第3号（50‐55）	互助組合として見た協同保険組合の将来
1928 a	第12巻第4号（2‐5）	社会運動として見たる社会事業	1944[91]	第28巻第2号（15‐18）	鳥取震災の回顧

出所： 李善惠（2013：59）より修正して作成

【表4‐3】雑誌『社会事業研究』での賀川の論稿

年	号（ページ）	タイトル	年	号（ページ）	タイトル
1926 b	第14巻第3号（1‐24）	セツルメント運動の理論と実際	1928 d	第16巻第10号（2‐8）	弱者の権利‐宇宙生命の可能性と最後の一人の生命の尊厳‐
1927 a	第15巻第6号（6‐15）	子どもの権利	1934	第22巻第10号（35‐48）	互助組織としての割地制度
1927 b	第15巻第12号（1‐10）	社会事業の永遠性	1936	第24巻第11号（95‐105）	國民健康保險制度に就て
1928 b	第16巻第4号（1‐3）	セツルメントの社会運動に於ける位置	1938	第26巻第1号（51‐55）	「社会事業」という名稱
1928 c	第16巻第5号（21‐27）	社会事業と宗教運動	1939 a	第26巻第4号（118‐126）	印度における防貧並に救貧事業に就て

出所： 李善惠（2013：57‐58）より修正して作成

[91] 1942年から『厚生問題』と改名された．

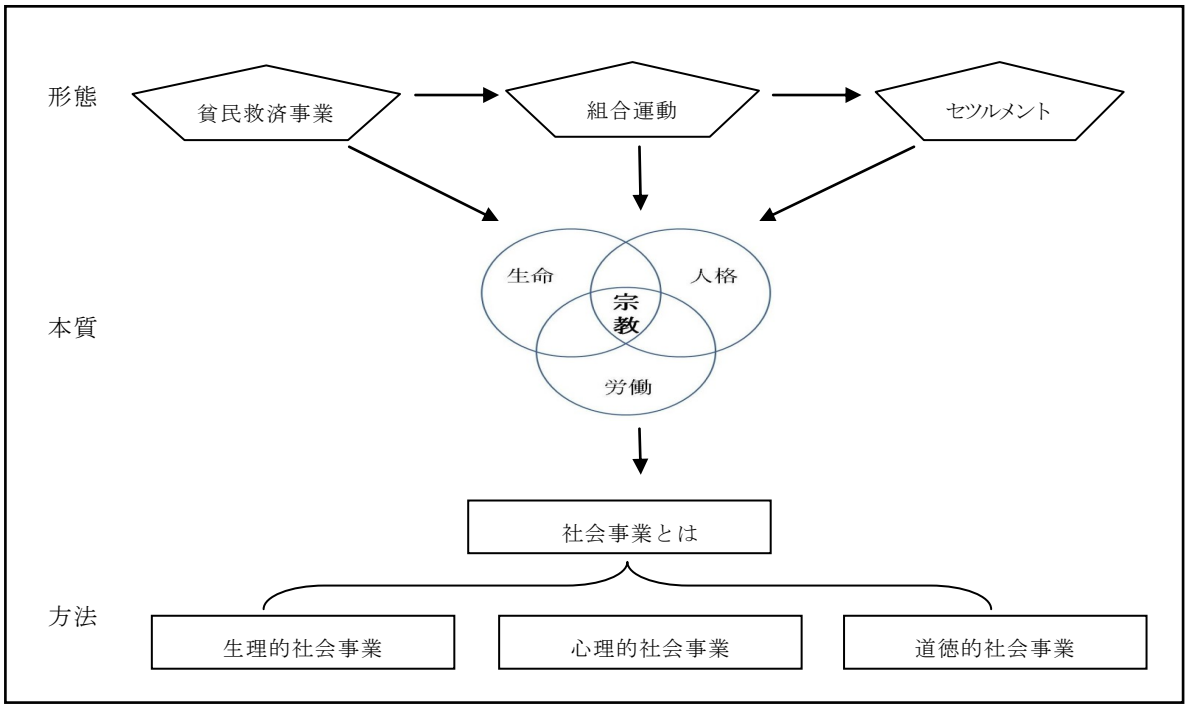
この三種の雑誌において，賀川自身は最初の活動を貧民救済事業と定義したが，1920年以降から貧民に対するすべての活動を「セツルメント」や「社会事業」として再定義していることが分かる．これは1919年12月24日に内務省の地方局の救護課が社会課に改称し，1920年8月24日に内務省官制に改正され，内務省社会局が設置されたことが背景となっているものと考えられる．賀川は，社会事業の定義を次のように述べている（傍点‐筆者）．

> 社會事業は生理的，心理的，道徳的，社會的必要から出發してゐる．（中略）要するに眞の社會事業は，宗教的な根本原理から出發して深い精神的指導原理を基とし惡に勝ち，單なる唯物主想に迷はされず，生命，勞働，人格を引き上げる運動をしなければならぬ．唯單に社會惡を救濟するのみならず，人間の生命の方面から，勞働の方面から，失業者問題，補習教育，成人教育という立場から努力して行かなければならない．そして最後に残された問題は，あらゆる人格教育の完成であらねばならぬ（賀川1927b：2，10，傍点‐筆者）．
>
> 最も必要な社會事業は，生理的社會事業と，心理的社會事業と，道徳的社會事業の三種類である．（中略）社會事業は，社會病理に對する永久的性質を帶びた社會運動であると考へてゐるのである．私は，資本主義が生む罪惡に對して挑戰すると共に，科學的社會主義事業がありさへすれば，社會事業は不要であると考へるやうな，近眼的見方に對しても絶對に反對するものである（賀川1928a：2；5，傍点‐筆者）．
>
> 社會事業は社會の事業をその本質としなければならない．卽ち協同運動をその本質にして初めて，互助による解放が完成される．卽ちセツルメント運動は愛の運動ではなければならない（賀川1928b：2，傍点‐筆者）．
>
> 社會事業の本質を経濟的に考へるのは，第二義的問題であつて，生命，勞働，人格及び退化社會を救濟し向上せしめることが，社會事業の本質である（賀川1928c：22，傍点‐筆者）．

賀川（1928a）は，社会事業を生理的，心理的，道徳的社会事業に分けて論じている．これは賀川（1927b）が述べた四つ（生理的，心理的，道徳的，社会的）の欲求と繋がっている．特に注目すべきところは，弱者救済において，賀川は経済的な救済

を場当たり的に行うよりも，道徳的な意識改革を優先することこそが，弱者を長期的に支援する上で適当な方法であると考えた点である．内面的な変化がなければ，実際の生活の変化は期待できないということであろう．さらに，賀川は道徳的な意識改革のためには宗教が必要であるが，社会から離れて瞑想と祈祷のみに終始する宗教は真の宗教ではないと主張している．ここで宗教とは，「キリスト教」を指す．イエスの「贖罪愛」に根差した隣人愛の実践にある．

賀川の論稿では，他の何よりも社会事業の本質について言及している．その本質に関しては「生命」「労働」「人格」という言葉をよく使用している．その関係性は次の【図4－1】である．



【図4－1】賀川の社会事業に関する考え方　　出所：李善惠（2013：61）より修正して作成

賀川にとって生命とは，救われるべきものであり，救われた存在がその生命を保ち，後にはその生命が，新たな生命を救済する役割を果たすものである[92]．賀川（1927a）は乳児の死亡原因に関して，①母親の労働，②家庭の収入不足，③赤ん坊を世話することを拒絶する家庭の条件を満たすほど，赤ん坊を殺すのであると述べている．特に③の場合においては，子どもの生命が大変な脅威に晒されていると言える．親の都合

[92] 「救はれるものは即ち救ふものである．弱者は救はれるが故に生命を保存し，これを再進化せしめ，宇宙生命全体に対して，救済の役割を務めるのである（賀川 1928d：7）．」

で子どもの生命が守られていないのである．先述したスラム街における「貰い子殺し」がその例である．それゆえ，子どもの権利の中で最も重要なものが，生きる権利であるとされたと考えられる．賀川は社会改造を企図する際，社会改造の根本原理は人間の生命を尊重することであるとして，子どもの生命も健やかに発育し，守られるような社会を造りたいと望んでいた．賀川にとって生命は人間として存在し，人間らしく生きられるということなのであろう．

労働とは，経済的な意味をもつだけではなく，人間性の回復を通して自分らしく生活できる一個の芸術であって，それを守るためには，組合の存在が不可欠である[93]．賀川（1933）はスラム街の人々の状況について，働きたくても働く場所がない，また働いても正当な報酬が保障されない場合が多いと述べ，その原因が農村から離れて都市へ人々が大量に流入したからであると分析している．賀川（1919：449-450）は，農村が疲弊した原因として，自作農民の減少及び自小作農民の増加を挙げた．また，日本における約１千万人の農民が貧民であり，農業労働者であることを指摘した．農村で生活手段や生産手段を作り出す活動が可能であれば，都市に流れ込む人々も減少するし，また，生活が安定することで都市でも農村でも労働問題が解決するということである．賀川（1933）はその具体的な方法として「多角形農業」や「樹木農業」，「立体農業」を紹介している．このように農村であれ，都市であれ，労働問題を解決させるためには，労働者が正当な報酬を得られるように，組合が組織されないと貧困問題の解決が難しい．それゆえ，労働者の正当な報酬を受ける権利を守るためには，組合の形成が必要であると主張している．このように賀川にとって社会事業の本質である労働において重要なことは，生活を安定させるために働ける場が確保されることや労働に対する適切な待遇を受けるように守ることであろう．

最後に人格とは，人間の尊厳と繋がっている．イマヌエル・カント（安部1948：85）が「人間を人格として取扱ふやうになる為には，人々が自己の人格の尊厳に目ざめると共に他の人格を認めねばならない」と述べた．賀川の場合，お互いに尊敬し合い，それがお互いに人格を認めることに繋がっていったと考えられる．これは人間の生命とも関連している．なぜなら，子どもや女性と関連した「貰い子殺し」や「女の子の身売り」の問題は人間が人間として尊敬されないという点から出発し，「貰い子

[93] 「真の社会は人間性を中心とした労働そのものを尊ぶ社会組織 - 即ち労働組合そのものの外に真の尊厳に至る道は無いことを社会に教へねばならない（賀川 1921c：16）．」

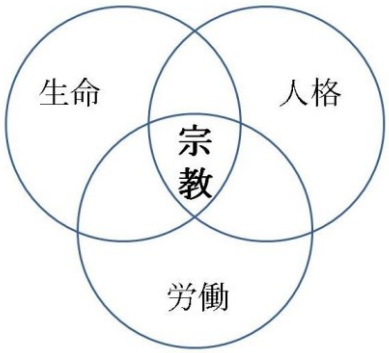
殺し」の場合，子どもを死に至らせてしまうということになるからである．また「女の子の身売り」の場合，貧しい家に生まれ，責務を解決するために勝手に娘を売ることは，人権侵害そのものである．それゆえ，人間の尊厳を考えることは，生命と密接に係わることとなる．それだけではない．人格は，また労働に繋がっていく．賀川（1921c：23）は，「労働運動の根本目的は人格の建築運動である」と述べている．当時，働きたくとも労働の機会さえ与えられなかった社会環境は，貧困に陥る要因を作りだし，自らの生命や尊厳を守れない状況を生み，その者の人格にまで多大な影響を及ぼしたと言えるだろう．労働が貧困から脱皮する道具というだけではなく，人間が人間として存在するように支えてくれる重要な要素であることが伝わってくる．次の文章からも，賀川の「生命」「労働」「人格」，この三つの概念が宗教に基づいて，互いに深く密接に関連していることが分かる．

> 我々は如比き労働を改造して労働が同時に生命であり労働が卽ち創造であり，労働を通して生命の活現する所の社会を造らねばならないのであります．（中略）愛の精神より全人格を完成し，之を社会改造の根本的動機として進まねばならぬのであります．人格は生命そのものであります（賀川1921d：71）．

賀川が望んだ真の社会事業は「キリスト教」に基づいた「生命」，「労働」，「人格」，つまり社会福祉の本質を踏まえて行うことである．キリスト教において，人間は「神は御自分にかたどって人を創造された．神にかたどって創造された．男と女に創造された（創世記1章27節）」という唯一無二の存在として創造されたものである．特に，神にかたどって創造された存在なので，「神の似姿（imago Dei）」として，人間の尊厳（dignity）が訴えられてきたのである．賀川は，このキリスト教に基づいて，簡単にではあるが幅広く生命の大切さを説明しつつ，その生命のある人が人格を持っていることや生きる意味を持つために労働が如何に大切なのかを強調したのである．

それでは，ここで今日の社会福祉の価値への視点はどうであろうか．日本ソーシャルワーカーの倫理綱領の中で，社会福祉の価値に相当するものが「人間の尊厳」と「社会正義」である．すべての人間はかけがえのない存在で，尊重すべきである．しかし，人間らしく生活できない環境に置かれた人間のため，ソーシャルワーカーは，

差別，貧困，抑圧，排除，暴力，環境破壊などの無い，自由，平等，共生に基づく社会正義の実現をめざしていく（【図4－2】）．

賀川	日本ソーシャルワーカーの倫理綱領[94] （価値と原則）
 1．生命：救われるべきものであり，救われた存在がその生命を保ち，後にはその生命が，新たな生命を救済する役割を果たすものである． 2．労働：経済的な意味だけではなく，人間性の回復を通して自分らしく生活できる一個の芸術であって，それを守るためには，組合の存在が不可欠である． 3．人格：人間の尊厳と繋がって，お互いに尊敬し合い，それがお互いに人格を認めることである．	1．（人間の尊厳） ソーシャルワーカーは，すべての人間を，出自，人種，性別，年齢，身体的精神的状況，宗教的文化的背景，社会的地位，経済状況等の違いにかかわらず，かけがえのない存在として尊重する． 2．（社会正義） ソーシャルワーカーは，差別，貧困，抑圧，排除，暴力，環境破壊などの無い，自由，平等，共生に基づく社会正義の実現をめざす． 3．（貢献） ソーシャルワーカーは，人間の尊厳の尊重と社会正義の実現に貢献する． 4．（誠実） ソーシャルワーカーは，本倫理綱領に対して常に誠実である． 5．（専門的力量） ソーシャルワーカーは，専門的力量を発揮し，その専門性を高める．

【図4－2】賀川の考え方と日本ソーシャルワーカーの倫理綱領　　筆者作成

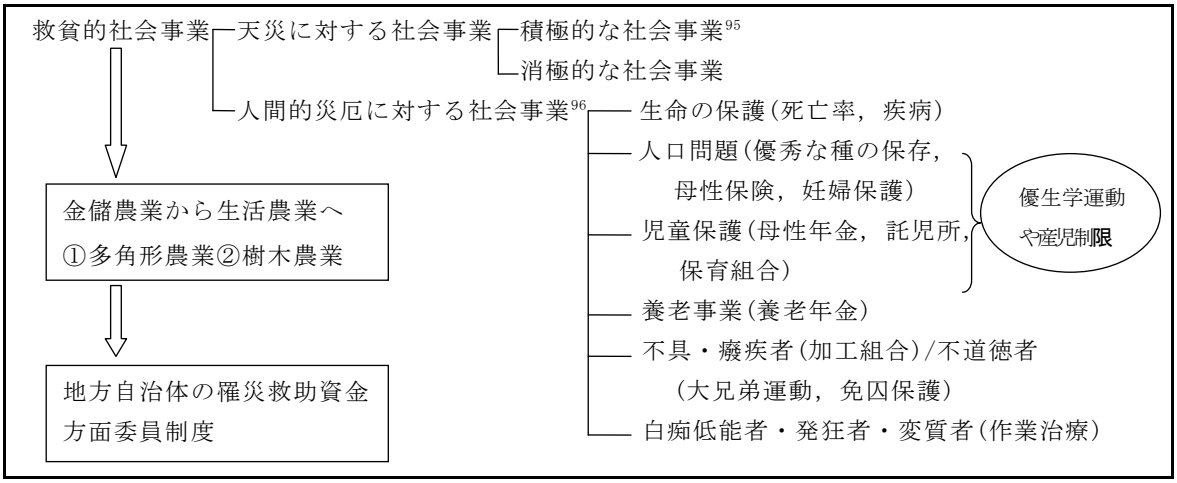
社会福祉の本質または価値に関する賀川の考え方や倫理綱領をみると，社会福祉の領域において，私たちが何を求めていくのかに対する重要な価値基準を示唆していると考えられる．約100年前の賀川の「社会事業」の思想は，今日の社会福祉の実践において活かされるべきであると考える．賀川は，すでに社会福祉に対する考え方やどのように行うべきなのかについて先覚的な知見を持って提示した人物であるといえよう．

[94] 日本ソーシャルワーカー協会ホームページ（http://www.jasw.jp/rinri/rinri.html，2013．1.25 閲覧）

第3節 『農村社会事業』(1933, 日本評論社)

賀川（1933：8）は，農村の社会生活が都市のように複雑ではないという理由で農村の社会事業が不要であると考えるのは大きな間違いであり，都市の貧民救済を実施するとともに，農村の社会事業も実施しなければならないと主張している．実際に全国農民組合が誕生した1922年から『農村社会事業』を著述した1932年までの約10年間の経験は，賀川にとって具体的な農村社会事業の実践を提案する土台となったと言える．なぜなら，農民組合の発案者である賀川が，1927年から農村教育のため，具体的に農民福音学校の運営した経験があったからである．

賀川は，農村社会事業を大きく救貧的社会事業，防貧的社会事業，福利的社会事業の三側面から捉えている．賀川は，天災から救われるために農民は，金儲け農業から生活本位の農業に移行しなければならないと述べている．これは農業に対する根本観念を改め，農村生活を更生する必要があり，さらに農村でも各自が専門を分担し労力出資組合を組織して農村を愛する精神を具現化することが大切であるということである．そのため，まず生産組合を組織し，土地の開発を計ること，次に販売組合の活動を促進させて利用組合を起こし，信用組合を作って利益の剰余金を互助組合に廻すこと，さらに医療組合を作って薬代を安くすることなど，具体的な方法を提示している．

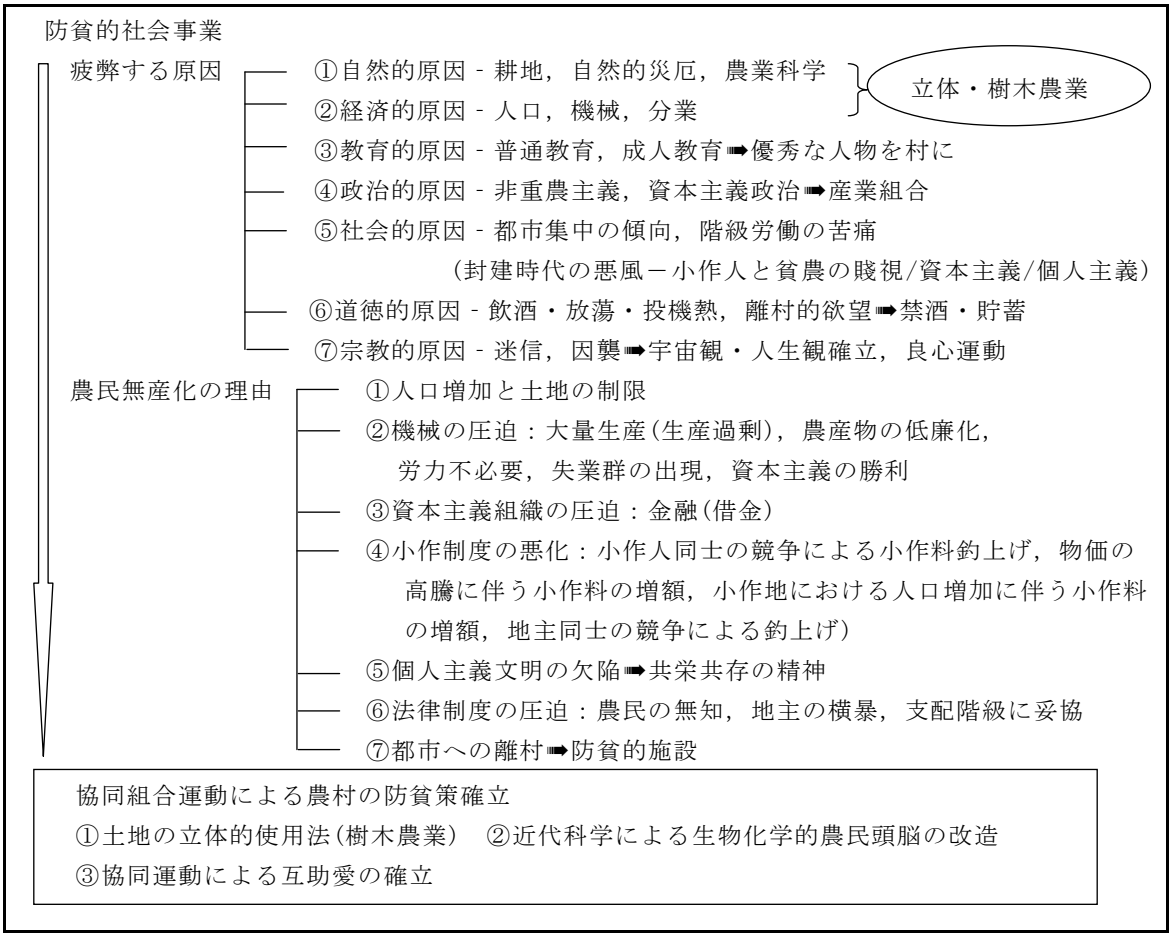


【図4－3】救貧的社会事業　　出所：李善惠（2012：36）

[95] 「目先の金儲けを離れて生活を基礎とするよき農村を設計をし，如何なる天災が振りかゝつても，必ず生活に窮しないやうな設備をすることである（賀川 1933：9）．」

[96] 「人類は出生に悩み，病気に悩み，死亡に悩む．そして之等が貧乏の原因である．私が人間的災厄に基く窮乏の救済事業というのは，かうした方面をいふのである（賀川 1933：18）．」

賀川が提案している救貧的な社会事業は，上記の【図4-3】である．救貧的社会事業は天災または人間的災厄を被る人々のため，行なわれる事業であるが，一時的な支援を行うことより，根本的に生活が改善できるように支援することが必要であることを強調しているのであろう．もっとも，賀川は，人口問題と児童保護を結びつけ，女性の妊娠・出産に関して，産児制限によって対応しようとしたのが目につく．問題は，「白痴低能者」「発狂者」「変質者」[97]などを先天的遺伝と位置づけ，子どもを産むのを控えるようにしたことである．それは，遺伝子診断や人工妊娠中絶などのように生命倫理に違反することなのではないかということである．現在でも「先天的に遺伝するものは生まれても駄目である」という賀川の考え方は批判されるべき部分であろう．ただし，なるべく子どもにとっていい環境を提供するためには，責任を持って子どもを産むべきであるという賀川の主張には賛成できる．



【図4 - 4】防貧的社会事業　　出所：李善惠（2012：37）より修正して作成

[97] 差別用語であるが，当時の考え方を反映するため，そのまま使用する．

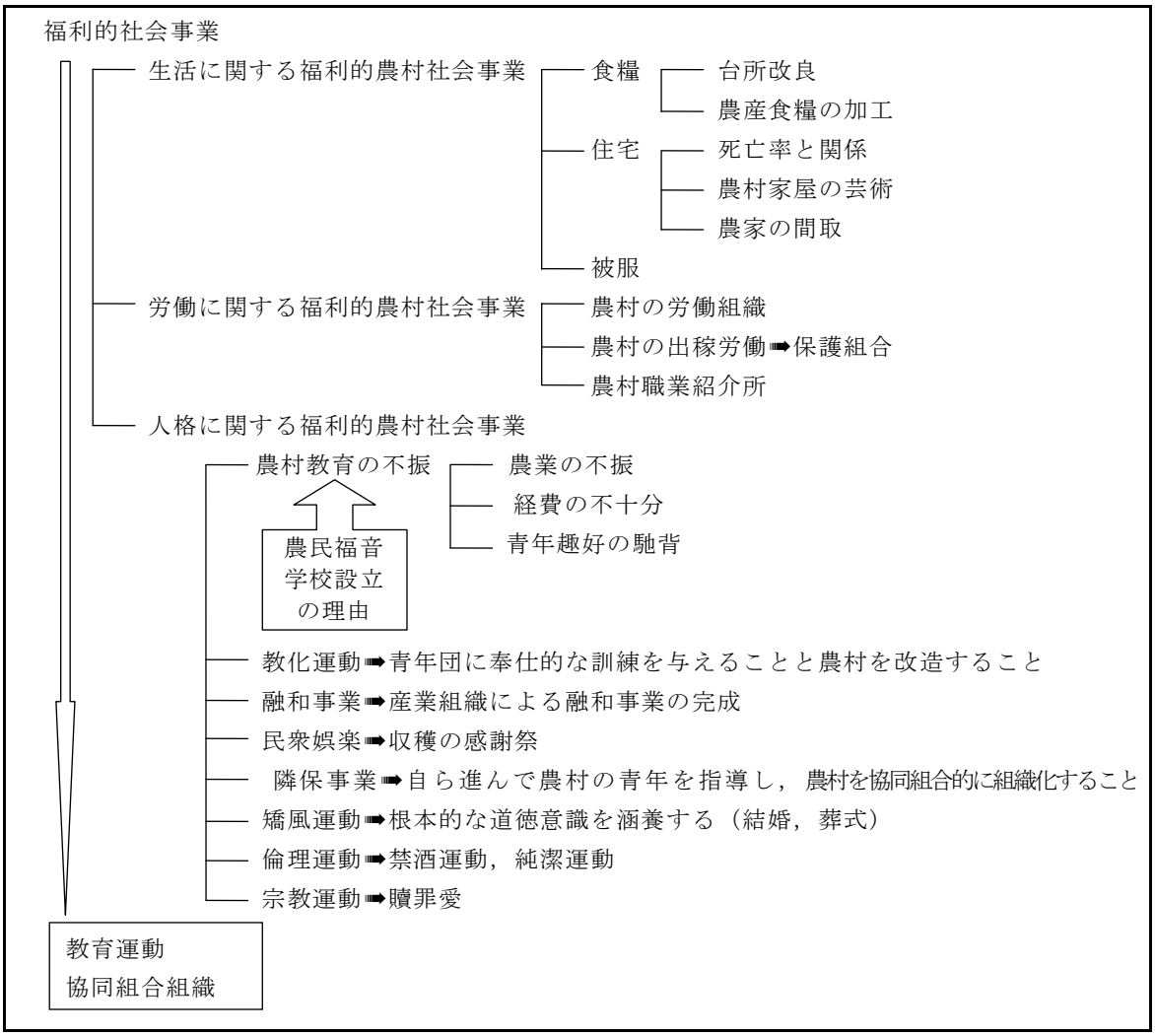
防貧的社会事業について賀川は，上記の【図4－4】のように農村の疲弊する原因や農民無産化になる理由を把握した上で，その解決策として協同組合運動を訴えている．単に救貧的な消極的方面のみを農村社会事業の目的としてはならないとしている．さらに進んで，防貧対策に取り掛からなければならないと主張している．ここで賀川は，社会事業が革命的階級闘争と異なる理由は，絶えず社会全体の立場から社会を見直し，階級闘争のように敵を倒せばそれでいいというのではなく，社会に属するすべての人を救い向上させていくことにあると述べている．それは，階級闘争の理論とは異なり，社会事業は弱者の権利を認め，新しい時代において資本家自身も搾取から離れて社会に尽くすこと，それが社会全体の立場から共に防貧運動となるということである．

賀川（1933：74－79）は，農村の協同組合を組織することに，様々な組合の形態を紹介している．例えば，産業組合，販売組合，購買組合，利用組合，信用組合に生産組合と互助組合を加えた．販売組合とは，共同出資によって，様々なものを生産販売する組合である．購買組合は，品物を一緒に購入しようとする組合である．利用組合は，協同で様々な資源を利用開発することである．信用組合は，お互いに信じ合い，金銭を融通する組合のことである．ここで賀川が加えた互助組合は，疾病，養老，災害，癈疾，妊婦，あるいは教育などの各方面に対して，資金を拠出する保険制度によって加入者を支える保険共済組合である．とりわけ賀川は，都市及び農村に消費組合を作ることで，生産者組合が助かることになり，それによって農民組合や労働組合の活動まで活発になると述べている．ただ，生産組合が必ずしもその商品を購入するとは保障できないという危険性はある．しかし，農村全体が生産組合に加入し，作物を農業倉庫に納めるならば，十分であると述べられている．

このように，各組合の特徴を踏まえ，農村における協同組合運動がいかに大切なのかを説明している．つまり，防貧運動としての農村社会事業は，協同組合の結成こそが解決方法であると主張しているのである．たたし，組合を組織するためには，その団体を管理する適切な人物が必要である．これについて賀川（1933：87）は組合運動を始めるためには，経営に長けている人物，会計に長けている人物，記録に長けている人物，この三者を揃える必要性があると述べている．つまり，組合の中心を，物ではなく人とすることが組合の基本であると示しているのである．

また賀川は，生活に関する福利的社会事業について衣食住の問題を取り上げている（【図4－5】）．まず「食」について賀川（1933：102－111）は，農村の台所の改良

が食料問題を改造する根本的な鍵であると述べている．食料の改良するために，米だけではなく他の穀物を栽培して食べるようになる調理や加工が必要である．栄養や衛生を考慮し，様々な食料を食べる方法を検討する必要があるということであろう．それまで，「台所のことは単純な女性の仕事であると考えられていたが，台所こそが農産品の加工を工夫し，食糧問題を解決できる場である」として，その認識を変える必要があると賀川は述べている．



【図4－5】福利的社会事業　　出所：李善惠（2012：39）より修正して作成

「住」について賀川は，衛生面を考慮し，より快適な居住空間を作る必要があると認識している．とりわけ，密集部落の問題点を取り上げ，上下水道を整備し，蠅や蚊の駆除に尽力することで，伝染病が大幅に予防できると述べている．住宅は農村住民

の死亡率と密接な関係があると述べ，賀川（1933：108）は住宅組合の必要性を訴えた．そして「衣」について賀川（1933：111‐113）は，人間に被服が必要な理由について，健康上や表象上の理由であると説明した．農村は自給自足が可能であるため，各自が個性にあわせて好きな柄や色を使い，自ら工夫した形に縫って着たら良いと勧めた．また洗濯が風習化することが望ましいと述べた．このように農村の福利的社会事業のためには，何よりも生活に関する「衣食住の改造」が必要であると賀川は考えていたのである．

労働に関する福利的農村社会事業について賀川（1933：113‐114）は，まず農村の労働が自然環境に大きく左右され，農民が仕事を求めて都市に流れ込んでいたと述べている．農村は交通や水，機械力，人手の不足で，非常に苦しんでいると述べ，一人の力より，協同的作業のために労働組織を作る必要があると訴えていた．

人格に関する福利的農村社会事業について賀川（1933：120‐122）は，教育の大切さを述べ，農村の青年が自ら講座に参加できるように青年団を組織し，青年訓練所を設け，農村の趣味を増やすことを望んだ．特に賀川(1933：122)は，青年団の内部に社会事業部を設けて，防貧の原理を教え，青年団を通して身体的あるいは心理的に悩んでいる人々や，農村における無産化に悩んでいる人々を救済することを勧めた．

このように賀川は具体的な実践方法を提示している．その中に流れている農村救済の根本精神，つまり農村社会事業に関する賀川の社会福祉思想（賀川1933：3）は，「土への愛」「隣人への愛」「神への愛」である．この三つのキーワードを中心に言及していく．

賀川（1931b：14）は，農学校を卒業した者が農村を離れることは，土を愛する精神が蒸発することであると述べ，農村の疲弊を防ぐためには共生的精神を培う必要性があると主張している．つまり，農村社会事業の基礎となる精神は，土への愛であり，まずこれを教育する必要があると考えていたのであろう．武藤（1963：528‐529）はこの点について次のように解説している．

> 土は生物である．土を物資として取扱い粗末にすれば土は叛逆する．洪水と砂漠化とはこれである．農は金もうけを主にせず，土を愛することから出発せねばならぬ．

賀川（1933：10）がすでに述べたように，土地は生物である．土を愛することは営利のためではない．様々な農産物の収穫によって農村は安定するのであるが，そのために救貧的な社会事業だけではなく，防貧的な社会事業も必要であり，賀川はその具体的な方法として多角形農業や樹木農業，立体農業を紹介している．人間が身体的に，心理的に，道徳的に，また社会的に地上に天国を創ろうとするならば，土地を離れて，真正の文明を築くことはできない賀川の考え方（1935a：129）が理解できる．賀川は何よりも土への愛が農村社会事業思想の始まりであると主張した．

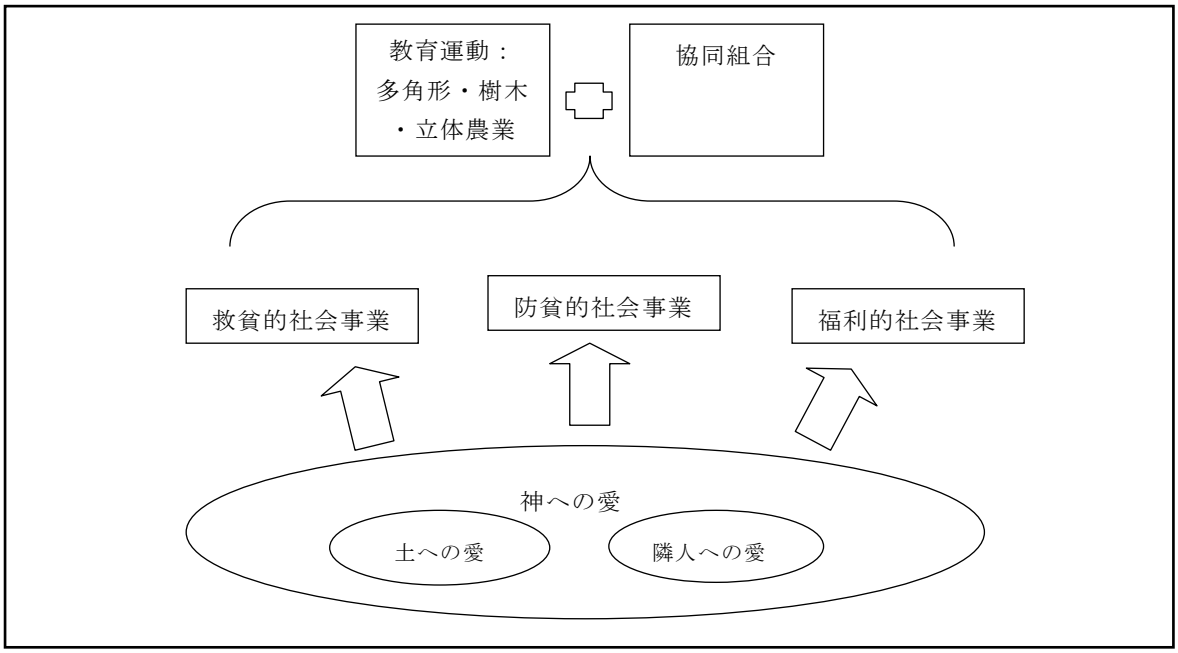
また賀川（1935b：180）は，農村が個人主義の立場に立脚し，労働の組織力を欠き，互助友愛の社会的法則を経済に実現する工夫をしていないことこそ，農村が復興しない最大の原因であるとも述べている．そこで，賀川は農村における徹底的な団結と組織化と訓練が必要であり，個々人が，社会に尽くそうとする意識的な自覚を持つべきであると主張している．賀川（1931b：7）は，組合の必要性について次のように述べている．

> 土と親しむと同時に團體を作る．團體も共同組合をつくり，その根本に共濟組合を作る．それも連帯責任を持つて，全體のために部分が犠牲になつて奉仕する．そこで大事なのは，村が喜んでやることが必要である（傍点ママ）．

いくら土と親しんでいても，自然環境や社会環境の変化によって，貧困に陥ってしまう農村の現実を，賀川は隣人を愛することで互いに支えあい，分かち合い，助け合う農村社会に変えることを目指していたと考えられる．賀川（1933:62）は，農村は単に金儲けを目指す農業ならば，大失敗すると述べ，宗教的に損を覚悟し，宇宙精神の立場から土を愛し，隣人を愛することにより農村は必ず再興できると信じていた．賀川は，農村において精神運動が大切であり，精神運動の根源をなす全意識的宗教が確立することなくしては決して経済運動が正しい方向に導かれないと主張している．とりわけ賀川(1931b:8)は，宇宙の神を信じ，土の中に神の姿が現れていると気が付けば，土を愛することができると述べている．特に信仰の力によって，土地を愛して守ることができるし，開拓精神によって農村を発展させることができるのである．

つまり，農村社会事業に関する賀川の考え方は【図4‐6】の通りである．賀川は，「土への愛」「隣人への愛」「神への愛」という思想に基づいて農村社会事業を実践

すること，そしてその農村社会事業を「救貧的社会事業」「防貧的社会事業」「福利的社会事業」として捉え，農村における「教育運動」や「協同組合組織」の必要性を訴えているのである．



【図4－6】賀川の農村社会事業に関する考え方　　出所：李善惠（2012：42）

小括

今までの先行研究では，キリスト教に基づいて行われた賀川の活動について言及されているものの，それが社会福祉とどのように関連しているのかについては分析されていない．社会福祉に関連する雑誌や著書の中で，賀川自身がどのような考えで実践したのかについてまとめたものも見当たらない．

社会福祉の関連雑誌に載せられた論稿に基づいて，賀川の社会福祉思想のキーワードをまとめると，「生命」「労働」「人格」である．賀川にとって生命は，キリスト教と密接に関連するものである．賀川（1921a）は，キリスト教が他の宗教と異なる3つの要素について，生命，我（人格），救いであるとまとめている．キリスト教において生命とは，神から与えられたもので，特に十字架によって救われ，「生まれ変わる」存在になることである．そして救われた存在が，また新たな生命を救済する役割を果たしていく．しかし，病弱で死にかけたこともあった賀川自身も，病による苦し

みから自殺を考えるほど悩んだ時期があった．その中で「死を決してもスラム街に行く」という決意は，賀川にとって死から生へと志向を転換する体験となり，生涯に渡り社会福祉の道を歩むきっかけにもなった．これは存在の価値を感じさせることと同時に生きる意味を提供するキリスト教において，自殺予防としてもキリスト教社会福祉の実践が役割を果たすことが期待されることを意味している（李善惠2011：81）．労働も単なる経済的な価値にのみ関わるものではなく，人々が自分の役割を認識しながら，自分らしく生活できるようにする提供する重要な道具である．賀川の場合，労働とは「人間性の回復を通して自分らしく生活できる一個の芸術である」と定義している．日常生活が崩れることで，人間の精神まで悪い影響を及ぼしていたスラム街での経験を通して，生活の安定だけではなく精神的な安定のためにも労働が重要であると訴えているのである．人格とは生命のある人々がその存在について互いに認め，尊敬し合うことである．賀川が述べている「生命」「労働」「人格」は，社会福祉の本質でありながら，人間の尊厳や社会正義という今日に繋がる社会福祉の価値に値する概念ではないかと分析した（【図4‐2】を参照）．

特に賀川（1933）は，農村で生活手段や生産手段を作り出す活動が可能であれば，都市に流れ込む人々も減少し，また生活を安定させることで都市でも農村でも労働問題が解決できると考えていた．農村改造の具体的な方法として「多角形農業」や「樹木農業」，「立体農業」を紹介しているのである．都市の労働問題に関しては，正当な報酬を得られるように労働者を組織しないと貧困問題の解決が難しいと考え，労働者の正当な報酬を受ける権利を守るため，組合の結成が必要であると訴えている．このように賀川は，農村及び都市の労働問題について総合的に考えて，その問題を解決しようとしたことが分かる．賀川（1921c：23）は，「労働運動の根本目的は人格の建築運動である」と定義している．これは，当時，監獄に行く人の9割が貧困者でありながら人格まで崩れていく社会的な状況に痛嘆していたことに基づく．賀川は，労働がしたくても労働の機会さえ与えられない社会に労働を保障することが大切であり，そのため組合という組織が必要であると訴えたのであろう．

【参考・引用文献】

安部能成（1948）『カントの実践哲学』 頸草書房.

雨宮栄一（2003）『青春の賀川豊彦』新教出版社.

雨宮栄一（2005）『貧しい人々と賀川豊彦』新教出版社.

雨宮栄一（2007）「李泳禧氏からの手紙」財団法人本所賀川記念館『賀川豊彦研究』第52号，19‐25.

雨宮栄一（2010）「巻頭言　本所賀川記念館40周年を迎えてー」財団法人本所賀川記念館『賀川豊彦研究』，第56号，1.

飯沼二郎（1990）「農民運動・農民福音学校」 緑蔭書房編集部編『「雲の柱」解題・総目次・索引』緑蔭書房.

大林宗嗣（1926）『セッツルメントの研究』同人社（＝1996，『戦前期社会事業基本文献集30　セッツルメントの研究』日本図書センター）.

賀川豊彦（1915）『貧民心理の研究』『賀川豊彦全集』第8巻，キリスト新聞社，3‐269.

賀川豊彦（1919）『精神運動と社会運動』『賀川豊彦全集』第8巻，キリスト新聞社，271‐560.

賀川豊彦（1920a）『死線を越えて』『賀川豊彦全集』第14巻，キリスト新聞社，3‐224.

賀川豊彦（1920b）『人間苦と人間建築』『賀川豊彦全集』第9巻，キリスト新聞社，3‐176.

賀川豊彦（1921a）『イエスの宗教とその真理』『賀川豊彦全集』第1巻，キリスト新聞社，135‐222.

賀川豊彦（1921b）『太陽を射るもの』『賀川豊彦全集』第14巻，キリスト新聞社，225‐403.

賀川豊彦（1921c）『自由組合論』『賀川豊彦全集』第11巻，キリスト新聞社，3‐48.

賀川豊彦（1921d）『賀川豊彦氏大講演集』『賀川豊彦全集』第10巻，キリスト新聞社，41‐188.

賀川豊彦（1922）『聖書社会学の研究』『賀川豊彦全集』第7巻，キリスト新聞社，3‐83.

賀川豊彦（1923a）『地球を墳墓として‐焦土を彩色せんとして‐』『賀川豊彦全

集』第21巻，キリスト新聞社，299‐305.
賀川豊彦（1923b）『身辺雑記‐雑誌「雲の柱」ー：「大正12年」』『賀川豊彦全集』第24巻，キリスト新聞社，19‐27.
賀川豊彦（1924a）『壁の声きく時』『賀川豊彦全集』第14巻，キリスト新聞社，405‐606.
賀川豊彦（1924b）『身辺雑記‐雑誌「雲の柱」ー：「大正13年」』『賀川豊彦全集』第24巻，キリスト新聞社，28‐38.
賀川豊彦（1926a）「欧米のセツルメントについて」（財）中央社会事業協会『社会事業』第10巻第1号，69‐72.
賀川豊彦（1926b）「セツルメントの運動の理論と実際」大阪社会事業連盟 『社会事業研究』第14巻第3号，1‐24.
賀川豊彦（1926c）『賀川豊彦氏大講演集』『賀川豊彦全集』第10巻，キリスト新聞社，150‐153.
賀川豊彦（1927c）「少年小説　私の少年時代」博文館編『少年世界』8月号，84‐91.
賀川豊彦（1931a）『一粒の麦』『賀川豊彦全集』第15巻，キリスト新聞社，255‐402.
賀川豊彦（1931b）「土を親しむ精神」『雲の柱』第10巻第3号，2‐8.
賀川豊彦（1933）『農村社会事業』『賀川豊彦全集』第12巻，キリスト新聞社，3‐126.
賀川豊彦（1935a）『立体農業の理論と実際』『賀川豊彦全集』第12巻，キリスト新聞社，127-138.
賀川豊彦（1935b）『農村更生と精神更生』『賀川豊彦全集』第12巻，キリスト新聞社，139-211.
賀川豊彦（1939b）『石の枕を立てて』『賀川豊彦全集』第19巻，キリスト新聞社，307‐397.
賀川豊彦（1950）『キリストの入門』大泉書店.
賀川純基（1988）「聖書が動かした人間‐賀川豊彦の生涯と働き‐資料：救霊年報第2号」『雲の柱』第8号，賀川豊彦記念松沢資料館，22‐41.
河　幹夫（2008）「第5章　制度と実践」阿部志郎・河　幹夫『人と社会‐福祉の心と哲学の丘‐』中央法規.

河島幸男（1985）「賀川豊彦 - キリスト者・社会運動家・平和活動家 - 」『西南学院大学法学論集』第18（一）号，33 - 80.
木原活信（1993）「J．アダムスと日本 - 先行研究の検討と来日（1923．6．14 - 8．28）の足跡をめぐって - 」社会事業史研究会『社会事業史研究』第21号，35 - 59.
栗原直子（2001）「賀川豊彦の『死線を越えて』の保育学的分析 - スラムの子どもを中心に - 」『乳幼児教育学研究』10，65 - 72.
黒川徳男（1998）「関東大震災後の賀川豊彦・吉野作造・ 未弘厳太郎」賀川豊彦記念松沢記念館『雲の柱』第15号，13 - 17.
黒田四郎（1960）「偉大な伝道者賀川豊彦先生」明治学院大学基督教学生会編『Kagawa - 二十世紀の開拓者 - 』教文館.
黒田四郎（1983）『私の賀川豊彦研究』キリスト新聞社.
資料集（1991）『「賀川豊彦全集」と部落差別 - 「賀川豊彦全集」第8巻の補遺として - 』キリスト新聞社.
杉浦秀典（2008）「『救霊団年報』にみる賀川豊彦の活動」賀川豊彦記念松沢資料館『雲の柱』22，1 - 4.
杉山元治郎（1965）「農民福音学校の運動」杉山元治郎伝刊行会編『土地と自由のために - 杉山元治郎伝 - 』，杉山元治郎伝刊行会，63 - 68.
杉山元治郎伝刊行会編（1965）『土地と自由のために - 杉山元治郎伝 - 』杉山元治郎伝刊行会.
鈴木文治（1931）『労働運動二十年』一元社版.
高崎芳輝（1984）「異説・賀川豊彦－民衆の伝道者としてのその生涯－」財団法人本所賀川記念館『賀川豊彦研究』第4号，12 - 18.
高橋重人（1972）「賀川豊彦と『死線を越えて』」『英学史研究』第5号，47 - 58.
東京市役所編（1926）『東京震災録（前輯）』
永岡正己（2003）「第4章　第一次世界大戦後の社会と社会事業の成立」菊池政治・清水教恵・田中和男・永岡正己・室田保夫編『日本社会福祉の歴史 - 付・史料 - 』ミネルヴァ書房，77 - 98.
生江孝之（1931）『日本基督教社会福祉史』教文館出版部.
生江孝之（1935）「基督教社会事業の進展」『社会事業』19巻2号，47 - 56.
西内　潔（1971）『日本セッツルメント研究序説』童心社.

服部　栄（1991）「賀川豊彦における社会事業思想の形成（二）」財団法人本所賀川記念館『賀川豊彦研究』第21号，11‐20.

林　宥一（1984）「日本農民組合成立史論Ⅰ‐日農創立と石黒農政のあいだ‐第3回ILO総会‐」『金沢大学経済学部論集』5（1），53‐86.

細井　勇（2006）「第2章　石井十次‐岡山孤児院と孤児教育‐」室田保夫編『人物でよむ　近代日本社会福祉のあゆみ』ミネルヴァ書房，19‐25.

宮田親平（1995）『だれが風を見たでしょう‐　ボランティアの原点・東大セツルメント物語‐』文芸春秋.

武藤富男（1962）「解説」『賀川豊彦全集』第15巻，471‐484.

武藤富男（1963）「解説」『賀川豊彦全集』第12巻，527‐535.

武藤富男（1981）『評伝　賀川豊彦』キリスト新聞社.

濱田 陽（2008）「賀川豊彦の遺産と現代」日本宗教学会.
（http://keishin.way-nifty.com/scar/files/hamada67.pdf#search＝'賀川豊彦の遺産と現代'2011．6．29閲覧）

村島歸之（1939）「賀川豐彦氏の社会事業とその特異性について」『社会福利』第24巻第4号，70‐79.

村島歸之（1941）「社会事業の先覚（6）賀川豊彦」『社会事業研究』第29巻第2号，94‐102.

村島帰之（1960）「交友四十年を顧みて」田中芳三『神はわが牧者‐賀川豊彦の生涯と其の事業‐』イエスの友大阪支部.

吉田久一（1994）『日本の社会福祉思想』頸草書房

吉田久一・岡田英己子（2000）『社会福祉思想史入門』　勁草書房.

吉田久一（2003）『社会福祉と日本の宗教思想‐仏教・儒教・キリストの福祉思想‐』頸草書房.

横山春一（1951）『賀川豊彦傳』キリスト新聞社.

横山春一（1965）「三　神の国とその義をもとめて」杉山元治郎伝刊行会編『土地と自由のために‐　杉山元治郎伝‐』，杉山元治郎伝刊行会，285‐300.

横山春一（1986）「賀川豊彦と農民福音学校」賀川豊彦記念松沢資料館『雲の柱』5，5‐16.

米沢和一郎・布川　弘編（1991）『賀川豊彦関係史双書5　賀川豊彦初期史料集』緑

蔭書房.
四十年史編集委員会編（1965）『四十年の恵み－本所基督教産業青年会・日本基督教団東駒形教会四十年史－』キリスト新聞社.
李善惠（2009）「プロテスタントが社会福祉に及ぼした影響に関する研究－近代初期における日韓社会事業を通じて－」同志社大学大学院社会学研究科 2009 年度修士論文.
李善惠（2011）「自殺予防としての宗教の可能性に関する一考察－自殺における賀川豊彦の思考を中心として－」『同志社社会福祉学』第25号，68－83.
李善惠（2012）「賀川豊彦の農村社会事業の思想や実践に関する一考察－『農村社会事業』（1933）を通して－」『キリスト教社会福祉学研究』第44号，33－44.
李善惠（2013）「賀川豊彦の社会事業思想に関する一考察－1909年から1920年代までの賀川の論稿を中心として－」『キリスト教社会福祉研究』第45号，53－64.
Robert Schildgen (1988) Apostle of Love and Social Justice Centenary Books（＝2007，ロバート・シルジェン著・賀川豊彦記念松沢資料館監訳『賀川豊彦－愛と社会正義を追い求めた生涯－』新教出版社）.
『イエスの友會報』（1924．11．20）
『大阪毎日新聞』（1923．9．2；9．5）
『救済研究』
『救靈團年報』第2号（1911．12）
『雲の柱』
『神戸イエス団年報』（1929．2）
『社会事業』
『社会事業研究』
『火の柱』（1927．3．25）
『雄弁』

（ホームページ）
yahoo百科事典　http://100.yahoo.co.jp
東京YMCA　http://tokyo.ymca.or.jp
イエス団　http://www.jesusband.jp
札幌市　http://www.city.sapporo.jp

第Ⅲ部　賀川豊彦と韓国

第Ⅰ部では，賀川が，ライフイベントを通して，どのような経緯で社会福祉に身を投じることになったのかについて，その社会福祉実践・思想の形成過程を検討した．そして，第Ⅱ部では，「救霊団」「本所キリスト教産業青年会」「農民福音学校」での賀川の社会福祉実践と，当時の中央・地方社会事業協会が発行した『救済研究』『社会事業研究』『社会事業』，そして『農村社会事業』などの文献から見られる賀川の社会福祉思想について，小説『死線を越えて』の内容も踏まえて言及した．第Ⅲ部では，賀川が，自身の生涯の中で韓国とどのようなかかわりを持ち，そしてどのような影響を及ぼしたのかについて具体的に辿って論じていく．

日本と韓国の両国は，地理的かつ文化的な距離では一番近く，政治的かつ歴史的な距離は最も遠い国であるとしばしば言われているが，古代から今日に至るまで日韓の交流は絶えず続いている．特に日韓併合（1910 - 1945）という歴史的な出来事は，両国間に強く影響し合っていたと考えられる．当時，賀川は韓国の独立運動について次のように述べている．

> 今，日本がロシアの属国であるとするならば，僕等は日本の独立運動に立つであろう．そう考えると朝鮮のクリスチャンが運動を起すのは無理からんことである．にも拘わらずこれに弾圧を加え，多くの犠牲者を出すことは，弾圧される者よりも弾圧する者が災を受けるのであり，その災は皇室にも及ぶ（武内[98]・村山編 1973：177）．

これは賀川の弟子であった武内が 1912 年 8 月頃に賀川が語った内容と記憶している話である．日韓併合からちょうど 2 年後，なぜ賀川がこのような発言をしたのかは明確になっていない．武内によれば，もし日本が日露戦争で敗戦していたら，ロシアの属国になったため，その場合には日本も独立運動をしたのではないかと，賀川が憤慨していたということである．つまり，賀川は韓国のキリスト教徒による反日独立運動を支持し，弾圧する

[98] 1956 年 10 月 14 日から 12 月 30 日まで，10 回に渡って神戸イエス団教会で行われた口述を整理したものである．口述の動機は賀川の献身 50 年目を記念して，神戸に於ける初期の事業について，資料を残しておこうということで，計画されたのがきっかけであった．口述は「創業当時の回想」という題のもとに行われた（武内・村山編 1973：298 - 299）．

側の日本が災いを受けるような過ちを犯していると痛嘆したのである．また 1919 年 6 月 17 日，18 日の『中外日報』では「世界的精神の亡失」というタイトルで，日本によって弾圧された韓国のことを次のように述べている．

> 日本で発行するヂャパン・アドヴアタイザアも，神戸クロニクルも朝鮮の水原で行はれた鮮人虐殺事件を詳しく報道し，憲政会の総務はその二ヶ月後に之が質問を首相にして居るが，日本の新聞が之に関して沈黙して居るのは何故か．日本に於ける世界精神の喪失は正に，人類的良心の消失であるのだ（賀川 1919：23，傍点ママ）．

韓国の独立運動[99]が起こった約 3 ヵ月後，韓国人の虐殺事件について，賀川は，日本人に良心がなくなったと訴えている．特に賀川は，当時の日本の新聞が事実を黙認していることに対し，新聞が果たすべき役割を果たしていなかったと指摘している．

第Ⅲ部では，賀川の韓国の訪問及び活動を検討した上で，韓国にどのような影響を及ぼしたのかについて言及していく．特に，社会福祉分野において韓国の社会福祉教育の先駆者である金徳俊と，韓国の農民運動の先駆者である劉載奇に対する賀川の影響を取り上げて具体的に分析していく．

第 5 章　賀川の訪韓の経歴

賀川は，2 回も臨死という特殊な体験をしている（横山 1951：39‐40；47‐48）．1 回目は 1907 年，豊橋教会を応援するために路傍伝道をしていたとき，40 度の発熱が十数日も続き，医師が死の宣告を下した時である．2 回目は 1909 年，結核性の蓄膿症で手術を受けた際に出血が止まらなくなった結果，賀川は亡くなると考えられ，葬式の手配がされた時である．その際に，賀川は二つの夢を見たが，その一つが「夜明けになつて見たのは，栄一が店を捨てゝ独り，朝鮮の方へ徒歩旅行して居ると，何処か砂漠の様な処へ差しかゝつた」という夢である（賀川 1920：143‐144）．つまりその夢を見たことから韓国へ徒歩で旅行することを意識し始め，それから間もなく韓国への訪問が実現されたわけである．

---

[99] ここでは 1919 年 3 月 1 日のことを指す．

米沢（2007：30）は，「1929 年 2 月賀川は，大連・旅順で，神の国運動を実施，これ以降，満州・台湾・朝鮮・樺太の“外地”も含めて展開する」と記し，賀川が韓国の訪問を計画していたと述べている．つまり，賀川の韓国への訪問は，「神の国運動」[100]の一環として行われたことが推測できる．また，1929 年以前にも韓国へ訪問したことを示すいくつかの痕跡が見られる．ここでは賀川の著書に基づいて，賀川の訪韓歴を整理する．

第1節　初めての訪韓

韓国の訪問について初めて書かれたのは，賀川の自叙伝小説『壁の声きく時』である．賀川の主観に基づいて書かれているものの，自伝小説なので，事実を書かれているものとする．1924 年に出版されたことを考えると，賀川はすでにこの時点で，韓国を訪れたことがあるものと考えられる．内容は次のようなものである．

> 天津から，彼は満州を廻つて，朝鮮に下つた．山海関を超えて，万里の長城を後に見ると，天地が変つたやうな心持ちがした．家は小さくなり，山河の荒れた

[100] 以下の表は賀川のキリスト教伝道者として海外伝道した日程である．

1924．11．25* －7．22	アメリカ，ヨーロッパ各国	1938．11．15 －3．18	インド（世界宣教大会）
1927．8．16－	中華民国	1941．4．5 －8．16	アメリカ（平和使節）
1930．7．19－	中華民国	1944．10．20 －2．5（1955）	中華民国
1931．1．13 －2．13	中華民国	1949．12．22－	イギリス，ドイツ，デンマーク，スウェーデン，ノルウェー
1931．7．10 －11．12	カナダ，アメリカ（世界YMCA大会）	1950．7．15 －12．28	アメリカ
1934．2．－ 3．14	フィリピン	1953．1．28 －6．24	ブラジル
1935．2．16 －7．30	オーストラリア，ニュージーランド	1954．7．1 －10．25	アメリカ，カナダ（第二回世界キリスト教会議）
1935．12．5－	アメリカ	1957．1．23 －2．22	タイ
1936．7．8－	ノルウェー（世界日曜学校連盟大会）	1958．1.22－	マレーシア（国際協同組合同盟東南アジア会議）

出所：http://www.core100.net/works/works05.html（20121224 閲覧）により筆者作成

*黒田（1983：154）は，11 月 26 日に横浜を出帆していると記している．また，国内及び海外の伝道日程の中で，黒田（1983：127－249）の資料では韓国の 1939 年 11 月 6 日から 25 日までの伝道日程は抜けている．残念ながら，その理由は不明である．

姿が甚しくなる．奉天に近づくと共に，蒙古の砂塵が明瞭（はつきり）見える．北の空は，いつも大都市の空を見るやうに濁つてゐる．何となく物浅い．

朝鮮に這入ると，乞食の国に来たやうな気がする．京城に這入つても何だか少しも落ち付いた気がしない．日本人は日本人で一所に集つてゐる．朝鮮人は朝鮮で別になつてゐる．両人種は間にある征服被征服の関係が明かに見える．京城の貧しい家を見て廻る．腰をかゞめなければ這入れないやうな低い家でもきちんとして生活してゐる．何となく奥床しい．支那の貧民窟などとは全く趣きが違ふ．如何にも教養ある国民のやうに感ぜられる．朝鮮人に対する尊敬の度が高まる．釜山から門司に渡ると，山奥から大都市に出て来たやうな気がする．凡てが便利で，きちんとして居る．その代りこせこせして狭苦しい．米国から帰つて来た時と同じやうに，満鮮から帰つても日本の島々に人口の多いことは，すぐ気が付く（賀川 1924：575，傍点ママ，下線‐筆者）．

もちろん小説の一部分であり，科学的な根拠のあるものとして取り扱うには無理があるかもしれないが，韓国に関する賀川の叙述は大変詳細なものである．それでは，賀川が韓国を訪れたときはいつであろう．この点について，浜田（2012：98‐99）によると，賀川は 1920 年 8 月の上海日本 YMCA での夏期講座の講師を終えた後，韓国経由で日本に帰ったことを上海日本 YMCA 機関紙『上海青年』1920 年 9 月号で触れている．内容は次の通りである．

支那を見て文化が東へ流れた順序に従って朝鮮へ入り日本に着きまして，私は抑えることの出来ない或る憂鬱に充たされて居ります．新しい光強き光が，暗き亜細亜に照り出ねばならなぬと私は感じて居ります．（下線‐筆者）

すでに述べたように，賀川（1919：23）は韓国の独立運動が起こった約 3 ヵ月後に，水原で行われた「朝鮮人虐殺事件[101]」を知っていた．そして，この事件で日本に良心が無くなったと痛感していた賀川が，その実情を現地で見聞しようとして中国から日本

[101] 1919 年 4 月 15 日に起こった提巖里（ジェアムリ）虐殺事件を指す．この事件は，カナダのメソジスト宣教師であった石虎弼（ソクホビル）（Frank William Schofield，1889．3．15‐1970．4．16）によって世界に知らされた（Lagault・Prescott2009：866）．

に帰る途中で韓国に立ち寄ったことが窺える．これに基づいて考えるならば，賀川が初めて韓国を訪問したのは 1920 年 8 月のこととなり，『壁の声きく時』の記述は賀川の実体験であることが推測される．

当時の韓国は日本の朝鮮総督府（1910 - 1945）の統治下にあり，経済構造が植民地体制に変わり，韓国の様々な資源が日本に流出したため，経済成長は全く望めない状況であった（李善惠 2009：39 - 41）．この事実をもとにすれば，賀川の目に写った韓国が乞食の国のように見えたことは事実であろう．以上の経緯から，賀川の韓国に対する第一印象は，征服民と被征服民という関係が見えたこと，そして貧しい国でありながら，中国のスラム街とは違い，教養がある国民に見えたというものであった．

そして賀川の訪問は，次回は 1922 年に予定されていたが，神戸労働連盟会の開催により延期されることになった．その内容が 1922 年 2 月 4 日の韓国の『東亜日報』に掲載されている．

賀川豊彦氏来朝延期

二月上旬来朝할 豫定이든 思想家 賀川豊彦氏는 神戸勞働聯盟會開催로 因하야 延期하얏더다라

（＝賀川豊彦氏来朝延期

二月上旬に来朝する予定であった思想家賀川豊彦氏は，神戸労働聯盟会の開催と重なったことにより来朝を延期することに決めた．翻訳 - 筆者）

残念ながら，延期した期間及び二度目の訪韓の日程に関する記録が見当たらなかったため，これ以上言及することはできない．ただし，上記のように新聞に載せられたことから，賀川は公式的に訪韓しようとしたことが言えるだろう．

第 2 節　1929 年頃の訪韓

次の文章は『雲の柱』1938 年 8 月号に掲載されたもので，賀川がその 9 年前にあたる 1929 年にも韓国を訪問したのではないかと推測できる記録である．

満九年前にはクリスマス頃であつたが，鴨緑江の上でパリユ（氷橇）に乗つた思ひ出が深かつた．その晩すぐ汽車で朝鮮に渡つた．そして京城についたのは翌日の朝だったが，京城大学を訪問しその規模のあまり小さなのに驚き，却つて地質調査所のよき研究を見て感心した．（中略）満九年ほど来なかつたら，京城も間違へるほど美しくなつて，米国の田舎の町に行つたやうな思ひがした（全集 24：260‐261，下線‐筆者）．

つまり賀川は，1938 年に韓国を訪問したときの内容を書きながら，9 年前のことも思い出しているのである．おそらく中国を訪問した後に，韓国に寄ったのではないか．その根拠は次の文章による．

大連に来て，何より驚いたのは消費組合の発達であつた．九年前であつたか，大連に来た時には盛んでなかつたが，今度来て見ると，年千五百万円の売上高を持つてゐるとのことで，全く驚いてしまつた（全集 24：257，下線‐筆者）．

正確にいうと，「満九年前」と「九年前」という表現の違いがみられるが，満九年前の鴨緑江での思い出と九年ぶりに大連を再度訪問したことをあわせて考えてみると，賀川は中国から日本に帰る途中で，韓国にも立ち寄ったことが推測できる．これは，賀川が 1929 年 2 月から「神の国運動」のために韓国への訪問を行ったという米沢の意見[102]と一致する内容であろう．しかしながら，なぜ，賀川が韓国を訪れたのかについては具体的に記されていなかったため，不明である．

第 3 節　1938 年の訪韓

年表（全集 24：608）によると，賀川は 1938 年 6 月 20 日に韓国を経由して下関に辿りついたという記録が残っている．それを基にして『身辺雑記』の内容をあわせると，【表 5‐1】のように経緯を遡ることができる．

[102] 1929 年 2 月，賀川は大連・旅順で，「神の国運動」を実施，これ以降，満州・台湾・朝鮮・樺太の“外地”も含めて展開する（米沢 2007：30，下線‐筆者）．

【表 5 - 1】1938 年の賀川の訪韓記録

	日程
5 月 23 日（月）	神戸から中国の大連へ（ウスリイ丸船）
5 月 26 日（木）	大連到着
6 月 16 日（木）	その晩すぐ汽車で朝鮮に渡つた.
6 月 17 日（金）	京城についたのは翌日の朝だつたが，京城大学を訪問しその規模のあまり小さなのに驚き，却つて地質調査所のよき研究を見て感心した．朝鮮は満州に次ぐ古い地層をもつてゐて，京城あたりでも，カンブリアン紀の岩石があるといふのだから驚く外はない．その晩組合キリスト教会で話したが，大勢来過ぎて困つた.
6 月 18 日（土）	翌朝またそこで礼拝したが非常に愉快だった．朝鮮には金融組合と称する面白い産業組合があつて中々よくやつてゐると思つた．土曜の午後博物館を見たり科学館を見物したが，朝鮮の蜥蜴が日本内地のものと全く違ふ話を聞いて面白く感じた.
6 月 19 日（日）	日曜の朝政務総監大野氏を訪問し，八時から十時前まで朝鮮と日本との関係を話して貰つて面白かつた.
6 月 20 日（月）	朝鮮経由で帰国，下関上陸

出所：全集 24：260 - 261；608 より筆者作成，下線 - 筆者[103]

上記から分かることはいくつかある．まず，満 9 年ぶりに訪ねた京城の姿が変わっていたことである．この点について，賀川はまるでアメリカの田舎町にいるようでありかつ美しくなったと表現している．また 6 月 17 日の記録をみると，韓国でも組合派の教会が存在したことが分かる．

それでは，韓国において組合派はいつから導入されたのか．実は他の教派と異なり，組合派は 1911 年に日本政府によって本格的に導入された[104]．朝鮮総督府は，台湾よりも韓国の方がはるかに統治することが困難であると考え，同和政策としてキリスト教の植民地伝道を利用しようとしたのである．しかしながら，日本基督教会の指導者である植村正久（1858．1．15 - 1925．1．8）に朝鮮宣教を断られた[105]ため，朝鮮総督府は日本組合基督教会に朝鮮宣教を命じたのである．なぜなら，組合派は他の教派と異なり，日本政府の朝鮮植民地政策に賛同[106]し，布教活動をすでに行なっていた[107]

[103] この表は 1938 年度のカレンダーを参考にして，逆算しながら筆者が作成したものである．

[104] 1910 年 10 月の組合教会第 26 回総会で，「朝鮮同胞の教化」について伝道拡充しなければならないことが決議され，その責任に当たったのが渡瀬常吉であった．渡瀬は，同年 12 月，一度韓国に行き伝道の準備をして戻り，翌年 6 月組合教会神戸教会牧師を辞任し，韓国伝道に赴いた（大内 1970：425）．

[105] 教会の伝道活動に当たって国家権力と根本的に妥協すべきではないというのが植村の持論であった（大内 1970：431）．

[106] 日本政府の朝鮮植民地政策に賛同した海老名弾正（1856．9．18 - 1937．5．22）は，日露戦争の頃から，朝鮮合併論を唱え，朝鮮人を教化しなければならないと考えていた人物である．

からである．しかし，1919 年 3 月 1 日の独立運動以後には，日本から入った教派だったため，会衆教会と改称しても韓国人に受け入れられなかった[108]（韓国基督教歴史研究所 1989：192）．

つまり，韓国において組合派のキリスト教徒の数は少なかったはずなのに，賀川の『身辺雑記』によると，「大勢来過ぎて困つた」という記述があることから，組合派のキリスト教徒より外部から来た人がもっと多かったと考えられる．また明治期の後半から始まった植民地における伝道は，対象が日本人にあまりにも偏りすぎていたと指摘されている（大内 1970：432）．それにもかかわらず，金曜日の夕方と土曜日の朝の 2 回の礼拝を行うほど，人数が多かったという事実は，聴衆が日本人に限られていなかったことを示しているだろう．ただし，賀川が長老派にもかかわらず組合派の教会で活動したことは，当時の状況を表してのことであり，その理由として，日本人中心の組合教会が主導していたことが挙げられる（注 107；108 を参照）．

このように 1938 年に賀川は，中国から韓国までの「4 週間」の渡航のうち，4 日間を韓国で過ごしたのである．残念ながら，当時の記録が韓国に残されていないため，

---

[107] 1907 年に平壌の箕城教会，1911 年に京城の漢陽教会を設立したが，当時は日本人対象の教会であった（大内 1970：424；飯沼・韓 1985：85）．

[108] この点については，意見が二つに分かれている．まず，松尾（1968）は組合教会に属する韓国人信徒が，三・一独立運動を契機として急激に減少したからという意見を主張している．それに対して飯沼・韓（1985：125）は，1919 年末に起こった呂運亨（ヨウンヒョン）事件こそ，その直接的，決定的な原因ではないかという意見を主張している．呂運亨事件とは，当時，上海にあった大韓民国臨時政府外交部次長呂運亨等 3 名が，1919 年 11 月日本政府によって東京に招かれ，政府，軍，総督府首脳とつぎつぎに会談，禁苑であった赤坂離宮を参観し，帝国ホテルの記事会見では政府の思惑とは逆に朝鮮独立演説をぶち，大々的に新聞報道されて騒然たる批判が起こり，帝国議会で激烈な野党の攻勢に会い，特に赤坂離宮参観問題を武器につめよられ，原内閣が防戦一方で窮地に立った事件である（飯沼・韓 1985：125）．筆者の場合，村尾の意見を支持する．なぜなら，三・一独立運動によって，日本政府が総督府による「武断統治」を「文化統治」へ切り替えるほど，抗日感情が激化したためである．韓国における組合教会の統計によると，次の通りである．

年	教会数	教職者数	教徒数	年	教会数	教職者数	教徒数
1915	24	68	5,678	1919	59	80	15,005
1916	38	78	11,760	1920	54	70	14,952
1917	48	84	11,770	1921	7	3	636
1918	58	88	14,128	1922	5	3	766

出所：朝鮮総督府学務局宗教課「朝鮮における宗教及び享祀一覧」（1928：46‐54）を引用した韓国基督教歴史研究所（1989：192）より再引用．

一方，飯沼・韓（1985：112）の統計によると，1919 年は，教会数 150 ヶ所と教師数 71 人，教会員数が 14,387 人で，上記の統計と異なることを補足しておく．渡瀬は，日本の本郷教会で開かれた第 37 回総会（1921．10）で朝鮮伝道の廃止案を提出し，1922 年 9 月，朝鮮伝道部所属の教会を「朝鮮会衆基督教会」と改称し，組合教会から分離・独立させた（飯沼・韓 1985：123；裵 2012：16）．徐正敏（2009：162）は「朝鮮総督府統計年報」を参考し，1921 年当時教会数は 35 ヶ所，教師数 49 人，教会員数は 2,955 名だったが，日帝末期の 1942 年までには教会数 26 ヶ所，教師数 26 人，教会員数が 273 人と，徐々に衰退していったと記している．

具体的な目的は把握できない．当時の賀川の訪韓について，『京城日報』（1938．6．19）に次のように掲載されている．

十四年振り

けふ賀川豊彦氏入城

東京社會課囑託『一粒の麦』の賀川豊彦氏は北満講演行脚を終へ十八日朝十時三十分着列車で十四年ぶりに入城出迎への笠谷基督教青年會総主事，丹羽同理事，尹致昊朝鮮基督教青年會長，野々村謙三氏，三井組合教會牧師ら在城キリスト教關係者，教へ子達に取巻かれ尹會長と握手を交しながら，賀川氏は「今度の旅行は満鐵が北満各地移民村農業者信用組合を建設するので，その應援に行つたやうなわけです，チヤハル佳木斯等約一ケ月間北満各地を行脚したが，各地は地味豊沃で北海道の豊穣地に匹敵し移民は夏の日照時間も恵まれてゐます，朝鮮基督教青年會の更新ですかそれは初耳ですが時局柄喜ばしいことです」と語り城大見學と市内見物に向つた，十九日『のぞみ』で歸東の筈．（下線‐筆者）

上記の記事から，賀川が中国に訪れた理由は信用組合の建設を応援するためであったが，それに反して韓国の訪問理由は明示されていない．それに 1938 年の賀川の訪韓記録に時間の差が生じている．『身辺雑記』によると，賀川は 6 月 17 日に韓国に到着したと推測できるが，『京城日報』の「けふ賀川豊彦氏入城」という記事（6 月 19 日）によると『身辺雑記』の日程と二日ずれている．もっとも，「十四年振り」という表現から 1924 年にも賀川が訪韓したことが推測できる．しかし，残念ながら，それに関する資料は全く見当たらない．ただし，1922 年に訪韓しようとした予定が神戸労働聯盟会開催で延期されたことから，2 年後に改めて訪韓することになったのではないかと考えられる．

このように，1920 年頃から 1938 年までの韓国への訪問は，具体的な記録があまり残されていないが，賀川が中国から日本への帰路に立ち寄った日程であったことが明らかになった．

第 4 節　1939 年の訪韓

1939 年の賀川の韓国の訪問は公式的なもので，伝道が目的であった．そのため，松沢教会の青年会や埼玉県深谷の賀川豊彦後援断食祈祷会が，毎日早天祈祷会を行った．その点について賀川は感謝している（全集 24：294）．訪韓の日程は次の【表 5 - 2】である．

【表 5 - 2】1939 年の賀川の訪韓記録 I

昭和 14 年	日程	講演題目	備考
11 月 7 日（火） 午前 10 時 30 分 午後 6 時	下関を出帆 釜山に到着 その夜，釜山港西教会	 「新宇宙観と新人生観」	関釜連絡船の二等の寝台券（河村孝次郎の婦人） 尹仁駒（通訳） 梶川吉彦の家
11 月 8 日（水） 午前 10 時 午後	 釜山鎮の癩病院（源州長老教会） 公会堂で講演	 「使徒パウロ」長編小説執筆 宗教講演	 350 名 尹仁駒（通訳） 2,000 人以上
11 月 9 日（木） 午後	癩病病院愛楽園 大邱第一教会 公会堂	 「贖罪愛宗教の勝利」	 1,500 名 2,000 名
11 月 10 日（金） 午前	ミッション病院（フレッチャー） 大邱➡金泉 金泉➡大田	 宗教講演 宗教講演	 1,000 名 1,200 名 李聖根（知事） 堀池次郎の家
11 月 11 日（土） 午前 6 時 25 分	京城➡開城	休暇（韓国の歴史）	

出所：全集 24：292 - 294 より筆者作成

【表 5 - 2】は「朝鮮の旅より」に基づき，11 月 11 日まで記録された賀川の日程を表にしたものであるが，【表 5 - 3】は韓国の張時華編の「賀川豊彦先生朝鮮伝道日誌」に基づいた表で 11 月 26 日までの日程が書かれている．

【表 5 - 3】1939 年の賀川の訪韓記録 II

	日程	備考		日程	備考
11 月 7 日（火） 午後 6 時 7 時	 釜山に到着 釜山港西教会	連絡船 1,000 名	11 月 17 日（金） 午前 7 時 夜	鎭南浦 教会 公会堂	 1,200 名 800 名

11 月 8 日（水） 午前 10 時 午後 1 時 30 分 ７時 30 分	釜山鎭 癩療養院相愛園 公会堂で講演 公会堂で講演	 300 名 1,200 名 2,200 名	11 月 18 日（土） 午前 7 時 20 分 午後 夜	京城 元山 元山	 1,500 名 1,500 名
11 月 9 日（木） 午前 8 時 50 分 午後 2 時	大邱に到着 癩病病院愛楽園 大邱教会公会堂	 300 名 1,000 名	11 月 19 日（日） 午前 午後 6 時 25 分	咸興 咸興の放送局 （「近代科学の宗教転向」） 公会堂	 1,500 名 ラジオ 1,500 名
11 月 10 日（金） 午前 午後 2 時	 東山病院 大邱➡金泉教会 金泉➡大田公会堂	 100 名 約 1,000 名 1,000 名 李聖根(知事) 堀池次郎の家	11 月 20 日（月） 昼 夜	城津 城津教会 公会堂	 400 名 1,200 名
11 月 11 日（土） 午前 10 時 30 分	 京城到着 開城	 博物館・善竹橋・満月台	11 月 21 日（火） 午前 午後 2 時	清津 メソジスト教会 小学校（羅南）	 約 500 名 約 700 名
11 月 12 日（日） 午後 2 時 30 分	京城 メソジスト教会 貞洞第一監理教会 在住西洋人 貞洞	 700 名 1,500 名 200 名 （英語） 1,500 名	11 月 22 日（水） 夜	京城 小学校 （裡里）	 1,500 名
11 月 13 日（月） 午前 7 時 午後 4 時 30 分 ７時 30 分	京城 中央青年会館 梨花専門学校 府民館 府民館	 500 名	11 月 23 日（木） 午前 午後 1 時	全州 学校の講堂（外国人が経営） 群山の公会堂	約 1,000 名 2,000 名 2,000 名
11 月 14 日（火） 午前 午後	新義州 長老教会 長老教会	 400 名 3,000 名	11 月 24 日（金） 午前 7 時 午後 7 時	 群山開福町教会 光州の瑞石小学校	 約 100 名 2,000 名
11 月 15 日（水） 午後 2 時 午後 7 時	宜川 教会 教会	 6,000 名 5,000 名	11 月 25 日（土） 午前 10 時 30 分 午後 2 時	木浦 土地の商工商談所 （「神と家庭の聖化」） 陽洞教会	 約 200 名 の婦人会 1,000 名
11 月 16 日（木）	平壌	乙密台・牡丹峯・玄武門	11 月 26 日（日） 午前 10 時 午後	慶州 路東里礼拝堂	約 1,000 名 博物館・遺跡巡礼

午後 2 時 午後 7 時 30 分	崇専大[109]講堂 崇専大講堂	4,500 名 6,000 名		釜山日本基督青年会主催の連合礼拝	約 500 名

出所：張時華編（1940：161 - 167）より筆者作成

また『雲の柱』の編集を担当した高山[110]は全国協同伝道の意気込みが韓国の伝道にまで影響を及ぼしたと述べ，賀川の伝道日誌を【表 5 - 4】のように記している．

【表 5 - 4】1939 年の賀川の訪韓記録Ⅲ

日	場所	人数	備考
11月7日（火） 午後6時 午後7時30分	 釜山に到着 釜山港西教会	 1,000名	 梶川氏宅
8日（水） 朝10時 午後 1 時30分 午後 7 時30分	 癩療養院相愛園 公会堂で講演 公会堂で講演	 300名（患者） 1,200名 1,200名	 農民福音学校にいた尹仁駒（通訳）
9日（木） 朝8時50分 午後2時 午後7時30分	 出発 ➡ 大邱 癩病病院愛楽園 大邱教会 ➡ 慶北道廳の山林課 大邱公会堂	 約300名 1,000名 2,000余名	 フレツチャーが経営 佐藤課長の説明 フレツチャー氏宅
10日（金） 朝 午後2時 夜	 東山病院チャペル 大邱 藤井忠次郎氏の病床 ➡佐藤新五郎牧師宅 金泉の教会 大田の公会堂	 100余名（病院関係者） 約1,000名 1,000名	 忠南道知事の李聖根（通訳），堀地氏宅
11日（土） 午前10時30分	 京城 開城 磁器博物館を一巡 京城		 梨花高等女学校設立者の梁柱三氏の案内 野々村氏宅

109　現在の崇実大学校である．

110　高山郁乎は『雲の柱』の編集長として第 14 巻第 10 号（1935 年）から第 19 巻第 10 号（1940 年，終刊）まで担当した人物である（緑蔭書房編集部 1990：5 - 6）．

12日（日） 午後2時30分 午後4時45分 午後7時30分	 京城メソジスト教会 貞洞第一教会で講演 貞洞第一教会	 700名 1,500名 約200名（家族を含めて） 1,500名	 京城在住西洋人のため
13日（月） 朝7時 午後 午後4時 夜 夜11時5分発	 中央青年会（半島[111] YMCA） 梨花女専 京城府民館 京城府民館 新義州へ	 500余名 2,500人 2,500人	 早天祈祷会 超満員 - 警察官の協力
14日（火） 夜	平壌➡定州附近➡新義州 長老教会	 800名 約3,000名	初雪，国方氏宅
15日（水） 午後2時 午後7時	宜川へ 教会	 6,000名 5,000名	元警部の長老李鳳来氏宅
16日（木） 午後2時 午後4時30分 夜7時	平壌へ 史跡：乙密盡，牡丹臺，玄武門 崇実大講堂 崇実大講堂	 4,500名 約50名 6,000名	メソジスト教会の磯野牧師宅 宇野氏の案内 外国人
17日（金） 朝7時 夜 午後9時発	 鎭南浦へ 教会 公会堂 平壌へ	 1,200名 800名	 日程以外の割り込み 11時過ぎに乗り換え朝7時20分京城着
18日（土） 夜半の3時30分 朝7時 夜	 京城へ 元山へ	 1,500名 1,500名	 旅館
19日（日） 午前9時 午後 夜6時25分 午後10時50分発	 咸興へ 咸興放送局ラジオ 公会堂 咸興	 1,500名 1,500名 1,500名	 「近代科学の宗教的転向」

[111] 「半島」は，「朝鮮」という言葉とともに韓国に対する差別用語であるが，原文をそのまま引用した．

20日（月） 午前3時30分 朝10時 夕食の時間	城津 教会 清津の公会堂	約400名 1,200名	臨時に割り込み/金谷氏宅 「新宇宙観と新人生観」
21日（火） 朝 午後2時 午後7時40分発	清津 メソジスト教会 羅南の小学校 羅南	約500名 約700名	
22日（水） 午後0時30分 夜	京城着 裡里の小学校	1,500名	「神と贖罪愛の勝利」
23日（木） 朝 午後1時 夜	全州 元外国人の経営であった学校の食堂 群山の公会堂	約1,000名 2,000名 2,000名	「山上の垂訓」 「新宇宙観と新人生観」
24日（金） 朝7時 夜7時	群山の開福町教会 光州の端石小学校	約600名 2,000名	
25日（土） 午前10時30分 午後2時 夕食後発	木浦 土地の商工相談所 陽洞教会 測候所訪問 慶州へ	約200名 1,000名	半島伝道最後の日程を埋める地 婦人会の集い（半島の内地人） 「神と家庭生活の聖化」 朝鮮半島の気象を研究
26日（日） 午前10時	慶州の教会（慶州邑路東里礼拝堂） 博物館，遺跡の巡り 釜山の聯合礼拝	約1,000名 約500名	日程以外で，賀川の希望（新羅古都訪問） 日基の催し

出所：高山（1939：24 - 29）より筆者作成

このように高山の記録は他の記録よりも詳しく書かれており，高山本人は今回の賀川の伝道訪問の際のエピソードやその時に感じたことも紹介している．たとえば，韓国の教会の規模は大きく，聴衆の信仰の熱心さは非常に胸を打たれるところがあったと述べている．また各教会は聖歌隊があり，非常に優れたものであったと評価している．それゆえ，高山は「凡ての點から半島人は，今や立ち上りつゝある民族である．特に神にある者に於て然りとの感を深くせざるを得なかった」と締めくくっている．

上記の三つの資料には相違点が見られるが，その一つが集会に参加した人数である．しかし，いずれの資料からも賀川の講演会に多くの人々が集まっていたことが確実に読み取れる．場所や移動経路が少し異なっているが，それは各執筆者の記録や記憶の差が生じたためだろう．とはいえ，全国行脚するような形で講演会が行われていたため，賀川の知名度は急速に高まっていったものと考えられる．その中で，賀川は韓国のキリスト教についてどのように感じていたのだろうか．ここでは検討する箇所が複数あるため，次のように全文を載せる．

半島とキリスト教

半島の佛教は今は僅かに山間に寺が残つてゐるくらゐのもので，五百年前に李王朝の彈壓を受けてからそれは衰頽の一途を辿るより外に仕方がなかつたので，またキリストの数が，半島において何故今日の如く發達したかといふことが分るわけである．半島のキリスト教にもセスキットと新教の福音主義とがあり，カトリックは小西行長が持つて行つたものである，小西行長は早くから堺で洗禮を受けてゐた熱心な信者であつたが豊臣秀吉の朝鮮役襲，半島人を連れ歸つて洗禮を受させて又歸り返した．それが半島のカトリツクの始めで，新教の方はアンダーウツト，モハツト等の宣教師によつて最近に傳導せられたものである，今半島にあるキリスト教は主として長老派，メソジスト，聖潔教會の三つで，その教徒約五十萬と稱せられ，南鮮よりも北鮮において特に教勢が振つてゐる．といふのは南の方には儒教思想による侍天教，普天教，天道教等の原始宗教に類するものが相當の勢力をもつてゐるので，信仰が分割されてゐる傾きがあるからである．さうして類似宗教では鄭鑑錄といふ預言者を重んじてゐるがこれは李王朝が亡び鄭氏代つて王位を繼ぐ．その時は三つの「豐」の字の付く地方に難を避けるがいゝ，といふやうなことを書いたもので，愛國的思想を中心とする．確に一種の魅力をもつてゐるので，一部の信者を繋いでゐるわけだが，勿論科學的の根據があるわけではなく，健全な哲學を持つものでもないから多くの人心を捉へるには足りなかつた．そこへ一道の光明として現はれたのが，天の神を説く福音主義の教へであつた．そこに彼らは眞の救ひを見出すことが出來て感激してこれを迎へたのであつた．

現在平壤附近だけに六萬の信者があつて，宣川の如きは禮拜に二千人も出席すると聞いたが，私の講演の時でも信者は皆座つて靜肅に話を聞いてゐる．それで面白いことは，内地では信者の數より禮拜出席者の數が少いのが普通であるが，半島では禮拜のとき，いつも信者數以上の出席者を見ることになつてゐる．

禮拜に集まる信者を見渡すと，半島の人の清潔なのに感心する．純白の衣服の外に既婚の婦人は白布を頭に巻いてゐる．これが内地の花嫁の角隠しと全く同じなのに驚いた．たゞ半島の人はそれを帽子のやうに常用してゐるだけである共にワングース一人種の風俗を傳へたものであらう．半島の人の音樂の上手なのにも驚いた．教會には大抵ブラスバンドがあり，聖歌隊があり，毎年そのコンクールが行はれると聞いてゐたが，釜山の教會のブラスバンドは特に優れてゐた．

かうして半島のキリスト者は今から三十年もすれば約百五十萬人くらゐになるであらう．しかも彼らはたゞ禮拜を守るだけの信仰ではなく，一歩を進めていろいろの實行運動もし，宣川では教會員にして自費を献げて養老院，孤児院を經營してよき社會事業をしてゐる人に逢つて私はその事業を見て來た．私はさうした各方面からの實情を見て，今や半島の人は，もつと内地の人と一緒にならなければならない，それには内地の人が先づ，半島の人に對する從來の考へ方を一變する必要がある．そして半島の人もこれに調子を合せて一つ道を踏むべきであるといふことを痛感して歸つて來た（一九三九・一二・一）．

訪問後，賀川は，「朝鮮印象記」を 1939 年 12 月 21 日，22 日，24 日の三日間，韓国の『京城日報』[112]の第 4 面に掲載した．そして上記の「半島とキリスト教」は 12 月 24 日に載せられた内容である．この内容は後に『雲の柱』第 19 巻第 1 号（1940）にも載せられたが，『京城日報』の内容を要約したものであったため，ここでは『京城日報』そのものを記載した．文章から，当時韓国に滞在している日本人の中でも賀川の知名度が広がっていたことが推測できる．なお，日韓双方のキリスト教史を見比べると，キリスト教の導入については少し異なる点がみられるため，ここで取り上げてみたい．

[112] 『京城日報』は朝鮮総督部が発行した新聞で，伊藤博文が統監部に赴任した後，1906 年 9 月 1 日に創刊されたものである（鄭晉錫 2003：i）．

日本のカトリックの発端は，1549 年 8 月 15 日，イエズス会員の聖フランシスコ・ザビエルの鹿児島渡来によるものとされている．しかし，韓国のカトリックの場合，始期が明確に記されていない．様々な学説の一つに，キリシタンであった小西行長が 1592 年，第一軍の将として韓国の釜山に渡り，ソウルを陥落させ，さらに平壌まで占拠した[113]際，布教が行われたという学説がある．しかし小西は，戦争中に日本軍に同行して韓国を訪れたため，カトリックを韓国に布教したとは考えにくい．ただし，賀川の文章から考えると，捕えられた人々を通してカトリックが伝来された可能性もありうるのであろう．もう一つの学説は，カトリックの伝来について年代が一番明確に書かれた記事で，1631 年に鄭斗源（ジョンドゥウォン）（1581 - ？）が中国の歴代王朝である明から西洋の文物とともにカトリックの書籍を持ってきたという内容である．そして韓国のカトリックは宣教師派遣以前に教会が出来上がり，教皇の許可なしに司祭を立てたという特徴があった．よって，ローマカトリックは韓国の仮聖職制度[114]を認めなかったため，他の国よりカトリックの受容が遅くなっていた．そして韓国は神父を正式に迎え入れるための運動を始め，最終的にはパリ外国宣教会がカトリック朝鮮教区を設立することとなった．そして 1831 年にバルテルミ・ブルギエル（Barthélemy Bruguiére, 1792．2．12 - 1835．10．20）司祭が韓国宣教師として派遣された．

また韓国のプロテスタントについて 1884 年のアレン（Horace Newton Allen, 1858．4．23 - 1932．12．11），1885 年のアンダーウッド（Horace Grant Underwood, 1859．7．19 - 1916．10．12）とアペンゼラー（Henry Gerhard Appenzeller, 1858．2．6 - 1902．6．11），そして 1886 年のハルバート（Homer Bezaleel Hulbert, 1863 - 1949）が次々に宣教師として訪韓した．特に平壌は，ジェネラル・シャーマン（General Sherman）号事件[115]を契機に，プロテスタントが盛んになり，後に韓国のエルサレムと呼ばれるほど，教会を含めてキリスト系の学校，病院，施設が多くなった（李善惠 2009：65，69 - 71）．そのため，賀川にとって平壌は，印象的であった

---

[113] 韓国では「壬辰倭亂（1592 - 1598）」と呼ぶ．

[114] 司祭がいなかった初期の韓国のカトリック教会で，一般教徒たちが神父と称して司祭の業務を執行した制度を指す．

[115] 1866 年 8 月 16 日にアメリカの武装商船ジェネラル・シャーマン号が李氏朝鮮王朝期の朝鮮に不法侵入して，民間人の虐殺や略奪を働いたため，朝鮮側の報復によって焼き討ちされた事件である．その際，宣教師トマス（Robert Jermain Thomas, 1840 - 1866．9．3）が最初の殉教者となった．

のであろう．特に実際に韓国を訪れてキリスト教徒の活動をみた賀川は，今までの日韓関係について改めて考え直すことを勧めている．

反面，賀川に対する韓国の反応はどうだったのであろう．次は 1939 年 11 月 8 日の韓国の『東亜日報』に載せられた記事である．

賀川豊彦氏 - 朝鮮巡回講演

빈민굴（貧民窟）에서 몸을 이르킨 사회사업가 하천풍언（賀川豊彦）씨는 이번 조선 기독교도들의 청함을 받어 전조선순회의 길에 올랏는데 오늘（七일）오후六시 부산（釜山）에 상육，대구，금천，대전을 거처 경성에 十一일（土）오후 四시 十八분 경성에 도착 동일 오후 六시 조선호텔에서 환영회를 하고 十二일（일요）오전 十시 욱정（旭町）메소지스트교회에서 설교，동일（일요）오후二시반 정동제일교회（貞洞第一敎會）에서 연합설교회 동일 오후 七시반 정동제일교회에서 일반강연이 잇다．十三일（월요）에는 오후 四시반 부민관에서 학생을 위한 강연，동일오후 七시반에는 부민관에서 반강연이 잇으리라 한다．그리고 十四일에는 신의주，十五일에는 선천，十六일에는 평양，十八일에는 원산，十九일에 함흥，二十일에 청진，廿一에 나진，二十三일에 전주，군산，廿四일에 리리（裡里）광주，廿五일에 목포 등지로 순회강연을 하리라 한다.

（＝賀川豊彦氏 - 朝鮮巡回講演

貧民窟の社会事業家である賀川豊彦は，今回朝鮮基督教徒たちの招きを受け，朝鮮全土での巡回の旅において，本日（七日）午後六時に釜山に上陸し，大邱，金泉，大田を経て京城には十一日（土）午後四時十八分に到着する．同日午後六時に朝鮮ホテルにて歓迎会が催され，十二日（日）午前十時旭町メソジスト教会で説教，同日（日）午後二時半，貞洞第一教会で聯合説教会，同日午後七時半貞洞第一教会で一般講演が行われる．十三日（月）には，午後四時半から府民館にて学生のための講演，同日の午後七時半には府民館にて講演がある．そして十四日には新義州，十五日は宣川，十六日には平壌，十八日には元山，十九日には咸興，二十日は清津，ニ十一日は羅津，二十三日は全州，群山，ニ十四日に裡里，光州，二十五日に木浦など，巡回講演する予定である．翻訳・下線 - 筆者）

1939 年の賀川の韓国への伝道日程は「日本キリスト教聯合会」と「朝鮮キリスト教聯合会[116]」との協力の中で行われた行事であった（張時華編 1940：4）．そして，当時の韓国において賀川に関する代表的な紹介がなされた方は，「貧民窟の社会事業家」であった．また朝鮮基督教聯合会の主催で行う大講演に関して，次のように賀川を紹介している（張時華編 1940：93‐94）．

社會事業의 先鋒，世界的 傳道者‐賀川豊彦先生大講演

先生이 學校時代부터 열렬（熱列）한 기독교신자가 되어 학업에 힘쓰는 한편， 신호신천（神戸新川）의 빈민굴（貧民窟）에 거주（居住）하시며，전도의 헌신（獻身）하시고，그 후에 미국（米國）푸린스톤 대학을 마추시고，귀국（歸國）하시자，사회운동（社會運動）의 제일선（第一線）에 서서 관서노동운동（關西勞農運動）의 지도자（指導者）가 되시었다．그 후 일본농민조합（日本農民組合）을 창설（創設）하시고， 중앙직원소개위원（中央職業紹介委員）의 임명（任命）을 받아， 산업청년회（産業青年會）이르키시며 대반을 사회사업（社會事業）에 노력（努力）하시었다．

그러나 일방 기독교（基督敎）선정（宣傳）을 위하여 헌신하시고，내지（內地）각 방면에서도 열렬한 활동을 계속하시고，작년은 인도（印度）마주라스에서 열리는 세계선교대회로부터 특히 초빙을 받다 강연을 하시고 영미인（英米人）간에 선생과 아울러 세계적 이대 인물이라고 칭하는 인도의 대성（大聖）깐듸와 회견하시고 의견（意見）을 교환하신 후 귀국 즉시로 시국（時局）하의 기독교 선전에 필요성을 깊이 느끼시어 일본기독교연맹（日本基督敎聯盟）과 협력하시고 주야 침식을 잊으시고 조금도 앉으실 겨를도 없이 복음（福音）을 선전하는데 노력하는 중에 게시다．그래서 이번 우리 반도 내선기독교제파신자（半島內鮮諸派基督信者）의 일치한 갈망에 움직이여 만장（萬障）을 제처놓으시고 극히 단기간 도선（渡鮮）하시게 되시였다．이 일은 실로 우리 반도인을 위하여 주신 희유（稀有）의 기회（機會）가 된 것이다．그래서 우리는 제군（諸君）이 다같이 선생의 대사자후（大獅子吼）에 경청

[116] 1938 年 7 月 7 日，ソウルで 32 ヵ所の地方キリスト教聯合会の代表 71 名と京城キリスト教聯合会が参加して「朝鮮キリスト教聯合会」を結成した．委員長は丹羽清次郎で，副委員長は金鍾宇（キムジョンウ）・秋月致であった．

（傾聽）하여 영능혁진（靈能革進）을 위하여 절대（絶大）의 비익（裨益）을 받으시기를 간절히 원한다（朝鮮基督教聯合会）．

（＝社会事業の先鋒，世界的伝道者 - 賀川豊彦先生大講演

先生は学生時代から敬虔なキリスト教者となり学業に力をつくす一方，神戸新川の貧民窟に住み，伝道に献身し，その後にアメリカ・プリンストン大学を卒業し，帰国後，社会運動の第一線に立って関西労動運動の指導者となられた．その後日本農民組合を創設し，中央職員紹介委員の任命を受け，産業青年会を立ち上げ，自身の生涯の大半を社会事業に尽力されたのである．

その一方で，キリスト教の布教に献身し，日本の各方面で熱心に活動を続けられ，昨年は印度のマドラスで開かれた世界宣教大会から，特別に招聘を受けて講演を行い，英米人の間に先生と共に世界的に偉大な人物であると称される印度の大聖ガンディーと会見し，意見を交わした．その後の帰国直後，当時の状況を目のあたりにしてキリスト教伝播に必要性を深く感じ，日本キリスト教連盟と協力して昼夜の寝食を忘れ，寝る間も惜しみ福音を伝道するのに尽力されている．そして今回は，半島の内鮮の諸宗派の教徒の一致した渇望に動かされ，すべての仕事を後回しにして，極めて短期間ではあるが，訪鮮されることになった．これは私たち半島人のため稀有の機会となったのである．それで私たちは諸君と一緒に先生の熱弁を振るう演説に耳を傾け，霊能革進のために絶対の捕益を受けることを切に願う（朝鮮基督教聯合会）．翻訳・下線 - 筆者）

このように賀川は，「社会事業の先鋒，世界的伝道者」として知られていた．ここでは特に賀川が韓国まで来て伝道活動する目的や背景について書かれており，賀川が韓国に公式に招かれた背景として，「朝鮮キリスト教聯合會」を結成した記念講演会が行われたことと，当時韓国に住んでいた日本人の希望であったことがわかった．これは韓国に駐在している日本人に賀川の知名度が他の誰よりも大変高かったことを示している．その中で，賀川が韓国に訪問した理由は興味深い．なぜなら，韓国の各教派の教徒たちが一致団結することを賀川が何より望んでいると書かれているからである．また，当時の韓国のキリスト教の雰囲気が感じられる文章である．当時，韓国のキリスト教徒が置かれていた状況の背景は，1938 年に発表された声明書（朝鮮耶蘇教長老会総会第二十七回総会録 1938：9）から窺える．その内容は次の通りである．

聲明書

我等은 神社는 宗教가 아니오 基督教의 教理에 違反하지 않은 本意를 理解하고 神社 參拜가 愛國的 國家儀式임을 自覺하며 또 이에 神社 参拝를 率先勵行하고 追히 國民精神總動員에 參加하여 非常時局下에서 銃後皇國臣民으로써 赤誠을 다하기로 期함

昭和十三年九月十日　朝鮮예수教長老會總會長 洪澤麒

（＝声明書

我等は神社は宗教ではなく基督教の教理に違反しない本意を理解し神社参拝が愛国的国家儀式であることを自覚しまたここに神社参拝を率先励行追に国民精神総動員に参加し非常時局下に銃後皇国臣民として赤誠をつくすことを期す

昭和十三年九月十日

朝鮮イエス教長老会総会長　洪沢麒，翻訳‐徐正敏 2009：232‐233）

当時は，韓国の教会史でも一番大変な時期を迎えていた．特に神社参拝は，最大の信仰の問題（「あなたには，わたしをおいてほかに神があってはならない（出エジプト記 20 章 3 節）」）に違反することであり，ひいては教会界を分裂した原因となったのである（神社参拝に関する賛成派と反対派との葛藤）．皇民化政策による政治的に混乱した状況の最中で，韓国の教会が団結できない状況に陥ったのである．その中で，賀川が韓国の教会同士の団結を望んでいたのは，皮肉な話である．とはいえ，賀川の訪問によって，日韓のキリスト教の交流は活発になったことも事実であろう．しかし，残念ながら，キリスト教を含めて日韓の交流は 1945 年終戦後，暫く中断することとなった．

第 5 節　その他

本節では，訪問以外に賀川と韓国がどのような繋がりがあったのかについて述べていく．まず，賀川の兄端一のことである．父純一の回漕店の経営の後を継いだ長男端一は 20 歳の若さで回漕店主となった．賀川とは 15 歳差があるため，端一は彼なりに長男の役割を果たそうとしていたと考えられる．次は賀川の兄端一に対する記述である．

そのころ兄端一は，兵庫の店から，一年に一，二回帰ってきて，巌谷小波の主筆していた「少年世界」を毎月送ってくれた．わたしは歴史や地理が好きなので，「少年世界」のおもしろい話に読みふけったものであった．（中略） 夏休みがくると，兄の端一は，わたしを兵庫の店までつれていってくれた．そこにはいなかとまったくちがった空気がただよっていた．わたしには，びっくりすることばかりであった（賀川 1955：95‐96，下線‐筆者）．

幼い頃賀川は，兄弟と離れ，慣れない徳島の阿波で継母と義理の祖母と生活していた．その中で，兄端一が送ってくれた『少年世界』という雑誌や，兵庫までつれていってくれた思い出はかけがえのないものだったのであろう．また徳島中学校に入学したことも，寄宿舎ではなく塾で過ごせたことも，すべてが兄端一の援助があったためである．

その端一が経営に失敗し，1903 年に回漕店は破産に至った．このことは賀川にとって心理的かつ財政的なサポートが無くなったことを意味する．兄端一の失敗について，賀川（1955：101）は「兄の端一のほうとうはやまず，兄は，いなかの大きな家も売り払ってしまった」と述べている．つまり端一の放蕩な生活が賀川家の事業を終わらせたことである．

結局端一は，その後に韓国へ渡り，仁川（インチョン）[117]において失意と不遇のうちに 1904 年 12 月 9 日に客死した．何故，端一が韓国へ渡ったのかについて雨宮は次のように推測している．

時の桂内閣は 1903 年（明治 36）度の予算編成にあたって，四八〇万の清韓事業経営費を要求している．清韓といっても，大部分は韓国を対象とするものであった．日本政府の韓国経営をあてにして，多くの 1 旗組が派韓したことは言うまでもない．端一もその一人であっただろうと推察するが，志ならず病に倒れた（雨宮 2003：61）．

端一が韓国にどのくらい滞在したのかは，どの文献にも示されていない．しかし，1903 年の桂内閣により若い資本家が中心になって韓国を訪問したと考えると，おそ

[117] ソウル市から西方へ一時間離れている港町である．

らく 1904 年に亡くなるまで１年にも満たない間であっただろう．短い期間であるが，賀川にとって韓国は，端一が過ごしている場所として認識されていたと考えられる．

次は，1923 年 8 月 25 日から 29 日まで行われた「イエスの友会」の夏期修養会の第 1 回に参加した人数は 47 名で，その中に韓国人が一人いたことについて論じる．その韓国人の名前は韓睨相（ハンウェサン）である（XYZ[118] 1923：143）．韓睨相がどのような経緯で参加したのかに関する記述は見当たらない．ただし，修養会の中で，会員間で対話が行われていて，韓睨相について次のように紹介されている．

> 韓睨相氏が獨立運動に狂弄してバイブルを捨てゝゐたのを再び此處に吸引されて來た涙ぐましい事實‐一夫等の物語に私達の心は秋のやうに澄みきろのでした（XYZ 1924：243‐244）．

この点について金子（1985：5）は，韓国が日本により国権が剥奪され植民地になった歴史的な背景の中で，韓睨相が「独立」か，それとも「バイブル」か，選ばなければならない状況に置かれたと分析した．これはおそらく信仰を守るべきか，それとも社会へ目を向けて独立運動に参加するべきかという二者択一の問いである．まさに当時の韓国の状況が感じられる文章である．『イエスの友會報[119]』（1924．6．10）では，韓睨相に関する記事が次のように掲載されている．

> 韓氏出獄
>
> 私共の祈りがかなえられて韓さんは四日夕無事保釋で出獄されました．感謝．

上記の記事から，1923 年 8 月 25 日から 29 日まで行われた「イエスの友会」の夏期修養会の 第 1 回に参加した韓睨相が，独立運動に参加したことで刑務所（日時不明）に入り，1924 年 6 月 4 日に出所するまで「イエスの友会」が祈っていたことが分かる．このことから修養会以後も韓睨相と「イエスの友会」との繋がりがあったと考えられ，その「イエスの友会」を通して賀川とのかかわりもあったのではないかと推測できる．おそらく韓睨相が「イエスの友会」のメンバーとして存在していたため，

---

[118] 無記名であることを示す XYZ という記号しか書かれていないため，誰が書いたのかが不明である．

[119] 『イエスの友會報』は 1924 年 6 月 10 日から 1925 年 12 月 25 日まで発行されたものである．

1924 年 9 月 5 日の関東大震災のとき，虐殺された韓国人のための祈祷会を行うことができたのではないかと考えられる．しかし，残念ながら，韓睨相と賀川とのかかわりについて資料は見当たらない．韓睨相以外にも，1923 年『雲の柱』6 月号にイエスの友会に入会した人物で，趙淇龍（ジョキヨン），李蒙石（イモンソク）という韓国人の名前も取り上げられている．つまり「イエスの友会」の中に韓国人もいたため，賀川の思想に従った人々を中心に賀川との交流があったと考えられる．

また，本所での宗教活動[120]においても韓国人と接することがあったと考えられる．なぜなら，残っている洗礼志願書に数名の韓国人のキリスト教徒がいたからである（【表 5 - 5】）．

【表 5 - 5】 東駒形教会内の韓国人のキリスト教徒

	名前	生年月日	原籍	職業・職務	家族関係	受洗日
1	柳達仁（ユダルイン）	1905 年 7 月 16 日	朝鮮全羅南道 濟州島	直井亜鉛精煉所	×	1933 年 12 月 20 日
2	韋霖周（ウィリンジュ）	1916 年 6 月 10 日	朝鮮平安南道 平原郡	明治学院 高等部商業部	父：韋炳斗（イビョンドウ）の 三男	1939 年 4 月 9 日
3	金技連（キムキヨン）	1925 年 4 月 27 日	朝鮮咸鏡南道 元山府	曲晝間研數學舘夜 尚美音樂院	父：金在潤（キムジェユン）の 長男	1940 年 3 月 24 日
4	金商協（キムサンヒョブ）	1923 年 8 月 30 日	朝鮮咸鏡南道 定平郡	江東消費組合 庶務系給仕役	弟	1941 年 4 月 13 日
5	金田欽一（キムチャングンム）（金瓚欽）	1919 年 12 月 1 日	朝鮮咸鏡南道 定平郡	製パンエ消費 組合内	父：金基洛（キムキナク）の 長男	1942 年 3 月 8 日
6	金井孝吉	1922 年 5 月 16 日	慶尚北道迎日郡	農業	次男	1943 年 12 月 12 日

出所：東駒形教会[121]の洗礼志願書より筆者作成

残念ながら，東京の空襲の際，東駒形教会の建物や資料はほとんど焼失してしまい，残っている洗礼志願書は 1933 年以降のものしかない．しかし，家族関係をみると，洗礼を希望した人の親の名前まで書かれているので，1933 年以前から教会に通っていた韓国人がいたものと推測できる．

その他にも，上記の表から様々な情報を得られる．まず，1897 年 10 月 12 日，朝鮮の国名が大韓帝国に変更されていたにもかかわらず，1910 年の日韓併合後は国名

[120] 本所基督教産業青年会史（四十年史編集委員会編 1965：11）によると，1929 年 3 月 15 日に設立された本所イエス団が，1942 年 7 月 15 日から東駒形教会に改称されている．
[121] 2013 年 2 月 6 日に東駒形教会（牧師：戒能信生）から資料を得た．

が朝鮮に戻っていたことである．そして【表 5‐5】の 1 の柳達仁（ユダルイン）の本籍をみると，濟州島が行政的に全羅南道に属していることと，洗礼志願書の 1 から 5 までは「本所イエス団」の名であったのが，6 からは東駒形教会の名となっていたことである．当時賀川は，松沢教会に移動していたが，特別な行事（復活節やクリスマスなど）のときは，本所イエス団（牧師：深田種嗣，後に東駒形教会）に訪れていたことも分かる．その際，賀川から洗礼を受けた人の中で，柳達仁（ユダルイン），韋霖周（ウィリンジュ），金田欽一（元名：金瓚欽（キムチャングンム））という韓国人もいる．このことから，本所という地域に韓国人が住んでおり，賀川と本所イエス団との関係で，賀川に出会った韓国人が多くいたと考えられる．残念ながら，資料は残っていないが，韓国人のキリスト教徒は上記で挙げた人物以外も存在していたと推測される．

戦後も賀川には韓国とのかかわりがあった．それは 1952 年に韓国の李承晩大統領の軍事境界線，いわゆる「李承晩ライン」が引かれ，日本の漁船に対する措置が発表されたときである．「李承晩ライン」に対して賀川は，日韓関係の平和構築のため，『毎日新聞』（1955．12．8）で次のように自分の意見を述べている．ここには，韓国に対する賀川の考えがはっきり表明されているため，以下に全文を取り上げる（全集 24：440）．

李承晩大統領に訴える

李承晩大統領閣下‐私は東洋平和のために閣下の良心に訴えます．大韓国と日本との関係を平和に導いて下さいと．

日本が十年前に敗北して，東洋に新しい国家が十三独立しました．それがもし互に争い，もし不幸にして流血の惨事でも繰返すようなことがあれば，世界のもの笑いとなります．その反対に，弱い軍備しか持つていない新独立国が，互に協力してアジア連邦を造ることができるならば，どれだけ幸福なことであるかもしれないと思います．

一九五五年のクリスマスを，われらは日本で祝わんとしています．その際，私は閣下がキリストの弟子であり，平和の使徒であることを思つて，閣下の良心に訴えます．大韓国と日本のために，永遠の平和を築いて下さい．

かつてアメリカ合衆国は英国の植民地でした．しかし英本国が植民地に対してあまりに圧制的であつたことを怒つたジョージ・ワシントンはついに剣をとつて立ち上り，英国をうつて今日の独立をかちえました．

しかし閣下もご存知のとおり，今日においては旧悪を忘れ，英米は一つの塊りとして，同盟を結び，米国とカナダの国境には，一つの要さいなく，一つの兵備もありませぬ．

私は，大韓国と日本の関係も同様でありたいのです．日本には古い歴史書が多く残つています．そのうち日本書紀は漢文で書かれた日本への移民史が大部分を占めております．ことに日本書紀の中巻と下巻に記載されている韓国民の日本への移住史は，閣下にご飜読願いたいのです．

それは全く日本へ落着いた韓国民の移民史なのです．私は日本書紀に記載せられている地区の多くを旅行して感じることは，現代日本人の六割は実に韓国民の子孫であるということです．東京は北鮮の人々が開拓したところであり，大阪は南鮮の人々が定着した所です．それを疑う歴史家は日本にはおりませぬ．その日本人と大韓国が海洋の問題について争論を起さねばならぬ理由を，私はよう発見しないのです．

旧約聖書の教ゆるところによると，ダビデを殺さんとしたサウロ王の愛児を，ダビデは自己の宮廷に引入れて優遇しておるではありませんか？閣下はキリストの弟子として，ダビデ王の寛容を持つていただきたいのです．サウロがダビデを殺さんとしたように，日本人が閣下を虐待し，閣下の国民を迫害したことを，私は，キリストの名によつて，閣下におわびし，閣下のキリスト精神に訴えて，お赦しをこうものであります．

閣下はご存知ないでしようが，私は日本の韓国合併には反対し，韓国の独立を心より待つていた一人であります．このことにつき，韓国の知識人の中で，多少日本のキリスト教社会主義者の行動を知つている人々は，私がいかに韓国の独立を待つていたかをよく知つていると思います．その韓国が独立を獲得できた今日，私は新しい祈りを持つていることを告白します - それはほかでもありませぬ，独立のために母国と戦つたアメリカ合衆国が，カナダと米国の国境に一兵も置かず一要さいも設けないでいると同じような善意ある国交を大韓国と日本の間に打立てたいということです．

ご承知のとおり，日本は平和憲法を制定し，永遠に戦争を放棄しました．だが，この高遠な理想は近隣諸民族，諸国家の援助なくしては，その実現を図ることはできませぬ．もし大韓国と日本が，英米の間に軍備を設けないように，極東の二カ国の間に，真の平和が保証されるならば，どれだけ世界が明るくなるかしれないと思います．ヨーロッパの二十五ヵ国も極東の二つの国の例に習い，戦争を放棄する文明のコースを選ぶようになると思います．

日本の人口はいまや九千万に近いのです．その食糧のために三百万の漁民は，海洋に出てタン白食の資源を捜してします．殊に日本海の漁民は大韓国に近いために対馬海流を利用してこれまで漁業をしていました．それが近年生活難に苦しみ，眼もあてられぬ状態におります．

日本が敗戦した一九四五年の八月十五日，蒋介石氏は，日本へのえん恨を赦して，大胆に「日本人を赦してやれ！中国にいる日本人をいじめるな」と布告してくれました．私はこのラジオを聞いて感激しました．私は，李承晩大統領閣下が，ダビデ王が旧敵を赦して，その敵の子供を養うた如く，たとい，日本人が閣下の両手の指を切落した残虐さがあつたとしても，十字架の上に敵を赦したキリストの血を継承せられた閣下は，あくまで日本人を赦し，東洋平和，否，世界平和のために，大韓国と日本を永遠の平和の下に置いていただきたいのです．私は大韓国の国会が創造主への祈りをもつて開会せられていることを聞いていますので，あえて閣下の良心に訴えて，クリスマスを前に，平和の訴えをする次第であります．（下線‐筆者）

賀川は日本の歴史そのものが韓国民の移民史であり，韓国人が古代から近代まで日本文化の発展に大きな役割を果たしてきたと述べている．そして，日本の帝国主義によって韓国が植民地化され，韓国人が日本人から虐待と迫害を受けたことを痛感していると記している．賀川は，日本人の過ちを世界平和のため，キリスト精神で赦してほしいとキリスト教徒である李承晩に願っている．この李承晩への賀川の公開書簡は，平和問題促進のためになされた発言とみなされ，1956 年のノーベル平和賞の推薦のとき，添付された資料の一つであったようである（吉武 2013：7‐8）．それに対する韓国の反応はどうであろう．まず，賀川の書簡に対する李承晩の英文の返書の一部は次の通りである．

さる十二月 13 日附の私あての公開状まことにありがたく存じました．

あなたは，多年私がはるかに尊敬をよせてゐる日本の指導者の一人です．あなたのお手紙でおほめをいただき本當に恐縮に存じます．あなたは，多数の日本人が朝鮮人の血をひいてゐるといふ歴史的事實をあげられましたが，この關係は兩國間に恒久平和を保證するものです．

私が六年前，マッカーサー元師の賓客として日本へ渡つたときもこの精神でゆきました．私は東京における新聞記者會見で，「私は日本の友人ではないことで知られてゐるが，もし日本人が協力の精神を示すならば，私は過去のことをゆるし，忘れ，新しく再出発しようと思ふ」と，卒直にのべました．私は日本政府當局から好意的な應答のあることを期待しましたが，いかなる反應もなかつたので全く落胆いたしました．

クラーク大将とマーフィー大使の招待で，再び日本を訪れたとき，私は，日本が復興したのは，アメリカの寛大な處置によるものであり，日本もまた弱い隣邦の韓國に寛大をもつて臨むべきであるとのべました．寛大の精神こそ，地上に永遠の平和を樹立する道であるからです．日本側の誠實な行為は，いふまでもなく友情あるひは尊敬を示す態度だけでも，約四十年にのぼる日本の支配に根ざした惡感情をやはらげるのに大いに役だつたことでせう．しかし當時の吉田首相や岡崎外相は，私の言葉に對しただ微笑しただけで何もいひませんでした．

あなたは，日本の四十年にのぼる朝鮮支配に對する謝罪の意を表明されましたが，それは私の注意を引いた知名な日本人の最初の發言であります．これまではそのやうな發言がなかつたので，我々韓國人が，日本の韓國に對する關心は韓國の友情を得ることではなく，韓國の領土を回復することだと考へたとしても無理ありません．

（中略）

最近平和ラインが一方的なものであると，いろいろいはれてゐます．あなたも御存じのやうに，日本人は平和ラインができる前のマッカーサー・ラインやクラーク・ラインをも，ほとんど尊重しませんでした．なにしろ，日本人は自分の利益ばかりを考へて他人の權利を認めようとはしないのですから．しかし我々は，日本と相互の理解をかいてゐるので，平和ラインを平和のための最良の保證だと

してゐるのです．韓國はわが國の漁民たちと，海の資源をまもるために，日本人の操業を禁止する必要がありました．

わが國はいま戰時下にあるので，我々は潜入者やスパイや敵の手先，密輸業者などから海岸線をまもらねばなりません．我々の安全は，いかなる犠牲をはらつてもまもる必要があります．平和ラインはまた兩國間におこりうる衝突をも避けることができ，この平和を確保することは，日本と韓國にとつて朝鮮水域の一切の魚類にとつてよりももつと重大な意味があります．

（中略）

私の親愛なる賀川さん，あなたの名を高からしめてゐるキリスト教精神にあふれた，あなたの誠實なメッセージに對し，このやうに長々と手紙でお答えするのをお許しください．

私は日本政府が，アメリカの影響によって多分しりぞけられたはづの諸目的を，依然頑强頑固執してゐるのにひどく失望してゐますが，私の心中にはあなた同様に人を憎む氣持のないことを知つていただきたいと思ひます．我々すべての隣國，とりわけ日本との平和な關係を切望してゐます．

あなたおよびあなたの御一家へクリスマスのあいさつを添へて．

十二月十九日　李　承　晩（横山 1959：538 - 542，下線 - 筆者）

李承晩は，韓国に対する賀川の謝罪について高く評価している反面，国家の安全のため，「李承晩ライン」は必ず守られなければならないと打ち明けている．どちらの国でも自分の国のことを優先して考えることは同様であろう．次は，当時の両国情勢が窺える新聞記事である（韓国の『東亜日報』，1956．1．16）．

賀川氏의 派韓 - 日社會黨首者希望 -

日本社會黨首者『鈴木茂三郎』는 十三日現在

停頓状態에　빠져있는　韓日関係를　打開하기　為하여　社會黨顧問『賀川豊彦』를　首班으로　하는　民間施設團을　訪韓케하여　李大統領과　面談케할希望을 披歴하였다．『鈴木』는 일즉이 日本國會에서 議員團을 協議次 訪韓케할것을 決定하였음을 指摘하였는데 韓國으로부터 그들의 訪韓을 좋아하는지與否에　關한　回答은　아직없다　그는　또한　夾三月에　訪日할　美國務長官

『딜테스』氏가 隣邦國家間의 紛糾에 積極的인 仲裁役割을 할 것을 希望한다고 言明하였다. 이어 그는 日本이 大村収容所에 있는 韓人들을 釋放할 것을 要望하였는데 한 便 그는 『李라인』에 關하여 如斯한 線의 設定은 『一方的이며 無謀한 措置』라고 主張하였다.

（＝賀川氏の派韓 - 日社社会党首者希望 -

日本社会党党首である『鈴木茂三郎』は十三日現在，膠着状態に陥っている韓日関係を打開するため，社会党顧問『賀川豊彦』を代表に民間施設団を訪韓させ李大統領と会談する意向を表明した．『鈴木』はすでに日本の国会で韓国に協議団を派遣する旨の決議は終了したと述べたが，協議団の訪韓受け入れについて，韓国政府から未だ回答がなされていない．彼は三月に訪日する米国務長官『ディルテス』氏が隣邦国家間の紛糾に積極的な仲裁役割を果たすことを希望した旨を発表した．続いて彼は日本が大村収容所にいる韓国人たちを釈放することを要望しているが，彼は『李承晩ライン』の境界線の設定は『一方的であり無謀な措置』であると主張した．翻訳・下線 - 筆者）

賀川と李承晩が書簡を取り交わした後，日本側は賀川を代表とする協議団を韓国に派遣し，「李承晩ライン」の問題を解決しようと試みた．しかし，この訪問は，韓国政府から拒否され実現しなかった．1945 年から 1965 年に日韓基本条約を結ぶまで日韓関係は緊張関係にあったため，互いの国民生活に関わる「李承晩ライン」問題に関してはより慎重であったと言っても過言ではないだろう．

小括

本章の第 4 節までは，1920 年代から賀川が韓国に直接訪問した記録を辿って検討した．1939 年の公式の韓国訪問以外は，その多くが賀川が中国を訪問する際，韓国に立ち寄ってから日本に戻っていることが判明した．また，1939 年の賀川の訪韓を機に，賀川は韓国で「社会事業家」と紹介されるようになった．そして特に，賀川が韓国に公式に招かれた背景は，「朝鮮キリスト教聯合会」が結成されたことにより記念講演会が行われることになったことと，当時韓国に住んでいた日本人の希望で招かれたことが分かった．もっとも，1939 年 11 月 8 日の韓国の『東亜日報』では，「朝

鮮キリスト教会の招きによって行われた」と表明しているため，韓国人の中でも賀川の知名度が高かったことも事実であろう．第 5 節では，賀川の訪韓以外に，賀川の家族や教会，そして書簡を通じての賀川と韓国とのかかわりについて探った．兄端一が韓国で亡くなったことや東京の本所イエス団（後に東駒形教会）に韓国人が通っていたこと，韓国の大統領との書簡交換など，賀川と韓国とのかかわりが密接であったことが分かった．次は 1939 年の韓国の訪問に関する資料が残っていたため，賀川が韓国にどのような影響を及ぼしたのかを分析する前に，韓国でどのような活動をしたのかを第 6 章で言及していく．

第 6 章　韓国での賀川の活動

本章では，賀川の講演資料として韓国に残された張時華編の『賀川豊彦先生講演集』を中心に賀川が韓国でどのように活動したのかを検討する．その資料は 1939 年の賀川の訪問を記念して，京城姉妹園によって 1940 年に出版されたものである．韓国に関する賀川の考えを明確にするため，日本の『全集 24』と『雲の柱』の記述を援用しつつ述べていく．

第 1 節　韓国の訪問に関する賀川の感想

『賀川豊彦先生講演集』の序章をみると，賀川は次のように述べている．

> 序
>
> 私のつまらない講演を京城姉妹園が出版發行せられる由であるが私はそれを心より喜んでゐる．私はこの度の朝鮮傳道旅行を非常に享楽した．キリストにある同志達の歡迎には心より恐縮した．それと朝鮮のキリストにある同志達の教養には實に深く尊きものがある．私はこの美はしき礎の上に更に尊きキリスト愛の建築がなされる事を祈る．キリストにある同志は神の姿である．朝鮮の同志達が神の栄の為めに一層努力せられん事を祈る．昭和十五年二月三日　賀川豊彦（張時華編 1940：1，下線‐筆者）

韓国への訪問に関する賀川の感想を一言でいうと，肯定的な評価であった．それは日本だけでなく，韓国においても同じ信仰を持っている人々に出会えたことが賀川にとって印象的であったのだろう．これについて賀川（1940）は『雲の柱』第 19 巻第 1 号の「朝鮮印象記」の中で，より詳しく述べている．

> 私は朝鮮旅行の印象を語る前に先づ朝鮮に對する今までの考えを改めて貰ひたいと思ふ．今度行つて親しく接してみると，朝鮮の人々は皆熱心に内地人と一つになつて，同じ道を進みたいといふ気持ちを持つてゐる，私はその點で全く驚いたのである．それならばこちらもその気持ちになつて，内地人と一緒に世話する

ときに世話してあげなければならないと思つた．私はこれまで人をお世話するにも先づ内地人の世話から始めてゐたといふのは，キリストが「先づイスラエルを救へ」と言つたことに基くものであるが，今度朝鮮へ行つて見て，朝鮮の人々が内地人と全く同じ気持ちでゐるのを知つて，私は從來の方針を變へ，今後は私の事業の中に内地人と同じ気持で半島の人々を迎へることにしなければならぬ，また内地人と半島人との結婚式も喜んで擧げてあげる必要があるいふことを泌々と感じたのである（賀川 1940：23，下線‐筆者）．

나는 조선여행의 인상을 말하기 전에 먼저 조선에 대한 지금까지의 생각을 곳처주기를 바란다. 이번 조선에가서 친히 접하여보니 조선 사람들은 전부가 다 열심히 내지인과 하나이되여 한길로 나가겠다는 생각을 가지고있다. 나는 그럼에는 깜짝놀래인것이다. 그러면은 이편도 그런마음을 가지고 내지인과 한가지로 돕는데는 돕지안으면 않되겠다고 생각하였다. 나는 이곳까지 사람을 돕는데도 먼저 내지인의 도움부터 이라는 것은 예수님이 『먼저 이수라엘을 구해라』란 말슴에 기인하는것이나 이번 조선에가서 보고, 조선사람들이 내지인과 전혀같은 기분을 가지고 있는 것을 알고 나는 종래의 방침을 변하여 이후 나의 사업 중에 내지인과 같은 기분으로 반도 여러 사람들을 마지하지 아니하면 않되겠다. 또는 내지인과 반도인과의 결혼식도 할 필요가 있다고 마음속 깊이 느꼈다（張時華編 1940：167‐168）．

1937 年 10 月 2 日，日本により韓国において「内鮮一体」を理念とした「皇国臣民化」政策が展開されており，それがキリスト教にまで影響を及ぼしていた．「皇国臣民化」政策とは，神社参拝，宮城遥拝，日の丸旗掲揚，「皇国臣民誓詞」の暗唱，日本語の常用，志願兵制度，創氏改名等，すべての戦時下政策の基になった朝鮮総督府における戦時下動員政策であった．教会の礼拝においても，長老派の総会においても，式順の中で「皇国臣民ノ誓詞齊誦」があるというように，政治的な状況が宗教にまで影響を及ぼしていた．

その中で賀川は，1939 年の伝道日程を終えて，今までの韓国に対する認識を改めようとしている．「内鮮無差別」というタイトルで書かれたこの文章は，韓国に関する賀川の考えを素直に表わしたものである．まず，「朝鮮の人々は皆熱心に内地人と一つになつて，同じ道を進みたいといふ気持ちを持つてゐる」という文章についてで

ある．実際に韓国では，1938 年から日本の国家総動員政策[122]によって強制的に韓国人がサハリンに送られて労働させられたため，韓国内では日本に対する評価があまり良くはなかったはずである．もちろん 1938 年 7 月 7 日に「国民精神総動員朝鮮聯盟」が組織されたため，韓国側が積極的に寄り添うことをしたのではないかとも考えられる．しかし，それは「植民地時代」という政治的文脈を無視することができない状況であったことも考慮しなければならない．

日韓の政治的な状況の中で，非常に厳しい関係であったため，「朝鮮の人々は皆熱心に内地人と一つになつて，同じ道を進みたいといふ気持ちを持つてゐる」という表現は，韓国側の立場からみる筆者にとって，少し違和感を覚えたわけである．それに韓国に対する賀川のまなざしも感じられる．今日でも賀川が批判されている側面として「上からの目線」というものが挙げられるが，「内地人と一緒に世話するときに世話してあげなければならないと思つた」という表現からも，賀川の上の目線を感じるわけである．そのような側面があるにもかかわらず，賀川の訪韓は，当時の人々の関心を集め，講演する場所に多くの人々が集まっていたのも事実である．

短期間であったが，賀川は日々懸命に全国を巡って伝道したわけである．各地域で行われた礼拝の順序は以下の通りである（【表 6 - 1】）．なお，説教のタイトルのみ，韓国語と漢字が混ざっていたため，日本語に書き替えた．

【表 6 - 1】礼拝順

主催　朝鮮基督教京城聯會
日時　昭和十四年十一月十三日（日）二時三十分
場所　京城貞町　貞洞監理會第一教會　聯合禮拝會
（説教）十字架宗教の絶対性
説教　賀川豊彦
司會　丹羽清次郎

一，奏楽
一，皇国臣民誓詞
一，讃美歌　讃美歌五四章
讃頌歌四三章
一，祈祷
一，聖書朗読　一コリント 1：18 - 25　李　建泳
一，合唱　監理教會神学校聖歌隊
一，説教　賀川豊彦
一，祈祷　賀川豊彦

[122] 「国家総動員法」は，1938 年第 1 次近衛内閣によって第 73 議会に提出され，4 月 1 日に制定された法律である．

一，讃美歌　讃美歌二七四章
　　讃頌歌二〇七章
一，頌栄
一，祈祷　鄭　春洙

主催　朝鮮基督教京城聯合會
日時　昭和十四年十一月十二日（日）午後七時半
場所　京城府貞洞町　貞洞監理會第一教會　聯合禮拜會
（説教）神と永遠の思慕
説教　賀川豊彦
司會　梁　柱三
一，奏楽
一，皇国臣民ノ誓詞
一，讃美歌　讃美歌五〇八番
　　讃頌歌十五章
一，祈祷　秋月　致
一，聖書朗読　ルカ 12：27 - 34　金　永燮
一，合唱　日本メソジスト唱歌隊
一，説教　賀川豊彦
一，祈祷　賀川豊彦
一，讃美歌　讃美歌五四〇番
　　讃頌歌一三三章
一，頌栄　讃美歌五六六番
　　讃頌歌一章
一，祈祷　鮫島頌陸

主催　京城基督教聯合會
日時　昭和十四年十一月十二日（日）午前十時三十分
場所　メソジスト京城教會（旭町二丁目）聯合禮拜會
（説教）神と贖罪愛の勝利
説教　賀川豊彦
司會　秋月　致
奏楽（教師登壇・黙祷）　矢田 高妹
頌歌（五六六）
主祈祷
交讀（二〇）　秋月　致
讃美（五八七）
祈祷　三井　久
讃美歌（三五三）
聖書朗読　ガラテア 3：13 - 14　笹谷保太郎
　　二　コリント 5：15
合唱（五九七）　メソジスト聖歌團
説教　賀川豊彦
祈祷　賀川豊彦
讃美歌（五二九）
献金　接待委員
報告　各教會役員
頌栄（五六八）
祈祷
後奏　（一同起立）

主催　朝鮮基督教京城聯合會/京城學生基督教青年會
日時　昭和十四年十一月十三日（月）午後四時半
場所　京城府民館大講堂　學生特別傳道講演會
（講演）機械文明と宗教生活

	司會者　賀川豊彦
	司會者　笹谷保太郎
一，開會辭	司會者
一，皇国臣民誓詞	
一，聖書朗読　詩篇十九篇	黒田朝太郎
一，祈祷	三井　　久
一，合唱	延禧専門合唱團
	梨花専門合唱團
一，講演	賀川豊彦
一，祈祷	賀川豊彦
一，閉會辭	司會者

主催　朝鮮基督教中央青年會
日時　昭和十四年十一月十三日（日）午前七時
場所　中央青年會館　聖書研究祈祷會
（説教）　山上寶訓の瞑想

	説教　賀川豊彦
	司會　梁　柱三
一，奏楽	一同黙祷
一，讃美　一八五章	
一，祈祷	曹　相文
一，聖書　マタイ 5：3 - 12	
一，説教	賀川豊彦
一，祈祷	賀川豊彦
一，祝祷	

主催　朝鮮基督教京城聯合會
日時　昭和十四年十一月十三日（月）午後七時半
場所　京城府太平通　府民館　一般特別傳道講演會
（講演）　新宇宙觀と新人生觀

	講演　賀川豊彦
	司會　鮫島盛陸
一，奏楽	
一，皇国臣民誓詞	
一，讃美歌　　讃美歌三三四番	
讃頌歌二一〇番	
一，祈祷	柳　濬基
一，聖書朗読　ローマ 1：18 - 32	車　載明
一，合唱	中央教會讃揚隊
一，講演	賀川豊彦
一，祈祷	
一，頌栄　　讃美歌　五六六番	
讃頌歌一章	
一，祈祷	三井　久

出所：張時華編（1940：1；17；32；44；59；72）より作成

礼拝の順序だけを取り上げてみても，その当時の雰囲気が十分感じられる．たとえば，あらゆる集会で「皇国臣民誓詞」の斉唱が義務付けられていることから，日本の植民地政策の影響がみられる．礼拝でもこの誓詞を斉唱しなければなかったことを考えれば，当時の礼拝の大変さが伝わってくる．残念ながら，賀川はその点について一切言及していない．ただ賀川は，韓国伝道の感想を次のように書いている．

> 朝鮮伝道はえらかつた．午前三時半に三回列車を更へ，四朝朝飯を抜かした．それに朝鮮の汽車弁当は悪いので，随分困難を感じた．しかし朝鮮の兄弟達の喜びの顔をみて，すべての苦難を忘れて善戦した．
>
> 回想すると朝鮮の教会はよい教会である．めづらしくよい教会である．朝鮮の教会に比べると日本の教会は素直でない．冷かにあらずあつくもあらず，神にはきだされ相な教会であると私は思ふ（全集 24：295）．

このように賀川の伝道の旅は交通の便や食事などにおいて，かなり苦労したものと見受けられる．しかし韓国のキリスト教徒の顔をみると，その苦労を忘れるほど，感動を受けたという賀川の気持ちが伝わってくる．このように韓国の教会に関する賀川の評価は高かった反面，日本の教会への評価は低かった．賀川はまるで聖書の「冷たくもない熱くもない」という警告を受けたラオディキア教会[123]を連想させるような表現を用いて，日本の教会に警告しているのである．以上のことから，賀川にとって韓国の教会は予想以上に素晴らしい教会であったため，好印象をもっていたものと窺える．

第 2 節　賀川の講演内容

賀川の講演内容の紹介は，韓国で出版された『賀川豊彦先生講演集』を中心とする．賀川の講演の多くが教会で行われていたため，説教が中心となっている．ここでは，どのような内容であったのかを要約することにする（翻訳‐筆者）．そして，当時の

[123] ラオディキアにある教会の天使にこう書き送れ．『アーメンである方，誠実で真実な証人，神に創造された万物の源である方が，次のように言われる．「わたしはあなたの行いを知っている．あなたは，冷たくも熱くもない．むしろ，冷たいか熱いか，どちらかにあってほしい．熱くも冷たくも，なまぬるいので，わたしはあなたを口から吐き出そうとしている」』（ヨハネの黙示録 3 章 14 節‐16 節）．

賀川の講演に関する韓国人の反応を調べるため，「賀川豊彦先生講演聴講記」を参考にする．なお，附録には，「社會事業の先鋒，世界的な傳道者賀川豊彦先生大講演」という講演者の案内や賀川豊彦先生会見記，賀川豊彦先生講演聴講記，個人月刊雑誌『雲の柱』，賀川豊彦先生著書一覧，農村救済の道，日本農民福音学校，関西冬期福音生活学校，賀川豊彦先生後援祈祷団結成，賀川豊彦先生朝鮮伝道日誌，朝鮮印象記，京城姉妹院事業要覧などが載せられている．

1. 十字架宗教の絶対性（1939. 11. 12. 午後二時三十分-貞洞監理會第一教會）

賀川はイエスがヨハネから洗礼を受けた場面から十字架につけられるまでの一週間の様々な活動を述べ，イエスの愛の運動は贖罪の運動であると強調している．特にイエスに従った弟子たちでさえ，それは出世のためであったと述べ，1930 年代においてもキリスト教を信じるのは，出世のためなのではないかと指摘されている．成功することばかりを考えていては真のキリスト教徒ではない，一番大切なことは自分のことばかりを考えるのではなく，周囲の人々のために働くことであり，そうした行いのときにこそ，神の大いなる愛を感じることができると断言している．これはキリスト教における十字架は，神の愛であり，また罪から解放され，赦されたという絶対性の意味を理解していなければ，他人のために働くことは困難であることを意味している．

賀川は東京日本橋の好地由太郎という人物を取り上げ，イエスの愛で人生がどのように変わっていったかを紹介している．当時，刑務所には衛生的ではなかったため，病気（例：梅毒，淋疾など）にかかっている人が多かった．その刑務所で，好地は聖書を通してキリスト教に出会い，刑務所にある病人のために働き始め，口で膿を出すまで，患者を助けようとした[124]のである．このように好地が自ら人生を伝道者として生きるために変化できたのは，十字架の愛であって，それが他の宗教とは異なる贖罪愛であると賀川は強調している．

[124] しかし，韓国でこの話は，好地ではなく賀川が病者のため，口で膿を出したと伝えられている．おそらく賀川が例として取り上げられた好地の話が，間違って伝えられたことが分かった．

2. 神と永遠の思慕（1939. 11. 12. 午後 7 時半-貞洞監理會第一教會）

賀川は，岐阜県にある結核療養所の一人の患者が，賀川の著書『神による新生』（1929）を読んだ後，彼の周りの 47 名の患者も完治し，2 年後には聖書を研究する聖書団まで組織したと紹介し，それに関して喜んだと述べている．しかし賀川は，その患者がキリスト教について誤解していた点についても指摘している．神の業を経験しているにもかかわらず，神を見せてほしいと要求しているからであると述べている．

賀川は，世の進化論に対し，神が世を創造されたという創造論を，宇宙の太陽系を取り上げながら説明している．賀川は目には見えないが，この世に存在しているのが，生命，労働，変化，成長，選択，法則，目的であって，霊的（スピリチュアル）生活も目には見えないが，存在するものであると述べている．

賀川は自分の生い立ちを，特に継母との関係を取り上げ，スラム街でもともに生活し，継母が洗礼を受けるまでになったと述べている[125]．ここで賀川は，貧民を救いたいという心が芽生えたのは社会主義の影響からではなく，継母のおかげであったと告白している．その他にも賀川は彼と出会った人々がキリスト教の教えを知ることで変化していった様を紹介し，伝道の重要性を強調した．そして最後には朝鮮半島にもキリスト教徒が多いのは，イエスの愛が常に共にあり，その愛が新約聖書の中では永遠の贖罪愛として表されていると述べ，この愛を伝えてほしいと願った．

3. 神と贖罪愛の勝利（1939. 11. 12. 午前 10 時 30 分-メソジスト京城教會）

賀川はインドを訪問して感じたことを紹介し，すべての宗教は霊魂について語っているが，キリスト教のみが，十字架を通して罪から赦され，改めて神から命が与えられる宗教であると断言している．賀川は宇宙の 3 大原理を創造，保存，修繕であると述べ，この三つがキリスト教を構成するものであると説明している． 特に賀川は，修繕は補修であり，改造であり，再生であるといい，修繕の目的，法則，選択，成長，変化，動力，生命の要素を宇宙の原理として取り上げている．賀川は十字架を，天地

[125] この点について賀川（1955：92）は「わたしをきらった継母も，わたしが大きくなって，世話してあげたために，わたしから洗礼を受けたいといい出したことがあった」と述べている．

宇宙の連帯意識として，神が人生の罪悪を自分の罪のように考え，補修し，修繕し，代贖したものであると定義している．

賀川は，新約聖書は神の愛の創造説と贖罪愛を語ったもので，キリスト教運動とは神の贖罪の事業に他ならないと述べている．それゆえ，贖罪愛の宗教であり，愛の宗教であるキリスト教を自ら家庭，隣人，友だち，社会，全半島へ広げていくことによって神の愛の偉大さとイエス・キリストの贖罪愛の勝利を成し遂げることができると宣布している．

4. 機械文明と宗教生活（1939. 11. 13. 午後 4 時 30 分-京城府民館大講堂）

賀川は 19 世紀から 20 世紀に至るまで，文明，特に機械の発達が加速化し，それによって今日では物質文明に至り，人類の思想は唯物論へ変わって，宗教が必要でない時代になっていくと痛感していた．また賀川はエジソン（Thomas Alva Edison，1847. 2. 11‐1931. 10. 18）とモールス（Samuel Finley Breese Morse，1791. 4. 27‐1872. 4. 2）の信仰心を取り上げ，機械文明と宗教は，分離できない，車の両輪のようなものであると述べている．

進化論や唯物思想はあらゆる物質が偶然生まれたという観点を持っているが，人間の身体について考えた時，60 兆もの細胞が各々活動していることに対して，その一つ一つが偶然で生まれたと言い切れるのかと問いている．賀川は，大宇宙の太陽系から埃の一つまで神の創造であると考えるべきであると述べている．

賀川は様々な科学者の名を取り上げながら，人間の有限性は神の無限性を越えることはできないと強調している．特に，目に見えないからといって空気の存在を拒否することは，胎児が母を目に見えないから拒否することと同義であると述べ，人間の有限性を説明している．今という瞬間は短い，しかし未来は極めて無限である，そして大宇宙は絶対的に無限であるとまとめた．学術研究は物理的な段階から開始され，生理的，本能的，そして意識的という段階があって，大宇宙は神の領域で目的があると意識すべきであると述べている．賀川は神という存在を，生命，労働，変化，成長，選択，法則，目的に説明しようとし，現代の科学が部分的に分析することに対して，神という存在を認識するには総合的な観点が必要であると述べている．

5. 山上寶訓瞑想（1939. 11. 13. 午前 7 時-中央青年会館）

賀川はイエスの思想は贖罪愛であって，モーセの律法とは異なることを説明している．モーセの律法が創造されたことに対する保存で，十戒の場合，神に対する律法や人に対する律法で構成されているならば，イエスの山上寶訓は贖罪愛の修繕であると述べている．すなわち，信仰生活のため，自分の名誉や財産，雑念を捨てて心を空にし，その中で神の真理を受けなければならないと述べている．

賀川は山上寶訓の八つを説明しながら，どのような宗教を信じても結局山頂に辿り着けば良いという思想はとても危険であると警告している．賀川にとって山頂に至る宗教はキリスト教のみであって，たとえ苦難にあったとしても愛と善をもって苦難に勝った場合，完全なキリスト教徒となると述べている．

賀川は，キリスト教の真髄は十字架の愛であって，実現された社会，つまり天国を地上で成し遂げていくことであるといい，その真理を意識していくべきであると述べている．

6. 新宇宙観と新人生観（1939. 11. 13. 午後 7 時半-京城府太平通 府民館）

賀川は進化論，物質不滅論，そしてエネルギー保存論は宗教を無視した唯物論で，キリスト教は 2 千年前，創世記の天地創造から生まれた宗教であると述べている．宇宙観そのものが創世記から生まれ，そして近代科学の波動流動学の宇宙観が宗教的な背景を持っていると説明している．岩石学から考えると，地球及び大宇宙に対する神秘を感じることで，科学のすべての原理と法則は，限りない神の無限，絶対的な愛を表していると述べている．人々は大宇宙を通して表される神の霊力を改めて感じ，新しい人生を歩むべきであると強調している．

ここまで賀川の講演内容についてまとめた．それでは，当時の賀川の講演に関する韓国人の反応はどうであろう．まず，講演場の様子について述べる．たとえば，旭町日本メソジスト教会で行われた講演会は，礼拝堂だけでは足りなくて別室まで用意し，拡声器を設置して，参加した人々が聞こえるようにしたことから大勢人々が集まったことが分かる（【表 5‐2；3；4】を参照）．このようなことから，講演が始まる 1

時間前であっても多くの人が並んでいたという当時の状況が想像できる．特徴的なのは，日本の各教派からキリスト教徒が集まっていたことと，講演が終わった後は各教派の広告の時間も用いたことである．それに加えて，韓国人も結構集まっていたため，日本語と韓国語で賛美や通訳を行ったことである．そして賀川は講演において，常に黒板と模造紙を利用して絵を描きながら説明を行っていたため，誰でも理解ができていたということであろう．また韓国の教会では見られない厳粛な雰囲気が日本の教会にあったという記述から，当時の教会の雰囲気が感じられる．

また，講演を聞いた人々の感想の共通点は，賀川の聖書の解き明かしに「人々の心を読み取る力があり，胸の刺されるものがある」と告白している点である．何より賀川が経験したスラム街での生活を語るときは，感動や尊敬心を抑えることが出来ないくらいであったという．それゆえ，講演の時間が 2 時間も行われていたにもかかわらず，終わるときは惜しい気持ちでいっぱいであったと述べている．

このように講演に集まった人数やその講演を聞いた人々の感想から考えられるのは，賀川の講演は見ると，確かに韓国人の心に訴えたことが多かったと考えられる．賀川の講演に圧倒された当時の雰囲気が感じられる．

第 3 節　韓国における賀川関連の翻訳物及び作品

ハンヨンジェ編（1987:132 - 143）の『韓国基督教文書運動 100 周年』によると，韓国における賀川の著書（日本語）は『聖書社会学の研究』（1922，日曜世界社），『文明への反逆』（1926，日本国民禁酒同盟），『イエスの宗教と其真理』（1927，警醒社書店），『死線を越えて（上）』（1927，改造社），『キリスト山上の垂訓』（1930，日曜世界社）がある．おそらく最初は在韓日本人によって，賀川の著書が韓国に紹介されたのであろう．加えて日本へ留学した韓国人が賀川の著書を持って帰国したことも考えられる．実際に韓国の各大学が所蔵している図書を含めると，長老派神学大学図書館の『新信仰』（1928，日曜世界社），江南大学図書館の『聖書の社會運動』（1928，日曜世界社），世宗大学図書館の『神と贖罪愛への感激』（1940，日曜世界社），領南大学図書館の『殘されたる刺：逆境への福音』（1941，日曜世界社），国民大学図書館の『聖淨と歡喜』（1942，日曜世界社）などの賀川の著書が存在している．ただし，長老派神学大学（1901 年創立，前身は平壌神学大学）と世宗

大学（1940 年創立，前身は京城人文学院）以外は 1945 年以後に創立された学校であるため，どのような経緯で大学の図書館が賀川の著書を所蔵することになったのかについては不明な点が残る．

このように賀川の著書が徐々に増えていくこととともに賀川に関する関心が高くなったため，賀川の著書を翻訳する要請があったものと考えられる．韓国において賀川関連の翻訳物は，大きく二つに分けられる．それは賀川の著書の翻訳物と賀川に関する著書の翻訳物である．

1. 賀川の著書の翻訳物

韓国語で翻訳された賀川の著書は，次の【表 6 - 2】である．

【表 6 - 2】賀川の著書の翻訳物

年	タイトル	翻訳者	出版社	所蔵
1930	新生의 宗教	趙信一	朝鮮耶蘇教書会[126]	국립
	新生の宗教[127]			国立
1931	基督教와 그 真理	趙信一	朝鮮耶蘇教書会	국립
	基督教とその真理[128]			国立
1933	解放의 宗教	李泰奎	朝鮮耶蘇教書会	학술
	解放の宗教[129]			学術
1952	나는 왜 크리스챤이 되었는가: 賀川豊彦의 入信手記	大韓基督教書会編	大韓基督教書会	국립
	私はなぜクリスチャンになったのか: 賀川豊彦の入信手記[130]			国立
1956	死線을 넘어서	金素影	新教出版社	국립
	死線を越えて			国立
1973	나는 왜 크리스천이 되었는가?	전호윤	雪友出版社	학술
	私はなぜクリスチャンになったのか	田鎬潤		学術

[126] 長老派とメソジストの宣教師たちによって，1890 年に The Korean Religious Track Society（韓国名：朝鮮聖教書会）の名でキリスト教の文書出版社が創立された．後に 1907 年には朝鮮耶蘇教書会に，1939 年には朝鮮基督教書会に，そして現在は大韓基督教書会の名に変更されている（http://www.clsk.org/，20130507 閲覧）．

[127] 原文は『神による新生（賀川 1929，福音書館）』である．

[128] 原文は『イエスの宗教とその真理（賀川 1921，警醒社書店）』である．

[129] 原文は『神による解放（賀川 1926，警醒社』である．

[130] 原文『キリスト教入門（賀川 1950，大泉書店）』の一部分を翻訳したものである．

1974	신과 걷는 하루 神と歩む一日[131]	金蘭張信徳	韓宗出版社	국립 国立
1975	신과 걷는 하루 神と歩む一日	韓仁煥	韓宗出版社	학술 学術
1975	生涯와 重生 生涯と重生[132]	韓仁煥	韓宗出版社	국립 国立
1975	死線을 넘어서（上，中，下） 死線を越えて（上，中，下）	韓仁煥	韓宗出版社	국립 国立
1975	死線을 넘어서（中） 死線を越えて	韓仁煥・張信徳	韓宗出版社	학술 学術
1975	死線을 넘어서：太陽을 쓰는 者（中巻） 死線を越えて：太陽を射る者（中巻）	張信徳	韓宗出版社	학술 学術
1975	死線을 넘어서：벽의 소리 들을 때（下巻） 死線を越えて：壁の声きく時（下巻）	張信徳	韓宗出版社	국회 国会
1976	사랑의 과학 愛の科学	박장원 バクジャンウォン	보이스사 ボイス社	국립 国立
1976	십자가의 환상 十字架の幻想	김항식 キムハンシク	세종문화사 世宗文化社	학술 学術
1977	한 알의 밀 一粒の麦	安英埈	삼양사 三良社	학술 学術
1977	한 알의 밀 一粒の麦	安英埈	에덴문화사 エデン文化社	학술 学術
1977	포도나무 가지를 붙잡은 사람 ぶどう木の枝をつかまえた人	車潤順	所望社	학술 学術
1978	사랑의 과학 愛の科学	박장원 バクジャンウォン	보이스사 ボイス社	숭실 崇実
1980	그리스도山上垂訓 福音書에 나타난 예수의 모습 キリスト山上の垂訓：福音書に現れたイエスの像	안영준 安英埈	三良社	학술 学術
1981	그리스도 산상수훈（복음）:복음서에 나타난 예수의 모습 キリスト山上の垂訓：福音書に現れたイエスの像	安英埈	에덴문화사 エデン文化社	학술 学術
1981	한 알의밀 一粒の麦	安英埈	에덴문화사 エデン文化社	학술 学術

131 原文は『神と歩む一日：日々の黙想（賀川 1949，キリスト新聞社）』である．
132 重生とは，信仰によって生まれ変わることや回心することを指す．

1982	사선을 넘어서 1	金俊煥	志成文化社	국립
	死線を越えて 1			国立
1982	사선을 넘어서 2: 太陽을 쏘는 者	金俊煥	志成文化社	국립
	死線を越えて 2 : 太陽を射るもの			国立
1982	사선을 넘어서	조완제	세종문화사	학술
	死線を越えて	ジョワンジェ	世宗文化社	学術
1983	神과 걷는 하루	崔正善	志成文化社	국립
	神と歩む一日			国立
1984	死線을 넘어서	이영재	부림출판사	학술
	死線を越えて	イヨンジェ	ブリム出版社	学術
1987	死線을 넘어서（上，下）	이영재	청한	학술
	死線を越えて（上，下）	イヨンジェ	青翰	学術
1988	사선을 넘어서	조완제	세종출판사	국립
	死線を越えて	ジョワンジェ	世宗出版社	国立
1988	한 알의 밀알	訳者不明	기독지혜사	학술
	一粒の麦		基督知恵社	学術
1989	死線을 넘어서	이영재	청한	국립
	死線を越えて	イヨンジェ	青翰	国立
1990	한 알의 밀이 되어	차윤순	所望社	국립
	一粒の麦になり	車潤順		国立
1993	사선을 넘어서	이용풍	오상	학술
	死線を越えて	イヨンプン	オサン	学術
1999	담배와 술 - 죽음의 칵테일	安英埈・張炳彦	탑프린	학술
	たばことお酒 - 死のカクテル		タプリン	学術
1999	한 알의 밀알	安英埈・張炳彦	탑프린	학술
	一粒の麦		タプリン	学術
2009	우애의 경제학	홍순명	그물코	국회
	友愛の経済学	洪淳明	グムルコ	国会

出所：韓国の国会図書館（国会），国立中央図書館（国立），崇実大学図書館（崇実），学術研究情報サービス（学術）の電子図書館資料に基づいて筆者作成[133]
（点線の下は日本語翻訳 - 筆者）

【表 6 - 2】から分かることは，賀川の著書が韓国で本格的に翻訳され始めたのは 1930 年代に入ってからであるということである．最初に翻訳されたものは，賀川（1929）の『神による新生』である．1970 年代から多くの人によって翻訳されたのは，『死線を越えて』と『一粒の麦』である．おそらくこの二つの著書が韓国人に最

[133] 年度が異なるが，同じ翻訳者と出版社であれば最初の翻訳物のみ記すこととした．

も人気があったものと考えられる．特に『一粒の麦』が人気が博した背景として，1970 年から始まった農村改良運動と関連していると考えられる．すなわち，セマウル運動が取り上げられる．セマウル運動とは，「勤勉・自助・協同」というキャッチフレーズの下で，農村の生活態度の革新，環境改善，所得増加を目指す地域開発運動である．当時の社会は，農村の改良に関する関心が高かったため，『一粒の麦』の人気に繋がったと考えられる．

また，1970 年代の訳者の序文では，賀川を日本が生んだ世界の偉人であり，聖人であると紹介している．賀川は，キリスト教に関する著書を多く著しているため，韓国内のキリスト教徒たちには牧師としての賀川が知られていたものと考えられる．それゆえ，キリスト教界の指導者には大きな影響を及ぼした人物であったと考えられる．残念ながら 1940 年代から 60 年代まで賀川の著書が翻訳されなかった理由としては，当時の日韓関係の影響があったと考えられる．つまり，1965 年 6 月 22 日に「日韓基本条約」で両国の関係が正常化されるまで，反日の感情があったため，賀川の著書の翻訳にも影響を及ぼしたものと推測できる．そして，2009 年 2 月 10 日，賀川の著書『Brotherhood Economics』が『友愛の経済学』というタイトルで発行されたことで，改めて賀川に関心が持たれるようになった．ちなみに，日本では 2009 年 6 月 25 日に『友愛の政治経済学』というタイトルで発刊されているので，これは，賀川の著書の中で，唯一，日本より先に韓国で出されたものである．

2. 賀川に関する書籍及び翻訳物

賀川に関する書籍及び翻訳物は，【表 6 - 3】の通りである．

【表 6 - 3】賀川に関する著書の翻訳物

年	タイトル	原著	翻訳者	出版社	所蔵
1940	賀川豊彦先生講演集		張時華編	敬天愛人社	국립 国立
1959	賀川豊彦先生 講演集		장시화편	경천애인사	국립
			張時華編	敬天愛人社	国立
1960	하천풍언선생 강연집		장시화편	正文社	학술
	賀川豊彦先生講演集		張時華編		学術
1960	하천풍언선생 강연집		장시화편	서울신문사	학술
	賀川豊彦先生講演集		張時華編	ソウル新聞社	学術

1962	賀川豊彦先生 講演集		張時華編	敬天愛人社	국립 国立
1970	（사랑과 平和의 使徒）賀川豊彦牧師	黒田四郎	大邱大學校賀川豊彦研究會	大邱大學校出版部	학술
	（愛と平和の使徒）賀川豊彦牧師				学術
1976	하천풍언:생애와 사상	우곡삼희	이종기 편	세종문화사	학술
	賀川豊彦：生涯と思想	隅谷三喜[134]	イジョンギ編	世宗文化社	学術
1985	나의 賀川豊彦 연구	黒田四郎	大邱大賀川豊彦研究會	大邱大學校出版部	학술
	私の賀川豊彦研究				学術
1982	賀川豊彦記念松澤資料館	阿部 勤	보원편집부	보원	학술
			ボウォン編集部	ボウォン	学術
1989	우찌무라간조오・야마무로군베이 ・가가와도요히코	原著不明	신앙위인전기편찬위원회	한국문서선교회	학술
	内村鑑三・山室軍平・賀川豊彦		信仰偉人伝記編纂委員会	韓国文書宣教会	学術
1992	현대건축 공간과 방법:賀川豊彦記念松澤資料館 2	阿部 勤	보원편집부	보원	학술
	現代建築 空間と方法：賀川豊彦記念松澤資料館 2		ボウォン編集部	ボウォン	学術
2004	가가와도요히코：사회운동과 하나님나라운동	隅谷三喜男	김은숙	보이스사	학술
	賀川豊彦：社会運動と神の国運動		キムウンシュク	ボイス社	学術
2008	사선을 넘는 믿음으로	하야시케이스케	김승추・김재일	흙과 생기	학술
	死線を越える信仰へ	林啓介	キムスンチュ・キムジェイル	土と息	学術
2013	가가와도요히코－일본협동조합의 아버지 -	가가와기념관	홍이표	다행	학술
	賀川豊彦 - 日本協同組合の父 -	賀川記念館	ホンイピョ	タヘン	学術

出所：韓国の国会図書館（国会），国立中央図書館（国立），学術研究情報サービス（学術）の電子図書館資料に基づいて筆者作成
（点線の下は日本語翻訳 - 筆者）

上の表から分かってくることは，1939 年の賀川の訪韓を契機として，翌年『賀川豊彦先生講演集』が出版され，様々な出版社によって 1959 年，1960 年，1962 年に再

[134] 誤字で，隅谷三喜男を指す.

版されたことである．ということは，これは韓国における最初の賀川の訪韓に関する書籍であり，日韓の政治的関係で賀川の著書が翻訳されなかった時代[135]でも，20 年に渡って出版された唯一の書籍であったということである．つまり，賀川に関する名声は『賀川豊彦先生講演集』によって途絶えることなく伝えられたと考えられる．

3. 新聞記事

韓国において賀川の名が公的に取り上げられ始めたのはいつからだろう．まず，賀川本人の書いたものが韓国の新聞に紹介された記事を【表 6 - 4】にまとめ，賀川に関する記事を【表 6 - 5】にまとめている．

【表 6 - 4】賀川の文章が紹介された記事

新聞名	日付	タイトル	記事性格
『基督申報』	1927．3．9 - 5．25	基督教社会主義論（一） - （九）[136]	論説
	1929．10．9	いかに神を発見するか	説教文
	1929．10．16	死に打ち勝つ方法	
	1929．12.11	善人になる方法	
	1930．4．9	艱難退治の方法	
『京城日報』	1938．6．19	十四年振り - けふ賀川豊彦氏入城	訪問記事
	1939．12．21	朝鮮印象記（1） - 内鮮無差別	訪問後記
	1939．12．22	朝鮮印象記（2） - トツク及びモツク	
	1939．12．24	朝鮮印象記（3） - 半島とキリスト教	

筆者作成

[135] 実際に 1945 年から 1965 年までは，日韓の外交断絶によって，韓国では，日本の書籍が翻訳や出版されなかった時代であった．

[136] 小タイトルは次の通りである．

3．9	広義の基督教社会主義/使徒時代の共産	4．27	英国の基督教社会主義/奴隷解放と賃銀奴隷の出現/米国の基督教社会主義
3．16	第一世紀の共産生活	5．4	精神運動の衰退と唯物主義/イエスの生命価値説と価値説
3．23	中世紀の共産生活と基督教/中世紀のギルドと兄弟愛運動	5．18	イエスの人格価値説/社会革命？社会進化？
4．6	『共同生活の兄弟団』の共産/再洗礼派と共産村/宗教的解放運動と民主主義の勃興/モラビアン教徒の兄弟愛運動	5．25	社会革命？社会進化？
4．20	産業革命と基督教/新しい基督教と社会主義/独逸の産業革命と宗教	筆者作成	

賀川の文章が韓国に紹介された最初の記事は，『基督申報』の「基督教社会主義論」である．9 回にもわたって載せられたのは，当時の社会的な状況で最も関心が高かったことが窺える．また，『基督申報』で，賀川の論説や説教文が紹介されていたため，賀川の著書が本格的に翻訳される前，すでに韓国のキリスト教界は賀川の文章に馴染んでいたものと考えられる．

『基督申報（The Christian Messenger）』[137]は，1915 年 12 月 8 日に韓国キリスト教の長老派とメソジストによって創刊された新聞である．当時の新聞は，朝鮮総督府が刊行していた『毎日申報』[138]（1910 年 8 月 30 日に創刊）のみであったため，宣教師たちがキリスト教界のために朝鮮総督府に要請したのである．このような背景から，当時の韓国社会を反映しながらも政治に関する記事は制限されたのである．このような制限は，1920 年から「文化統治期」に入って『朝鮮日報』（3 月 5 日）や『東亜日報』（4 月 1 日）が刊行されることによって，ある程度緩和していったのである（韓国基督教歴史研究所資料研究会編 2011：3）．そしてこの『基督申報』に，賀川の論説や説教文が，赤城擧人によって翻訳された．

『京城日報』は 1906 年 9 月 1 日に伊藤博文が『漢城新報』と『大同新報』を合併し，韓国統監府の機関紙として創刊した日刊新聞である．当初は韓国語版と日本語版を並行して発行していたが，1907 年 4 月より韓国語版は廃止され，1945 年 11 月には全面的に廃刊になった．それゆえ，賀川の訪韓記が『京城日報』に載せられたときには，日本語のみで掲載されたのである．その記事は翌年 1 月の『雲の柱』に載せられた．

【表 6 - 5】賀川に関する記事

新聞名	日付	タイトル
『東亜日報』	1921．8．12	賀川氏無罪 - 10 日に出獄
	1922．2．4	賀川豊彦氏来朝延期
	1922．8．4	労働代表と賀川氏 - 被選固辞観測（10 月 18 日労働会議：ジュネーヴ）
	1924．4．4	賀川氏欧米巡講

137 『基督申報』は，1937 年 8 月 1 日に経営不振のため二ヶ月休刊届を提出した．その後，同年の 12 月 1 日に廃刊された．

138 『大韓毎日申報』は 1905 年に梁起鐸がイギリスのベッセル（Earnest Thomas Bethell）とともに創刊した新聞である．それを日本が買い取り，1910 年に『毎日申報』と名称変更し総督府機関紙として利用した新聞である．そして 1937 年に『毎日新報』に変更し，1945 年 8 月以後は『ソウル新聞』と改称された．

『東亜日報』	1929．7．27	賀川豊彦氏が東京市社会局長
	1930．1．27	韓国人を引く朝鮮語看板 - 賀川氏運動（東京第 4 区で立候補）
	1938．11．8	賀川豊彦氏 - 朝鮮巡回講演
	1939．11．28	賀川豊彦氏講演
	1956．1．16	賀川氏の派韓 - 日社会党首希望
	1956．1．31	「再協商時機成熟」 - 賀川氏韓日問題に言及
	1958．5．9	日本基督教界の元老 - 賀川氏本社邊特派員会見記
	1960．6．24	賀川豊彦氏別世
『毎日申報』	1930．8．29	賀川豊彦氏 - 荏原町長に当選，無産派として初有事
『国民日報』	2009．10．22	日　賀川牧師の献身 100 周年シンポジウム
	2009．10．28	賀川豊彦牧師に対する再照明の熱気 - 福音に基づく社会運動
CTS 放送	2009．10．28	賀川豊彦　社会宣教 100 周年記念シンポジウム
	2011．7．18	日　社会福祉の先駆者 - 賀川豊彦牧師

筆者作成

【表 6 - 5】から韓国において賀川の名が取り上げられたのは，1920 年代からであったことが分かる．当時の新聞記事のタイトルを鑑みるに賀川に関するイメージは，「労働運動の代表者」と強く感じられるが，1930 年代後半からは「キリスト教の伝道者」や「社会事業家」というイメージに変わっていく．これは賀川が 1926 年から行った「神の国運動」の伝道活動と関係していると考えられる．また，韓国における賀川に関する記事が改めて登場したのは，2009 年のシンポジウム以降である．

4. 賀川の名前が登場している作品

1979 年の李文烈の小説『人間の息子』がある．内容は神学生であった主人公（閔燿燮（ミンヨソプ））の殺人事件で，物質的に豊かな文明の中，神に懐疑を抱く現代人（主人公）の苦悩や孤独を描いた小説である．そして刑事と彼の先生との対話の中で賀川の名前が登場している．内容は次のようなものである．

> 가가와도요히코는 일본의 실천신학자（實践神學者）이자 사회개혁가 노동운동가 복음전도사에 작가이기도 한 사람이오. 귀족가문에서 태어나 크리스찬이 된 까닭에 가문으로 절연당하기까지 했으나 굴하지 않고 자신의 신앙을 지켰지요. 고학으로 고오베 신학대학을 나오고 프리스턴 신학대학에 유학하기도 했지요. 스물 한 살 때 유학에서 돌아온 뒤에는 신가와의 빈민굴로 들어가 노

동운동을 시작했으며 고베항만파업을 지도하기도 하고 농민조합운동 협동조합운동을 주도한 적도 있오. 2 차대전 때는 일본의 대륙침략을 중국에 사과하다 헌병대에 의해 투옥되는가 하면, 『사선（死線）을 넘어서』란 소설로 문명（文名）을 떨친 일까지 있어요. 여러 가지로 놀라운 사람인데 - 민요섭은 아마도 그의 실천신학에 경도（傾倒）됐던 것 같소…（李文烈 1987：27 - 28）

（＝賀川豊彦は日本の神学実践者であり，社会改革家・労働運動家・福音伝道師，また作家でもある．貴族の出身であったが，クリスチャンになってから家族から絶縁されるほど，自分の信仰を貫いた人物である．苦労しながらも神戸神学大学を卒業し，プリンストン神学大学に留学した．21 歳のとき，留学を終えて帰国し，新川の貧民窟に入り，労働運動を始め，神戸港湾のストライキを指導し，農民組合運動・協同組合運動を主導したこともある．第 2 次大戦の際に日本の大陸侵略を中国で謝罪して憲兵隊に逮捕され，投獄された一方，『死線を越えて』という小説によって有名になった人物でもある．様々なことで驚くことをされた人物であるが，…閔燿燮（ミンヨソップ）はおそらく彼の実践神学に傾倒していたようである．翻訳・下線 - 筆者）

作家の李文烈は上記のように賀川について詳しく説明している．すなわち，主人公が憧れた人物として賀川を登場させたということから，1970 年代，韓国における賀川の知名度は高かったものと考えられる．

小括

1930 年代の韓国の政治的な状況は，「内鮮一体」を理念とした「皇国臣民化」政策下にあり，韓国のキリスト教界も最も大変な時期であったといえよう．その中で，1938 年 7 月 7 日には「朝鮮キリスト教聯合会」が結成されたり，1938 年 9 月 10 日には神社参拝に関する「声明書」が朝鮮イエス教長老会によって発表されたりしたのである．残念ながら，当時の日本政府は，その政策の実現を，当時名声を博していた賀川を通して図ろうとした．その結果，朝鮮キリスト教聯合会は，翌年賀川を招いて記念講演会を行ったこととなった．「皇国臣民誓詞」の斉唱が義務付られたことに一切言及していない賀川の反応から当時の状況が充分に窺える．とはいえ，このような政

治的な状況があったにもかかわらず，多くの人々が賀川の講演に参加したわけである．賀川の訪韓は，日本人だけではなく韓国人にも関心を集め，賀川が韓国に及ぼした影響は大きかったのであろう．この点については次の章で述べていく．

第 7 章　韓国に影響を及ぼした賀川の社会福祉実践と思想

第6章においては，韓国での賀川の活動を張時華編の『賀川豊彦先生講演集』（韓国）と『全集24』と『雲の柱』（日本）に基づいて検討した．残念ながら，ほとんどの資料が賀川の著書に偏っており，韓国における当時のメディア（新聞，ラジオ，雑誌など）の資料を得ることには限界があった．しかしながら，自叙伝やメディアの中で賀川から影響を受けたという文章を得ることは可能であった．これは第 I 部の「重要な他者との出会い」で言及したように，賀川の著書に出会った人々や賀川の講演会で実際に出会った人々が，賀川から直間接に影響を受けたといえよう．彼らの生涯において賀川との出会いが大切なライフイベントとなり，賀川のような生き方を歩もうとしたのであろう．本章では，賀川から影響を受けた人々を取り上げた上で，具体的に賀川からどのような影響を受けたのかを論じることとする．

第1節　賀川から影響を受けた韓国人

韓国においては，人物研究が少ない[139]ため，賀川から影響を受けた人物を探ることは簡単な事ではない．それゆえ，ここでは，自叙伝やメディアの記事を中心に，賀川から影響を受けた人々を取り上げることとした（【表7 - 1】）．

【表7 - 1】韓国において賀川から影響を受けた人々

名前（生没年）	職名	代表的な経歴	備考
李永植（イヨンシク）（1894 - 1981）	牧師	大邱西門教会 大邱大学校の設立者	神戸神学校にて留学（1923 - 1927） 前身：大邱盲児学院（1946年）→韓国社会事業学校（1957年）→現：大邱大学校（1981年）
金在俊（キムジェジュン）（1901 - 1987）	牧師・教授	京東教会 韓国神学大学校の初代学長	青山学院大学にて留学（1926 - 1928） 前身：朝鮮神學院（1939）→朝鮮神学校（1945）→朝鮮神学大学校（1947）→現：韓国神学大学校（1951）

139　仁荷大学の尹炳奭（ユンビョンソク）は，研究分野の中で人物研究は厭われる傾向があると述べ，その理由を正当な評価が極めて難しいからであると述べている（東亜日報，1984．11．14）．これは，人物研究は，客観的に評価することの難しさを有し，また時代的な背景及び社会経済の全般的な理解を必要とするためであるものと考えられる．

劉載奇（ユゼギ）（1905 - 1949）	牧師	大邱第一教会	イエス村の建設
姜元龍（カンウォンヨン）（1917 - 2006）	牧師	京東教会	明治学院大学にて留学
金徳俊（キムドクジュン）（1919 - 1992）	教授・牧師	中央神学大学校（現：江南大学校）	最初の「社会事業学科[140]」の設立
朱善愛（ジュソンェ）（1924 - 現在）	教授	長老派神学大学校教授	基督教教育科
李相哲（イサンチェル）（1926 - 現在）	牧師	京東教会 カナダ	1988 - 1990カナダ連合教会の総会長 1992 - 1998ビットリアカリージーの総長
李泰栄（イテヨン）（1929 - 1995）	教授	大邱大学校の初代総長	李永植の息子 賀川の推薦で明治学院中学部に入学（1943 - 1945） 1948 年立命館大学に入学 - 中退 1949 - 1953 年東京工学院大学[141]

筆者作成

上記のように賀川から影響を受けた人たちには，ほとんどキリスト教徒が多くいた．おそらく賀川の生そのものがキリスト教と密接に結ばれていたことと賀川が韓国の教会を中心に活動していたことに関係があるものと考えられる．また，筆者自身がキリスト教徒であったため，調べる範囲がキリスト教と関連する人々に限られた可能性がある．このような背景を踏まえて，【表7 - 1】で示した内容を中心に，賀川から影響を受けた人々と賀川とどのようなかかわりがあったのかを述べていく．

まず，韓国の障害者教育の先駆者である李永植は，1909年9月から慶尚北道の星州郡の玉花洞の玉花教会の附設の小学校に通い始め，1913年4月から大邱啓星中学校[142]

[140] 1953 年のことである．ちなみに梨花女子大学において，1947 年に「キリスト教社会事業学科」が設置された．しかし，キリスト教に基づいた社会事業であったため，1958 年に「キリスト教教育学科」と「社会事業学科」に分離された．また，当時は社会福祉学科ではなく，社会事業学科であったため，「社会事業学科」のままに表記することにした．

[141] 李泰栄 のホームページ（http://kdrhee.bol.ucla.edu/，20130607 閲覧）．

[142] 1906 年 10 月 15 日，アメリカ長老派の宣教師である James E. Adams によって創立された学校である．当時は 9 年制であった．

に進み，1923年に神戸神学校に入学した[143]．1927年に帰国した後，ハンセン病患者のために牧会を始め，1946年4月に大邱盲児学院を設立してから，生涯を障害者とともに過ごした人物である．この李永植と賀川との出会いについて，李永植の息子である李泰栄の発刊辞（黒田著・大邱大賀川豊彦研究会訳1985，ⅱ－ⅲ）に次のように書かれている．

> 성진공회당에서 가가와 선생의 강연회가 개최되었었는데 그때 성진의 모든 지식인들이 강연회장에 참석할 정도로 큰 관심을 가지게 되었었다. 그 날의 통역은 당시 함북 성진 중앙교회에서 목회하시던 선친 이영식 목사께서 맡으셨던 것이다. 그 후 1943년 본인이 만주에서 국민학교를 마치고 일본 동경의 명치학원 중학부에 입학할 뜻을 세웠으나 한국인이란 이유 때문에 입학이 어려웠다. 그러므로 명치학원 출신인 가가와 선생의 추천이 유력할 것이라는 말을 듣고 선친과 함께 선생의 자택을 방문하였다.
>
> （＝城津公会堂で賀川先生の講演会が開催された．その際，城津のすべての知識人が講演会に参加するほど大変関心を持たれていた．その日の通訳は当時，咸興の城津中央教会で牧会をしていた父の李永植が担当した．その後，1943年に本人（李泰栄を指す）が満州で小学校を卒業し，日本の東京の明治学院の中学部に入学に入ろうとしたが，韓国人であるという理由により入学することが難しかった．明治学院出身の賀川先生の推薦が入学に有利になるといわれたため，父と一緒に先生のお宅を訪れた．翻訳・下線・（）－筆者）

上記の内容は，1941 年から李永植が，横浜市の打越丁にある韓国人の教会（現：在日大韓基督教会横浜教会）に赴任したため，家族と 1943 年 2 月から日本で暮らすことになり，息子李泰栄の進路のことで賀川の家を訪ね，賀川と相談する場面である[144]．リュサンドク（2005：630）は，李永植は，夏休みに神戸スラム街にて賀川の貧民救済活動について実習を行ったことがあったと記している．おそらく賀川の出身校である神戸神学校に通っていたため，李永植は賀川に関する話だけではなく，夏休み

---

[143] 李永植が大学への進学が遅くなったのは 1919 年の抗日独立運動に参加したからであり，1919 年 4 月から京城の西大門刑務所 で 6 ヶ月，大邱刑務所で 1 年 6 ヶ月を服役したからである（寺ノ門 1975：78，81，86；シンヨンシュク 1986：178）．

[144] 後に戦争が激しくなったため，家族とともに 1945 年 5 月に帰国した（横浜教会ホームページ http://yokohamachurch.net/info.html，20130606 閲覧）．

の間は実際に賀川の事業に参加したことがあったのであろう．ただし，1923 年 9 月に起こった関東大震災で，賀川が東京に移ったため，賀川との交流を長く続けることは出来なかったものと考えられる．1939 年の韓国の訪問で，11 月 20 日に賀川が城津公会堂にて講演を行ったとき，通訳を担当したのが李永植で，賀川と改めて再会したのであった（【表 5‐3；4】を参照）．このように深い親交があったため，息子の進路を真剣に相談する相手が賀川であったのであろう．賀川への第一印象について李泰栄は次のように回想している（黒田著・大邱大賀川豊彦研究会訳 1985，ⅲ）．

> 그때 느낀 선생의 인상은 키가 작았고, 너무 책을 많이 읽고 저술한 탓으로 시력의 장해가 심했던 것으로 기억된다. 그 때 본인과 선친께서 선생께서 하신 말씀 중 지금도 두가지가 생생하게 기억되는데 그 하나는 “당신들이 나를 만나러 온 것을 아무에게도 말하지 말고 비밀로 하라. 왜냐하면 나는 지금 연금상태에 있고 이 목사는 독립운동을 한 요시찰 인물이요, 더구나 목사로 이중 감시로 받고 있을 것이다”라는 말씀과 다른 하나는 “관동 대지진 때 보았듯이 江戸人 (동경인)는 잔인하다”라고 하신 말씀이다.
>
> （＝そのとき，賀川先生の印象は，背が低い，そしてあまりにも多くの本を読み，執筆活動を続けていたために，視力の低下が著しかったというものだった．当時の私（李泰栄）と父親（李永植）との会話の中で，今でも生々しく覚えていることがある．その一つは“あなたたちが私に会いに来たことは，誰にも言わないでほしい．なぜなら，私は今軟禁状態であり，また李牧師は独立運動に関わったことで要注意とされている人物であり，牧師なので，より厳しい監視を受けているかもしれない．”という言葉であった．もう一つは“関東大震災のときに目撃したように，江戸人（東京人）は残酷である”という言葉であった．翻訳・（）‐筆者）

上記から，当時の両国の状況がいかに厳しいものであったのかが窺える．特に反戦運動で疑われていた賀川と韓国の独立運動で2年も刑務所に入ったことがあった李永植の両人は日本から見ると要注意人物に他ならなかっただろう．明治学院の卒業生でもない賀川に李永植が頼んだ理由は，当時頼る人が賀川しかいなかったこともあり，また賀川の知名度がすでに多くの人々に知れ渡っていたからであろう．賀川の推薦書

で，李泰栄は1943年に明治学院中等部に無事に編入することができたのである．李泰栄自身も賀川を尊敬していたため，1987年に大邱大学内に賀川豊彦記念館[145]を設置することに至った．記念館の開館式（主催：李泰栄，大邱大学校総長）の講演内容は，賀川の息子の純基（当時，賀川豊彦記念松沢資料館長）による賀川の事業の紹介であった（パンフレットを参照[146]）．いわゆる先代の出会いが次の世代まで受け継がれていく様子が窺える．

韓国神学大学の初代学長であった金在俊（1992：54）は，彼の自叙伝の中で，自身が憧れる生き方について次のように記している．

> 나는 아씨시 성프란시스의 전기를 탐독했다. 그의 출가（出家）광경이 맘에 들었다. 그리고 무일푼의 「탁발승」으로 평생을 걸식 방랑한 「공」（空）의 기록, 「공」에 회리바람처럼 몰려드는 하나님의 사랑 - 그것이 퍼져가는 인간과 자연에의 사랑 - 이런것이 나를 매혹시켰다.
>
> 나는 하천풍언의 「보베[147]」빈민촌 생활을 동경하며 「일등원」그룹의 무소유 생활도 그려봤다. 그런데로 가서 그런 그룹에 동참하고 싶었다.
>
> （＝私はアッシジのフランチェスコの伝記を耽読した．彼の出家の光景が気に入った．そして無一文の「托鉢僧」で一生乞食をし，放浪した「空」の記録，「空」へ旋風のように押しかけてくる神の愛，そしてそれが広がっていく人間と自然への愛，これが私を誘う．私は賀川豊彦の「神戸」貧民村の生活に憧れ，「一燈園[148]」グループの無所有の生活も描いてみた．そのような所に行ってグループに参加してみたかった．翻訳・下線 - 筆者）

金在俊は，非常に貧しく，苦労しながら勉強していた．その中，1920年代に出会ったフランチェスコ，トルストイ，賀川の生き方は，金在俊に金より専ら信仰と愛をもって清貧に生きて行くと決心するという影響を及ぼしたのである（金在俊1992：55）．

145　現在でも大邱大学の栄光教会内に「賀川豊彦牧師資料室」として運営されている．

146　帝京大学の濱田陽先生から得た資料である．

147　誤字 - 고베（神戸）

148　西田天香によって 1904 年に設立されたものである．自然にかなった生活をすれば，人間は何物をも所有しないでも，また働きを金に換えないでも，許されて生かされるという信条のもとに，つねに懺悔の心をもって，無所有奉仕の生活を行っているところである（http://www.ittoen.or.jp/top.html，20130607 閲覧）．

金在俊も学問的な知識よりイエスの心を真似て実践的な愛に生きようとしたので，信仰的な清貧の人生を送ったと評価されている（金キョンジェ2001：31‐32；チェンサムエル2003：236）．

京東教会の牧師であった姜元龍は14歳の際，叔父（廉快錫（ヨムクェソク））の影響でキリスト教とトルストイ，そして賀川に出会った．特に最も衝撃や感動を受けた賀川の著書が『死線を越えて』で，賀川の信仰や生き方によって自分の人生が変わったと告白している．そして，明治学院大学に入学した理由を次のように記している（姜元龍2003：57；108‐109）．

> 신학과에 들어가자면 부득이 영문학과를 졸업해야 했으므로 나는 별 수 없이 명치학원 영문과에 입학을 했다. 1939년 봄이었다. 명치학원을 택한 이유는 어려서부서 존경해온 가가와 도요히코가 비록 졸업을 못했지만 그 학교에서 공부를 했기 때문이었다. 가가와 도요히코는 내가 일본 땅에 발을 딛자마자 ‘아, 여기가 그가 살고 있는 곳이구나’하고 감개무량해 했을 만큼 내 삶에 큰 영향을 미친 사람이었다. (중략) 나는 도서실에서 가가와 도요히코가 직접 읽었던 책들을 찾아보았다. 그가 읽은 책들을 보면, 당시 폐병에다 눈병이 겹쳐 시력이 몹시 나빴기 때문에 큰 글씨로 ‘그렇다, 그렇다’ 또는 ‘아니다, 이건 틀렸다’라는 자기 의견을 해당 구절 옆에 써놓은 것이 남아 있어 내 가슴은 그를 직접 만난 듯 흥분되곤 했다. 나는 그와 직접 대화라도 하듯 그가 읽었던 책을 찾아 읽곤 했다.
>
> （＝神学校に進学する場合[149]，必ず英文学科を選択しなければならないという条件が課されたため，私は仕方なく明治学院英文科に入学した．1939年春のことである．明治学院を選んだ理由は，昔から尊敬してきた賀川が卒業はできなかったものの，かつて学んでいた学校だったからである．私が日本の地に足を踏んだ途端，‘ああ，ここが彼（賀川）が住んでいるところか’と感激するほど，賀川は私の人生に大きな影響を与えた人物である．（中略）私は図書館で賀川が読んだ本を探した．彼が読んだ本を見ると，当時肺病であったことに加えて視力まで非常に悪かったため，大きい文字で‘そう，そう’または‘いいえ，これは間違

[149] 姜元龍は金在俊と同じ大学である青山学院大学の神学部に入学を希望していたが，学制が変わったため，明治学院大学に入学した（姜元龍 2003：108）．

っている’という自分の意見を該当する文章の上に書き込んでいるものがあって，私は彼と直接会ったかのように興奮したわけである．私は，まるで彼と対話するようにして，彼が読んだ本を探して読んでいた．翻訳・下線・（）：筆者）

姜元龍は賀川が好きだった図書館で，賀川が読んだ本を読むうちに賀川に会いたくなった．そして，賀川宛に手紙を送り，上松沢の賀川の家を訪れ，二人は対面した．そのときから姜元龍は，賀川の家を頻繁に訪問し，賀川の講演会にもほとんど参加している．賀川のように一生病者や貧しい人と共に静かに生きていこうとしたのである（姜元龍2003：114‐123）．この点に関する姜元龍の行跡を調べると，1949年から1986年まで京東教会の牧師を担いながら，1965年に韓国基督教長老総会長，韓国基督教連合会長，そして1965年から1967年まで韓国宗教人協会長，1968年から1973年までアジア基督教協議会の副会長，1968年から1975年まで世界基督教教会協議会の中央委員，1970年から1974年までアジア基督教社会運動機関協議会長など，教会を中心とした活動を行っていた．つまり，姜元龍は社会活動より，宗教活動を主に行っていたといえよう．

牧師かつビットリアカリージーの総長であった李相哲（2010：48，本命：李一龍）は，彼の自叙伝で，次のように告白している．

이 무렵 나는 학교 교과목 공부보다는 다른 책들을 읽는 데 몰두하기도 했다. 이광수의 「흙」을 비롯해서 많은 한국인 작가들의 소설에 빠지곤 했다. 도스토예프스키의 「죄와 벌」을 비롯한 세계문학전집의 요약본 같은 것을 탐독하기도 했다. 일본인 기독교 작가 가가와 도요히꼬의 자서전 형식의「사선을 넘어서」라는 책을 감격스러운 마음으로 읽었다. 부흥회에 쫓아다니기도 하고, 성경도 통독했다. 이렇게 독서하는 동안에 내 머릿속에서 민족사상·정의·자유·평화 등의 사상이 싹트기 시작했다.

（＝この頃，私は学校の教科の勉強より他の書籍を読むことに専念していた．李光洙の『土』を始め，多くの韓国人の作家たちの小説にはまっていた．またドストエフスキーの『罪と罰』をはじめ，世界文学全集の要約本のようなものを読みふけっていた．日本人のキリスト教徒の作家である賀川の自叙伝の『死線を越えて』を感心しながら読んでいた．伝道集会に行ったり，聖書を通読したりする

間に，私の頭の中では民族思想・正義・自由・平和などの思想が芽生え始めた．翻訳・下線‐筆者）

李相哲は1924年にロシアのウラジオストクで生まれて，韓国とカナダで教育を受け，カナダ連合教会の総会長（1988年‐1990年）とビクトリア大学の名誉総長（Chan‐cellor，1992年‐2000年）を歴任し，今日でも活躍している情熱のある牧師である．このような原動力の背景には，賀川の『死線を越えて』の読書経験があり，今日まで移民たちのため，民族思想・正義・自由・平和の理念に基づいて活躍している．ちなみに，李相哲（2010：120）は金在俊の婿である．

以上から，金在俊，姜元龍，李相哲の共通点として，賀川から影響を受けたこと以外にも，韓国基督教長老派[150]の京東教会で牧師として働いたことが挙げられる．

2010年9月12日の韓国の『国民日報』に，長老派神学大学の名誉教授である朱善愛に関する記事が次のように載せられた．

주교수는 중학생때 가가와 도요히코의 사선을 넘어서란 기독교 사회운동 책을 읽고 감명받았다. 그는 “삶이란 섬기는 것이고 나보다 못한 사람들을 도우면서 사는 것이지 나혼자만의 행복을 위해 살아가는 것이 아니다”라며 인생의 방향을 잡기 시작했다.

（＝朱教授は中学生の際，賀川の『死線を越えて』というキリスト教社会運動の著書を読んで感銘を受けた．そして“生とは仕えることで，私よりも恵まれない人々を助けながら生きていくことである．つまり私のみの幸せで生きていくことではない”と考え，人生の方向を決めた．翻訳・下線‐筆者）

牧師であった夫に連れられて農村生活を始めた朱善愛は，当時は小学校の先生であった．夫の書斎で，出会ったのが賀川の書籍であった．この点について，朱善愛の自叙伝（2011：55）では，次のように記されている．

나는 내 생애의 틀을 잡아 주시는 하나님의 손길에 의해 책 하나를 붙들게

[150] 韓国教会系において長老派は大きく韓国基督教長老派と大韓イエス教長老派に分かれている．韓国基督教長老派は進歩性をもっており，昔も今も韓国の民主化運動の先導で，弱者のため活発に働いている教派である．それに反して大韓イエス教長老派は保守派と穏健派に分かれている．

되었다. 그것은 일본말로 된 가가와도요히코（賀川豊彦）의 『사선（死線）을 넘어서』，『담벽의 소리를 들을 때』，『태영을 쏘는 것』등의 책들이었다.

저자는 고난의 삶 속에서 그리스도를 만나 자기의 고뇌를 해결하게 되었다. 거기서 멈춘 것이 아니라 그리스도를 닮아 가장 낮고 소외된 자들과 함께 공동체를 이루어 사는 그의 삶의 증언에 나는 흠뻑 빠져 버렸다. 그의 책이라면 동화에 이르기까지 탐독했다.

（＝ 私は，神の手によって私の生涯の枠組を形成してくれる1冊の書籍をつかむようになった．それは日本語で書かれた賀川の『死線を越えて』，『壁の声きく時』，『太陽を射るもの』などの本である．

著者は，苦難の人生の中でキリストに出会って自らの苦悩を渇することになった．そしてそこで留まらず，キリストに似て最も低く，疎外された者たちと一緒に共同体を成して生きる彼の生活の証言に私ははまってしまった．そして 彼の本なら童話に至るまで読みふけった．翻訳 - 筆者）

朱善愛は，1948年から長老派神学大学に編入し，牧師であった夫を支えていたが，1949年に夫を亡くし，1950年に卒業した後は一人で教会の伝道師として働いた．1956年にニューヨーク神学校に入学し，1958年に帰国してからは，自身の生涯を教会のリーダーを養成するキリスト教の教育に捧げた学者となった．1967年の再婚が契機に住んだところがスラム街[151]であったため，朱善愛は賀川のスラム街での活動を思い起こし，学生とともに貧民宣教に力を入れた．そして，長老派神学大学を退職してからは脱北者の定着や適応のため，今日に至るまでなお活発に活動している．つまり朱善愛のエネルギーは，賀川の『死線を越えて』から生まれたもので，人生をどう歩んでいくかを決める重大な影響を受けたといえよう．その朱善愛（2011：56）が，初めて賀川に出会った場面を次のように回想している．

---

[151] 1970 代の「望遠洞（マンウォンドン）」という地域はスラム街であった．朱善愛の弟子であった李尚洋（イ サンヤン）伝道師（長老派神学大学生）が「望遠洞」に入り，様々な事業が行われた．残念ながら，李尚洋伝道師は 2 歳の息子と妻（朴榮惠（パクヨンヘ）：道林洞という貧しい地域で，長い間，道林教会の「子どもの家」（日本の保育所に相当する）の院長として働き，2012 年に退職された）を残して，肺結核で 1977 年に亡くなった．朱善愛は李尚洋伝道師の生そのものが賀川の生き方であったと回想している（朱善愛 2011：268）．現在でも長老派神学大学では，毎年李尚洋伝道師の追悼式が行われている．

가가와 도요히코는 내가 중학생 때 평양 숭실대학 강당에 오셔서 강연한 적이 있었다. 키가 작고 눈이 안 좋은 듯 두꺼운 안경을 쓰셨고 무척 겸손하고 온유한 인상이었다. 그 때는 그의 삶의 철학을 이해할 수 없었다.

（＝賀川は私（朱善愛）が中学生のとき， 平壌の崇実大学の講堂に来て講演したことがある．背が低く，目が悪いのか厚いメガネを掛けており，非常に謙遜されていて，温和な印象であった．そのときは彼の生の哲学を理解できなかった．翻訳・（）－筆者）

朱善愛の記述と賀川の訪問日程をあわせて考えてみると，1939年の11月16日のことであろう（【表5－3；4】を参照）．「そのときは彼の生の哲学を理解できなかった」という文章から，賀川の講演は中学生にとっては難しかったと考えられる．それにもかかわらず，改めて賀川の『死線を越えて』に出会ったことを契機に，賀川の生き方を理解するに至ったのである．

このように，韓国において賀川と実際に出会った人も，賀川の著書に出会った人もいる．【表7－1】に取り上げた人々の共通点は，賀川の自叙伝小説『死線を越えて』を通して，生き方や考え方を転換させられるほど，大きな感動を受けたことである．特に弱者の立場で支え合っていく，たとえば，李永植・李泰栄は障害者，李相哲は移民者，朱善愛は貧民宣教の援助者として尽力したことが挙げられる．次に，賀川から影響を受けた人物のうち，社会福祉分野において金徳俊と劉載奇を中心に論じていく．この二人を選んだ理由は，金徳俊の場合，韓国の大学の中で初めて独立した「社会事業学科」を設置し，人材育成に力を入れたからである．特に，金徳俊は神学に基づいた社会福祉学を目指していたため，初めて「韓国キリスト教社会福祉学会」を設置した人物である．劉載奇の場合，農村の改良のため，力を尽くしたからである．特に，劉載奇は教会を中心に「協同組合」を組織しようとし，韓国のグルンドヴィと呼ばれた人物である．また筆者は，大学生のときの農村援助活動やアジア学院（Asian Rural Institute，栃木県所在）での経験（1999年3月から10ヶ月，ボランティア）から，農村の状況及び問題点を認識していたため，農村生活の向上のため，様々に活動した劉載奇について関心を持っていたのである．

第2節　韓国の社会福祉教育の先駆者，金徳俊（キムドクジュン）[152]

すでに述べたように，1910年から1945年までの期間は，日本と韓国が時に互いに大きな影響を及ぼし合った時期であったと言える．この時期に一人の韓国人が日本に留学し，修学の後，母国で大きな業績を挙げている．その人物とは，韓国で初めて「社会事業学科」を独立して設置した金徳俊である．その金徳俊の略歴は【表7－2】の通りである．

【表7－2】金徳俊の略歴

1919．12．29．	咸鏡北道の会寧で，金以萬（キムイマン）（父親）と呉貴童（オキドン）（母親）の間の3男2女の長男として誕生．
1933．4－1938．3	鏡城公立高等普通学校卒業
1938．4－1940．3	同志社大学予科修了
1940	崔玉純（チェオクシュン）と結婚（3女１男：長女－京子，次女－京愛，三女：京姫，長男－一青（死亡））
1940．4－1942．9	同志社大学文学部神学科社会事業学専攻を卒業
1942－1945	齋藤合名会社入社
1945－1946	帰国，鏡城公立中学校教諭
1946－1947	議政府農業学校教師
1947－1952	ソウル永昌高等学校（現：城東高等学校）教師（韓国戦争で釜山へ）
1953－1964	中央神学校（現：江南大学校）教授 李浩彬（イホビン）（中央神学校の創立者）と社会事業学科設立 韓国キリスト教社会事業学生連合会創立
1953－1973	ソウル・延世・梨花女子・崇実・メソジスト大学校講師
1957．3	韓国社会事業学会（現：韓国社会福祉学会）創立（初代会長）
1959－1960．8	アメリカフロリダ州立大学留学（１年半）
1961	中央神学校学長に就任（1962年まで）
1962－1973	韓国保健社会部（現：保健福祉部）中央児童福祉委員会初代委員長
1964－1969	原州大学校（現：尚志大学校）教授及び学長
1966	韓国社会事業学校協議会（現・韓国社会福祉教育協議会）設立（4代会長）
1969－1977	中央大学校教授及び学長
1970－1971	韓国社会事業大学協議会会長
1973	国際社会福祉協議会，アジア及び太平洋地域社会計画委員会委員長
1975．7	中央大学校大学院で博士学位取得 研究論文：『産業福祉に対する専門社会事業介入に関する研究』

[152] 日本名は「大弘義雄」（同志社校友会 1993）である．これは，1939 年に行われた朝鮮総督府の皇民化政策の「創始改名」によるものである．

1977．1－1978．2	日本社会事業大学長の招請で渡日研究
1978－1981	江南社会福祉学校学長（前：中央神学校）に再就任
1979	第1次東北亜社会福祉教育セミナー組織委員長（韓国ソウル）
1981	韓国キリスト教社会福祉学会創立（初代会長）
1982－1992	江南社会福祉学校（1989年から江南大学校と改称）名誉教授
1985．12．14	妻崔玉純逝去
1988．7．4	金一純（キムイルシュン）と再婚
1992．9．6	逝去

出所：金徳俊履歴書[153]と同志社校友会（1949：112，332）と
金萬斗（2004：162－168）より筆者作成

金徳俊は韓国戦争[154]（1950－1953）の後，専門的な社会福祉サービスが必要とされる時期に，中央神学校の創立者である李浩彬（イホビン）[155]とともに，「社会事業学科」を設立した．同じ大学の神学科の教授であったソンウナム（2003：19）は，金徳俊は常に，アメリカのマコーミック神学校（McCormick Theological Seminary）のように，神学と連携した社会福祉学を構築しようとしたと想起している．金徳俊は独立した「社会事業学」を設置したものの，神学に基づいた「社会事業学」を目指していたと考えられる．これは，同志社大学の文学部神学科において「社会事業学」を学んだ経験もあったからであろう．

今日において日本の社会福祉を導いた人たちは同志社系のキリスト教徒が多い（李善惠2009：77）．特に日本の社会福祉史の草創期における三巨匠と呼ばれている石井十次，山室軍平，留岡幸助は，新島襄あるいは同志社大学から大きく影響を受けたと言われている（室田1994：14）．これについて室田（1994：39）は「同志社出身者が組合教会系であり，天皇制やアジアの問題など，その功罪はさておき，当初より組合系が国家，社会との関りを持って展開していったということに依拠するのかも知れな

153　家族（長女：金京子）から得た資料である．
154　1950 年 6 月 25 日に起こった戦争について，韓国では「六二五戰爭」または「韓国戦争」と呼ばれている．それに対して，日本では「朝鮮戦争」と呼ばれている．
155　李浩彬（1989．5．3－1989．8．20）は平安南道江東郡元灘面で生まれ，1927 年に協成神学校（The Union Theological School，現：メソジスト大学），1938 年に日本関西神学校，1942 年に日本聖化神学校を卒業した．1946 年に中央神学院（現：江南大学）を設立した（友園記念事業会998：192）．李浩彬について金萬斗（2004：164）は，1938 年日本の関西神学校に留学した際，内村鑑三の思想から多大な影響を受けていた韓国キリスト教界の数少ない指導者の一人であったと紹介している．

い」と分析している．明治期の同志社大学[156]は，日本社会に対する問題意識を持ち，それを解決しようとする意志が高かったと言える．生江（1931：287）によると，キリスト教派の中でも，社会問題を取り扱う「社会部」を設けたのは，1919年，組合教会が最初であった．つまり，組合派の「社会への関心」が「社会福祉」へと繋がっていったということであろう．このような学風の中で，学んだ人物が金徳俊である．それでは，金徳俊が社会福祉に関心を持ち始めたきっかけは何であろうか．

1. 金徳俊と賀川

金徳俊（1977:22－23）は，厳格なキリスト教の家庭で成長した．幼い頃から信心深い祖母に連れられて，毎週日曜日と火曜日に教会に通い，祖母との関係が最も親密であった．そのため，母親に対する感情や性に関心を持つことに罪悪感があったと告白している．その経験から金徳俊は，思春期において肉体面，感情面の変化は性的目覚めとともに困惑させられることであったと述べ，それに気づいて相談できる親の役割が最も重要であったと強調している．金徳俊（1977：26－27）は，思春期に親の代わりになる程に大きな影響を受けた人が賀川であったとし，次のように回想している．

> I am reminded of one person who influenced my life greatly at that time other than my parents, his name is TOYOHIKO KAGAWA. He is one of the greatest social workers and Christian leaders in Japan. I liked his books and before my graduation from my high school, I had prayed every morning at my church that may God let me a person like KAGAWA in my country. At that time I did not know exactly what a social worker was. I am convinced that what I am today was greatly influenced by Mr. KAGAWA’S personality and his thought.
>
> （＝私が思春期の頃，私にとって親よりも大きな影響を与えた人物がいる．そ

[156] 同志社大学の設立者である新島襄と山本覚馬の言葉である（井垣章二 2004：5）．新島は卒業生を送るに際して「日本の蒼生を救うべき重任を荷へるものは，実に諸君に外ならぬ．諸君よ，幸ひに日本国の為め，日本蒼生の為めに，願わくば一死を惜しむ勿れ」と激励した．また，山本は「子等是非とも励むべきは貧民の友たることこれなり，吾思ふに日本は将来英国の如く，貧富の懸隔追日甚しきに至らん．此時に当り，能く弱者を助け強きを挫き，貧を救い富を抑ゆるものは誰ぞ．諸子乞ふ吾が言を常に心に服し怠る勿れ」と述べた．

の人物の名前は，賀川である．彼は偉大な社会事業家であり，キリスト教指導者の一人である．私は，高校生の頃から，彼の著書を読むことが楽しみであった．そして，高校卒業を控えた頃，毎朝，教会に行って‘韓国の賀川豊彦’と呼ばれるほどの人物になれるように神に祈った．当時の私は社会事業家について正確に知らなかった．今日の私のようになれたのは，賀川の人格と思想から大きな影響を受けたからであると確信している．翻訳・下線‐筆者）

韓国社会福祉のパイオニアとなった金徳俊は，思春期の頃に賀川の著書に出会い，「韓国の賀川」と呼ばれる人物になりたいと願うほど，賀川に憧れていた．しかし，金徳俊も朱善愛のように賀川の書籍に感動を受けたものの，賀川の事業についてははっきり理解できなかったと言える．しかし，後に同志社大学で「社会事業学」を専攻したことで，金徳俊は徐々に賀川の事業を理解していったのであろう．

同志社大学では 1931 年 4 月から文学部神学科内に社会事業学専攻が設けられた．当時，設置理由について次のように記している（『同志社校友同窓會報』，1931．1．15）．

わが神學科に社會事業專攻を置くは蓋し，基督教信仰によりて立つ人物にして，同時に社會改造の專門的技術家を養成せんためである．さればこゝよりは，直接各府縣市の社會課に属し，或は公私の社會事業に携る者も，個人的に勞働運動，協同組合運動に参加する人物も，又は教會を中心とする教化事業に携る人も，或は社會記者として輿論の教育に任ずる者も將來輩出されるであらうが彼等が等しく右の目的に依るところのものである．わが神學科はかゝる目的に向つて精進奮闘せんとする青年男女學徒を歡迎するものである（下線‐筆者）．

神学科内の社会事業を専攻することは，まずキリスト教信仰により立つ人物を養成することを学ぶとともに，社会改造の専門家の養成することについても学んでいくことであった．後に，大塚（1937）は同志社大学の「社會事業教育」について次のように記している．

社會事業は既に今日國家の重要なる職能の一つとなり，單なる常識や技術の域

を脱して，一つの科學的組織的建設を必要としつゝある．之が眞正の發達にはどこまでも之が學術的科學的研究の進歩が伴はなければならない．本學は既に本邦社會事業の發達に重要なる開拓的人物を出したのであるが，今後もこの方面に信仰あり見識あり準備ある人物を送り出す事を念願せるものである．基督教信仰と開拓的研究的熱心とは，同志社が我國社會事業界に送り出す人物の特色たらしめたいと期せるところのものである（下線‐筆者）．

キリスト教信仰とともに見識と思慮を備えた人物を育んでいくことを目指していた「社会事業教育」の下で，金徳俊は「社会事業の開拓者」として育てられたのである．それでは，賀川と金徳俊の二人が実際に出会うことはなかったのか．まず，同志社での賀川の活動を「同志社大学人文科学研究所第4研究編（2009）」に基づいてまとめていく．賀川は，1919年から1928年の間に10回の課外講演（特別講演）[157]を担当し，1925年には二日に渡る二回の講演「イエスの良心の宗教」と「イエスの良心の芸術」は，多くの同志社の学生や教職員の心を捉えたと言われている[158]．この時期の金徳俊は韓国で幼少期を過ごしていた．嶋田（1971：257）は，賀川は1935年にも信仰と兄弟愛による社会改造理論の連続講演を行ったと記している．その翌年1936年から賀川は同志社大学文学部客員教授として，1937年から1939年までは文学部教授として「協

[157] 同志社での賀川の講演

年	月日	対象	場所	講演題目もしくはその内容	年	月日	対象	場所	講演題目もしくはその内容
1919	9.11		神学館	社会問題研究について	1925	11.1	全校		イエスと良心の芸術
1921	6.11	中学生		精神生活の発展		11.1	中学		青年よ内なる生活を充たせ
1922	1.21	中学		宗教と幸福	1927	11.24‐27			秋季特別伝道講演会
	1.21	女学校		宗教講話		11.26	中学		完全なる者の姿
1925	11.9	全体		イエスと良心の宗教	1928	9.22	同志社消費組合	公会堂	消費組合宣伝講演会

出所： 同志社大学人文科学研究所第４研究編（2009：68）

[158] 無神論によらずに無産者大衆を救済するイエス・キリストの道を提示した内容である．賀川の講演に最も深い理論的確信と実践的な示唆とを強く受けた一人の教師が中島重であった（上野編1979：1069）．中島（1937）は，社会的実践は決して信仰を抜きにしてなせるものでなく，信仰は実践を外にしてその価値を発揮することはできないものであると主張している．神学思想が如何に変遷しても，社会事業のテクニックが進歩しても，信仰と社会的実践との関係は変わらないと述べている．

同組合論」を教えていた（同志社職員録1936；1937；1938；1939）．この点について大塚（1937）は次のように記述している．

講座に關して本學年より新に協同組合論が設けられ，賀川豊彦先生が客員教授として毎學期來學講義を繼續されつゝ（中略）又賀川氏の寄贈によつて協同組合に關する文献をも集蒐されつゝある．

上記のように，1937 年の同志社大学文学部の神学科の社会事業学専攻は，賀川が客員教授として迎えられたことで，神学科の中でもとりわけ隆盛を極めていたと推測される．【表 7‐3】は，「社会事業学専攻」が新設された 1931 年（『同志社校友同窓會報』，1931．1．15）のカリキュラムと賀川が協同組合論を担当した 1937 年（『同志社大學社會事業學會報』，1937．1．29）のカリキュラムである．

【表7‐3】1930年代の同志社大学「社会事業学」専攻のカリキュラム

		1931年	1937年
第一課程	必修科目	社會學概論，社會事業原論，社會問題概論，經濟原論，倫理學，舊約文學，哲學概論，統計學，英書講義，獨書講義，佛書講義	社會學概論，社會問題，社會事業原論，憲法，民法總則，經濟原論，新約文學，教會史，神學通論，哲學概論，外國書講義
	選択科目	西洋哲學史，教會史，民法總則，政治學史，宗教史，英文學史，印度哲學，教育學	倫理學概論，東洋倫理學，西洋哲學史，教義學，宗教史，刑法總論，統計學，英文學史
第二課程	必修科目	社會學特殊講義，社會事業各論，社會事業學演習，社會哲學，新約文學，基督教思想史，憲法，英書講義，獨書講義，佛書講義	社會學特講，社會事業史，社會事業各論，社會政策，協同組合論，社會哲學，基督教社會學，舊約文學，外國書講義
	選択科目	西洋哲學史，西洋倫理學，東洋倫理學，教會史，刑法總論，會計學，新約研究，舊約研究，聖書社會學，經濟學史	行政法總論，會計學，社會倫理學，基督教思想史，新舊約特講
第三課程	必修科目	社會事業特殊講義，社會問題特殊講義，社會事業演習並二實習，基督教社會哲學，組織神學，社會誌學，宗教々育學，宗教哲學	社會事業特講，社會事業演習，社會事業實習，社會問題特講，社會教育學，基督教倫理學，日本倫理思想史
	選択科目	基督教倫理學，日本倫理思想史，宗教々育學，經濟事情，社會法則，法理學，心理學特殊講義，神學演習	行政法各論，法理學，經濟事情，心理學特講，宗教教育學，經濟學史，政治學史，民法親族相續法，社會心理學，神學演習

筆者作成，下線は選択科目である．

1937 年に賀川が担当した協同組合論は，第二課程の必修科目として設置されていた[159]．金徳俊が 1938 年 4 月に同志社大学予科に入学している[160]．この頃の，同志社大学学則によるカリキュラムは，次の通りである．

【表7 - 4】同志社大学学則

1920 年 3 月	大学	政治学科必修		憲法，国法学，政治学，政治史，外交史，行政法，刑法，国際公法，国際私法，経済原論，財政学，民法，外国諸講読	
		経済学科必修		憲法，国法学，経済原論，経済史，経済学史，農業経済学，工業経済学，商業経済学，財政学，統計学，社会政策，殖民政策，経済政策，外国貿易論，金融論，民法，商法，外国諸講読	
		神学科必修		哲学概論，哲学史，倫理学，心理学，宗教学，理論神学，歴史神学，聖書学，猶太史	
		英文学科必修		倫理学，心理学，文学概論，国文学，支那文学，英語英文学，言語学概論，近代比較文学	
		選択		交通論，保険論，商業学概論，法理学，教育学教授法，美学概論，社会学，古代文学，独逸語，仏蘭西語，希臘語，希伯来語，拉典語，露西亜語，支那語，朝鮮語	
		予科（授業時間）	1 年	修身 (1)，国語・漢文 (4)，第一外国語（英，10），第二外国語（独又は仏，4），歴史 (3)，地理 (2)，数学 (3)，自然科学 (2)，体操 (2)	31
			2 年	修身 (1)，国語・漢文 (4)，第一外国語（英，10），第二外国語（独又は仏，4），歴史 (4)，心理・論理 (2)，自然科学 (2)，体操 (2)	29
			3 年	修身 (1)，国語・漢文 (3)，第一外国語（英，9），第二外国語（独又は仏，4），歴史 (3)，哲学概論 (3)，心理・論理 (2)，法制・経済 (4)	29

159　1938 年から「協同組合論」という科目は賀川以外に山室も担当していた．「1938 年 4 月より山室周平氏を協同組合論の講師に迎える（出所：『同志社新報』，1938．10．20）．」

160　1938 年度の同志社新入生（出所：『同志社新報』，1938．4．15；▒は金徳俊が入った予科）

合計	高等女学部			中学	女子専門学校				高等商業学校	専門学校			大学										学校別
													予科				学部						
																	法学部			文学部			
	計	補習科	本科		計	家庭科	英文科 本科	英文科 予科		計	法律経済部	英語師範部	計	二部（二年生）	一部（三年生）	計	法律学科	経済学科	政治学科	哲学科	英文学科	神学科	
一，六四八	二三八	—	二三八	二三七	八四	四八	二八	八	三五〇	一一二	八四	二八	三五〇	二五八	九二	二八七	四八	一八八	一八	五	一六	二二	数

『同志社大學學友會會員名簿』（1939：119）によると，金徳俊は予科の二部二学年 C 組であった．そして，『同志社大學學友會役員並各部々員名簿』（1940：15）によると，金徳俊は神学科の１年生のとき，グリークラブに属し，会計を担っていた．

1941年4月	予科（授業時数）	一部（三年制）	1年	修身 (1)，国語 (2)，漢文 (2)，第一外国語 (10)，第二外国語 (3)，歴史（日本, 3)，地理 (2)，自然科学 (2)，数学 (3)，体操 (2)	30
			2年	修身 (1)，国語 (2)，漢文 (2)，第一外国語 (10)，第二外国語 (3)，歴史（東洋2)，歴史（西洋2)，自然科学 (2)，論理 (2)，経済 (2)， 体操 (2)	30
			3年	修身 (1)，国語 (2)，漢文 (2)，第一外国語 (10)，第二外国語 (3)，歴史（西洋, 3)，心理 (2)，哲学概論 (3)，法制 (2)，体操 (2)	30
		二部（二年制）	1年	修身 (1)，国語 (2)，漢文 (2)，第一外国語 (10)，第二外国語 (4)，歴史（日本 2)，歴史（西洋 2)，自然科学 (2)，数学 (2)，論理 (2)，経済 (2)，体操 (2)	33
			2年	修身 (1)，国語 (2)，漢文 (2)，第一外国語 (11)，第二外国語 (4)，歴史（東洋2)，歴史（西洋2)，心理 (2)，哲学概論 (3)，法制 (2)，体操 (2)	33

出所：上野編 1979：1372 - 1373；1386 - 1387 より筆者作成

残念ながら，当時の状況に関する金徳俊の記述は全く見当たらなかったため，同志社での金徳俊について断定はできない．しかし，「韓国の賀川」と呼ばれる人物になりたいと祈るほど，金徳俊は誰よりも賀川に会いたがっていたと考えられるし，その賀川が同志社大学で教授として働いていることから，金徳俊にとって絶好の機会であり，賀川と金徳俊が接触する確率は高かったものと考えられる．その点について，金徳俊の弟子である金永哲（2001：12）は，次のように回想している．

김덕준 목사는 일본동지사（同志社）대학의 유명한 목사요 사회사업가인 가가와（賀川豊彦）교수를 만나게 되어 결국 한국사회사업을 개척하는 선구자가 된 것이다. 젊은 학창시절에는 어떤 분을 만나느냐 하는 일도 중요한 것 같다. （중략）김목사는 가가와를 만남으로 유명한 사회사업의 개척자요, 선구자가 되었다. 신학은 사회사업을 떠나서 논할 수 없고, 사회복지를 떠나서는 신학을 논할 구 없다는 논리를 터득할 수 있게 되었다는 사실이다.

（＝金徳俊牧師は，日本の同志社大学の有名な牧師であり，社会事業家である賀川教授に出会ったことがきっかけで，韓国社会事業を開拓する先駆者となった．若い学生時代に誰に出会うのかは重要なことであろう．（中略）金牧師も賀川に出会ったため，有名な社会事業の先駆者となった．神学は社会福祉と離して論じることができない，また社会福祉から離れても神学は論じることができない，その論理を悟ることができたのである．翻訳 - 筆者）

このように金徳俊が社会福祉の先駆者になったのは，賀川から受けた大きな影響によるものであることが，他の弟子たちの記述から分かる（李富徳2003；尹基2003；咸世南2007）．また，金徳俊が授業の中で，賀川に関する話を取り上げたとも考えられる．

2. 金徳俊と中央神学校（現：江南大学）の「社会事業学科」

金徳俊が「社会事業学科」を設置した目的について，第1期の卒業生であるブソンレ（2003：24－25）は次のように述べている．

> 故김덕준 교수의 사회사업학과 설치의 목적은 교회내부 울타리 속의 신학으로부터 대사회의 교회외적 신학을 만드는데 있다고도 할 수 있었다. 전 사회를 목회 대상으로 하여 사회 전체가 교회의 장이 되고, ‘하나님의 나라’가 되는 것이었다.
>
> （＝故金徳俊が社会事業学を設置した目的は，教会内部の垣根の中の神学から，教会以外の社会でも通じる神学を成立させるためであった．社会全体が牧会の対象として，全社会が教会の場となり，ひいては‘神の国’となっていくことであった．翻訳－筆者）

金徳俊が目指したのは，「教会内の神学から教会外の神学へ」であり，特に社会に関心を持たれる神学を求めていたのである．当時，「社会構造の矛盾」による犠牲者，つまり貧しい人，心の苦しみに捕われている人，目の見えない人，疎外されている人に関心を持ち，全社会が共生の共同体になるため，神の志に従う人々が具体的に実践することを意味しているのであろう．そのため金徳俊は，キリスト教派を超え，キリスト教徒たちの信仰訓練として社会福祉を実践させる，いわゆる，サーバント（servant）の精神で，社会に仕える人材を育成していたのである（ソンウナム2003：19）．当時の中央神学校の社会福祉教育の歴史的な意義をまとめると，以下のようになる（江南大学社会福祉学部2003：60－65）．

첫째, 기독교적 교양과목과 사회행동과학의 기초과목을 토대로하여 강남대학교사회복지교육의 이념인 경천애인을 생활화한 사회복지사 양성에 초점을 마추어 사회복지의 가치와 윤리를 체득하도록 하였다.

둘째, 사회복지이념 교육과 아동복지, 청소년문제, 모자복지, 노인복지, 사회사업시설운영론 등 다양한 실천분야의 지식과 실천기술을 익힐 수 있도록 커리큘럼을 구성하였다.

셋째, 1950년대에 당시 미국에서 논의되어지고 있던 사회사업의 통합방법론을 소개하였다는 점이다.

넷째, 학생들이 한국사회복지계의 선구자들로부터 사회복지 이념과 가치, 이론과 실제를 배울 수 있었다는 점이다.

다섯째, 한국사회복지학의 학문적 발전의 토대를 마련했다는 점이다. 그것은 바로 한국 사회복지학회와 한국기독교사회복지학회의 창설이다.

여섯째, 강남대 사회복지학부의 하계 및 동계 계절대학의 창설을 들 수 있다. 이 프로그램은 합숙대학(residential college)과 열린 대학(university without wall)의 장점을 조화시킨 한국 최초의 사회복지지도자 교육프로그램이다.

일곱번째, 사회복지의 분야별 발전을 위한 다양한 협의회와 협회의 조직과 발전에 주도적인 역할을 하였다는 점이다.

여덟번째, 새로운 사회복지이론과 실천을 습득하고 새로운 접근방법을 창안 적용함으로써 사회복지실천현장의 확대와 발전을 가져왔다.

（第一に，キリスト教的教養科目と社会行動科学の基礎科目に基づいて，江南大学社会福祉教育の理念である「敬天愛人」を実践する社会福祉士養成に焦点をあわせて社会福祉の価値と倫理を学ぶこととした.

第二に，社会福祉のイデオロギー教育と同時に児童福祉，青少年問題，母子福祉，老人福祉，社会福祉施設の経営論など，多様な実践分野の知識と実践技術を身につけるようにカリキュラムを構成した.

第三に，1950年代に，当時アメリカで議論されていた社会事業の統合方法論を最初に紹介した.

第四に，学生たちが韓国社会福祉系の先駆者らから社会福祉理念と価値，理論と実際を学ぶことができた.

第五に，韓国における社会福祉学の学問的発展の土台を構築した．それは，特に韓国社会福祉学会と韓国キリスト教社会福祉学会の創設であった．

第六に，江南社会福祉学部の夏季及び冬季の季節大学を運営した．このプログラムは「寄宿制大学（residential college）」と「開かれた大学（university without wall）」の長所を調和させた韓国初の社会福祉指導者教育プログラムであった．

第七に，社会福祉の分野別の発展に向けた様々な協議会と協会の組織と発展に主導的な役割を果たした．

第八に，新たな社会福祉理論と実践を習得して新たなアプローチを開発し，適用することにより，社会福祉の実践現場の拡大と発展をもたらした．翻訳－筆者）

このように，金徳俊は中央神学校の社会事業学科の教育に留まらず，韓国のキリスト教社会福祉の構築にまで影響を及ぼしたのである．1981年に韓国キリスト教社会福祉学会が創立される際，金徳俊は中心的な役割を果たした．

3. 金徳俊とキリスト教社会福祉

金徳俊（1983ｂ：5）は，韓国キリスト教社会福祉学術誌である『キリスト教社会福祉』の創刊号で次のように述べている．

예수께서는 첫 번 전도 때부터 복음을 전파하는 동시에 병자와 근심 걱정하는 사람들을 모두 고쳐주셨다. 이와 같은 내용의 선교활동은 그의 제자들을 통해, 초대교회의 사랑의 원시 기독교 공산공동체 생활을 통해, 그리고 중세교회와 수도원을 통해 오늘날까지 연면하게 이어지고 있는 것이다.（중략）본 학회의 기본과제를 기독교와 사회복지사업이 양자간에 본연의 관계에 복귀할 수 있도록 본질적인 차원에서, 역사적인 차원에서 그리고 실천적 차원에서 탐구하여 양자의 재결합과 발전 확산에 조금이라도 이바지하려는 일이다.

（＝イエスは，初めに伝道する時から福音を伝播すると同時に病者や悩んでいる人々を皆癒してくれた．このようなイエスの宣教活動はイエスの弟子たちを通

じて，また初代教会の愛の原始キリスト教の共産共同体の生活を通じて，そして中世教会と修道院を通じて，今日まで途絶えることなく続いている．（中略）本学会の根本的な課題は，キリスト教と社会福祉の両者が，本来の関係に復帰できるように本質的な次元，歴史的な次元，そして実践的な次元から探求し，両者の結合とその発展のために少しでも役に立つことである．翻訳 - 筆者）

このように金徳俊は，キリスト教に基づいた社会福祉を考え，福音（gospel：良い知らせ）という本質的な意味をもったイエスの活動を模範とし，初代教会から行われた様々な活動を歴史的な意味を持つものとしてだけでなく実践的な意味をも持つものとしても捉えようとしたのである．このキリスト教と社会福祉との結合を主張した金徳俊の考えからは，賀川の考えが想起される．賀川（1928）は「社会事業と宗教運動」という論稿で，キリスト教の両側面を「生命の本質」と「生命の表現」という言葉を用いて説明し，「生命の表現」を考える人は，愛の行動によって「生命の本質」を得ることを学んでいくと述べている．賀川は，ヨハネの手紙一4章8節「愛することのない者は神を知りません．神は愛だからです」を引用し，愛の行動を知らない人は神が本質的に愛であることを知るわけがないと主張している．キリスト教において，愛は神の本質であり，神そのものである．その神を愛することとともに隣人を愛することがキリスト教の教えである．生命の本質である愛を表現することが社会福祉の実践に繋がっていく（李善惠2009：25）．このような，賀川の「生命の本質」と「生命の表現」の概念に対して，金徳俊（1983a：187）は，縦と横という概念からキリスト教と社会福祉を説明している．

한국의 기독교인들도 가족중심의 ‘세로’의‘집’개념을 초월하여 ‘가로’의‘집’개념으로 이행하려는 노력없이는 이웃사랑의 표현이 사회사업을 이해하기도 실천하기도 어려울 것이다. 그 이유는‘세로’의 가족간의 사랑은 어느 누구나 다 할 수 있는 사랑이나, ‘가로’의 이웃사랑은 “이웃사랑이 곧 하나님을 사랑”하는 것이라고 확신할 때에 실천에 옮기를 수 있기 때문이다. 그러므로 기독교의 본질과 교회의 본질을 바로 인식하고 믿는 가운데서 ‘가로’의 개념도 또 사회사업도 동시적으로 믿고 실천할 수 있을 것이다.

（＝韓国のキリスト教徒も家族中心の「縦」の「家」[161]の概念を越え，「横」の「家」の概念に移行しようとする努力なしには，隣人愛の表れである社会事業を理解すること，実践することは難しいだろう．その理由は，「縦」の家族間の愛は，誰にでもできる愛であるが，「横」の隣人愛は，「隣人を愛することが神を愛することである」と確信する際に，実践に移すことができるからである．それゆえ，キリスト教の本質と教会の本質を正しく認識して信じることによって，「横」の概念も社会事業も同時に信じて実践できるだろう．翻訳 - 筆者）．

このように，金徳俊は家族中心の「縦の愛」がひいては隣人への「横の愛」に拡大していくことが，真の社会福祉実践であると強調している．金徳俊（1985b：19）は，「縦の愛」を「横の愛」に移行させるためには犠牲が必要であると述べ，代表的な例として「十字架の愛」を取り上げている．十字架の愛に基づいた犠牲が伴わなければ，神への愛や隣人への愛が表れにくいと述べている．十字架の愛で，縦と横の愛の結合が行われ，その十字架の愛こそが，2000年前の初代教会から今日まで，キリスト教社会福祉の成長と発展をもたらした源となったということである．

4. 賀川が金徳俊に及ぼした社会福祉思想

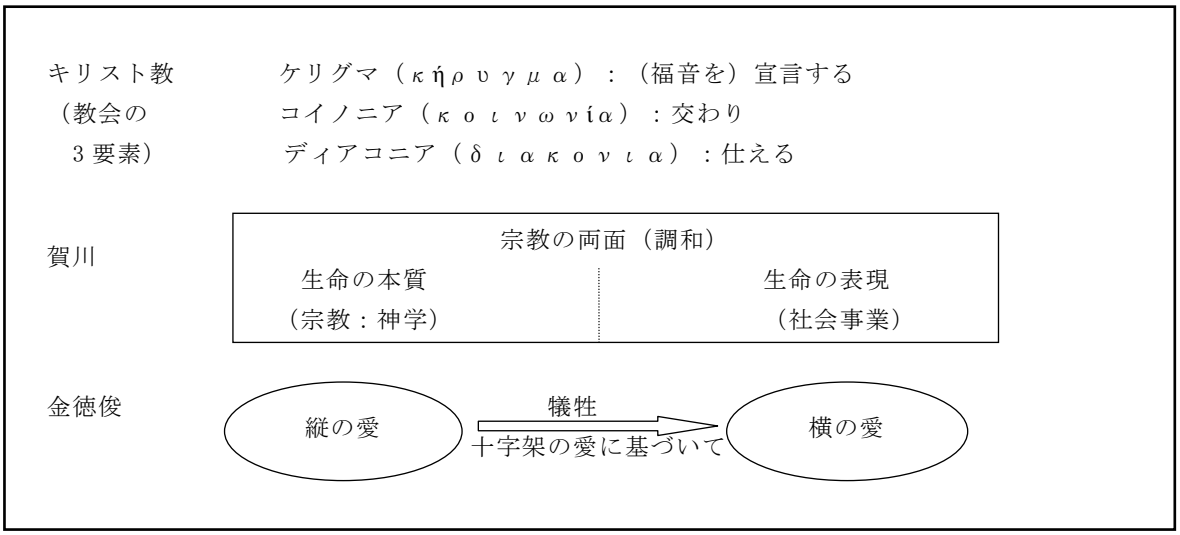
木原（1999：67）は，社会福祉形成史の発達段階を「慈善→博愛→社会事業→社会福祉への発展」の観点からみれば，宗教，いわばキリスト教の世俗化そのものの過程であったと述べている．すなわち，宗教（教会）を中心として行われたすべての活動が，17，8世紀に資本主義が発達してから国家中心の体制となり，宗教から分離された救済行為が徐々に国家体制の下で，公的な責任を帯びたものへと転換していく．このように時代に応じて社会福祉実践の主体や対象，内容が異なっていることに対して，社会福祉の本質または思想にどのような変化があったのか．賀川は「社会事業」について次のように定義している．

[161] 韓国において「家」とは，時間及び空間を越え，家族生活のためのすべての生活の中心地であった．しかし，ここでは時代の流れまたは社会的変化によって，物質的意味より関係的意味として捉えた（金徳俊 1983a：171）．

社會事業は生理的，心理的，道德的，社會的必要から出發してゐる．（中略）要するに眞の社會事業は，宗教的な根本原理から出發して深い精神的指導原理を基とし惡に勝ち，單なる唯物主想に迷はされず，生命，勞働，人格を引き上げる運動をしなければならぬ（賀川 1927：10，傍点ママ）．

賀川にとって「社会事業」とは，宗教的な根本原理に他ならない．特に賀川（1928）は，宗教の両側面を「生命の本質」と「生命の表現」であると述べ，「生命の表現」として「社会事業」に言及している．金徳俊は，キリスト教に基づいた社会福祉実践を求めていたため，彼の初期の論稿は，賀川のこの考え方をそのまま受け入れている（金徳俊1979：93‐94；1983a：178；1985a：11）．後に金徳俊は，生命を表現するためには，血縁関係の家族への愛に止まらず，隣人に向かっていくことが重要で，そのためには犠牲を伴うと訴えている．

金徳俊が賀川から受けた影響は何であろう．キリスト教において，ケリグマ，コイノニア，ディアコニアという教会の3要素がある．その中で，ディアコニアという概念が賀川によって「生命の表現」として，そして金徳俊によって「縦と横の愛」として見出されているのである（【図7‐1】）．



【図7‐1】キリスト教社会福祉に関する概念　　筆者作成

金徳俊は，思春期に賀川の著書を通して賀川の思想に出会い，「韓国の賀川」になりたいと神に祈るほど，精神的に大きな影響を受けた．さらに，同志社大学での留学

生活は，社会福祉思想形成の土台となったと考えられる．

最後に金徳俊（1983a:185；1985a：305）は，教会及びキリスト教徒は社会への責任を持ち，社会運動に積極的に参加すべきであると訴えた．それを金徳俊は「責任社会運動」と呼び，キリスト教人間観を回復すること，つまり生命の本質と生命の表現を回復することであると主張した．このように金徳俊の社会福祉思想の根底には，賀川の思想が流れていることが分かる．

第3節　韓国の農村運動の先駆者，劉載奇（ユゼギ）[162]

韓国の農村は，近代期，具体的には1876年の開国以降に，海外から輸入される製品によって農村の生産力が急激に下落した．農村が崩壊してから，農民の知識層まで没落し，農民の過重負担により農村の不満[163]が高まっていた．さらに，日韓併合以降に朝鮮総督府の農業政策によって「土地調査事業」（1910．3‐1918．11）と「産米増殖計画」（1920．12‐1934)が行われたため，農村社会はより一層荒廃していった[164]．このような状況の中，1920‐30年代各種社会運動団体や知識人たちは積極的に農民・農村救済のため，農村運動を展開していた．その一人が，劉載奇である．劉載奇の略歴は【表7‐5】の通りである．

【表7‐5】劉載奇の略歴

1905．6．19	慶尚北道の栄州で，劉鄒烈（ユチュヨル）（父親）と孫基雲（ソンキウン）（母親）の間の3男1女の長男として誕生
1920．3	栄州公立高等普通学校卒業
1921．	キリスト教の洗礼
1922．3‐1923．2	大邱嶠南学校入学，翌年中退
1923．	浦項地方で巡回の伝道
1923．4‐1924．3	日本東京日進高等学校入学，翌年中退

[162] 日本名は「天城虚心」である（出所：http://ko.wikipedia.org，20130930 閲覧）．これは，1939 年に行われた朝鮮総督府の皇民化政策の「創始改名」によるものである．

[163] 1885 年から 1893 年まで，農民を中心とした民乱は 32 回に至っている（姜在彦 1982：144‐145）．

[164] 1925 年に農村を離れた農民数は 150,112 名と推測されている．農村を離れて商業に従事した人数が 23,728 名，工業及び雑業に従事した人数は 16,879 名，労働者及び雇員になった人数は 69,644 名，日本に渡航した人数は 25,318 名，満州及び沿海州に移民した人数は 4,214 名，その他は一家が離散した人々や転業者であった（高承濟 1973：237）．

1924．4‐1925．6	日本大学専門部社会科[165]入学，翌年中退
1926．4‐1927．4	平壌崇実専門学校（現：崇実大学校）の農科聴講生 （著書：『協同組合論』）
1927．11‐1928．11	平壌南道の江西郡の腰村教会の伝道師
1929．3	平壌神学校（現：長老派神学大学）入学 慶尚北道の河陽・新寧教会の伝道師 基督教農村研究会の書記・獻議部の委員
1931．9．22	張確実（ジャンファクシル）と結婚（3男2女：長女‐錦鐘，長男‐勝信（死亡），次男‐義信，次女‐惠（？）鐘（死亡），三男‐晩鐘[166]）
1934．3	平壌神学校卒業（第29回）
1934．5．4	漆谷教会で牧師按手（4月赴任，12月まで牧師）・慶北老会（地方会）の農村部長
1935．1	義城教会（1936．12まで）に赴任 慶北老会の記録書記・農村部長
1936	長老派総会の農村部書記に就任
1937．1‐1938．1	砧山教会に赴任・慶北老会の宗教教育部の有給総務・慶北老会の記録書記
1938．1．25	大邱地方法院に拘留
1938．4．14	懲役1年．基督教徒の朝鮮独立の陰謀・治安維持法の違反
1939	再收監
1940．4．12	出監
1940．12．10	慶北老会長に被選（1941年から1年間‐慶北老会長）
1941．1	大邱第一教会に赴任（1945．11．31まで）
1945	建国準備委員会の慶北支部の連絡部長
1945．12	基督新民会の組織局長・基督教興国兄弟団を創団
1946．2．21	大韓独立促成国民会の産業部長 （著書：『協同組合組織論』）
1946．3．1	『興國時報』創刊
1947．1．21	第1回朝鮮農民福音学校の開講（1949．6まで第14回まで）
1949．7．14	逝去

出所：金炳熙編（2011：629‐631）に基づいて筆者作成

[165] 1920（大正 9）年 4 月，大学令による大学に昇格した時の日本大学の教学組織は，以下の通りであった（日本大学百年史編纂委員会 2000：209‐210）．
大学令依拠　法文学部（法律科，政治科，宗教科，社会科）
商学部（商科）
大学予科　専門学校令依拠　専門部（法律科，政治科，商科，宗教科，社会科）
　　高等師範部（修身法制経済科）
社会科も規程上は大学部（法文学部）にもあったが，当初において入学生はなく，実際は専門部の学生だけであった．そして一つの講義を専門部と大学部の学生たちが一緒に受講する状態であった．ちなみに，専門部は中学卒業から入学でき，専門学科目を学習するだけで卒業できた．

[166] 家族名は長女である劉錦鐘から得た資料である．ただし，妹の名前の漢字名が不明確であるため，（？）にした．

劉載奇が農村運動に関心を持つようになったきっかけは，1923年に大邱地域の長老派宣教師である孟義窩（メンウィワ）（Edward Frost McFarland）から宣教支部で働いてほしいという依頼があって各地を歩き回ったことであった[167]（朱泰益1977：67；金炳熙編2011：99‐100）．当時，劉載奇は家庭の事情で，やむを得ず嶠南学校を中退した．苦学生活をしている間，青少年たちのために夜間学校を運営していたことが宣教師らに認められ，中退した後に，宣教支部で働く依頼を受けたのである．劉載奇は孟義窩の提案を受け入れ，彼の助手となり，新寧・浦項地域を中心に巡回伝道活動を始めた．その際，劉載奇は日帝強占期[168]の韓国社会において，農村で生じている問題が最も悲惨であることに気づいた．当時は全人口の80%が農村に住んでいたが，日本によって土地や生産物が奪われ，働く意欲だけではなく生存権まで脅かされていた時代であった．ただし劉載奇は，日本の搾取政策だけではなく，農民自身の自ら生きて行こうとする意欲や自覚が不足しているのではないかと考えていた．つまり劉載奇は農民層の意識変化が何よりも大切で，植民地の農業政策の中でも農民を中心に農村社会が改善できるように，教育を通して生産物を増大させられるようにしたのである．しかし劉載奇の活動は，大きな壁にぶつかった（朱泰益1977：70‐71）．それは当時の宣教師らの「魂の救い」の伝道活動のみを行うという考え方が，劉載奇の考え方と異なっていたことである．劉載奇は，伝道活動も重要であるが，この世に在る間にこの世に在る人のために活動することの方がより重要であると考えていた．これが宣教師の助手を辞める理由になり，日本に留学する契機となった．ここで扱う資料は，劉載奇の遺稿集（金炳熙編2011）を用いる．なお，次男の劉義信から得た『興國時報』（1946．1．12‐1949．11月・12月）以外は原文の確認が不可能であることを予めご了承頂きたい．

1. 劉載奇と賀川

劉載奇は1923年に東京日進高等学校に入学し，翌年日本大学の社会学科に入学した．朱泰益（1977：86‐87）によると，劉載奇が社会学を専攻した理由は，将来の韓国社会のために，社会とは何かを学ぶ必要があるためと記している．しかし，留学生活は

[167] 原資料は，劉載奇の創作信仰小説「越えることができない峠」で，『教会報』（1938．4．1）に掲載されたものである．『教会報』は，慶北老会の初期宣教師たちが教会のお知らせを含めて説教神学に関する内容を新聞の形式にあわせて，大邱及び慶北の地域に配布したものである．

[168] 韓国では日韓併合による日本の主権下にあった時期を「日帝強占期」と呼ぶ．これは韓国が強制的に占領されていた時代を指している．

順調ではなかった．その理由として，関東大震災が挙げられる．日本全体が混沌に陥っている中で，仕事を見つけることは特に難しかっただろう[169]．来日して3年目になり，暫く帰国したときには，勉強する意欲さえなくなり，さらに健康の問題と金銭的な問題が重なって，留学を諦めざるを得なかった．このような挫折を味わった劉載奇は，もう一度，勉強したいと考えるようになり，平壌崇実専門学校の農科聴講生となった．しかし，どのように過ごせばよいのか，正しく生きていく方法に悩んでいた．そのとき，出会ったのが賀川の自伝小説『死線を越えて』であった．その影響を受け，劉載奇は，平壌の外城である土城のスラム街に入り，彼らとともに生活しながら，教会を借りて夜間学校を運営することとなった（朱泰益1977：110‐113）．実際にどのような経緯で賀川の『死線を越えて』に出会ったのかは分からない．もっとも，劉載奇は賀川の著書に出会い，賀川のようにスラム街に入り，貧しい生活をしたことから賀川の行動力に影響を受けたのである[170]．劉載奇がどのような人生を歩んできたのかは，13年後の次の判決文[171]に見られる．

（전략）당시 일본과 조선의 세정으로 추산컨대 먼저 기독교의 복음사업의 가면 하에 농민운동을 펴고 이를 통하여 조선민족해방운동을 전개할 것에 착안하여 그후 杉山元治郎저 『농민운동의 실제와 이론』，賀川豊彦저『구름의 기둥（雲の柱）』，기타 수십 종의 서책을 탐독하여 이 운동방법에 대한 자료로 삼은 바 이로써 조선에 있어서 동 민족에 경제적 실력을 부식하고 단결력을 배양하여 민족의식을 각성케 한 연후 시기가 왔을 때 일제히 운동을 일으키는 것이 가장 실현성 있는 방법이라고 결론하고 이로부터 이 신조에 입각하여 위 배민수 외 2명과 밀접한 연락을 가지고 위의 목적 달성을 위하여 판시와 같이 기독교 전도를 위한 여러기회를 이용하여 농민계급자의 의식적 지도를 하여 상당한 효과를 거두어오던 중 소화 10년 1월 초순경 경상북도 의성교

169　この点について，朱泰益の著書では言及されていない．

170　金炳熙は，朱泰益の文章から劉載奇が賀川の神戸新川を何回も訪れたことがあったと記しているが，これは誤りを含んだ引用である．まず，朱泰益（1977：93）が書いた新川という地名は，神戸の「新川」と同じ名称である東京の地名である．つまり，朱泰益が劉載奇が新川に引越ししたと書いた部分を，金炳熙（2008：42）は誤って解釈したわけである．問題は，金炳熙（2008：42）の論稿を参考した金鐘圭（2010：61）が，この間違った部分を引用したことである．以後，誤った引用を防ぐため，筆者は 2011 年 10 月 30 日に金炳熙，2012 年 7 月 20 日に金鐘圭に会い，この点について修正を求めた．

171　この判決文は，劉載奇が 1938 年にキリスト教徒の朝鮮独立の陰謀（治安維持法の違反）で逮捕され，1939 年 4 月 14 日の裁判で判決を受けた際の公文書である（金炳熙編 2011：584‐589）．

회의 목사를 배명하고 그 착임 벽두부터 이미 조선독립을 위해 민족의식 각성에 기여할 방법으로서 그가 제창한 소위 3대규약에 의한 조직 또는 협동조합에 의한 세포조직을 당 지방에 시험코자 기도하였다 (후략)

（＝（前略）当時の日本と朝鮮の政治的な関係から推測すると，まずキリスト教の福音事業の名の下に農民運動を始め，これを通して朝鮮民族運動を展開することを企図した．その後，杉山元治郎著『農民運動の実際と理論』，賀川豊彦著『雲の柱』，その他には数十種の書籍を塾読して，この運動の方法に関する資料を用いて，朝鮮においてその民族に経済面での実力をつけさせ，団結力をつけさせ，民族意識を覚醒させ，今後時期が来た際に，一斉に運動を起こさせることが，最も実現性のある方法と結論づけた．その信条に基づいて上記の裵敏洙他二人とともに密接に連絡を取り，目的達成のため，判決のようにキリスト教伝道の様々な機会を用いて農民階級の者を意識的に指導したことで相当な効果を得ていた．昭和10年1月上旬に慶尚北道の義城教会の牧師に赴任してから独立運動のために民族意識を覚醒させる方法として彼（劉載奇）が主張している組織または協同組合による方法を，地域の中で試みていた．（後略）翻訳・（）・下線‐筆者）

上記の判決文から，劉載奇はキリスト教の伝道事業とともに農民運動に着手し，その農民運動の背景として，杉山や賀川の書籍が大きな役割を果たしたことが分かる．第6章3節に述べたハンヨンジェ編（1987:132‐143）の『韓国基督教文書運動100周年』には，賀川の著書の中で，『雲の柱』は見当たらない．それにもかかわらず，判決文の中で，賀川の『雲の柱』が言及されたのは，ハンヨンジェ編の著書に明示されていない賀川の著書もすでに韓国に多く入っていたからであるといえよう．劉載奇の場合，日本での留学の経験があったため，日本の書籍を手に入れることは難しくなかっただろう．そういうわけで劉載奇は，杉山や賀川の著書から影響を受け，農村運動の実践家になり，農村運動の具体的な方法として，農民の経済力，団結力，民族意識の向上を取り上げ，農村改良に力を入れるようになったのである．しかし，残念ながら，その活動は日本政府から韓国の独立運動と関連しているとみなされ，懲役1年という判決を受けることになったのである．

それでは，劉載奇は具体的に賀川から何を学んでいたのか．次の【表7‐6】は，劉載奇の論稿の中で，賀川の名が言及されたものである．

【表7 - 6】賀川に関する劉載奇の論稿

日字	内容	出所
1929. 7. 10	소비조합은 약자를 돕는다는 별명이닛간 합리한 현대 경제제도에서 소비조합으로 하야곰 개조의 길을 밟고 새 샤회를 이루어 사랑이 일본의 하천（賀川豊彦, Kagawa Toyohiko）씨의 주장에 “기독의 사랑을 소비조합으로 하여곰 실현식히자”고까지 하였다. 농촌 쇄패에서 경제덕 단결만 건설하자는 것만이 목덕이 아니다, 실노 사람의 마음에 사랑을 심으는 가장 덕당한 실체운동인 것을 알아야 한다. （＝消費組合は弱者の助け合いという意味を含んでおり，合理的な経済制度の中で消費組合によって改良の道を歩んで新しい社会を拓くことである．日本の賀川氏は「キリストの愛で消費組合を実現させよう」と主張した．農村の盛衰は経済的な団結のみを建設することが目的ではない．実際に，人の心に愛を伝えることが最も重要である．）	『基督申報』
1933. 2.	日本協同組合運動 （전략）그러고 消費組合運動으로 보아서 確實한 立場을 가지고 낫타난 것은 大正九年六月에 大阪에서 賀川豊彦氏의 ○○로 購買組合共益社의 創設이였다. 이는 最初 發起人을 賀川豊彦, 今井○辛, 西尾末○, 八木○一, 金子忠吉氏等으로 하여 友愛會의 系統인 勞動者들과 基督敎信者들을 中心하야 組織하엿다. （중략）以外에도 關西消費組合協會와 農村消費組合協會가 大阪에 잇다. 大阪消費組合協會에서는 夏○消費組合學校 經營과 講座 等을 活動하고 賀川豊産을 組合長으로하고 「消費會時代」란 機關紙를 發刊했다. 農村消費組合協會는 杉山元治郎氏를 會長으로하야 全國農民組合과 提携하여만은 活動을 모이고 잇다. （＝消費組合運動が始まったのは，大正9年6月大阪における賀川豊彦氏の○○[172]で，購買組合公益社の創設であった．最初の発起人は賀川豊彦，今井○辛，西尾末○，八木○一，金子忠吉氏等とされ，友愛会の系統である労働者らとキリスト教徒らを中心として組織された．（中略）この他にも関西消費組合協会と農村消費組合協会が大阪にある．大阪消費組合協会では夏○消費組合学校の経営と講座を実施し，賀川豊産[173]を組合長として「消費会の時代」という機関紙を発行した．農村消費組合協会は杉山元治郎を会長とし，全国農民組合と提携し，多くの活動を行っている．）	『朝鮮日報』
1946. 5. 1	基督教社会主義의 考察 日本에 있어서도 賀川牧師의 友愛會로 말매암아 相當한 勢力으로서 發展을 하였는대 總同盟까지 結成되어 關西와 中央地區에서 重要한 活動을 展開하였던것이다. （＝日本の賀川牧師の友愛会によって相当な勢力に発展し，総同盟まで結成し，関西と中央地区で重要な活動を展開している．）	『興國時報』

翻訳・下線 - 筆者

[172] ○は読み取れない字を意味する．ただし公益社の発起人の名前は，おそらく今井嘉幸，西尾末広，八木信一であろう（下線 - 筆者）．
[173] 誤字で，「賀川豊彦」である．

このように劉載奇の論稿で賀川の名が言及されたのは，1929年からである．平壌崇実専門学校の農科聴講生であった劉載奇が，賀川の著書『死線を越えて』に出会ったのは1926年頃である．賀川のように平壌の土城のスラム街で生活した劉載奇は，おそらく賀川に関する関心が高くなり，彼の著書を読み上げる間に，貧しい人々を救う方法に気づいたと考えられる．当時の社会的な状況を考えると，1923年からYMCA，1926年からYWCAを中心とした農村運動が始まり，1928年9月長老派の総会の機関の中でも，「農村部」が設置された（韓国基督教歴史研究所1990：224－229）．このことから，劉載奇はすでに農村運動に関心を寄せていたものと推測できる．そして，劉載奇は賀川の「キリストの愛で消費組合を実現させよう」という主張に大きな影響を受け，組合を通して農村の問題を根本的に解決させようとするに至った．

2．劉載奇と組合

劉載奇の農村に関する関心は，すでに述べたように1923年の浦項地方での伝道巡回と1926年の平壌崇実専門学校の農科聴講生の経験に基づくものである．そして，賀川や杉山の著書に出会い，農村の問題を根本的に解決するためには，組合組織が必要であると訴えるまでに至っている．【表7－7】は組合に関する劉載奇の論稿の内容を要約し，翻訳して載せたものである．

【表7－7】組合に関する劉載奇の論稿Ⅰ（『基督申報』）

年	月	日	大タイトル	小タイトル及び内容
1929	7	3	農村消費組合の組織法	消費組合の意義（生産制度の改革を行い，組合員が直接に生産及び分配し，利益を得ること），消費組合が組織された理由（生産地から消費者の手に直接届ける道）
		10		組織する際の注意事項（価格，教育，愛）
		17		組織する際の注意事項（利益の概念），経営の要領（出資）
		24		経営の要領（売買）
		31		経営の要領（販売場所・人，財政管理）
	8	7		注意点（誠実な指導者，組合発展，消費の真の意味）
	11	27	世界協同組合運動考察	世界先進国の運動を見本として，朝鮮のために奮闘する諸氏の参考になると述べている（イタリアとドイツの協同組合の紹介）．

	12	4	世界協同組合運動考察	中央連合所属の小売組合（盛衰の原因：①戦争及び平和条約に及ぼした諸影響，②1923年の激的通貨流出の恐慌，③両者の結果である通貨安定の恐慌）
		11		卸売協同組合（ドイツの卸売協同組合）
		18		ロシア（1924年以来，ロシアの消費組合の発展）
		25		ロシアの全体中央消費組合連合，デンマークの分配協同組合，スウェーデンの消費組合（ベルギー，イギリス，日本，中国はまだ統計が手に入らなかったので事後にする）
1931	2	4	教会発展と経済生活	教会の経済的考察（初代エルサレムの教会と当時のキリスト教徒の経済生活の意識を考察している．海外では教徒や教会の経済状況が向上することで，教会を中心に「天国事業」としてセツルメントが実施され，85ヵ所が創設された．それでは，朝鮮の教会はどのような運動をすればいいのか）
		11		過去の教会の誤謬（1920年から1930年まで教会の数が減った理由は何か．伝道団体が増加したにもかかわらず，朝鮮の経済が没落して教会を維持できないからである．）
		18		過去の教会の誤謬（朝鮮民族の死活は教会の役割にかかっている．教会にとっては経済運動も霊的な（スピリチュアル）運動も大切である．朝鮮の教会は，産業や教育を通してキリスト教を普及し，都市教会は都市問題の，農村教会は農村問題を解決するべきであろう）教会の経済と教徒の経済（教会の維持は教徒の献金によるものである．他国に比べて朝鮮教会の献金は忠実である．教会経済構成は教徒個人の経済に関連するものである．デンマークを例として，基督教国の農村楽園を建設したのは教会の教役者である．）
1935	1	1	産業組合の話	産業組合の由来（産業組合とは日本で特定的に組織された団体の別名であり，協同組合の性格を持っている），利潤なき愛の社会的施設（自営の能率を考慮して愛の社会を実現する努力をすることが協同組合の目的）
		16	愛の社会的施設と産業組合	消費組合とは，我らの生活において全般的に必要な日用品を，教徒としての生活に恥じないように，利潤追求より愛のある方法で運営することである．教徒の社会生活でキリストの愛を体験させ，消費品に関する被害を無くし，市場経済を愛による改革で変化させることである．高利潤を得ない信用組合（農村に一番必要な組合である）や中間利潤を排除する消費組合（ロッチデール組合）

		30	愛の社会的施設と産業組合	ロッチデール組合（組合員の道徳的発達，組合員に対する教育的指導，販売方法の現金主義），一教会一組合主義（基督教の協同組合の綱領はキリストの愛を経済的な生活で実践させると同時に組合員の経済的な利益を伸張するためである．そして一教会一組合主義においては，教徒の生活安定を模索すると同時に組合として総利益の十分の一を教会に献金することを規定している．これは少ない利益であれ大きな利益であれ，教徒間に利益を分配する方法で，農村教会の維持方針でもある．

要約・翻訳 - 筆者

劉載奇は，1929年から組合の組織法や各国の協同組合運動について具体的に言及している．すでに述べたように，キリスト教を中心に農村に関する関心が最も高かった時期であった．その際に，劉載奇が「農村消費組合」について6回も連載していることから，農村問題を解決する方法として「組合の組織」の大切さを強調していることが分かる．劉載奇は，特に教会を中心に組合運動を担おうとしたのである．劉載奇にとって組合は，教徒たちがお互いに支え合っていく方法であり，ひいては農村教会を維持させる方法でもあるといえよう．事例として世界の協同組合の発達について【表7 - 8】のように紹介している．

【表7 - 8】組合に関する劉載奇の論稿Ⅱ（『朝鮮日報』）

年	月	日	大タイトル	小タイトル及び内容
1933	1	24	協同組合論 - その歴史的考察 -	第2章協同組合の基本概念 協同組合の意義：「協力の聯合」という意味を持つ．消費者組合は消費者の利益のため，一般事業を兼業できる． 協同組合の目的：すべての方法や手段は組合員の事情や環境の特殊性を考慮すべきである．
		25		組合員は組合を通して利益を得る．相互扶助の愛の運動である．協同組合は個人の自由と人格を尊重することにその特徴がある．
		28		協同組合の分類：信用組合，販売組合または生産組合，消費組合または購買組合，利用組合
		29		信用組合で農村を更生させ，農民の自由と平和のために組織する．シェルチエ系の信用組合とライファイゼン（Raiffeisen）式の信用組合など，ドイツ協同組合を紹介している．
		31		消費組合は，消費者の組合で，生産業者以外は誰でも消費者となる．現社会で一番悲惨な現像で生存権を守れない消費者層にとって組合は，協同体系で生活を向上させる．

	2	1	協同組合論 -その歴史的考察-	ロッチデール組合の紹介（本組合の目的と計画は組合員の金融上の利益と社会的・家庭的状態を向上するためである）
		2		ロッチデール組合の歴史及び特徴（大衆性，無条件，犠牲的）
		3		ロッチデール組合の現状（各州の消費組合員の比率）
		5	世界協同組合運動の概況	イギリスの協同組合の発達史 政治と宗教に中立性の原則，産業革命と失業者，1761年のスコットランドのフェンウィック工場で職工らが組織したのが，職工組合（Fenwick Co-operative Society）で，最初の組合であった．一定の目的を立て，理想を持ち，発足した協同組合は，オーエン（Robert Owen）またはキング（William R. King）の理想を具体化した最初の施設である．二人のうち，成功したのがキングである．
		7	世界協同組合運動の概況	ロッチデールの組合員は政治上・宗教上の問題に中立を守ることを決定した．彼らは交通機関の改善によって広大な大陸市場を開拓し，経済発展上の重要な基盤となり，生活状態の改善に成功した．
		8		ロッチデール（Rochdale）組合（宗教上・政治上の問題⇒中立，配当問題⇒協同組合の剰余金配当問題），聯合機関の発達，ドイツの協同組合運動の紹介（1840年頃，フーバー（Viktor Aime Huber）⇒シュルツェ（Franz Hermann Schulze-Delitzsch）⇒ライファイゼン（Frederich Wilhelm Raiffeisen）⇒ハース（William Hass）順に説明している）
		9		ドイツの協同組合運動（協同組合運動が発生した動機は，1840年頃から資本主義の考えに基づいた生産となり，手工業者たちが破産に至ったためである）
		10		ドイツの信用組合（中央集権のシュルツェ派の中央会は1902年にKreuznarhの大会で反抗した98個の消費組合を除名した．それがきっかけとなり，除名された消費組合はドイツ消費組合の中央会を設立した）
		14		ロシア協同組合運動（1919年3月20日，労働者と農民協同組合に関する布告は廃止され，協同組合に関する新しい布告によって消費組合は進歩していく）
		15		ロシア協同組合（農民を教養することに政府が尽力した⇒農村協同組合は研究会・通信講習宣道用の消費組合の案内所，女性相談所，国際協同組合の記念日，十月革命記念日の参加公演，演劇，映画など，教育と生活の向上など，様々な活動を加えていく）
		16		ベルギーの協同組合史（1850年パンを供給する目的で消費組合が組織された）イタリアの協同組合運動史（信用組合は1866年にLuiqi Luzzattiが市民銀行を設立から始まった．1919年にローマで全国生産労働者組合聯合会が設立され，1922年に第1回の大会が開かれた）

		17	世界協同組合運動の概況	イタリアの協同組合（1919年の組合員は15,000人で，1921年3
				月11日の協働組合数は19,510であった）
		18		アメリカの協同組合運動史（裁縫業の人々がボストンで，組合的購買クラブを組織し，翌年1845年にそのクラブを中心に労働者保証組合が誕生した）
		19		アメリカの協同組合運動史（農村協同組合は欧州戦争後に発展し，1925年には270,000の農民と12,000の購買組合が年25億ドルの売上高に至った）
		21		デンマークの協同組合（1915年の全国消費組合数は1,527で，その中で農村組合数は1,187である）
		22		フランスの協同組合運動
		23		チェコスロバキアの協同組合運動史（中立性を持たず，社会主義的立場で階級闘争を求めた）
		24	世界協同組合運動の概況	チェコスロバキアの協同組合聯盟の紹介
		25		イタリア協同組合運動（消費組合聯盟は社会主義的色彩が濃厚，基督教社会党派の協同組合運動の発達）
		26		スウェーデン協同組合運動，日本協同組合運動（賀川豊彦氏の指導で購買組合公益社が創設した．最初の発起人は賀川豊彦，今井嘉幸，西尾末広，八木信一，金子忠吉氏等で，友愛会の系統の労働者たちとキリスト教徒を中心に組織された）
		28		日本協同組合（産業組合‐産業中央会）
	3	1		日本協同組合（関西消費組合協会），韓国協働組合運動（10年の歴史の中で，組合が発達しなかった要因として，韓国人の経済的な所見の貧弱さと，農村の保守的な考え方，契（日本の頼母子講に相当）の組織など，韓国の実情に基づいて説明している．
		2		韓国協働組合運動（「契（日本の頼母子講に相当）」の全国の統計は19,067で，契員数は814,138もいる．当時の組合数は96で，消費組合が73で，生産組合が5，利用組合が2，信用組合が2，兼営組合が14である）

要約・翻訳・下線‐筆者

このように劉載奇は，ドイツやイギリスの協同組合を紹介し，その歴史の背景及び特徴を紹介している．また，世界協同組合運動について各国の協同組合の発達史を『朝鮮日報』に一ヶ月に渡って詳しく紹介している．このことから，全世界の協同組合の動きを把握することで，劉載奇が韓国の状況に適した協同組合を組織するため，

具体的に分析しようとする意図が感じられる．劉載奇は韓国の協同組合の歴史[174]は短いが，以前からその役割を代わりに担って来たのが「契[175]」であったと述べ，これを生かして協同組合運動に転換していくことが望ましいと論じている．また，劉載奇は，農村の発展のため，「基督教農村研究会（以下，農村研究会）」の運営及び「イエス村の建設」を目指していた．農村研究会は，1928年平壌YMCAの総務であった曺晩植（1883．2．1 - 1950．10．18）の家で，劉載奇・ 裵敏洙（1897．9．2 - 1968．8．25）・崔文植（1905．6．21 - 1950？）など，崇実専門学校（現：崇実大学校）出身のYMCA会員を中心に組織されたものである．農村研究会の活動目標は，農村における一般的な問題を研究し，キリスト教に基づいた農村事業を実現し，会員を養成して実際に農村事業に尽力させることであった．特に，キリスト主義の農村事業だけではなく，帰農運動を実施し，長老派の農村運動と協力して，農村教会の単位で「基督農友会」と「協同組合」を組織しようとしたのである．農村研究会とイエス村の建設に関する劉載奇の論稿について，以下の【表7 - 9】で示す．

【表7 - 9】「農村研究会」と「イエス村の建設」

年	月	日	大タイトル	小タイトル及び内容
1931	9	1	イエス村建設の三大理論	農村研究会の紹介（目的：①朝鮮農村に対する一般問題を研究する，②キリスト主義の農村事業を実現する，③会員を養成し，実際に事業に尽力させる），イエス村（教徒は片手には福音，もう片方の手は農具を持って農民を救うため，テモテへの手紙二2章3－4節[176]の言葉のようにキリストの兵士になってイエス村を建設しよう），基督農友会（組織：自分が生活している農村のために，絶えず努力し，犠牲を払う決心するキリスト教徒，それが神から任された使命であると感じているキリスト教徒，会員：キリスト教徒・女性も参加可能であるが経済的に独立できる人に限られる，出資：個人の経済力によって出資すること，経営：忠実な指導者と会員の団結が必要，組合部経営：資金融通を目的とし，貯金や貸金すること）
『農民生活』[177] 3巻9号				
1936	1	4	基督教農村少年指導論	イエス村の実現，第1章基農少年（キリストに似せて少年を指導し，個性的人格を尊重し，農村的訓練を目的とする．）

[174] 劉載奇によると，韓国に初めて紹介された協同組合の形態は，消費組合の形態で，1910 年代からであると推定している（金炳熙編 2011：266）．
[175] 日本の頼母子講に類似している．
[176] 「キリスト･イエスの立派な兵士として，わたしと共に苦しみを忍びなさい．兵役に服している 者は生計を立てるための仕事に煩わされず，自分を召集した者の気に入ろうとします．」
[177] 長老派は，1928 年に総会の中に農村部を設置し，『農民生活』の刊行を決定した（朝鮮イエス教長老会総会録 1928：41）．そして，その年の 6 月 14 日に創刊された．

1936	1	21		第2章三精神（愛神，愛土，愛労働）
		28		第3章規律と標語（少年は正直に話し，行動を尽くすこと，少年は神と社会に対して忠実であること，少年は毎日一件以上の善行を有すること，少年は貧弱な人に最も親切にすること，少年は友愛を実行し，世界の少年を兄弟とすること，少年は真剣に労働を生活の糧食として考えること，少年は父母と年長者に従順すること）
『宗教時報』[178]				

要約・翻訳 - 筆者

劉載奇は，1926年に『協同組合論』，1946年に『協同組合組織論』を著述するほど，組合運動に熱心であった．実際に劉載奇が組織した協同組合は，全国各地に80ヶ所以上もあった．しかし，日本の政治によって，1935年に協同組合が一ヶ所も残らずに解散させられ，さらに劉載奇が1936年6月6日[179]に逮捕され，3年間収監されていたため，協同組合運動は中断せざるを得なかった．そういうわけで，劉載奇（1946：5）は，この1935年から1945年8月15日までを，韓国の協同組合運動史上の「暗黒時代」であったと記している．

3. 劉載奇とイエス村

劉載奇は「農村研究会」（1928年）を通して，韓国の農村における階級問題及び独立における民族問題に気づき，その解決方法としてキリスト教に基づいた「イエス村の建設」（1931年）を目指していた．次は「イエス村」に関する劉載奇の考え方である（金炳熙編2011：217 - 218）[180]．

> 현실 죠선 농촌은 현시대에 디옥이라고 아니할 수업다. 영적으로 디옥이요 육적으로 디옥이다. 문맹（文盲），기아（飢餓），질병（疾病），투기（妬猜），음주，도박，사기，미신，불평등에 죄악이 가득하엿다.（중략）그런고로 우리 신자들은 한 손에는 주의 말슴（福音）을 들고 한손에는 쟝기（農具）를 들고 농민을 구원코져 딤후二０三-四졀의 말슴대로 스사로 나아가 그리스도의 졍병이 되여 예수촌 건셜을 위하야 순교자（殉教者）가 되여지자고

[178] 1932 年 12 月 3 日に長老派の宣教部によって創刊された．
[179] 「農友会事件」と呼ぶ．反日思想を持っている教会指導者を逮捕した事件を指す．農友会とは，1930 年代に農村教会の青年を中心に組織された会である．
[180] 『農民生活』（1931．9．1）に載せられたものである．

나가는 자마다 좌기에 세가지 니론을 가지고 식만 뇌력하나면 반다시 예수촌은 건셜되리라고 밋는다.

（＝現実の朝鮮の農村は，現時代の地獄に他ならない．霊的（スピリチュアル）にも身体的にも地獄のような生活であった．文盲，飢餓，疾病，妬猜，飲酒，賭博，詐欺，迷信，不平等の罪悪に満ちている．（中略）そういうことで，私たち教徒は，片手には福音，もう片方には農具をもって，農民を救うために第2のテモテへの手紙2章3‐4節の言葉通り自らキリストの勇士になっていく．イエス村の建設のために殉教者になろうとする人が，十年くらい努力すれば，必ずイエス村の建設は成し遂げられると信じている．翻訳‐筆者）

劉載奇は，韓国の農村の問題について悩み，イエスの愛を中心とした自立的な共同体を目指していた．キリスト教徒であれば，農村のために農民救済や福音伝播に力を入れるべきであると訴えている．劉載奇（金炳熙編2011：292）は，故郷を愛する人は，経済的な事柄だけを考えることではなく，協同し努力しながら新しい町づくりに力をいれるべきであると主張している．いわゆる，「イエス村」の建設である．そのため，劉載奇は具体的な実践原理として，農村組織化に力を入れ，「基督教協同組合」を組織しようとしたのである．それゆえ，劉載奇はイエスの愛に基づいた「三精神」を用いた協同組合を作ろうとしたのである．劉載奇の「三精神」[181]（金炳熙編2011：286‐289）とは，「愛神・愛土・愛労働」である．まず「愛神」とは，文字通り神を愛し，キリストの十字架の愛に倣っていくことである．そして「愛土」とは，郷土愛である．農村から都市へ離れていく若者に農村の魅力を伝え，農村を愛せるように教えなければならないと訴えている．最後に「愛労働」とは，労働なしに生きようとする人間は生と正義を知らない人であると断定している．当時の農村社会が文盲，飢餓，疾病，妬猜，飲酒，賭博，詐欺，迷信，不平等であった．そのため，劉載奇は労働の真の意味について，パウロの言葉，「働きたくない者は，食べてはならない（テサロニケの信徒への手紙二 3章10節）」を引用し，個人の労働能力を有し，かつ個人において阻害するような内的要因・心理的要因が特に存在しないにもかかわらず，労働しようとしない者は，生の定義を知りえないと訴えているのである．劉載奇は決して隣人を愛することを否定したわけではない．なぜなら，組合を作って農民の経済

[181] 『基督教報』（1936．1．21）に載せられたものである．

力や団結力を向上させようとし，イエス村を建設して自立できる共同体を目指したからである．つまり，劉載奇が述べている「協同組合」や「イエス村の建設」は一人ではできない，お互いに協力しないとできないことで，賀川が述べている「互助友愛」に繋がっている．それにもかかわらず，劉載奇が「愛労働」を強調したのは，当時韓国の農村の現実を示したかったからであろう．

4. 賀川が劉載奇に及ぼした社会福祉思想

劉載奇の場合，金徳俊とは異なり社会福祉学を専攻したわけではない．それでは，組合を通して農村問題を解決しようとした背景は何であろう．すでに述べたように，劉載奇が日本に留学する際，社会学を専攻しようとした理由は，社会とは何かを学ぶためであった．劉載奇が入学した1920年代の日本大学（日本大学百年史編纂委員会編2000：51‐53）の社会科のカリキュラムは以下の通りである．

第1部　必修科目

倫理学，哲学概論，心理学，支那哲学史（東洋倫理学史），西洋哲学史，社会学，社会政策，最近世史，憲法，　刑法総則，　民法総則，　経済原論（英文）

選択科目　　銀行論

第2部　必修科目

社会統計，社会学史，輓近社会思想，　最近世史，　行政法（社会行政法），親族論，貨幣・銀行，農工商・交通・経済政策，経済学史，政治学

選択科目　　新聞学，行政一般

第3部　必修科目

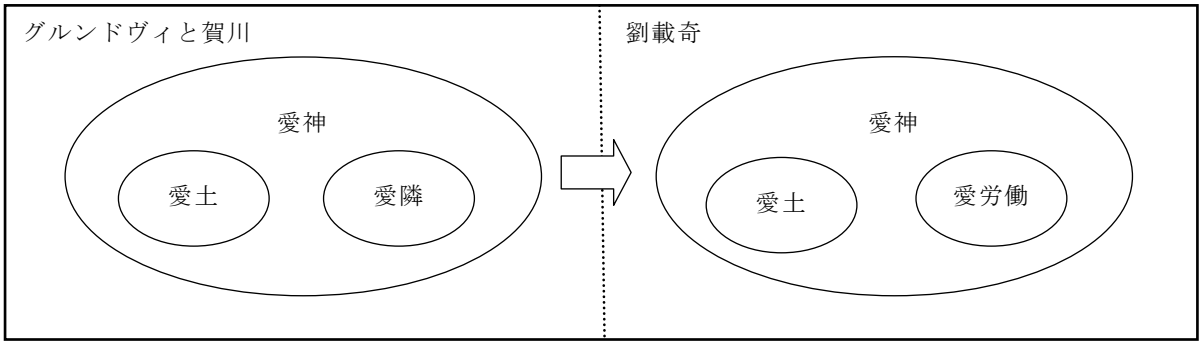
変態心理学並変態者教育，少年保護貧民保護其他社会問題，法理学，国際公法（平時），刑事政策，相続論，殖民政策，財政学，政治学史，演習，卒業論文

選択科目　保険論，工場管理，労働問題，都市計画

1920年の日本大学の教学組織（注165を参照）は，大学と専門学校の学生が同じ授業を受けており，カリキュラムに社会福祉と直接関連する科目は設けられていなかった．もっとも，1921年の法文学部の嘱託講師の担当科目（日本大学百年史編纂委員会

2000：70－71）をみると，社会福祉と関連する科目がいくつか見られる．それは，生江孝之が担当していた「救済事業研究」と「感化救済事業」という科目である．おそらく劉載奇が社会福祉に触れる機会はあったものと考えられるが，残念ながら，この点に関する資料は見当たらない．

それでは，劉載奇が賀川から具体的に影響を受けたものは何であろう．グルンドヴィ（Nikolai Frederik Severin Grundtvig，1783．9．8－1872．9．3）や賀川が訴えている「愛神，愛土，愛隣」に対して，劉載奇は「愛神，愛土，愛労働」を主張しているとなる（【図7－2】）．



【図7－2】農村改造に関する考え方　　筆者作成

しかし，劉載奇は決して隣人を愛することを否定したわけではない．なぜなら，組合を作って農民の経済力や団結力を向上させようとしたこととイエス村を建設して自立できる共同体を目指したからである．つまり，劉載奇が述べている「協同組合」や「イエス村の建設」は一人ではできない，お互いに協力しないとできないことであり，賀川が述べている「互助友愛」に繋がっている．それにもかかわらず，　劉載奇が「愛労働」を強調したのは，劉載奇にとって労働とは「生活の様式」そのものであったからであろう．劉載奇は，労働を嫌忌することで，文盲，飢餓，疾病，妬猜，飲酒，賭博，詐欺，迷信，不平等などに陥りやすいと述べ，労働を通して救済だけではなく，生活の改善までできると考えていたのである．当時の韓国の農村の現実を把握し，農村問題に取り組んでいこうとした劉載奇の意志が強く見られる部分である．

小括

本章では，賀川から影響を受けた韓国人を自叙伝やメディアの記事から取り上げて論じた．具体的には，社会福祉教育の先駆者である金徳俊と農民運動の先駆者である劉載奇を中心に，賀川とその二人との繋がりと社会福祉への関連性についてである．特に，二人とも賀川から具体的にどのような部分について影響を受けたのかを分析した．金徳俊の場合，賀川が述べているキリスト教の両面である「生命の本質」と「生命の表現」の中で，「生命の本質」だけではなく「生命の表現」の大切さ，それが社会福祉実践に繋がっているという考え方に大きな影響を受けた．劉載奇の場合，キリスト教に基づいた農村改良のため，賀川が述べた組合組織の必要性に影響を受けた．賀川の「愛神，愛隣，愛土」という思想から韓国の状況にあわせて「愛神，愛土，愛労働」を主張したことが明らかになった．

この二人の共通点は，賀川の著書に出会い，彼の実践や思想に大きな影響を受けて，社会福祉の実践に移したことである．また，キリスト教に基づいて時代のニーズにあわせようとしたことも共通点であると言える．相違点は，時代状況によって実践する内容が異なっていることである．金徳俊はキリスト教と社会福祉との結合を韓国の教育現場に，劉載奇は農民の経済力，団結力の向上を農村社会に適用しようとしたことである．金徳俊の場合，なぜ社会福祉を行わなければならないのか，それがキリスト教徒にとってどのような意味をもつのか，そのためには，「教育現場」でどのように教えていくべきなのかについて訴えている．劉載奇は，農村の現実に関して「組合組織やイエス村の建設」が農村問題の解決方法であると強調している．

筆者が本章で論じたことは，今まで先行研究では見当たらなかった韓国における賀川の活動や影響について，明らかになった点で意義があると考えられる．

【参考・引用文献】

［日本］

雨宮栄一（2003）『青春の賀川豊彦』新教出版社.

飯沼二郎・韓晳曦（ハンソクヒ）（1985）『日本帝国主義下の朝鮮伝道』日本基督教団出版局.

井垣章二（2004）「はしがき - 社会福祉の先駆者：同志社の歴史の中で」井垣章二・小倉襄二・加藤博史・その他編『社会福祉の先駆者たち』筒井書房，3 - 6.

上野直蔵編（1979）『同志社百年史 - 通史編 - 』同志社.

上野直蔵編（1979）『同志社百年史 - 資料編 - 』同志社.

大内三郎（1970）「後篇　日本プロテスタント史」海老沢有道・大内三郎『日本キリスト教史』日本基督教団出版局.

大塚節治（1937）「本學の社會事業教育」「同志社大學社會事業學會報」第 2 号.

賀川豊彦（1919）『労働者崇拝論』『賀川豊彦全集』第 10 巻，キリスト新聞社，3 - 39.

賀川豊彦（1920）『死線を越えて』『賀川豊彦全集』第 14 巻，キリスト新聞社，3 - 224.

賀川豊彦（1924）『死線を越えて（下巻）- 壁の声きく時 - 』『賀川豊彦全集』第 14 巻，キリスト新聞社，405 - 606.

賀川豊彦（1927）「社会事業の永遠性」『社会事業研究』 第 15 巻第 12 号，1-10

賀川豊彦（1928）「社会事業と宗教運動」『社会事業研究』第 16 巻 5 月号，21 - 27.

賀川豊彦（1940）「朝鮮印象記」『雲の柱』第 19 巻第 1 号，23 - 29.

賀川豊彦（1955）「わが村を去る」『若き日の肖像：わたしの青少年時代』，毎日新聞社，91 - 108.

賀川豊彦『身辺雑記』『賀川豊彦全集』 第 24 巻，キリスト新聞社，3 - 360.

金子啓一（1985）「賀川豊彦と朝鮮問題」『雲の柱』第 8 号，2 - 8.

木原活信（1999）「第 4 章　キリスト教の世俗化と社会福祉の生成」嶋田啓一郎監修，秋山智久・高田真治編『社会福祉の思想と人間観』ミネルヴァ書房，65 - 86.

金萬斗（2004）「金徳俊」井垣章二・小倉襄二・加藤博史・その他編『社会福祉の先駆者たち』筒井書房，162 - 168.

琴秉洞（クムビョンドン）（1996）「解説 - 戦前篇Ⅰ」『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅲ　朝鮮人虐殺に関する知識人の反応Ⅰ』緑蔭書房，（1）- （23）.

嶋田啓一郎（1971）『福音と社会』日本基督教団出版局.
徐正敏（2009）『日韓キリスト教関係史研究』日本キリスト教団出版局.
高山郁乎（1939）「賀川先生の朝鮮伝道日誌」『雲の柱』第 19 巻第 1 号，23 - 29.
武内勝口述・村山盛嗣編（1973）『賀川豊彦とそのボランティア - 新生田川地区に於ける賀川豊彦とその事業 - 』武内勝口述刊行委員会.
寺ノ門栄（1975）『愛と光と自由と: 李永植の思想と行動』行政通信社.
同志社職員録（1936；1937；1938；1939）
同志社校友会（1949）『同志社男子各学校 - 卒業生名簿』
同志社校友会（1993）『同志社校友会名簿』
同志社大学人文科学研究所第 4 研究編（2009）「同志社と賀川豊彦」賀川豊彦献身 100 年記念『賀川豊彦のキリスト教と協同組合』同志社大学人文科学研究所第 4 研究「京都地域における大学生協の綜合的研究」，67 - 72.
中島　重（1937）「同志社の社會事業教育の嘱す」「同志社大學社會事業學會報」第 2 号.
生江孝之(1931)『日本基督教社会事業史』教文館出版部.
日本大学百年史編纂委員会（2000）『日本大学百年史』第 2 巻，日本大学.
松尾尊兊（1968）「三・一運動と日本プロテスタント - 日本プロテスタントと朝鮮（二）- 」『思想』11 月号，45 - 66.
室田保夫(1994)『キリスト教社会福祉思想史の研究：「一国の良心」に生きた人々』不二出版.
浜田直也（2012）『賀川豊彦と孫文』神戸新聞総合出版センター.
裵（ベ）　貴得（ギトク）（2012）「日本組合教会の朝鮮伝道における一考察 - 渡瀬常吉の初期朝鮮伝道を中心に」同志社大学一神教学際研究センター『一神教世界』第 3 巻，14 - 30.
山田昭次篇（2004）『関東大震災朝鮮人虐殺問題関係史料Ⅴ　朝鮮人虐殺関連新聞報道史料１』緑蔭書房.
吉武信彦（2013）「ノーベル賞の国際政治学 - ノーベル平和賞と日本：第二次世界大戦後の日本人候補，賀川豊彦（2・完）－高崎経済大学地域政策学会『地域政策研究』第 15 巻第 4 号，1 - 16.
横山春一（1951）『賀川豊彦傳』キリスト新聞社.
横山春一（1959）『増訂版　賀川豊彦傳』 警醒社.

米沢和一郎（2007）『賀川豊彦の海外資料Ⅱ－その意図したものを読み解くために－』 明治学院大学キリスト教研究所.
四十年史編集委員会編（1965）『四十年の恵み－本所基督教産業青年会・日本基督教団東駒形教会四十年史－』キリスト新聞社.
李善惠（2009）「プロテスタントが社会福祉に及ぼした影響に関する研究－近代初期における日韓社会事業を通じて－」同志社大学大学院社会学研究科 2009 年度修士論文.
緑蔭書房編集部（1990）『「雲の柱」解題・総目次・索引』緑蔭書房.
Toyohiko Kagawa（1937）Brotherhood Economics London Press（＝2009，賀川豊彦著・加山久夫，石部公男訳『友愛の政治経済学』日本生活協同組合連合会．）
XYZ（1923）「祝福されしイエスの友修養会」『雲の柱』第 2 巻 11 号，142－145.
XYZ（1924）「祝福されしイエスの友修養会（承前）」『雲の柱』第 3 巻 3 号，243－244.

東駒形教会の発行誌『旅人』，『洗礼志願書』
『イエスの友會報』（1924．6．10）
『朝日新聞』
『東京朝日新聞』
『同志社校友同窓會報』（1931．1．15）
『同志社大學社會事業學會報』（1937．1．29）
『同志社大學學友會會員名簿』（1939；1940）
『同志社職員録』（1936；1937；1938；1939）
『同志社新報』（1938．4．15；10．20）
『読売新聞』
『雲の柱』1923.

（ホームページ）
一燈園　http://www.ittoen.or.jp/
神戸賀川記念館　http://www.core100.net/works/works05.html

[英語]

Barbara Lagault, John F. Prescott (2009) “The arch agitator:” Dr. Frank W. Schofield and the Korean independence movement The Canadian Veterinary Journal, 50 (8) , 865 - 872.

World Council of Churches (1955) Evanston speaks : reports of the second Assembly of the World Council of Churches, August 15-31, 1954 Geneva, Switzerland.

[韓国]

강남대학교사회복지학부 (2003) 『강남대학교 사회복지학부 50 년사』강남대학교사회복지학부 (＝江南大学社会福祉学部『江南大学社会福祉学部 50 年史』江南大学社会福祉学部) .

강원용 (2003) 『역사의 언덕에서 : 젊은이에게 들려주는 나의 현대사 체험』한길사 (＝ 姜元龍『歴史の丘の上で : 若者に聞かせる私の現代史体験』ハンギル社) .

강재언 (1982) 『한국근대사연구』도서출판한울 (＝姜在彦『韓国近代史研究』図書出版ハンウル) .

고 김덕준 교수 10 주기 추모집 간행위원회편 (2003) 『기독교사회복지의 사상과 실천모델』도서출판 인간과 복지 (＝故金徳俊教授 10 周期追悼集刊行委員会編『キリスト教社会福祉の思想と実践モデル』図書出版人間と福祉) .

高承濟 (1973) 「第五章 在日韓國勞働者移民의 展開過程과 日本軍國主義의 末路」『韓國移民史研究』章文閣, 231 - 327 (＝高承濟「第五章 在日韓国労働者移民の展開過程と日本軍国主義の末路」『韓国移民史研究』章文閣, 231 - 327) .

김경재 (2001) 『김재준평전 : 성육신신앙과 대승기독교』삼인 (＝金キョンジェ『金在俊評伝 : 成肉身の信仰と大乗キリスト教』サムイン) .

Dock - Joon Kim (1977) 「My Adolescence」중앙대학교사회사업학과『사회복지연구』 제 11 호, 21 - 28 (＝金徳俊「My Adolescence」中央大学社会事業学科『社会福祉研究』第 11 号, 21 - 28) .

金徳俊 (1979)「歐美社會事業哲學의 背景에 對한 試考 - 基督敎의 本質을 中心하여 - 」한국사회복지학회『한국사회복지학』제 1 권, 87 - 95 (＝金徳俊「欧米社会事業哲学の背景に対する試考－基督教の本質を中心に－」韓国社会福祉学会『韓国社会福祉学』第 1 巻, 87 - 95) .

金徳俊 (1983a)「基督敎와社會事業의 接線 - 그 歷史的 背景과 韓國的 狀況에 關한 硏究 - 」강남사회복지학교출판부『논문집』 제 10 집, 169 - 189 (＝金徳俊「基督教と社会事業の接線 - その歴史の背景と韓国の状況に関する研究 - 」江南社会福祉学校出版部『論文集』第 10 輯, 169 - 189) .

김덕준 (1983ｂ) 「권두언」한국기독교사회복지학회『기독교사회복지』창간호, 5 - 6 (＝金徳俊「巻頭言」韓国キリスト教社会福祉学会『キリスト教社会福祉』創刊号) .

金徳俊編 (1985a)『基督敎社會福祉 - 思想, 歷史, 運動 - 』韓國基督敎社會福祉學會 (＝金徳俊編『基督教社会福祉 - 思想, 歴史, 運動 - 』韓国基督教社会福祉学会) .

金徳俊 (1985b) 「세로의 사랑, 가로의 사랑」한국기독교사회복지학회『기독교사회복지』제 3 호, 13 - 22 (＝金徳俊「縦の愛, 横の愛」韓国キリスト教社会福祉学会『キリスト教社会福祉) 第 3 号, 13 - 22) .

金炳熙 (2008) 『劉載奇의 예수촌 思想과 農村運動』啓明大学校大学院 歴史学科 2008 年度博士論文 (＝金炳熙『劉載奇のイエス村思想と農村運動』啓明大学大学院歴史学科 2008 年度博士学位論文) .

金炳熙編（2011）『세대를　뛰어넘는　경계인－虚心　劉載奇牧師　遺稿集』예영케뮤니케이션（＝金炳熙編『世代を超える境界人 - 虚心[182]劉載奇牧師　遺稿集』イェヨンコミュニケーション）．

김영철（2001）「우원과 김덕준 교수」『중앙신학연구』제 59 호，10 - 13（＝キムヨンチェル「友園と金徳俊教授」『中央神学研究』第 59 号，10 - 13）．

김재준（1992）『金在俊全集　13　새　역사의　발자취』한신대학출판부（＝金在俊『金在俊全集 13　新しい歴史の足跡』韓神大学出版部）．

김종규（2010）「가가와도요히코（賀川豊彦）가　한국교회에　끼친　영향」감리교신학대학교대학원　교회사　석사논문（＝金鐘圭「賀川豊彦が韓国教会に及ぼした影響」メソジスト大学大学院教会史修士論文）．

대구대학교가가와도요히코연구회（1987）「사랑과　평화의　사도　가가와도요히코　목사」팜플렛（＝大邱大学校賀川豊彦研究会「愛と平和の使徒　賀川豊彦牧師」パンフレット）．

류상덕（2005）「창파 이태영 선생의 생애」『특수교육저널:이론과 실천』제 6 권 4 호，609 - 648.（＝リュサンドク「滄波[183]李泰榮先生の生涯」『特殊教育ジャーナル：理論と実践』第 6 巻 4 号，609 - 648）．

부성래（2003）「故김덕준교수의　한국사회복지교육과　실천에　미친　영향」고　김덕준교수　10　주기　추모집　간행위원　회편『기독교사회복지의　사상과　실천모델』　도서출판　인간과　복지，20 - 43（＝ブソンレ「故金徳俊教授の韓国社会福祉教育と実践に及ぼした影響」故金徳俊教授 10 周期追悼集刊行委員会編『キリスト教社会福祉の思想と実践モデル』図書出版人間と福祉，20 - 43）．

182　劉載奇の雅号である．
183　李泰榮の雅号である．

선우남 (2003) 「김덕준목사님을 생각하며」 고 김덕준교수 10 주기 추모집 간행위원회편『기독교사회복지의 사상과 실천모델』도서출판 인간과 복지, 18 - 19（＝ソンウナム「金徳俊牧師を偲んで」故金徳俊教授 10 周期追悼集　刊行委員会編『キリスト教社会福祉の思想と実践モデル』図書出版人間と福祉，18 - 19 ）.

신영숙（1986）『영광문화』아홉번째，대구대학교（＝シンヨンシュク『栄光文化』9 番目，大邱大学）.

劉載奇（1946）『協同組合組織論』基督教興國兄弟團出版部.

윤도한 편（1998）『우원탄신 100 주년기념 특집 友園』우원기념사업회（＝ユンドハン『友園誕生 100 周年記念特集　友園』友園記念事業会）.

윤기(2003)「소공(素空) 김덕준 선생을 기리며」 고 김덕준교수 10 주기 추모집 간행위원회편『기독교사회복지의 사상과 실천모델』도서출판 인간과 복지, 11 - 15（＝ 尹基「素空[184]金徳俊を偲んで」故金徳俊教授 10 周期追悼集刊行委員会編『キリスト教社会福祉の思想と実践モデル』図書出版人間と福祉，11 - 15）.

李文烈（1970）『사람의 아들』民音社（＝李文烈『人間の息子』民音社）.

이부덕(2003, Daniel Booduck Lee)「기독교사회사업의 사상과 철학 - 김덕준박사의 발자취를 조명하면서 - 」 고 김덕준교수 10 주기 추모집간행위원회편『기독교사회복지의 사상과 실천모델』도서출판 인간과 복지, 133 - 170（＝李富徳『キリスト教社会事業の思想と哲学－金徳俊博士の足跡を辿りながら－』故金徳俊教授 10 周期追悼集刊行委員会編『キリスト教社会福祉の思想と実践モデル』図書出版人間と福祉，133 - 170）.

[184] 金徳俊の雅号である.

이상철（2010）『열린 세계를 가진 나그네：블라기보스토크에서 토론토까지』한국기독교장로회출판사（＝李相哲『開かれた世界をもつ旅人：ウラジオストクからトロントまで』韓国基督教長老派出版社）.

張時華編（1940）『賀川豊彦先生講演集』敬天愛人社.

鄭晉錫（2003）「제 2 의 朝鮮総督府 京城日報」韓国教會史文獻研究院『京城日報』제 1 권, i - xviii（＝鄭晉錫「第 2 の朝鮮総督府京城日報」韓国教会史文献研究院『京城日報』第 1 巻）.

주선애（2011）『주선애회고록 주님과 한평생』두란노（＝朱善愛『朱善愛回顧録 主と一生』ドランノ）.

朱泰益（1977）『傳記小説 이 목숨 다 바쳐서 - 한국의 그룬트비히 虚心 劉載奇傳』善瓊圖書出版社（＝朱泰益『伝記小説 この命を献げて - 韓国のグルンドヴィ 虚心 劉載奇伝』善瓊圖書出版社）.

천사무엘（2003）『김재준:근본주의와 독재에 맞선 예언자적 양심』살림（＝チェンサムエル『金在俊：根本主義と独裁に向き合った預言者的良心』サルリム）.

한국기독교역사연구소（1989）『한국기독교의 역사Ⅰ』기독교문사（＝韓国基督教歴史研究所『韓国基督教の歴史Ⅰ』基督教文社）.

한국기독교역사연구소（1990）『한국기독교의 역사 Ⅱ』기독교문사（＝韓国基督教歴史研究所『韓国基督教の歴史Ⅱ』基督教文社）.

한국기독교역사연구소자료연구회편（2011）『자료총서 제 43 권「기독신보」사설자료집』한국기독교연구소（＝韓国基督教歴史研究所資料研究会編『資料叢書第 43 巻「基督申報」社説資料集』韓国基督研究所）.

한영제편（1987）『한국기독교사료전시회 자료집② 한국기독교문서운동 100 년』기독교문사（＝ハンヨンジェ編『韓国基督教史料展示会資料集② 韓国基督教文書運動 100 年』基督教文社）.

함세남（2007）「강남대학의 사회복지교육과 지역사회복지실천」강남종합사회복지관・강남대학교한국사회복지연구소『강남대학교강남종합사회복지관개관 15 주년기념 국제세미나자료집』, 11 - 29（＝咸世南「江南大学 の 社会福祉教育 と 地域社会福祉実践」江南綜合社会福祉館 ・ 江南大学韓国社会福祉研究所『江南大学江南綜合社会福祉館開館 15 周年記念国際セミナー資料集』, 11 - 29）.

홍순명（2009）『우애의 경제학』그물코（＝洪淳明『友愛の経済学』グムルコ）.

黒田四郎지음・ 大邱大賀川豊彦研究會번역（1985）『나의 賀川豊彦 연구』 大邱大学校出版部（＝黒田四郎著 ・ 大邱大賀川豊彦研究会訳『私 の 賀川豊彦研究』大邱大学校出版部）.

『基督申報』
『基督教報』
『国民日報』
『農民生活』
『朝鮮日報』
『東亜日報』（1922. 2. 4 ; 1939. 11. 8 ; 1956. 1. 16 ; 1980. 11. 14）
『毎日新聞』
『朝鮮イエス教長老会総会第十七回会録』（1928）
『朝鮮耶蘇教長老会総会第二十七回総会録』（1938）
『宗教時報』
『興國時報』
CTS 放送

（パンフレット）

教会創立 41 週年記念栄光教会献堂 - 賀川豊彦牧師記念館開館 -（1987. 5. 27 - 28）

（ホームページ）

李泰栄個人ホームページ　http://kdrhee.bol.ucla.edu

ウィキペディアフリー百科事典　http://ko.wikipedia.org.

在日大韓基督教会横山教会　http://yokohamachurch.net

大韓基督教書会　http://www.clsk.org

終章

社会福祉の人物研究において，賀川を研究することから受ける示唆は多い．その理由は二つある．一つ目は，賀川は明治期から昭和期までの日本社会において，社会の変化が最も力動的な時代に生きていた人物で，牧師としても社会運動の先駆者としても幅広く活動したからである．二つ目は，社会福祉において今日でも再評価されるほど，様々な実践や思想を多く残しているからである．

本章では，結論を含めて，本研究の限界と今後の課題について記述する．結論の中では，全体の総括と賀川の社会福祉実践・思想が韓国に及ぼした影響に対する評価やキリスト教社会福祉への示唆を提示する．

第1節　結論

1. 全体の総括

序章では，本研究の背景を含め，先行研究を検討した．先行研究は，日本，韓国を除いた海外，韓国の順に分けて検討した．まず，日本における先行研究の検討から分かったことは，社会福祉の境界線の決め方によって，社会福祉の範囲が異なるということであった．具体的には，社会事業や社会福祉というキーワードでは，賀川に関する先行研究は少ないが，協同組合やセツルメントといったキーワードでは，賀川が社会福祉分野で幅広く活動していたことが多く示されている．最近，日本における賀川の実践を公共哲学という視点から再評価している．その点について稲垣（2012：71）は「新しい公共」として賀川の「友愛と連帯」の市民運動を引き継ぐべきであると述べている．稲垣の言説は，貧民救済というミクロの視点だけではなく，「友愛と連帯」を活かした防貧へのマクロの視点が必要であることを意味すると考えられる．

日本以外の国における先行研究の検討から分かったことは，ほとんどの研究がキリスト教と関連しており，賀川の生涯や彼の活動に留まっていたことである．日本における海外や賀川とのかかわりに関する研究は，数少ないが，主に中国が中心になっており，キリスト教との関係で，満州キリスト教開拓団に関する研究であった．それは

日本国内での韓国とのかかわりに関する研究も，中国との関連の中に韓国が登場する程度であった．先行研究の全体的な検討から，賀川の知名度が世界中に広がっている反面，各国と賀川とのかかわりに関する研究が少ないことと，賀川の活動が社会福祉にどのように影響を及ぼしたのかに関する研究が欠けていることが分かった．

それゆえ，賀川と韓国とのかかわりの中で，社会福祉実践・思想において賀川が韓国にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにすることを本研究の目的とした．ただし，賀川からの影響を分析するためには，賀川の社会福祉実践・思想を理解する必要があったため，なぜ賀川が社会福祉に身を投じたのか，社会福祉実践・思想の形成過程に関する賀川のライフイベントを整理した上で，賀川の活動や文献の検討を行うことにした．

第Ⅰ部では，ライフイベントを用いて，賀川の社会福祉実践・思想の形成過程について発達的出来事と歴史的出来事に分けて分析した．まず発達的出来事については，賀川の主観的な経験世界を含めて検討した．「妾の子ども」というコンプレックスからキリスト教に出会って「神の子」になったことと，それがきっかけになって神学を勉強するようになったことに言及した．そして賀川が社会福祉に身を投じることになった歴史的出来事は，病気によって余命が短いと自覚した賀川が，残った人生を神に捧げたいという考えを持ったことから始まった．最初の賀川の活動は，神学生というアイデンティティーの中で行った伝道活動であった．伝道する中で出会った人々の生活が悲惨な状態だったため，貧しい人々に手を差し延べることとなり，賀川が社会福祉に従事していくことになったのである．「環境が人を造る」という言葉があるように，賀川が生涯に渡って社会福祉実践を続けられたのは，関東大震災や労働運動，農民運動などの社会的状況によるものであったと考えられる．つまり，賀川のライフイベントから，キリスト教への信仰や病気によってスラム街に入ったという動機と，社会的状況及び様々な出会いによって賀川の生涯が社会福祉に向けられたと言える．また，賀川を巡る重要な他者との出会いについては思想的出会いと実際的出会いに分けて分析した．読書が好んだ賀川は，マイヤースの書斎から多くの思想家に出会い，特にイエス，トルストイ，ウェスレーから「福音」「平和」「奉仕」というキリスト教徒としての生き方を学んだ．そして，ローガンとマイヤース，鈴木，杉山との実際的出会いの中で，社会福祉実践や組合運動という具体的な行動力へ繋がっていったのである．

第Ⅱ部では，最初の貧民救済事業であった「救霊団」，関東大震災で神戸から東京に移って行ったセツルメント事業としての「本所キリスト教産業青年会」，そして防貧を重視し，農村の改良のため人材を育成した「農民福音学校」での活動を社会福祉実践として取り上げて論じた．ここで分かったことは，時代に応じて賀川の社会福祉実践の内容が変わっていったことであった．たとえば，スラム街で出会った人々が社会環境によって疲弊していくことを痛感した賀川が，その解決方法として行ったことが最初の貧民救済事業の「救霊団」の活動であった．しかし，関東大震災を契機に，すべての救護活動を一時的なものではなく，一つのセツルメントの建設によって，組織的，教育的に進めようとしたのが「本所キリスト教産業青年会」での活動であった．このように時代のニーズに敏感に反応し，それに対応する解決方法を提示することが社会福祉のあり方に大切であると教えているのであろう．21 世紀に相応しい社会福祉は何かを考え，変化する社会に対応する社会福祉を実践することが大切であると改めて気づいた．

また，たとえ社会が変化していったとしても，変わらないものがあったことも明らかになった．それは，賀川の多様な実践の原動力となった社会福祉の思想である．本研究では，賀川がどのような社会福祉思想をもっていたのかを明らかにするため，賀川の小説『死線を越えて』を含めて当時の中央・地方社会事業協会が発行した『救済研究』『社会事業研究』『社会事業』，そして『農村社会事業』などの文献を参考に賀川の社会福祉思想に言及した．賀川の社会福祉思想を一言でまとめることは難しい．しかし，賀川の社会福祉実践の中には，キリスト教に基づいた「生命」「労働」「人格」の概念が流れていることが分かった．これを日本ソーシャルワーカーの倫理綱領と比べると，すでに賀川が社会福祉の本質として「生命」「労働」「人格」の大切さを訴え，それは今日の社会福祉の価値に値するものであると分析した．その結果，日本ソーシャルワーカーの倫理綱領の「人間の尊厳」と「社会正義」の根底的な部分を，今から90年も前に賀川が訴えていたことがいえよう．つまり，生命の大切さを含めて，その生命のある人が人格をもっていることと，経済的価値としての意味だけではなく，人間性の回復を通して自分らしく生活できるように労働を保障することは，ソーシャルワークの価値と共通していることが明らかになった．賀川は，この「生命」「労働」「人格」の三つを社会福祉の本質であり，それがキリスト教に基づいていると述べている．また，農村社会においては，神を愛することに基づいて土や隣人を愛する

ことが重要であり，その愛することが，「生命」，「労働」，「人格」に繋がって，具体的な実践方法を図る基礎になっている．

第Ⅲ部では，賀川と韓国とのかかわりについて，韓国における賀川の訪問の経歴や活動，韓国で出版された文献をもとに整理・検討した．その後，賀川から影響を受けた人物の中で，社会福祉教育の先駆者である金徳俊と農村運動の先駆者である劉載奇を中心に，賀川のどのような部分から影響を受けたのかを分析した．金徳俊の場合，賀川が述べているキリスト教の両面，つまり生命の本質と生命の表現の中で，本質だけではなく表現することの大切さ，つまり社会へ目を向けることの大切さに関して大きな影響を受けたのである．金徳俊は，社会への関心を実践する行動力が芽生えるようにするための人材養成，つまり社会福祉教育に力を入れ，さらにはキリスト教徒としての社会への責任まで強調していた．

また，劉載奇の場合，農村地域を巡回したとき，その問題に気づき，後に「基督教農村研究会」の運営にかかわっていた．キリスト教に基づいた農村改良のため，組合の組織やイエス村の建設に力を入れた．それは賀川がスラム街に入って貧民の問題に気づいて貧民救済事業を行ったことと同様であると考えられる．賀川の「愛神，愛土，愛隣」に対して，劉載奇は「愛神，愛土，愛労働」を主張した．劉載奇は，労働の真の意味について，パウロの言葉，「働きたくない者は，食べてはならない（テサロニケの信徒への手紙二 3章10節）」を引用し，労働なしで生きようとする人間は生の定義を知らない人間であると強調している．それは，個人の労働能力を有し，かつ個人において阻害するような内的要因・心理的要因が特に存在しないにもかかわらず，労働しようとしない者は，生の定義を知りえないという意味である．劉載奇は決して隣人を愛することを否定したわけではない．なぜなら，組合を作って農民の経済力や団結力を向上させようとし，イエス村を建設して自立できる共同体を目指したからである．つまり，劉載奇が述べている「協同組合」や「イエス村の建設」は一人ではできない，お互いに協力しないとできないことで，賀川が述べている「互助友愛」に繋がっている．それにもかかわらず，劉載奇が「愛労働」を強調したのは，当時の韓国の農村の現実を反映したからであろう．残念ながら，劉載奇の農村運動は，独立運動とみなされた時代の制約によって，組合の組織やイエス村の建設の発展に成功できなかった．

金徳俊と劉載奇の共通点は，賀川の著書に出会い，彼の実践や思想に大きな影響を

受けて，社会福祉の実践に移したことである．また，キリスト教に基づいて時代のニーズにあわせようとしたことも共通点であると言える．相違点は，両者とも賀川から大きな影響を受けたものの，時代的状況によって実践する内容が異なり，そしてそれに基づく思想も時代に応じて変化していったことであろう．金徳俊はキリスト教と社会福祉との結合を韓国の教育現場に，なぜ社会福祉を行わなければならないのか，それがキリスト教徒にとってどのような意味をもつのか，そのためには，「教育現場」でどのように教えていくべきなのかについて訴えている．劉載奇は農民の経済力，団結力の向上を農村社会に適用しようとしたことで，農村の現実に関して「組合組織やイエス村の建設」が農村問題の解決方法であると述べている．金徳俊と劉載奇，この二人が目指しているところは異なっていたかもしれないが，1920年代から農村で働いた劉載奇と1940年代後半から教育研究現場で働いた金徳俊では，働き始めた時代のニーズがそれぞれ違っており，それに応じて行う事業が異なっていったといえよう．

2. 韓国における賀川への肯定的な評価

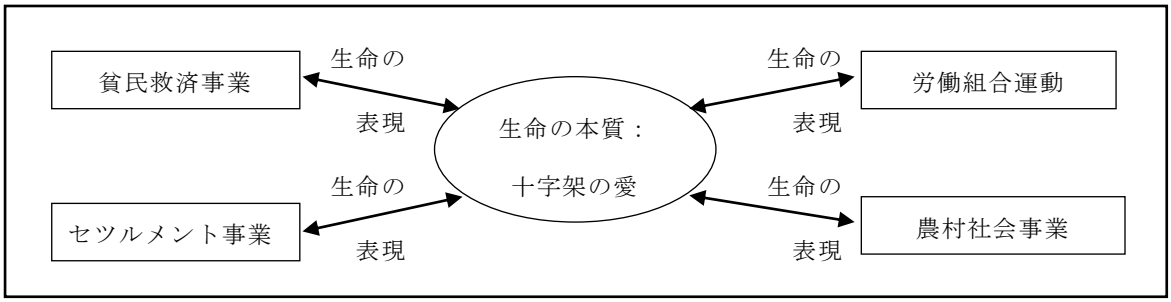
本研究は，賀川と韓国とのかかわりの中で，賀川がどのように韓国に影響を及ぼしたのかを述べたものである．その中で，韓国における賀川への肯定的な評価についてキリスト教界と社会福祉の分野に分けて論じていきたい．ここでキリスト教界について排除できない理由は，賀川の社会福祉実践及び思想そのものがキリスト教に基づいているからである．賀川は次のように述べている．

> 即ち，十字架愛は，再創造を意味する贖罪的回復であると共に，単なる創造の世界に対しては，第二の創造を意味する新しき発展である．誠に十字架愛に於てのみ，総ての失業者を抱擁し，総ての恐慌に依れる損害を弁償する大きな愛となつて現れて来るのである（賀川1936：188）．

賀川にとって十字架の愛こそが，社会問題を根本的に解決させるものになっているため，キリスト教と社会福祉が密接な関係であることを示しているだろう．それゆえ，キリスト教界において賀川への肯定的な評価を検討する必要があると考えられる．

まず，キリスト教における賀川への肯定的な評価については，大きく二つ取り上げ

られる．一つ目は，「キリスト教徒としての生き方」である．賀川（1928）は，「生命の本質」と「生命の表現」という概念によってキリスト教の両方の側面を説明した．「生命の本質」を悟る人なら「生命の表現」を伴い，「生命の表現」を考える人なら，愛の行動によって「生命の本質」を改めて学んでいく．賀川は，「愛することのない者は神を知りません．神は愛だからです（ヨハネの手紙一4章8節）」という言葉を引用しながら，愛の行動を知らない人は神が本質的に愛であることを知るわけがないと述べている．つまり，「生命の本質」と「生命の表現」のバランスを強調しつつ，「キリスト教徒としての生き方」を訴えたのである（【図8－1】）．



【図8－1】賀川のキリスト教徒としての生き方　　李善惠・鄭智雄（2010：166）より修正して作成

これは「生命の本質」を悟った人が，「生命の表現」のための実践を行なうことの重要性とともに，「生命の表現」のみを強調しすぎて「生命の本質」を見失ってはならないことを教えていると考えられる．この賀川の考え方が強く表れたものが，小説『死線を越えて』であろう．なぜなら3部で取り上げた賀川から影響を受けた韓国人たちのほとんどが，賀川の小説『死線を越えて』について言及しているからである．賀川が自らの経験をもとに，キリスト教徒としてどのように生きていくのかについて書いたため，韓国人の心に響かれ，大きな影響を及ぼしたと言える．どうせ死ぬなら，いいことをしようと，衛生面があまりにもよくないスラム街で，貧民とともに過ごした賀川が伝道するのみにとどまらず，献身的に様々な活動をしている姿に感心したのであろう．

二つ目は，「教会のあり方」である．「キリスト教徒としての生き方」は，個人の信仰や教会内の関心だけではなく，ひいては世間に目を向けていくことに繋がっていく．この点について現代では当たり前の話であるが，今から100年前ではまさに先駆者の考え方であっただろう．「地の塩，世の光（マタイによる福音書5章13節－16

節）」という言葉のように，「教会の社会へ関心または役割」を訴えたわけである．ラインホルド・ニーバー（Reinhold Niebuhr，1892．6．21‐1971．6．1）は，彼の著書(＝1971：15；2010：25)で，「教会が組織化された慈善活動の母である」と述べている．これは，いわゆる，社会に目を向けた教会の使命を強調した記述であろう．実際に賀川はスラム街に入った際，教会が世間に目を向けず建築やクリスマスの行事で盛り上がっていたことを大変批判した．しかし賀川は，一生教会を離れず，教会を通して様々な事業を行おうとしたのである．その考えを表したのが賀川の最後の祈りであろう．

教会を強めてください
日本を救ってください
世界を平和にしてください

今でも神戸イエス団教会，松沢教会，東駒形教会などが，社会福祉法人・学校法人のイエス団や社会福祉法人の雲柱社の様々な活動にかかわっていることが，賀川の精神を引き継いでいる証拠であろう．韓国のキリスト教界における賀川への肯定的な評価は，「行いが伴わないなら，信仰はそれだけでは死んだものです（ヤコブの手紙2章17節）」という言葉のように，キリスト教徒としてこの世でどのように生きていくべきかを『死線を越えて』という著書を通して提示してくれた人物としての評価であろう．また，教会の存在が単に地域にある教会ではなく，地域のためにある教会として様々な活動を広げたことが，「教会のあり方」に模範となったという評価であろう．

それでは，社会福祉における賀川への肯定的な評価は何であろう．まず，「ともに生きる」ことである．賀川がスラム街に入った最初の理由は，どうせ死ぬなら神に良いことをしたいという考えから始まった．あそこで賀川は，伝染性の急性及び慢性角結膜炎であるトラコーマ（Trachoma）で片目が悪くなり，妻の春は片目の視力を失うまで貧民とともに過ごし，交流の中で彼らの痛みを分かち合い，彼らのニーズに応えようとした．いわゆるセツルメント事業である．神戸での救霊団や東京での本所基督教産業青年会での活動はまさに「ともに生きる」中で行われたセツルメント事業であった．賀川の考える「ともに生きる」とは，一人ひとりの人格と個性を尊重しながら，互いに理解し，共に助け合い，支え合って生きることであった．その賀川から大きな

影響を受け，障害者とともに歩んできた韓国人（李永植，李泰栄）や農民のために生きた韓国人（劉載奇），また教育の現場で賀川の社会福祉実践・思想を教え，間接的に実践に参加させた韓国人（朱善愛や金徳俊など）がいる．

次に「組織化」である．賀川は「救霊団（1910，後にイエス団）」，「購買組合共益社（1919，後に生活協同組合）」，「農民組合（1922）」など，組織を通して社会の問題を根本的かつ長期的に改善しようとしたのである．一人の力ではなく，力をあわせて生活の改造や更生を目指した方が効果的であることを示したわけである．賀川は，協同組合こそ，救貧ではなく防貧へ，真の革命による社会改造を完成する唯一の道であると主張している（賀川1949：328）．「組織化」は「連帯」に繋がっていく．この点について賀川は経済的観点から連帯を次のように説明している．

> 連帯性を欠く民族は株式会社をつくることはできない．同様にして，まだ互助の意識が発達していない社会では，時間を含む交換のすべて，それに心理的な構成を要する不動産市場とか株式市場とかは，不可能となってくる（Kagawa＝2009：60）．

この文章は，組織の連帯がいかに必要であるかを示している．賀川は協同組合を組織力による社会連帯意識を持つ団体として実現しようとしたのであろう．賀川は，キリスト教に基づいて組合を作ろうとした．それに影響を受けた劉載奇は組合を農村に適用し，お互いに支え合えるように社会を改革しようとしたのである．

賀川の社会福祉実践と思想に表れたものは，キリストによって救われた個人が，その恵みへの応答として「善きわざ」に励んでいることで，韓国における賀川へ評価はキリスト教界や社会福祉分野に肯定的な評価があったと言える．そして特に，韓国のキリスト教では賀川を「愛の実践家」として，社会福祉分野では賀川を「社会福祉の実践家」として捉えていただろう．つまり，賀川のすべての活動は，キリスト教に基づいて行われた事業であり，また賀川にとって「生命の表現」が愛の実践に繋がり，それこそが今日における社会福祉への実践だったのである．

3. 韓国における賀川への否定的な評価

本研究では賀川と韓国とのかかわりや韓国に及ぼされた賀川の社会福祉実践・思想の影響について言及しているため，あまり否定的な面は扱っていない．それゆえ，ここで否定的な面を取り上げることは，不自然に感じられるかもしれない．だが，韓国において賀川に関する研究があまり行われていない理由または背景を推測するため，韓国における賀川への否定的な評価について考える必要がある．ここでは大きく二つに分けて取り上げたい．一つ目は「キリスト教社会主義に関する韓国のキリスト教界と賀川の認識の差異」である．社会主義の影響[185]が大きくなっていった1923年に，李大偉（イデイウ）は社会主義とキリスト教の類似性を積極的に考察した[186]．その類似性とは，まず，苦しんでいる人々の生を改善しようとするところと，普段社会主義は主に無神論と唯物論を強調されているが，社会主義者の中にも，神を認める社会主義者[187]がいたところである．神に関する観念や人生観にキリスト教と社会主義が衝突する理由がないという論旨であった．しかし，現実的には二つの間では葛藤が生じていた．当時の

[185] 1920 年代前後の韓国キリスト教言論に載せられた社会主義に関する記事数

	基督申報	青年	新生	神学世界	眞生	神学之南	記事総数
発行期間	1915．12-1933．7	1921．3 - 1940．12	1928．10 - 1934．1	1916．9 - 1940．4	1925．9 - 1930．12	1918．3. 1940．10	
発行機関	長老派とメソジスト	京城中央基督教青年會青年雑誌社	メソジスト	メソジスト協成神學校教授會	基督青年勉勵會朝鮮聯合會	平壤長老派神學校朝鮮耶蘇教書會	
発行形態	週刊	月刊	月刊	季刊	月刊	季刊	
1919	1						1
1920	0						0
1921	1	6					7
1922	1	7		1		1	9*
1923	24	12		2		1	39
1924	19	2		0		3	24
1925	10	3		4		3	20
1926	39	1		3		0	43
1927	78	8		5	2	0	93
1928	43	6	3	5	4	3	64
1929	19	2	5	1	15	1	43
1930	53	5	6	3	20	5	92
1931	56	5	0	0	0	0	61

出所：姜明淑（1997：8）

＊原文ママ

[186] 李大偉（1923：8 - 9）「社会主義と基督教の帰着点はどうであろう？」『青年』9 月号.

[187] たとえば，李大偉が取り上げたフランソワ・マリー・シャルル・フーリエ（Francois Marie Charles Fourier，1772．4．7 - 1837．10．10）は敬虔なキリスト教徒でありながら，フランスの「空想的社会主義者」を代表する人物の一人である（李徳周 2011：60）.

韓国のキリスト教界は，社会主義が反宗教的であると認識していたため，社会主義の階級闘争やプロレタリア運動に反感をもっていた．社会主義に対応する方法を探している時期に，賀川の「基督教社会主義論」[188]が翻訳された（【表6－4】を参照）．内容は，イエスの宣教時期から1920年代に至るまでの，キリスト教における社会主義的な要素を紹介している．賀川の小説『死線を越えて』を通して，賀川がキリスト教社会主義者であったとすでに知られていたため，この「基督教社会主義論」について韓国のキリスト教界は理解があったと考えられる．問題は，賀川の「基督教社会主義論」の中で，唯物史観をもつ社会主義も人間の意識や価値を重要視していることや，キリスト教の正統から外れた「異端」[189]の活動まで紹介していることにキリスト教界の反論があったと推測される．社会主義に対するキリスト教界の強硬な態度と保守的な考え方によって，韓国のキリスト教界における賀川に対する評価は下っていったと考えられる[190]．

二つ目は，「日本側の意図」という点に関してである．賀川への否定的評価として，日韓の政治的状況も影響している．1939年に賀川が韓国を訪問した背景には，日本の植民地支配のために人民の精神を統一し，抵抗しようとする心理を鈍化させようとするものであった．賀川の韓国訪問は1938年7月7日に形成された朝鮮キリスト教聯合会を記念して，日本キリスト教聯合会と朝鮮キリスト教聯合会との協力の中で，行われた行事であった（張時華編1940：4）．もちろん，賀川を指名し，招待するほど，韓国における賀川の認識度が高かったと考えられる．ただし，時代の差はあるが，1891年の不敬事件において，内村が社会の要求に反発して自ら信仰を守ろうとしたことに対して，賀川の場合，【表6－1】の礼拝順から分かるように「皇国臣民誓詞」に対する意見を出していない．韓国人にとって内村は不敬事件から自分の信仰を貫いた真のキリスト教徒であるが，賀川は世間と妥協したのではないかというイメージが残って

188　この論文は 1927 年 1 月新潮社発行の大宅壮一編『社会問題講座』第 11 巻として著わされたものである．

189　アナバプテスト（Anabaptist）には，幼児洗礼を否定し，成人の信仰告白に基づくバプテスマを認めるという特徴がある．それゆえ，再洗礼派と呼ばれている．特に聖書と礼拝より主観的な経験を重要視したため，長く教会史上で異端とされる原因となる．モレビアン（Moravian）兄弟団は，共通の体験，交わり，分かち合いを回復することによって教会の革新を目指す共同体運動の一つである．ピューリタンのように厳格な教理と訓練，礼拝の改革，そして兄弟愛を強調することがその特色である．ただし，主観的な経験，いわゆる神秘的な体験を重要視したため，肯定的な評価を受けられなかったのである．

190　韓国のキリスト教界は，唯物史観を唯物論と無神論として規定していたため，社会主義者の左傾化に強力に反対したわけである（姜明淑 1997）．

いることは否定できない.

4. キリスト教社会福祉への示唆

賀川の社会福祉実践・思想から学ぶ日韓キリスト教社会福祉への示唆は何であろう. ここでは，筆者が考えていることを大きく四つに分けて取り上げたい．まず，一つ目は，賀川の思想である「生命」，「労働」，「人格」などの意味を考え，改めて社会福祉の本質（essence）を理解し，実践することである．私たちを取り巻く環境の変化や社会福祉に対する法制度の変化は，確かに新しい知識や専門的な技術を要求する. しかし，社会福祉のサービスは，対人援助サービスである．知識や技術だけでは，中身のないサービスが行われる可能性がある恐れがある．施設での虐待や社会福祉サービスの不誠実な対応がその例であろう．賀川は単に貧民救済事業や組合運動，セツルメント事業などを行ったわけではない．常にキリスト教に基づいて「生命」，「労働」，「人格」などの本質的な意味を考え，実践しようとしたのである．この3つの概念は，いわゆる今日における社会福祉の価値に値するものであろう．三井（2004：30－31）は，対人専門職について，次のように述べている.

> 対人専門職とは，医療・福祉・教育・法律など様々な分野で，他者の「生」を支えるという働きかけを職務としている職種である．そして，専門職 professionは基本的に対人サービス業であるが，通常の対人サービス業が対象者の要望にただ従うことが職務であるのに対して，専門職は自らが対象者 clientに対して何をなすべきか / できるか，その職務内容そのものを自ら規定できるという点に特色がある．つまり，対人専門職とは，対象者の「生」を支えることを職務とし，誰の「生」がどのように支えられるべきかを規定する人々なのである．対人専門職の根本的な特徴はここにある.

三井は，対人専門職は専門的機能に基づいて対象者にとって必要なことを一律に規定することが多いが，実際に重要なことは対象者の状況に応じた個別対応であると主張している．知識，技術の向上も重要であるが，それよりなぜそのサービスを行おうとしているのかという点に関する考えを立てることである．他者の「生」を支える社

会福祉サービスとしての社会福祉の本質について改めて考えるべきである．

二つ目の日韓キリスト教社会福祉への示唆は，フロンティア・スピリット（fron-tier spirit）である．フロンティアとは，ジーニアス英和辞典第四版によると「新分野」，「最先端」，「未開拓の分野」という意味をもつ．日韓における近代的な社会福祉は，社会福祉の制度や政策が国家の責任の下で動いていなかった時期に，キリスト教徒が生命の表現として，様々な最先端の事業を実践した．それは時代のニーズに応じたものであった（李善惠2009）．賀川は当時の社会のニーズに応えるため，社会問題に敏感に反応し，解決方法について工夫しながら提案し，最先端で実践した人物である．それでは，今日における社会のニーズは何であろう．近年，社会福祉サービスに対するニーズは高度化，多様化されている．一例として，自殺の予防策や震災地への支援などが取り上げられる．去る2013年6月21日に行われたキリスト教社会福祉学会のシンポジウムで，最も心に響いた言葉は，社会福祉法人の鳥取こども学院常務理事である藤野興一が，弱肉強食の世界や子どもに対する虐待などに対して，「こんなことがあってもいいのか，私たちがまだ『怒り』をもっているのか」という問いであった．これは，社会に対して問題意識をもっているのかに関する挑戦的な言葉であった．賀川のように社会問題や変化に敏感に反応し，そして問題意識をもって最先端に立つことが大切なのではないか．キリスト教社会福祉への示唆は，いわゆるフロンティア・スピリットをもって，実践力または行動力を生み出して，社会福祉の先駆的な役割を担うことである．

三つ目の日韓キリスト教社会福祉への示唆は，社会資源のネットワークの構築である．2013年7月2日，ゼミのフィールドワークで神戸賀川記念館を訪問したとき，賀川[191]館長から賀川の活動について聞いた話の中で，最も印象的だったのは「賀川たち」という言葉であった．黒田（1983：122）はすでに彼らを「賀川グループ」という言葉で表現していた．これは，確かに様々な社会福祉の実践を賀川一人が行ったものではないことを明確に表明した言葉である．実際に，伝道活動から労働運動，農民運動，セツルメント運動，組合運動，そして著述活動まで，様々な領域で賀川とともに働いた人が数多くいたわけである．人間と人間，組織と組織とのつながりによって，より良いサービスを提供することが大切である．

最後に，四つ目の日韓キリスト教社会福祉への示唆は，「相互扶助」と「連帯」に

[191] 館長の賀川督明は賀川の孫である．

よる真の社会の建設についてである．賀川は，常に階級意識よりも全体的兄弟愛意識を強調した．その理由について次のように説明している．

> で，私は，真の経済革命は，キリストの如き，意識生活を社会化した時に於いてのみ，完成せられるものであり，キリスト教的兄弟愛が発展しなければ，真の経済的理想社会は来ないと云ふことを確信している（賀川1940：284）．

キリスト教に基づいた意識の変化が，協同組合を通して，具体化され，この世を改革する責任があると示しているのである．山室も「基督教は此世の有様にあきたらぬ宗教である，さりとて此世を厭ひ棄て遁るゝ如き卑怯未練な宗教ではなく，却つて此の世の中にふみ止まりて之を改革せずしては満足する能はざるものであります」[192]と述べている．すなわち，キリスト教はこの世を改革する責任があるということである．これを金徳俊（1979）は，「社会への責任」として捉えている．つまり，キリスト教社会福祉の在り方の中で，支えあってともに生きる社会を作る責任を負うことが大切であろう．

残念ながら，現在日韓におけるキリスト教社会福祉の施設は形だけ残されており，その中にはキリスト教の精神がほとんど残されていない場合が多い．理由として，日本の場合，キリスト教徒が全人口の1%に至らないため，設立者の理念に従っているとしてもその意味がはっきり伝わっていないことが挙げられる．また，日本と韓国の共通の理由として，なるべく施設の中では宗教の色を出さない雰囲気を出していることによって，キリスト教の特徴が失われていくことが考えられる．それゆえ，賀川の社会福祉実践・思想が日韓キリスト教社会福祉において重要な糸口になっていくと考えられる．

第2節　本研究の限界と今後の課題

本研究の限界と今後の課題は五つにまとめることができる．まず，本研究の限界は両国における時代的制約を考えた上で，客観的に論じようと試みたが，日韓の諸事情

---

[192] 山室軍平の「基督教と社会改良」開教 50 年記念講演集所収（明治 43 年）を引用した小澤（1964：59）から再引用．

があり，その微妙な部分を充分に汲み取ることができなかったところにある．当時，支配者と被支配者の関係であった日韓の政治的状況が賀川の活動にどのように影響を及ぼしたのかについては歴史的な理解が必要とされるため，この点について今後の課題とする．

二つ目は，賀川の社会福祉思想において，1次資料として賀川自身の書いた小説が含まれていたことである．これは，「自叙伝」とも称される著名な『死線を越えて』である．すでに研究方法の中で，賀川の『死線を越えて』は，賀川の思想の真髄を明らかにするためには不可欠である要素が含まれていると述べたが，賀川ではなく主人公の「新見」という人物の記述を，どこまで歴史的な信憑性のあるものとして理解し，それに対する解釈をどこまで広げていくのかについては限界があると考えられる．それゆえ，小説の事実関係の扱い方を含めてフィクションを精密に峻別するという厳密な歴史的分析については，今後の課題とする．

三つ目は，牧師として奉仕しながら，社会に目を向けて社会運動に積極的に参加していた賀川に関する評価に筆者の主観的な偏りがあることに限界が感じられる．それは事実に基づいて客観的に論じようとしたものの，筆者自身も牧師でありながら，ソーシャルワーカーとして働いた経験もあったため，同じ立場として理解しやすい部分がある反面，賀川に対する愛着と尊敬があって見えていない部分が何らかの形で存在したかもしれないということである．たとえば，韓国における賀川への思いに触れたいと思いつつも，歴史的な出来事，特に植民地時代の中での独立という大きな憂いの中で賀川のその問題を明確に描けていたのかについてであろう．これについては時間をかけて特に検証していく．

四つ目は，賀川の思想の影響の範囲である．本研究では，賀川から大きな影響を受けた人物の中で，金徳俊と劉載奇を中心に論じた．しかし，彼らが賀川のみから影響を受けたとは断言できない．なぜなら，金徳俊にとって嶋田啓一郎（1909．12．5‐2003．9．24）は，長い交流していたため，無視できない存在である[193]し，劉載奇は，賀川以外に杉山元治郎から影響を受けたと知られていた[194]からである．つまり，どこまでを「賀川の影響」と判断できるかという賀川の思想から受けた影響の範囲が不明瞭であることである．この点については詳しく調べる必要があるため，今後の課題と

[193] 金徳俊と嶋田啓一郎との関連について，李善惠・鄭智雄（2010）に言及されているが，本研究では除かれている．
[194] 第3部の劉載奇に関する「判決文」を参照．

する．また，金徳俊と劉載奇以外に韓国の社会福祉分野において賀川から影響を受けた人物を探すことも今後の課題とする．

五つ目は，時代背景の理解への限界である．これは当時の時代の視点には完全には立てないという限界性である．たとえば，日本社会において1920年代の優生学が賀川にどのような影響を及ぼしたのか，また1915年発行された『貧民心理の研究』はどのような背景をもって書かれたのかについて本研究では具体的に取り上げていない．賀川が実際に差別用語を使用したことや部落問題について触れていることは，今でも批判される原因となっている．しかし，筆者にとっては，日本における当時の状況を把握する一助にはなった．日本の歴史的な背景を含めて判断し，充分に評価することができていない可能性がある．この点について当時の時代背景へのさらなる理解を深めることや当時の人々の考え方を記した資料を収集することを今後の課題とする．

【参考・引用文献】

［日本語］

小澤三郎（1964）『日本プロテスタント史研究』東洋大学出版会.

賀川豊彦（1928）「社会事業と宗教運動」大阪社会事業連盟『社会事業研究』第16巻第5号，21－27.

賀川豊彦（1936）『キリスト教兄弟愛と経済改造』『賀川豊彦全集』第11巻，キリスト新聞社，171－224.

賀川豊彦（1940）『産業組合の本質とその進路』『賀川豊彦全集』第11巻，キリスト新聞社，225－382.

賀川豊彦（1949）『人格社会主義の本質』清流社版.

黒田四郎（1983）『私の賀川豊彦研究』キリスト新聞社.

竹中正夫（1960）「賀川豊彦における基督教倫理」『同志社大学人文科学研究所紀要』第三号，127－144.

三井さよ（2004）『ケアの社会学－臨床現場との対話－』勁草書房.

Toyohiko Kagawa（1937）Brotherhood Economics London Press（＝2009，賀川豊彦著・加山久夫，石部公男訳『友愛の政治経済学』日本生活協同組合連合会.）

Reinhold Niebuhr（1932）The Contribution of Religion to Social Work New York: Columbia Unversity Press（＝1971，The Contribution of Religion to Social Work New York:AMS Press；2010，高橋義文・西川淑子訳『ソーシャルワークを支える宗教の視点－その意義と課題－』聖学院大学出版会）.

『ジーニアス英和辞典』第四版.

『聖書：新共同訳』(1995)日本聖書協会.

［韓国語］

姜明淑（1997）「1920－1930年代初　韓国基督教人의 社會主義 認識에 관한 研究」淑明女子大學校大學院史學科韓國史專攻1997年度博士学位論文（＝姜明淑「1920－1930年代初の韓国基督教人의社会主義の認識に関する研究」淑明女子大学校大学院史学科韓国史専攻1997年度博士学位論文）.

김건（1930）「협동조합운동의 사회철학적 기초」2，基督青年勉勵會朝鮮聯合會編

『眞生』，34 - 36（＝金健「協同組合運動の社会哲学的基礎」2，基督青年免励会朝鮮聯合会編『真生』，34 - 36）．

김남일・서경식・양영희・정호승・최인석（2007）『분단의 경계를 허무는 두 자이니치의 망향가 - 재일한인100년의 사진기록 - 』현실문화연구（＝キムナムイル・ソキョンシク・ヤンヨンヒ・チョンホスン・チョインソク『分断の境界を崩す二人の在日の望郷歌 - 在日韓国人の100年の写真記録 - 』現実文化研究）．

金德俊（1979）「歐美社會事業哲學의 背景에 對한 試考 - 基督敎의 本質을 中心하여 - 」한국사회복지학회『한국사회복지학』제 1 권，87 - 95（＝金德俊「欧米社会事業哲学の背景に対する試考ー基督教の本質を中心にー」韓国社会福祉学会『韓国社会福祉学』第 1 巻，87 - 95）．

金德俊（1983a）「基督敎와社會事業의 接線 - 그 歷史的 背景과 韓國的 狀況에 關한 硏究 - 」강남사회복지학교출판부『논문집』 제 10 집，169 - 189（＝金德俊「基督教と社会事業の接線 - その歴史の背景と韓国の状況に関する研究 - 」江南社会福祉学校出版部『論文集』第 10 輯，169 - 189）．

이대위（1923）「社会主義와 基督教의 歸着點이 엇더한가?」京城中央基督教青年會青年雜誌社『青年』9月號，8-10（＝李大偉「社会主義と基督教の帰着点はどうであろう？」京城中央基督教青年会青年雑誌社『青年』9月号，8 - 10）．

이덕주（2011）『기독교사회주의 산책』홍성사（＝李德周『キリスト教社会主義の散策』ホンソンサ）．

이선혜・정지웅（2010）「가가와도요히코와 한국의 관련성에 관한 고찰 - 한국사회복지교육의 선구자，김덕준에의 영향을 중심으로 - 」인간과 복지『교회사회사업』Vol. 13，155 - 178（＝李善惠・鄭智雄「賀川豊彦と韓国とのかかわりに関する一考察 - 韓国の社会福祉教育の先駆者，金德俊への影響を中心として-」人間と福祉『教会社会事業』Vol.13，155 - 178）．